tomo project 2011

窪田先生　阿部先生

ウィチエンプラディト・ポンサン、田 乃魯（D3）神原康介（D2）馬場弘樹、北川貴巳（M2）

1. 鞆の浦とは？

-位置

-歴史

-歴史的港湾施設

-課題

Location

広島県福山市

History

– 中世

潮待ちの港町として栄える

– 江戸時代

朝鮮通信使が

“日本で最も美しい景勝地”と賞賛

– 近代

初の自然風景地

初の国立公園

常夜灯付近の鞆の夜

History

歴史的建造物群

Historic Harbor Facilities

1. 雁木
2. 波止
3. 常夜燈
4. 焚場
5. 船番所

雁木
–船の乗り降りに利用された
石造りの階段

1. 雁木
2. 波止
3. 常夜燈
4. 焚場
5. 船番所

1. 雁木
2. 波止
3. 常夜燈
4. 焚場
5. 船番所

1. 雁木
2. 波止
3. 常夜燈
4. 焚場
5. 船番所

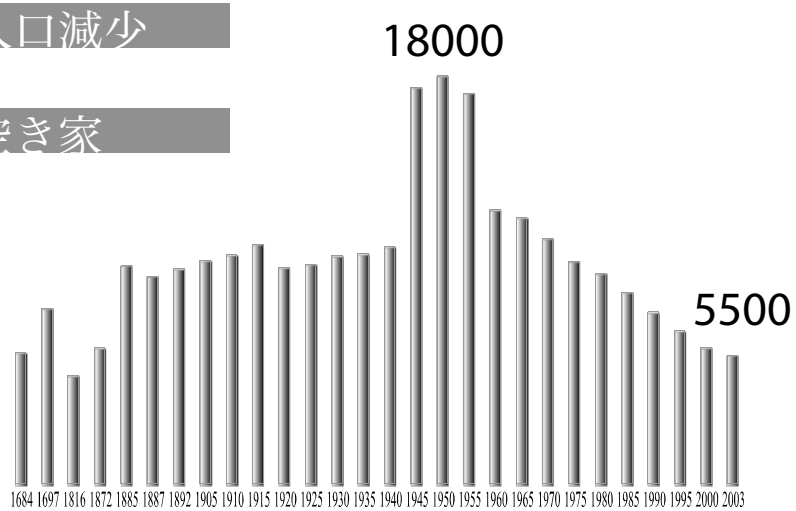
焚場　–船の修理場所

船番所　–かつての港の管理役所

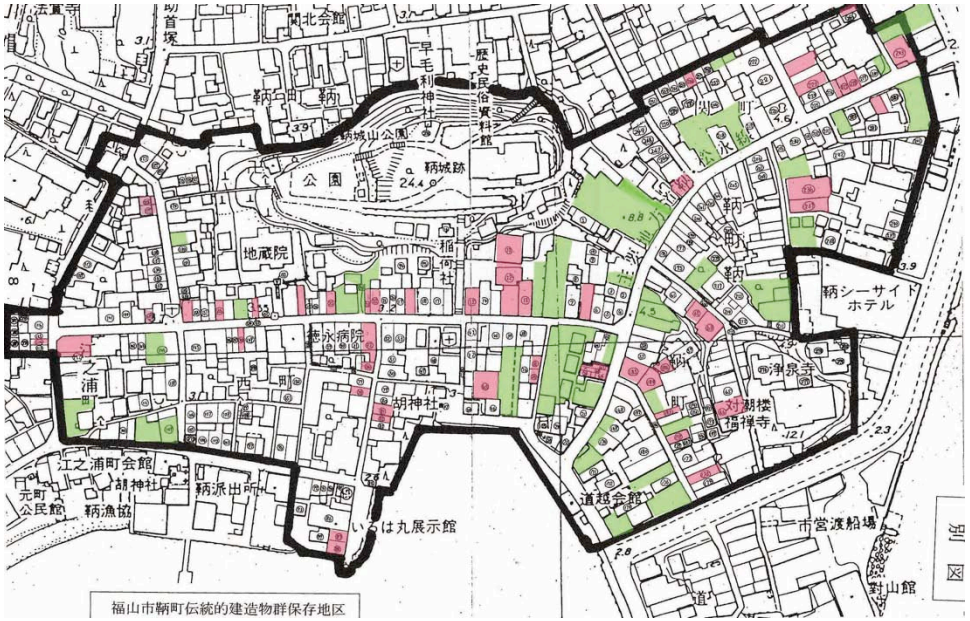
Problems

人口減少

空き家



Demography of Tomo



交通問題

BEFORE
船番所
雁木
波止
常夜燈
焚場

BEFORE

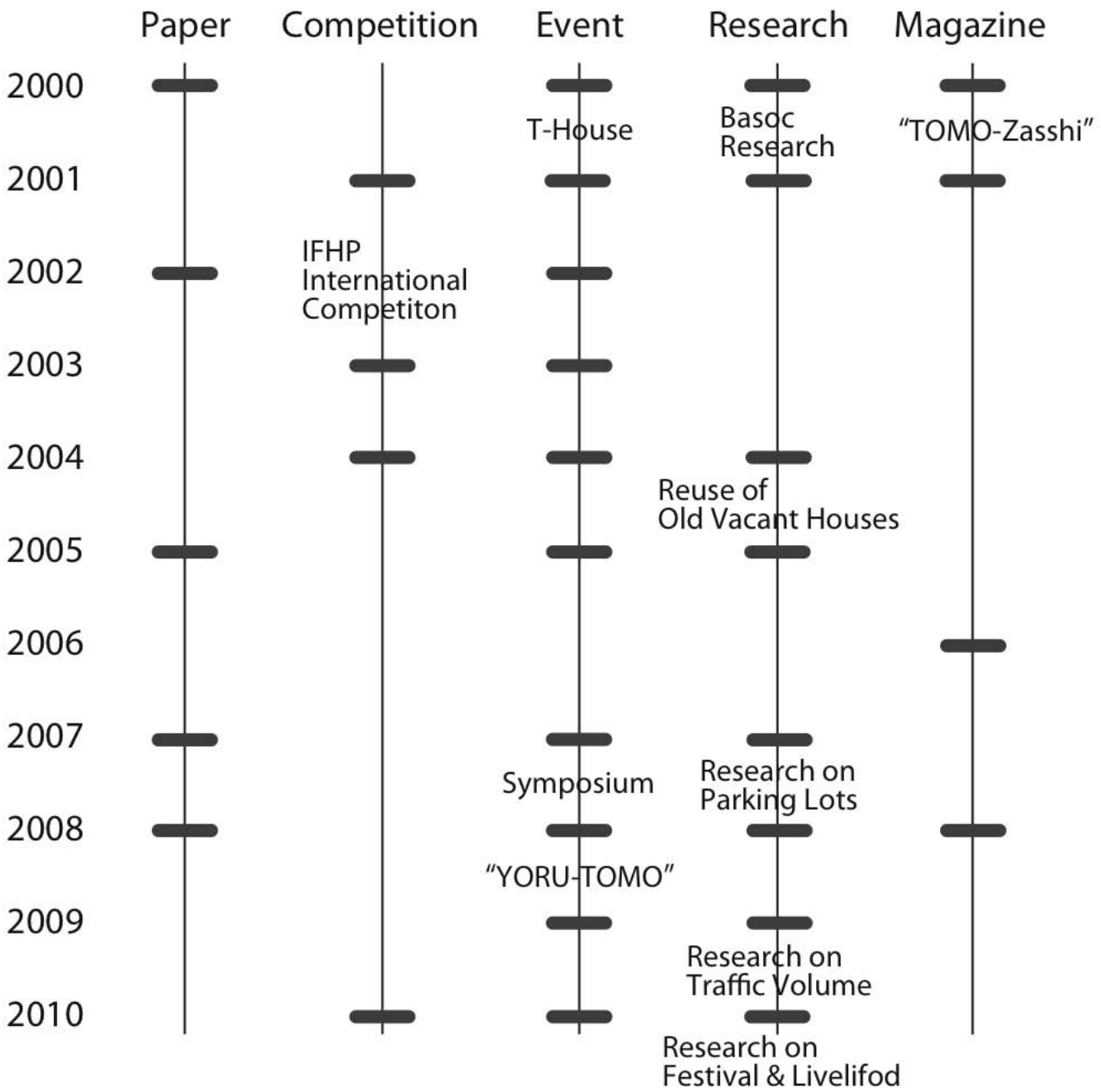
AFTER
船番所
雁木
波止
常夜燈
焚場

AFTER

2. プロジェクトチームの活動
-活動の始まりから現在まで
-鞆雑誌
-昨年度の活動報告

Project

2000
–2010

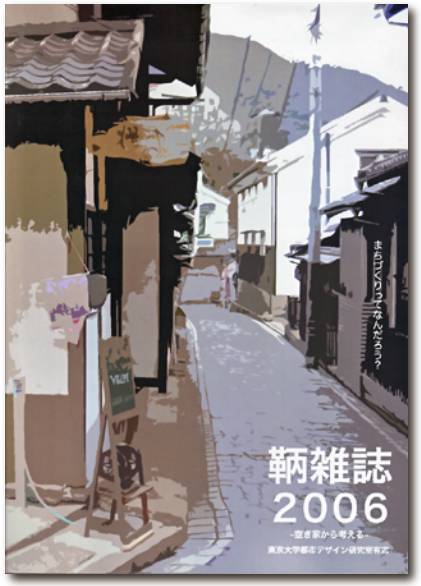


Project

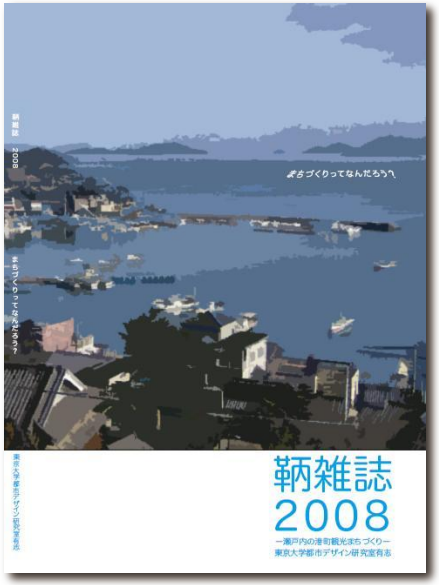
鞆雑誌

鞆雑誌2000

鞆雑誌2001



鞆雑誌2006



鞆雑誌2008

鞆雑誌2011

Abstract

祭事・生業調査　“鞆らしさ”の共通資本である祭事・生業を解き明かしたい

↓

鞆雑誌2011の作成

調査結果やイベントの成果報告を文書にまとめる

←

鞆雑誌完成記念イベント

①ともラリー②鞆の祭事・生業展

空地調査　低未利用地の実態とその活用方法を解き明かしたい

その他・・・　若手との意見交換会

地元に根ざした現地での活動

茶屋蔵活用コンペ

大学等での調査・研究

歴史的港湾都市(豊富な建築土木遺産)
埋立て架橋の議論、急速に進む観光地化
祭事と生業
…鞆のまちの本質的な魅力であり、脈々と継承されているが、
まちの空間に表出しているものではなく、まちの奥底に根ざしており、
一般的には見えづらい

地域に深く入り込み、詳細な記述を通して、
価値が見えにくいモノの奥に潜む多義的で多層的な人々の営みを
浮かび上がらせ、その営みのプロセスやその結果として表出する風
景を評価することを試みる。

Festival

祭事運営の現状
- 運営組織
- 年中行事

実態調査
- スケジュール
- 神輿ルート
- 空間の使い方
- 実測調査

19 日 14:00- チョウサイ 曳き廻しルート

神輿ルート

1

2

3

4

5

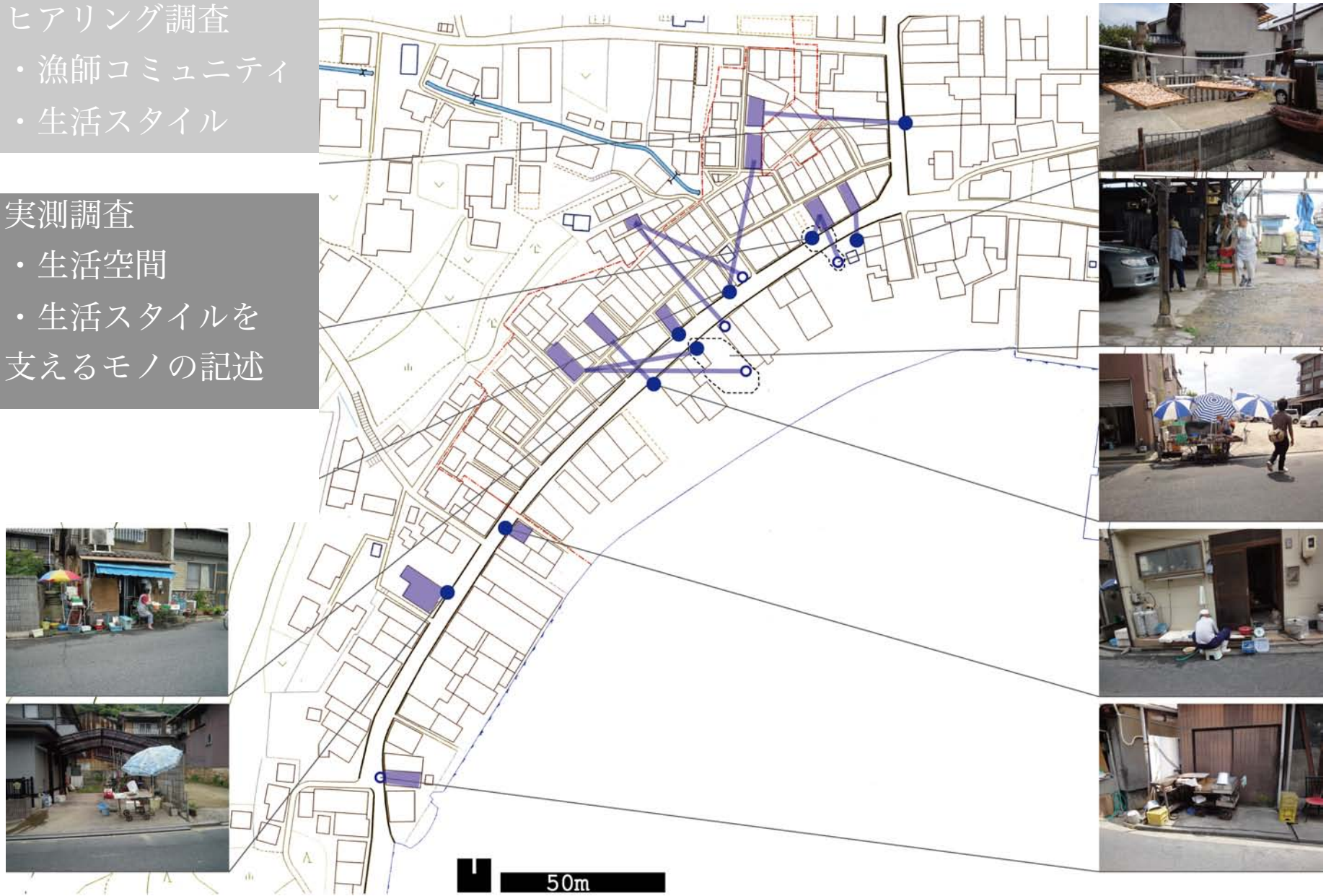
6

Fishery

魚を捌いて販売している箇所

ヒアリング調査
・漁師コミュニティ
・生活スタイル

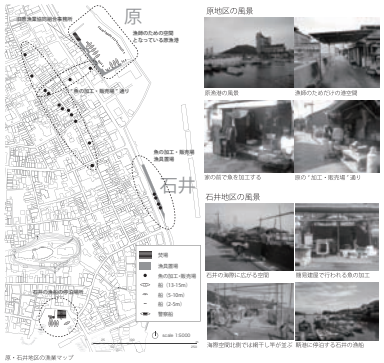
実測調査
・生活空間
・生活スタイルを
支えるモノの記述



Tomo-Zasshi 2011

1-3 鞆の４つの漁村集落

1-3-3 原地区・石井地区



■"漁師のための空間"となっている原漁港

原地区には昭和18年に整備された漁港があります。漁業関係者以外の人がこの空間に立ち寄ることは少なく、漁師のための港湾空間となっています。

■魚のまちなかにある"魚の加工・販売場"通り

漁港であったあとは、自宅を兼ねた"漁師の配偶者らがそれぞれの家の前で加工・販売します。このような場所の多くは、午前中に原地区を南北に貫通する１本の通りに集中して並び、普段の居住空間が商業空間に変化します。

■鞆港に停泊する石井の漁船

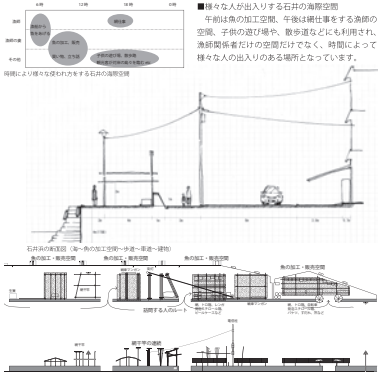
石井地区は地区内に漁港を有していないため、荷揚作業は地区内の堤防と海との間の"海際空間"で行い、漁船は全て鞆港に停泊させています。

■簡易建屋の中にある"魚の加工・販売の場"

石井の魚の加工・販売場は、堤防と海に挟まれた細長いエリアにあり、ブルーシートの屋根がかかった簡易建屋の中に、魚の加工空間が作られています。この場所に魚を買いに来る客は、堤防の端の入口を通って中に入っていきます。

■様々な人が出入りする石井の海際空間

午前は魚の加工空間、午後は網仕事をする漁師の空間、子供の遊び場や、散歩道などにも利用され、漁師関係者だけの空間だけでなく、時間によって様々な人の出入りのある場所となっています。

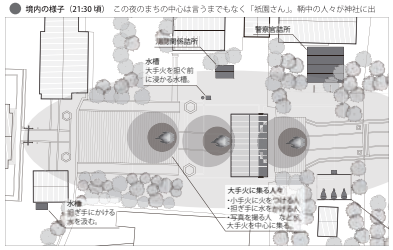


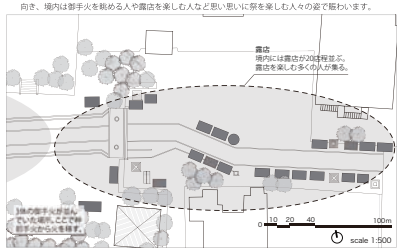
3-2 ヨルトモの軌跡

3-2-2 2009年度

2-4 鞆の祭事

夏祭り





神前手火がかがり火に移され、祭は始まります

先の体に小手火を持つ人やカメラマンが集ります

隋身門前の石段から境下に大手火を眺める人々

大手火を担ぐ若衆の熱気が伝わってきます

３体の大手火が大階段に並ぶ。まさはまさに圧巻です

先の体が拝殿前に到着しました

続いての体も到着。人々も後ろに御宅の前につきます

３体の大手火が揃うと３体の神輿が拝殿内に納められます

4-5 活用整備ワークショップ

■「ともぼン」

第２回目のワークショップは、2010年７月31日に行われました。「ともぼン」と題したこのワークショップは、将来鞆の まちづくりを担っていくであろう子供たちを中心に、茶屋跡の２階回廊に設置される床板に絵を描いてもらおうという企画です。このワークショップによって、鞆に住む方々に茶屋跡の整備過程に参加参加していただくとともに、その成果を形にしていつまでも残していくことができると考えました。

当日は呼び掛けで集まった鞆の子供たちやその家族、鞆を訪れていた観光客、要は茶屋跡の所有者である太田家現当主の太田玲子さんなど多くの方々が参加し、それぞれ思い思いの絵や言葉を床板に描いていただくことができました。完成した床板は、参加者の氏名を墨印で印字し、記録写真の撮影を行った後、茶屋跡２階の回廊へと順次設置していきました。

また、後述する「ヨルトモ 2010」においても、ワークショップ「ともぼン」を再び行いました。こうしたワークショップの開催によって、学生や観光客、そして鞆に住む方々といった多くの主体が茶屋跡の整備過程に関わり、その成果を上記回廊に設置される床板に絵を描いてもらおうという企画です。このワークショップによって、鞆に住む方々に茶屋跡の整備過程に参加していただくとともに、その成果を形にしていつまでも残していくことができると考えました。

当日は呼び掛けで集まった鞆の子供たちやその家族、鞆を訪れていた観光客、要は茶屋跡の所有者である太田家現当主の太田玲子さんなど多くの方々が参加し、それぞれ思い思いの絵や言葉を床板に描いていただくことができました。完成した床板は、参加者の氏名を墨印で印字し、記録写真の撮影を行った後、茶屋跡２階の回廊へと順次設置していきました。

ワークショップ「ともぼン」の様子

完成した床板に絵付で鞆やまちの名前を印字

Exhibit of Festival & Fishery in Tomo

大型スクリーンによる調査結果の展示（2011/10/15~16）

Tomo-Rally (Walk with the quiz)

クイズを楽しむともラリー参加者（2011/10/15）

急速に進む高齢化、人口減少化

空き家の増加→空地の増加

…空地によって、都市の賑わいの有無や、住民の生活環境も左右する

駐車場や畑地・荒地といった各種の空地全体は、時間軸を通して住民や土地所有者と深く関係しているが、表面上はわかりづらい

↓

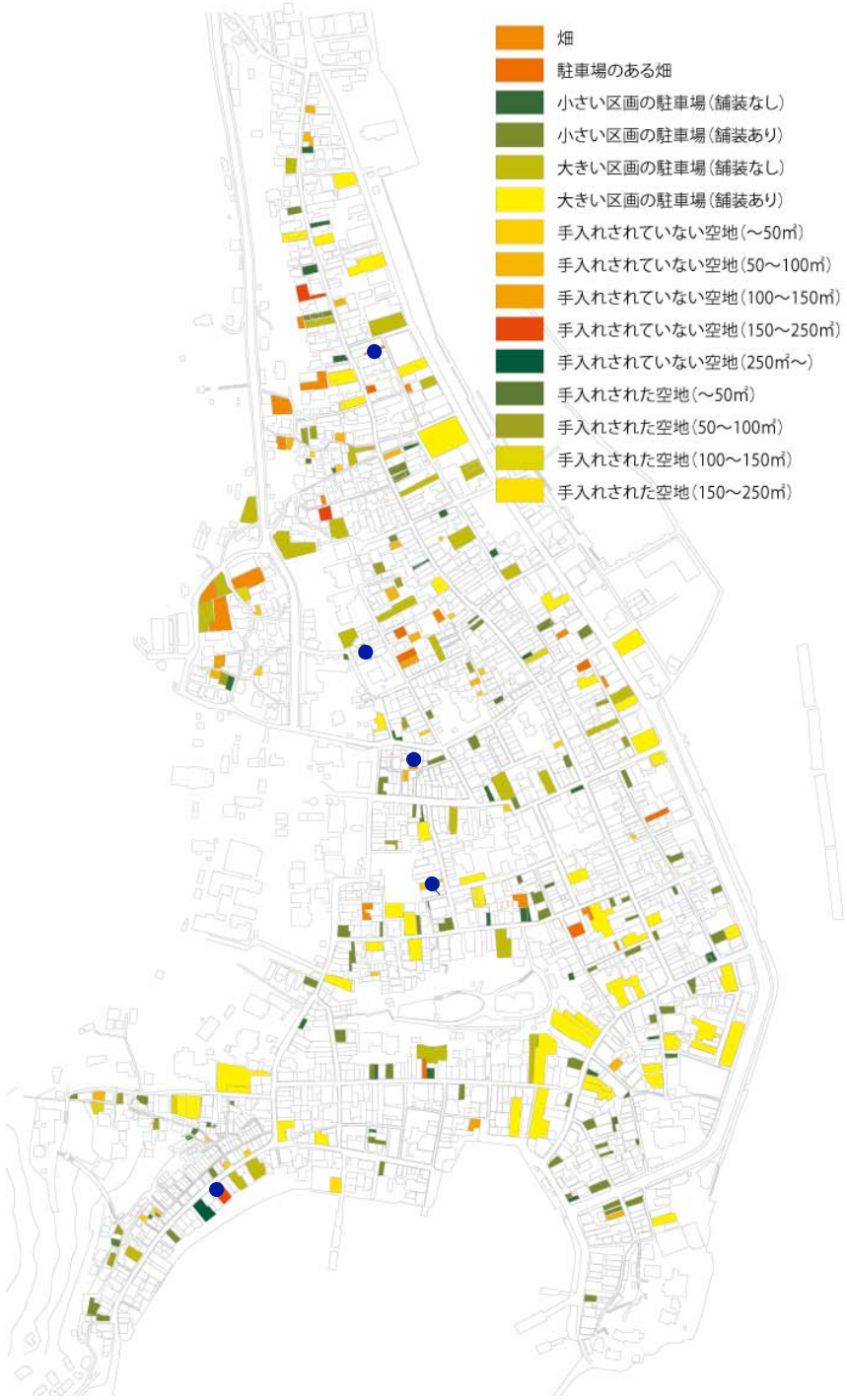
鞆の浦固有のテーマではなく、人口減少に伴う空地の増加という普遍的なテーマの中で鞆特有の現象や課題を分析し評価することを試みる。特に、空地の使用価値という視点から、変遷や住民の意向をもとに鞆の浦における空地の利用法について知見を得る。

Open Space

様々な空地の分布

実態調査

- 土地利用
- ファニチャー
- 接道状況
- 管理状況

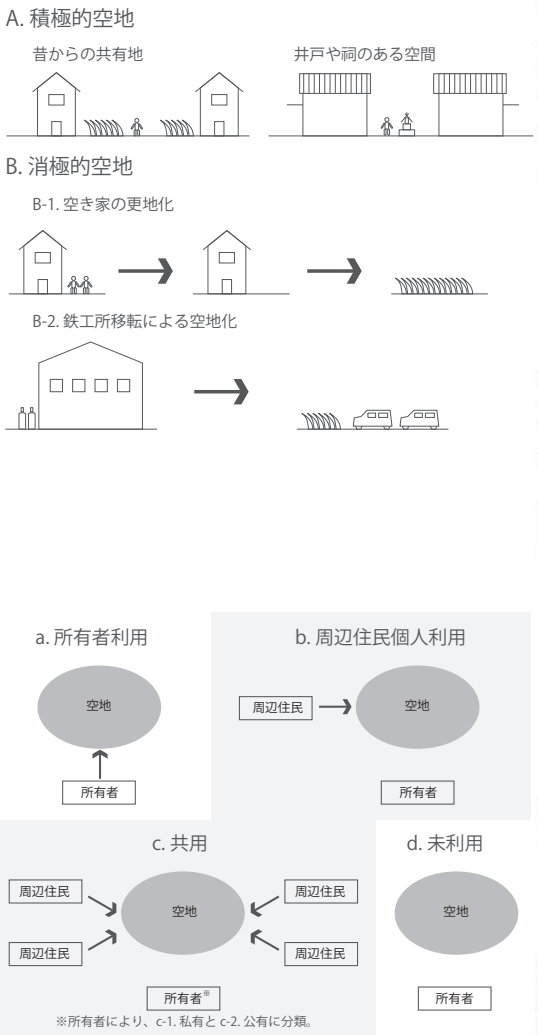


Open Space

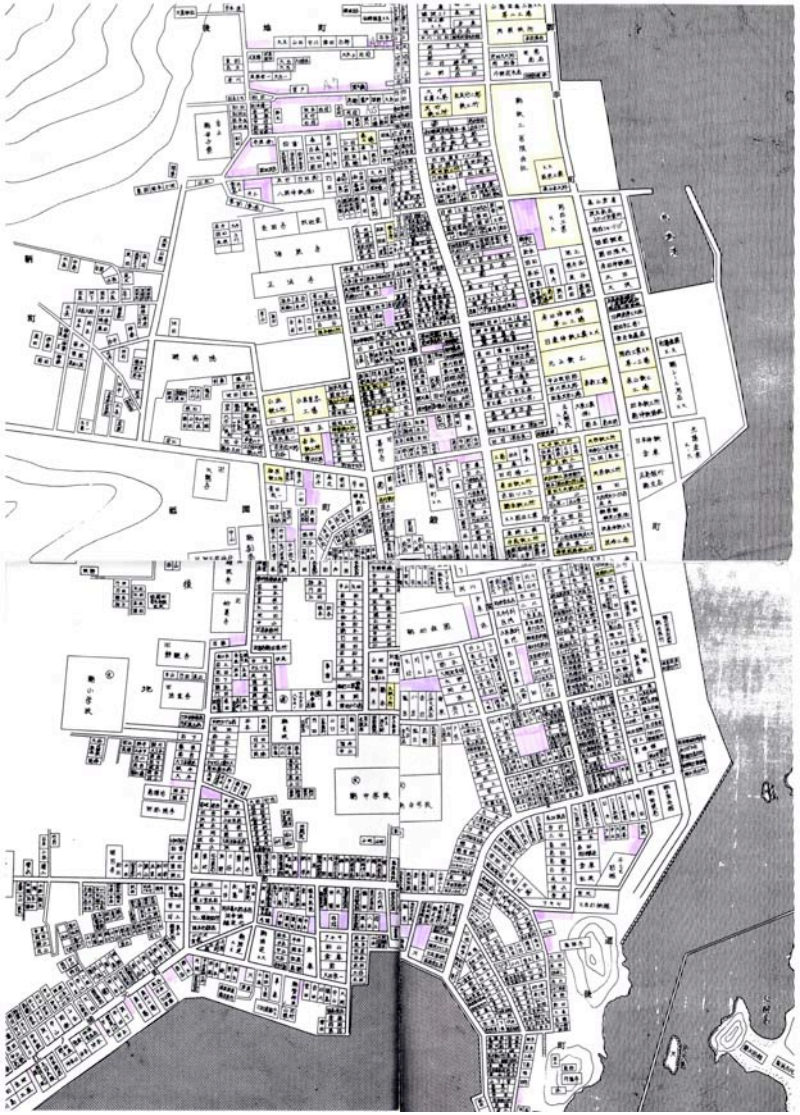
ヒアリング調査
- 土地所有
- 空地変遷
- コミュニティ
- 利用法

歴史地図調査
- 空地変遷
- 街区の類型化

形成過程と利用者



1962年の鞆の浦の住宅地図



2011

・空地調査のまとめ　　etc…

Message

・海が好きな人

・港町が好きな人

・地元の人と話したい人

・祭りが好きな人

・船が好きな人

・のんびりな人　　etc…

是非一度、一緒に行きましょう！

大槌復興ＰＪ

窪田先生　黒瀬先生　永瀬先生（和歌山大）
岡村先生（首都大）野原先生（横国大）田中先生
森朋子（D3）大森文彦（M2）萩原拓也（M1）
学部4年生有志

Site

岩手県

大槌町

人口	13,300人
世帯数	5,535戸
集落	町方、安渡、赤浜、浪板、吉里吉里等

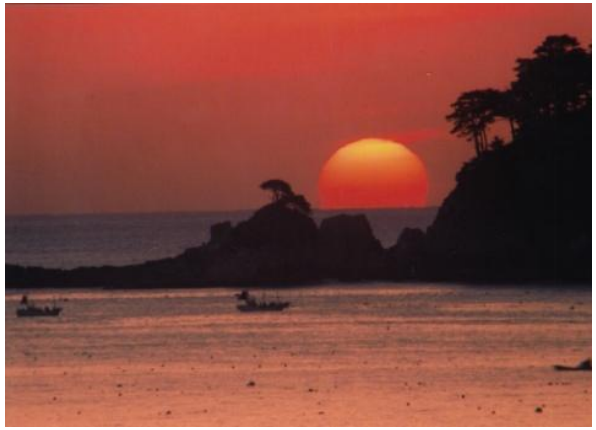
History

中世	街道筋の城下町として発展
江戸	漁業と交易の町　　江戸俵物長崎俵物、南部鼻曲り鮭
明治～	度重なる津波の被害と復興（明治三陸、昭和三陸、チリ） 釜石のベットタウン化

大槌の魅力①

自然

リアス式海岸の地形・蓬莱島や浪板の砂浜



湧水

市街地で自噴する湧水・井戸や湧水公園

大槌の魅力②

祭り

毎年9月に行われる大槌まつり

伝統芸能

虎舞、鹿子（しし）踊り、神楽等の伝統芸能

2011.3.11　東日本大震災

被災状況

- 死者　802名
- 行方不明者　479名
- 市街地の約52%が浸水

プロジェクト始動

「赤浜の復興を考える会」との活動・支援

住民会議、WSでの意見交換

地形模型制作（3年生が活躍）

→　住民による「地区震災復興計画案」策定の助けに

復興協議会コーディネーター（窪田先生、永瀬先生、黒瀬先生）

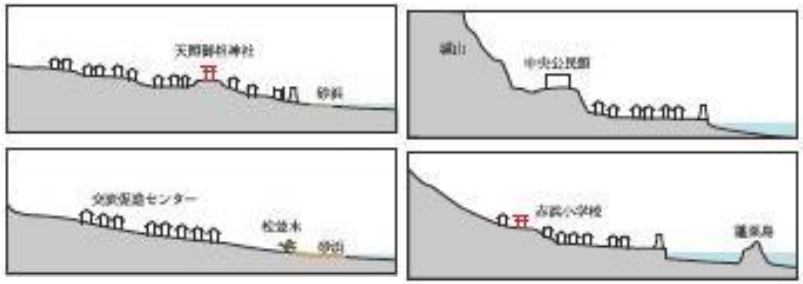
------>　基本計画から進んで、実際の生活空間やまちなかの風景を再生・提案する必要性

歴史文化資源調査①

地形・景観構造

重要な地形、視点場の調査

集落ごとの景観構造の把握

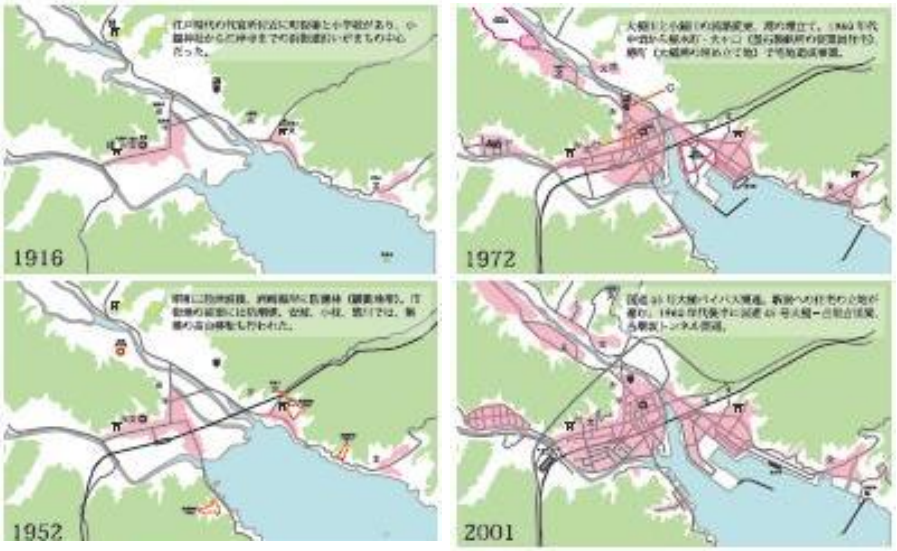


都市形成

浜街道の変遷

過去の震災復興の歴史

埋め立てによる人々(町)と浜との関係変化

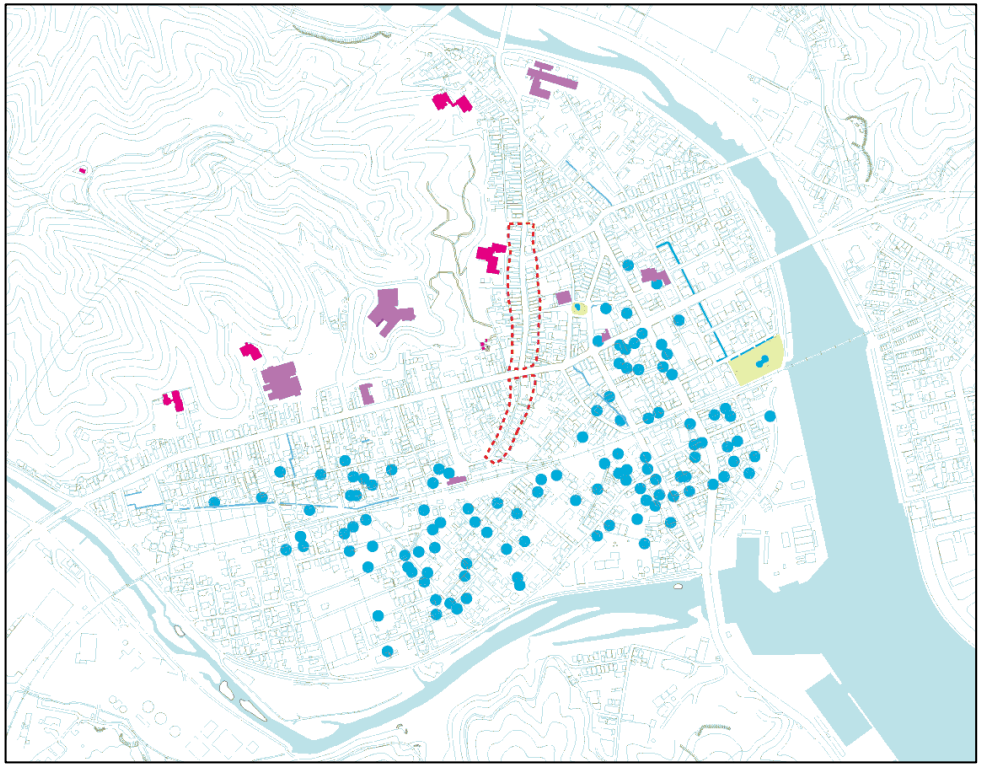


歴史文化資源調査②－ｉ

湧水調査

被災後の自噴井の状態を調査
（自噴井をプロット、カルテの作成）

現在も多くの井戸跡が自噴している
使用の形跡がみられるものも



歴史文化資源調査②－ii

祭り

2011年9月24日(宵宮)、25日(例大祭)

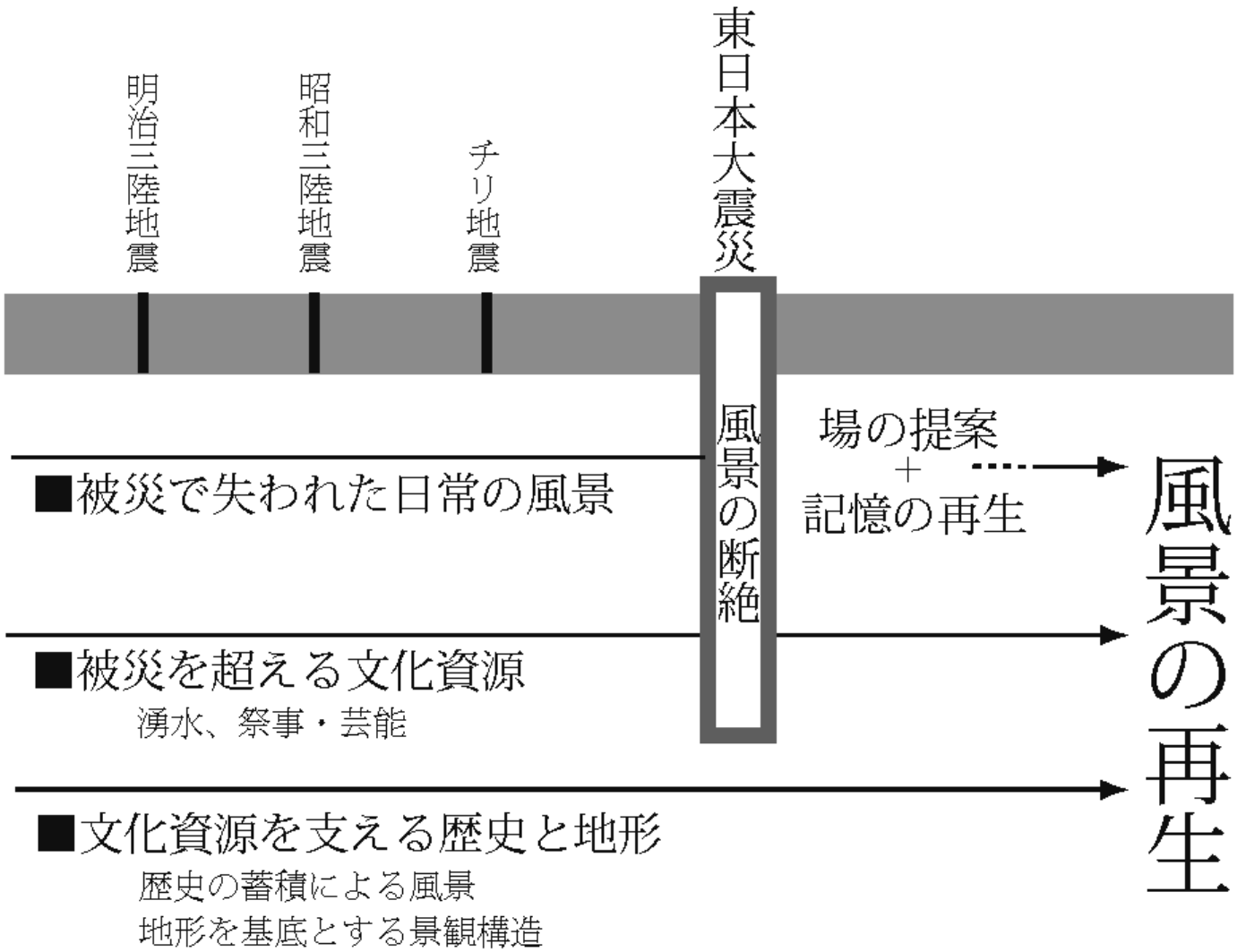
被災を逃れた小鎚神社境内を中心に神輿の渡御等は行われず

新巻鮭をつくる習慣

軒下や被災した場所にあるテントの下で

Concept

風景の再生を目指して



記憶再生プロジェクト①

失われた日常の風景の記憶を再生、共有する

記憶を集める

町の方々から町の写真を募集
場所やシーンについてのヒアリング

日時　　1月21日（土）、22日（日）
場所　　仮設住宅集会所、公民館、復興館
　　マストショッピングセンター等々
復興館（おらが大槌夢広場）の協力

震災前の 町の記憶 募集します

【撮影地：平成17年撮影渡辺敏男氏提供】

東日本大震災で失われてしまった、大槌の町の姿を人々の記憶にどとめ受け続くことを目的に、文化庁の委託により、東京大学都市デザイン研究室は「大槌：記憶再生プロジェクト」を立ち上げ、町民の皆様をはじめ、大槌に縁がりをもっていらっしゃる方がお持ちの写真や映像を収集するとともに、場所の記憶をお話しいただき、共有できる記録としてまとめます。

2012年1月21日(土)・22日(日)　午前の部　10：00～12：00　午後の部　13：30～15：30

受付場所

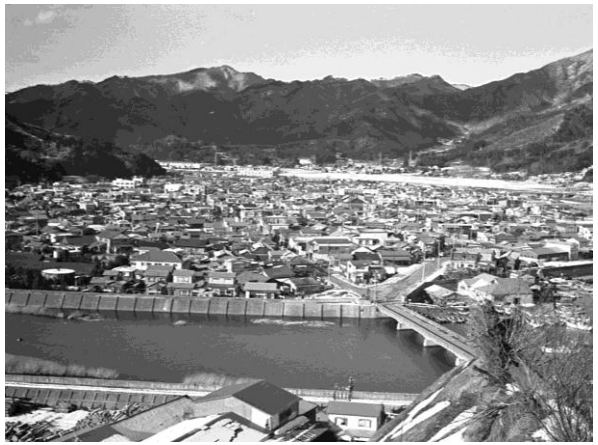
【町方】　ｼｮｯﾋﾟﾝｸﾞｾﾝﾀｰマスト　(21/22両日)
【大槌川】　大ケ口集会所　(21日午前)
【小鎚川】　桜木町保健福祉会館　(22日午前)
【安渡】　安渡第2仮設講話室　(21日午前)
【赤浜】　赤浜小学校　(21日午後)
【吉里吉里】吉里吉里地区体育館　(22日午前)
【浪板】　浪板交流促進センター　(22日午後)
復興食堂（小鎚神社前）　(21/22両日)
大槌第5仮設集会所　(21日午後)
小鎚第8仮設集会所　(22日午後)

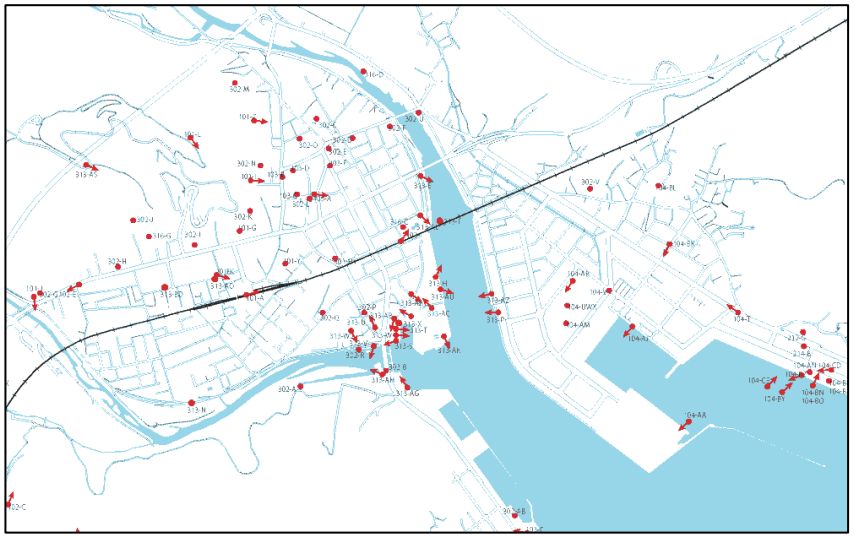
事務局：東京大学都市デザイン研究室「大槌：記憶再生プロジェクト」担当：森・黒瀬
連絡先：電話 03-5841-6224　電子メール　otsuchi.kioku@gmail.com

記憶再生プロジェクト②

記憶の整理する

集まった写真をプロット
ファイルメーカーでデータベース化





記憶再生プロジェクト③

記憶の還元

「街並みの記憶の共有」＋「心のケア」

大槌アルバム

カレンダー形式

月ごとに集落やテーマ別の写真掲載

今年3月に町、住民に寄贈

今後の活動

歴史文化資源調査と実践

昨年度行った基礎的調査の発展的継続
及び、その成果を活かして実際の
空間再生に繋がる活動

例）　自噴井調査、海上からの景観調査、
芸能保存団体へのヒアリング、
浜の再生、御社地の再生、
湧水を活かした場の提案

過去の災害復興事例調査

過去の災害復興の現場から、
大槌町の復興でで必要とされることを
読み解く

例）奥尻島、玄海島、島原、
スマトラ島等

おらが大槌夢広場との連携

現地町民や団体との連携、信頼の強化
活動の継続性の向上

例）記憶再生プロジェクトの継続

次回ＭＴＧ

- 日時　　4月16日（月）　10時～
- 場所　　14号館 9階

気軽に参加してください！

ありがとうございました。

A suke

2011

足助の位置

足助の歴史

江戸	塩の道（中馬街道）の宿場町として栄える　⇒歴史的な町並み
	香積寺の和尚が飯盛山に楓を植樹　⇒後の香嵐渓
明治・大正	人々の往来が活発化し町は繁栄のピークを迎える
昭和	人口減少、商店街の衰退化
	第一回全国町並みゼミの開催
現在	様々なまちづくりイベントの開催
	2011年6月、愛知県初の重伝建地区選定

足助の魅力

①歴史的な町並み

・様々な時代の建物が残る
・平入りと妻入りが交じり変化に富む
・街道と、街道に交差する狭い路地
・昨年６月に重伝建地区に選定

②豊かな自然

・紅葉の名所「香嵐渓」
・街道に沿って流れる足助川
・足助の町を囲む山々

足助の魅力

③素朴な人々

足助人
- おもてなしの精神
- あたたかい心意気
- こだわりを持つ

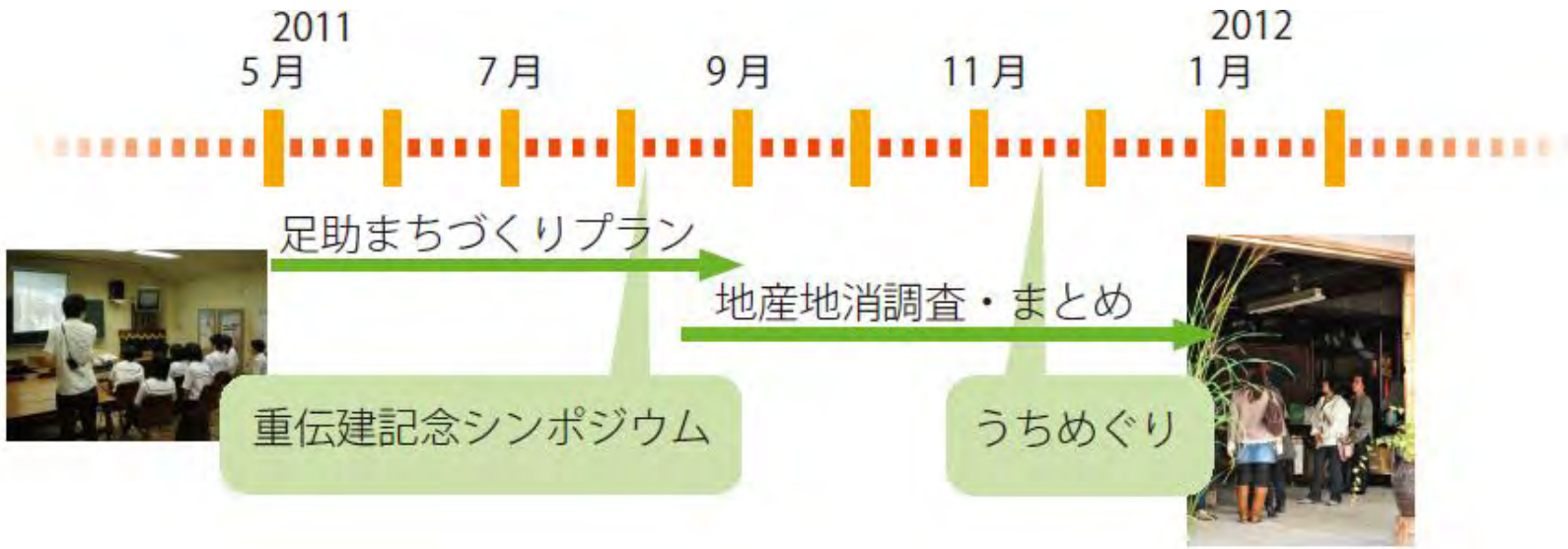
④こだわりの食

- 豊かな環境
- おいしいもの
  和洋菓子
  こんにゃく
  味噌漬け…

足助PJについて

経緯：豊田市からの委託
期間：2008年度～2011年度
メンバー：窪田先生、永瀬助教のご指導
　　M2 三名、M1 一名が中心に活動 （2011年度）

2011年度の活動：足助まちづくりプランの作成
　　地産地消調査
　　うちめぐりのサポート



足助のまちづくりの方向性：「生活と観光の融合」

2010年のまちなか社会実験「あすけうちめぐり」の成果を踏まえ、「生活と観光の融合」というまちづくりの方向性に向けた具体的な取り組みについて、地域の方々と共に検討を行った。その内容を足助まちづくりプランとしてまとめた。

あすけうちめぐり

まちなかの調査を踏まえ、足助の魅力である、まちと町家の「うちがわ」を公開し、地域資源に触れられ地元と来訪者との交流が誘発される機会を設けた。

足助まちづくりプランの構成

足助の今後のまちづくりの方向性や、解消すべき課題と積極的に取り組む必要のある計画や行動をまとめたものが「足助まちづくりプラン」である。
まちづくりプランは大きく以下の３つの部分により成り立っている。

①まちづくり戦略「生活と観光の融合」

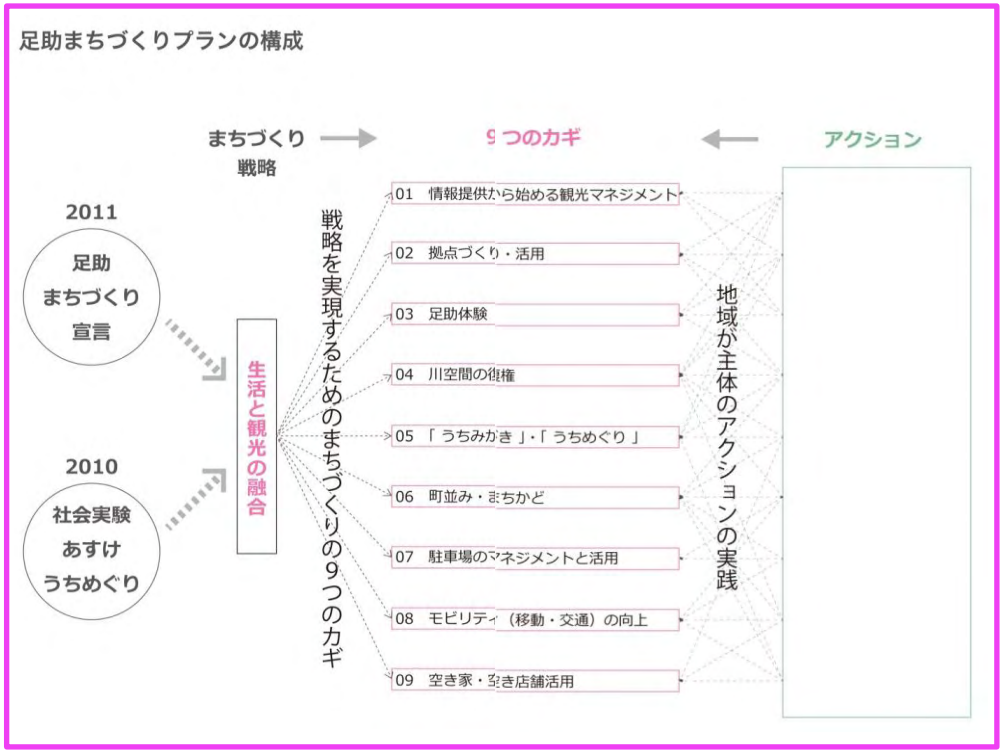
…足助の伝統的な生活空間や歴史・文化を活かし、交流の絶えない、生活と観光が融合したまちの姿こそが、足助の目指すべき将来像である。

②足助まちづくり　「９つのカギ」

…まちづくり戦略を実現するためのカギ。テーマごとに「まちづくりの方針」と、「アクション（＝具体的な行動・取り組み）」を位置づけた。

③足助まちづくりアクション

… 「９つのカギ」で定めたまちづくり方針を達成するために、地域の主体や地域住民が進める具体的な取り組みである。



asuke 08 モビリティ（移動・交通）の向上

▼足助まちづくりプラン

課題と可能性

①観光客の回遊行動

問題点・課題

香嵐渓付近に車をとめ、西町からまちなかに入る観光客が多いため、新田町までは遠く、途中で引き返してしまう。また、まちの入口が認識しにくく誘導案内も不十分になっている。

今後の可能性

中央駐車場など、観光客の新たなまちなか観光の起点になりうる既存の施設が存在する。それらを活かして新たなまちへのアクセスと観光客のまちなか回遊ルートをつくりだせる可能性がある。

②公共交通

問題点・課題

おいでんバス、名鉄バスというバス交通があるもののそれほど利用者は多くない。自家用車の方が使い勝手がよいためと考えられる。

今後の可能性

おいでんバス、名鉄バスとも病院を中心にしたルート編成になっているので、バス停の設えや配置などを改善することで、利用しやすくなる可能性がある。通学や高齢者以外の利用者層を広げていく視点が必要である。

③まちなかでの移動手段

問題点・課題

まちなかを移動する際、車を降りてからは徒歩しか選択肢がない。高齢者のまちなかでの移動の負担が高くなっているとともに、観光客の回遊性を低くしている原因となっている。

今後の可能性

現状では短距離移動用の交通として商工会のレンタサイクルである「達太郎」があり、活用することでまちなかでの移動を充実させることができる。

④高齢者の移動

問題点・課題

まちから出る際の高齢者の移動を助けるバスだが、バス待ち空間があまり整備されていない。また自宅からバス停までの道のりが長い等、外出が不便なことも多い。

今後の可能性

あいまーるが2011年度より増便される等、交通環境が向上しつつある。あいまーる等を活用・改善することでさらに高齢者の移動しやすい環境が整う可能性がある。

まちづくり方針

①町へのアクセスの仕方を新しくし、来訪者の回遊性向上をはかる

香嵐渓から離れた位置に新しいまちなみへの入口を作る。来訪者がまちなかを歩き始めるための新しい起点をつくることで、来訪者がもっと足助全体を満喫できるようにする。

②徒歩・車以外の短距離移動手段を整備する

今ある乗り物を利用したり、足助になかった新しい乗り物を導入したり、車以外にもっとまちのなかで短距離を移動するのに適した移動手段を用意する。そして移動の途中に休憩できるような場所も、整備していく。

③今あるものを少しずつ改良し、住民にも観光客にも使い勝手の良いものにする

足助にはバス、自転車、電気自動車など実は様々な交通手段がすでに存在している。交通環境を大きく変えることだけを考えずに、今ある交通手段を組み合わせて良いところをのばしていく。

解説

足助へ訪れる、足助から出かける、まちなかを移動する。
もっと生活がしやすくなるように、高齢者の移動を助けるように、また来訪者がもっと足助を満喫できるように、人の動きに寄り添った便利な移動環境を作っていこう！

例えば…
「足助川対岸に新駐車場をつくる」
中央駐車場を利用するなど、まちの奥に来訪者の新たな受け皿を用意することで、来訪者にまちを歩く色々なルートを提供できる。

例えば…
「ネオ人力車」導入
いままで足助になかった移動手段を導入してみる。足助ならではの懐かしさと新しさの合わさった乗り物は、来訪者だけでなく高齢者の買い物など足助の暮らしも助ける。

例えば…
「陣屋跡を活用し、おいでんバスをまちなかへ！」
まちの歴史的中心であった陣屋跡を活用。まちなかにバスを通し、高齢者が使いやすい路線バスにする。

▼まちづくりプラン検討会の様子

足助のまちにおける生業

歴史あるまちなかの生活空間
⇒もとは塩の道を拠り所とする商業の発展によって育まれたもの

・塩をはじめとする物資の中継地
・周辺農山村の産品を集め、加工・販売を行う
・交通を通じた交流が盛ん

「商い」

まちの歴史や地域構造を形成する上で重要な役割を担ってきた。

地産地消調査

産品のやり取りを通した周辺地域とのつながりが明らかとなり、「生活と観光」が融合したまちなかの営みを支える、足助地域圏の将来の方向性を示し得るのではないかと考えた。

アンケート、ヒアリング調査

実施日：2011年9月12日（月）～14日（水）

アンケート配布店：１１５店
アンケート回収店：８８店
（飲食店：１９店、食品店：１６店、
食品を扱っていない商店：５３店）
アンケート回収率：76.5%

アンケート項目

①商店の基本情報
- 業種、商売の形態、後継者
- 商売を始めた年、何代目
- 修業先
- 従業員

②顧客に関して
- 観光客と地元客の割合
- 訪れる地域
- 配達、出張について
- 自動車で訪れる割合、駐車スペースについて

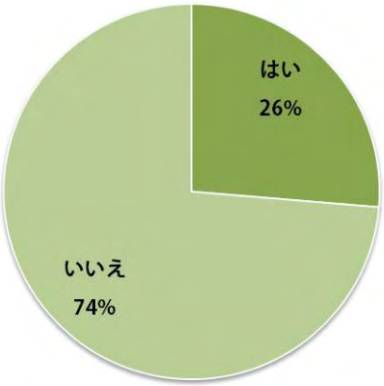
③商品に関して
- 地元（足助地区、豊田市、愛知県）で仕入れる材料、商品について
- 足助以外に卸している商品について
- 販売の工夫

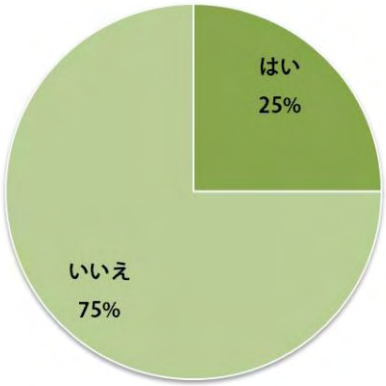
「地のもの」を使う取り組み

地元産のものを使用、仕入れているかなどについて質問した。

回答の中で、産地を「足助地区」、利用する理由に「品質の良さ」や「意識的に地元産の材料を取り入れたい」等、こだわりが感じられる項目を選択した商店を対象にヒアリングを行った。

1）足助産の材料を使用する





▲「足助産の食材を使用している」　飲食店（左）　食品店（右）

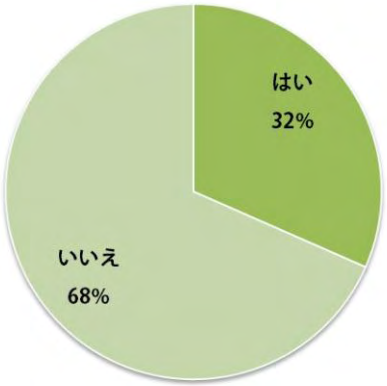
▲近くで育った鶏肉を使用しているカレーうどん

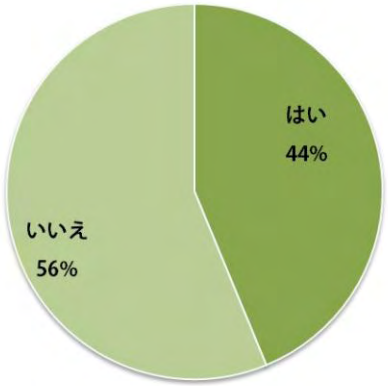
▲湧水を餡に使用している最中

調査対象地域の飲食店の約1/4 で、足助産の食材が使用されている。食品店でも同様の結果が得られた。

「地のもの」を使う取り組み

2）豊田市内産の材料を使用する





▲「豊田市内産の食材を使用している」　飲食店（左）　食品店（右）

豊田市内産の材料を使用している飲食店は21%であり、食品店は44%を占め飲食店の倍以上の値を示し、扱う商品が多い分、産地の範囲に広がりがあることがわかる。

調査結果より

■ヒアリング結果

地域で採れた果物や鶏肉、湧水を商品に取り入れる理由として、

①「新鮮である」という品質面でのこだわりだけでなく

②昔からの知り合いである等、人づきあい等の社会的関係　が影響している。

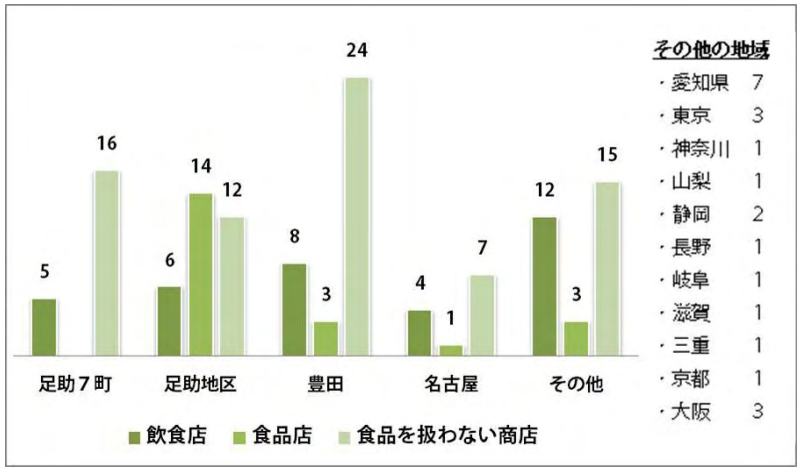
■地産地消の実態

足助地区では2005 年の専業農家の割合は4.3%であり、農業が必ずしも盛んであるとは言えないが、足助産と豊田市産の食材の利用率に大きな開きはないため、生産地の面積の違いを踏まえれば、**足助産の食材が積極的に利用されている**と言える。

■産品を通じた「足助地域圏」の広がり

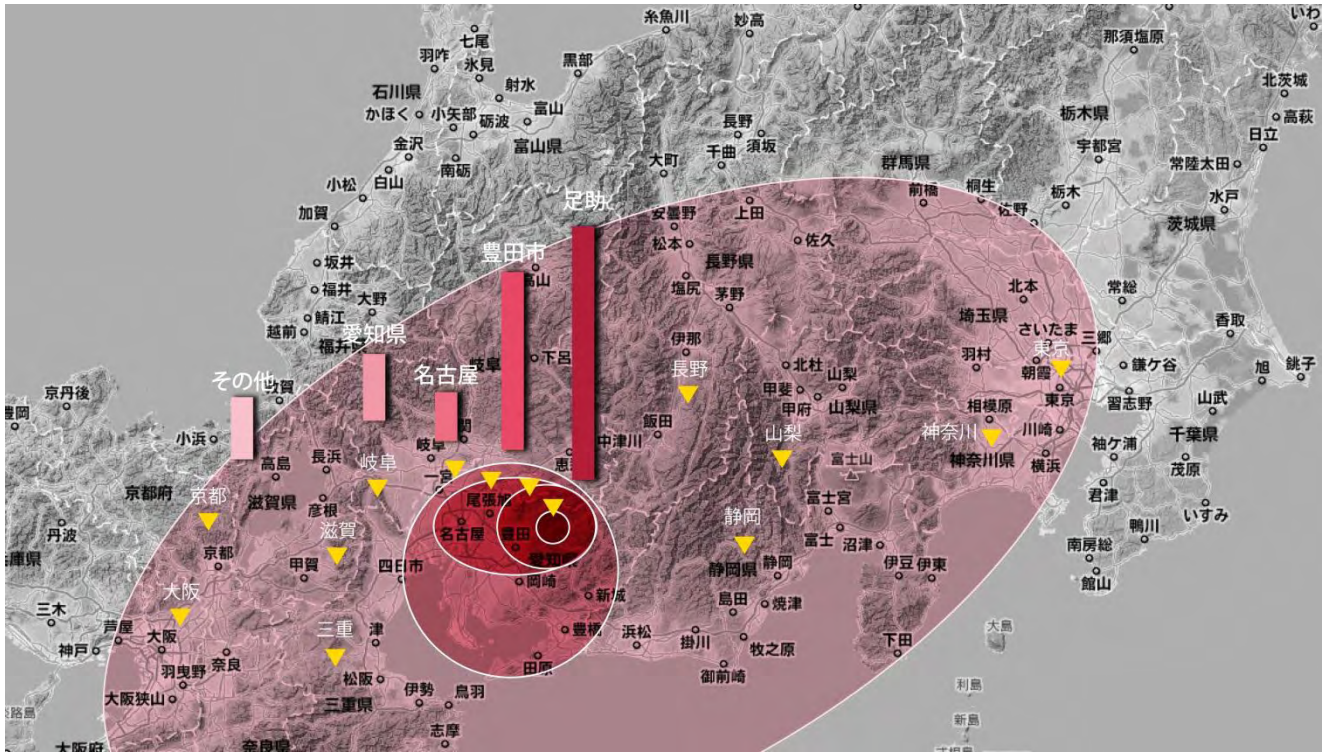
調査より「足助」として認識される地域圏の広がりが、浮かび上がってきた。

顧客の範囲

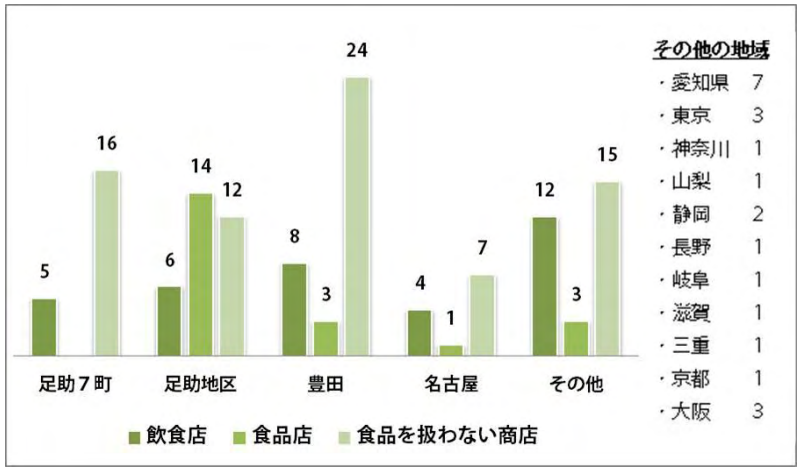


顧客の住む地域は足助地区が最も多く、次いで豊田市である。豊田や名古屋方面だけでなく岡崎方面から訪れる顧客がいるケースもある。

観光客の割合が高い商店は顧客の地域に広がりがあり、そのため全体の顧客の範囲は広範囲に及んでいる。



商品の卸先の範囲

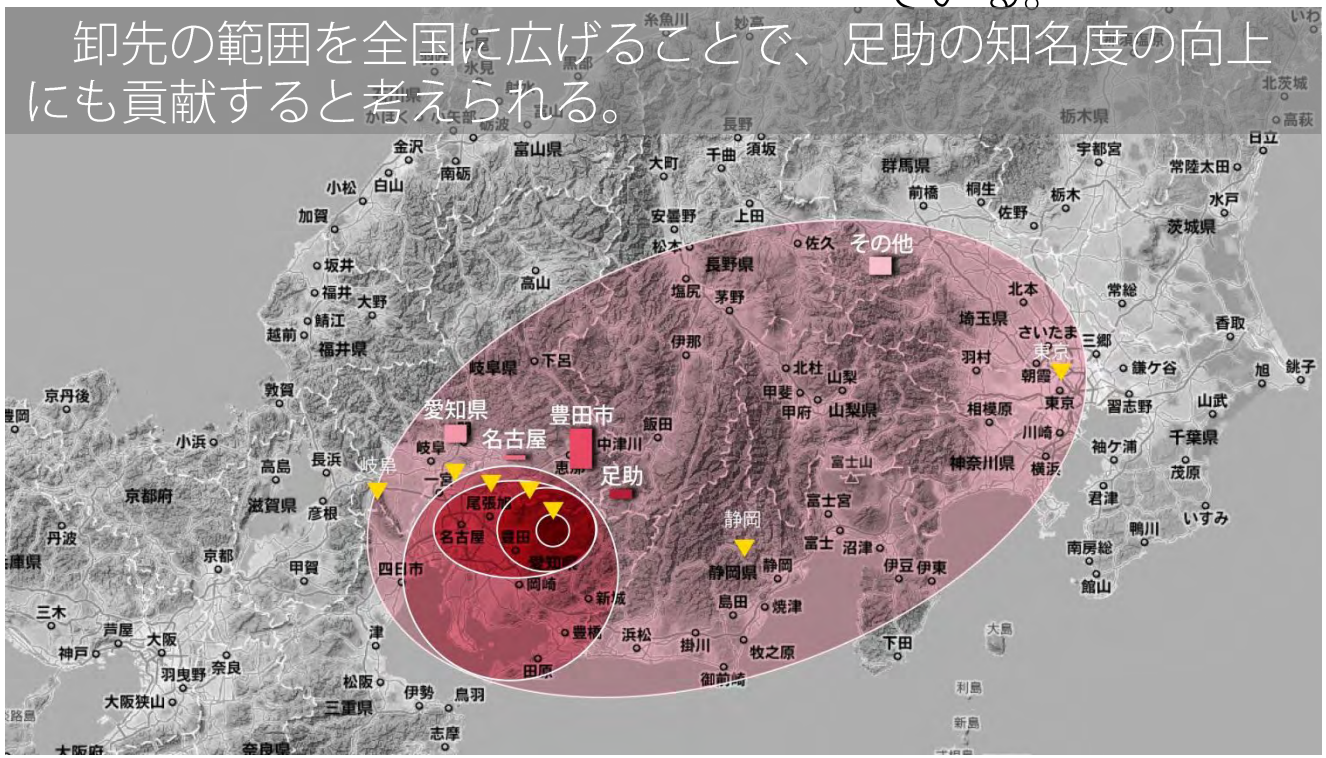


足助でつくられた商品などを足助内の他の商店や他地域の商店に置いている例は少ない。しかし、卸先が広範囲にわたる店もある。

例えば…

牛蒡の味噌漬けを、銀座のミシュラン星付きの寿司店や静岡、岐阜など各地に卸している。

卸先の範囲を全国に広げることで、足助の知名度の向上にも貢献すると考えられる。



▲牛蒡の味噌漬け

今後の地域圏の可能性

足助の商業に関わる圏域は、中部地方のみならず大阪や東京に至るまでの広域に及んでいる事が明らかとなる一方で、かつては確固とした関係があった信州方面との関係が薄い。

⇒足助の商業が大都市を中心とする流通体系に

組み込まれている事も改めて認識

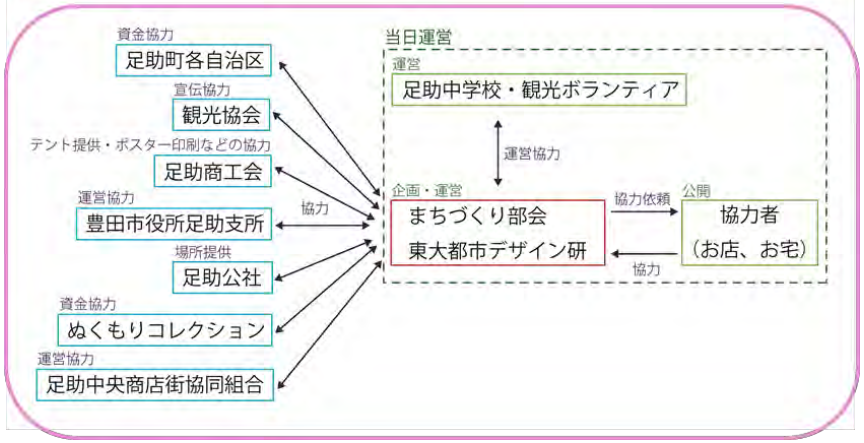
特定の商店が持つ圏域の広さが、足助の生業全体に関わる圏域の範囲を広げる要因であるため、商品の魅力によって、足助の商品を発信する圏域を広げることは可能である。「足助」と認識される地域圏全体で連携しながら、情報発信と一体となった地産地消の取り組みを進めていく事が、

地域の生活にも観光にも寄与する「商いのまち」としての足助のこれからを切り拓く。

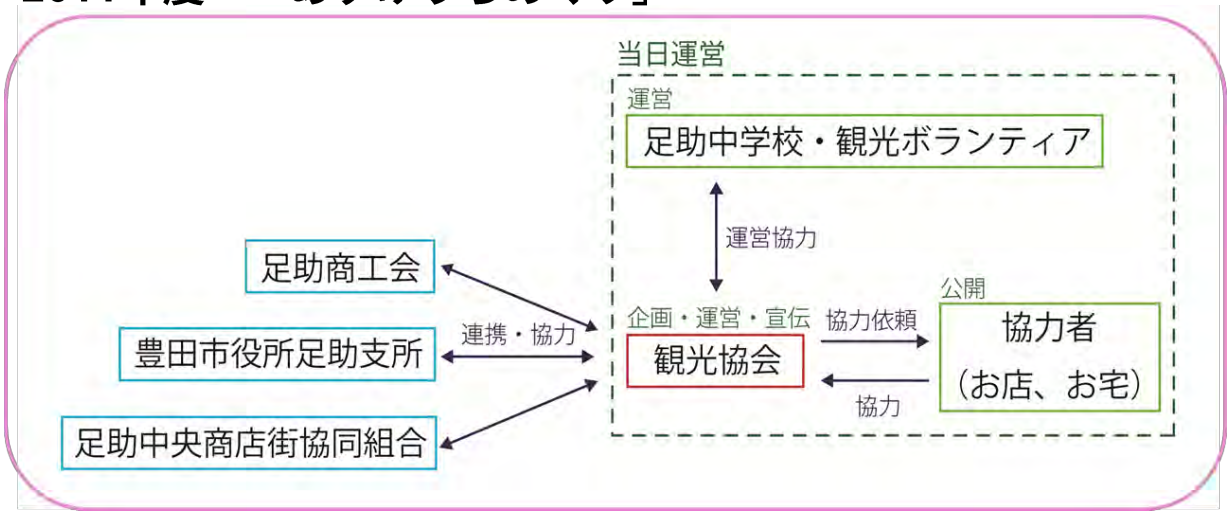
地元主体で「うちめぐり」を行う

2011度は足助観光協会が主催となり、前年より規模を縮小して、地元が自分たちで行える範囲で「うちめぐり」を実施。我々は、当日のお手伝いを行った。

2010年度　社会実験「あすけうちめぐり」



2011年度　「あすけうちめぐり」



ご清聴ありがとうございました
足助プロジェクト

プロジェクト報告　04

浅草PJ 2011 @光月町

-まちを育てる
　　きっかけを仕掛ける-

1　プロジェクトの概要

2　2011年度の活動

1　プロジェクトの概要

■ **メンバー**

岡本祐輝（UDCK）
鈴木亮平（D1）
尾瀬敦裕、前川綾音（M2）
遠藤友里恵、大森文彦（M1）

■ **活動**

・2001年、中島元助教のオムニバス演習が端緒
・千束入谷一葉桜振興会（住民組織）と活動
・月1回ほどの東大メンバーでのMTG
　地元でのMTGが１～２ヶ月に１回の頻度

活動場所

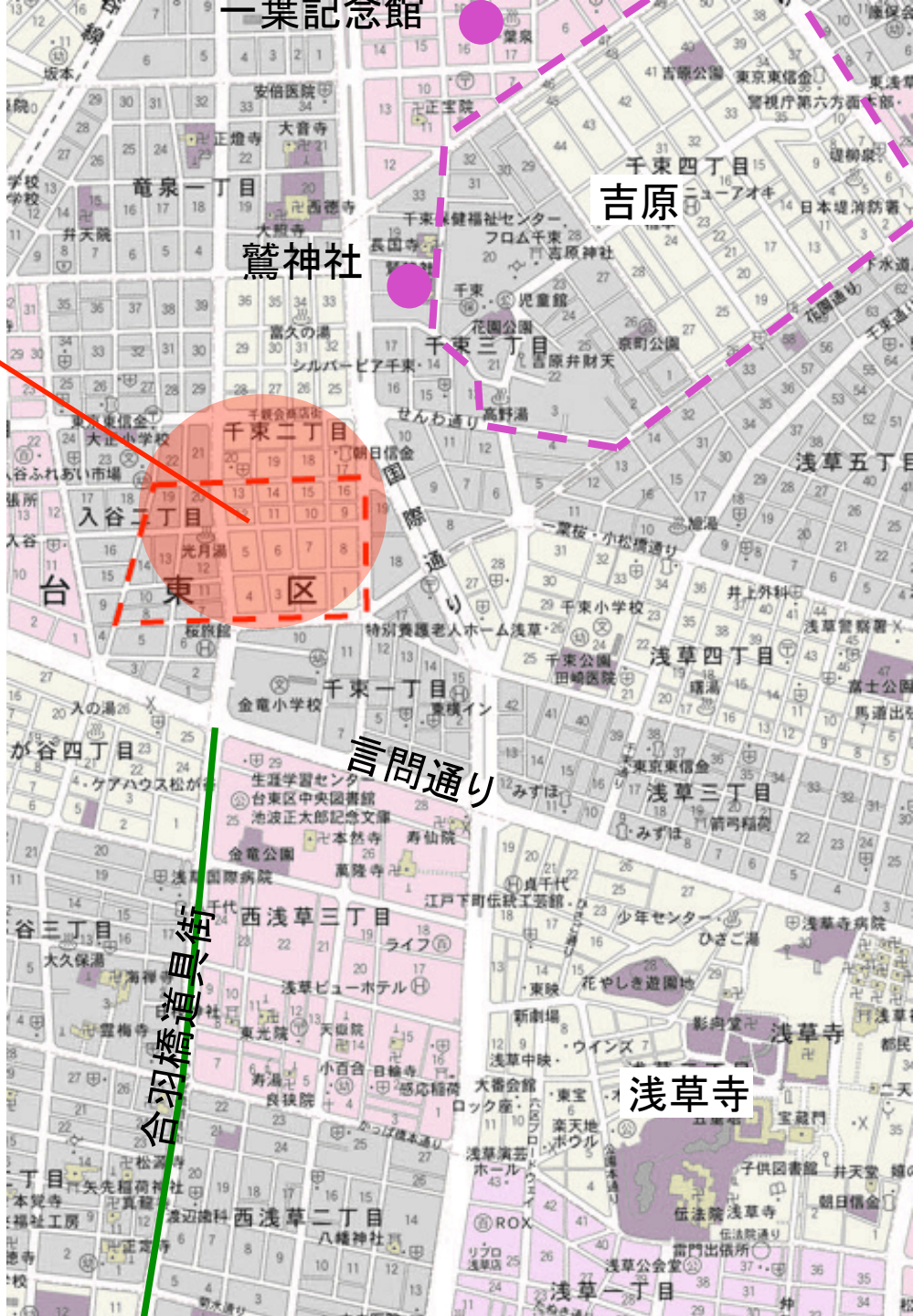
光月町（千束入谷地区）
Kogetsu-cho

東京都台東区浅草の北部、
「奥浅草」と呼ばれるエリア

周辺には
３万人ほどの人が訪れる酉の市や
樋口一葉記念館、合羽橋道具街

スカイツリー人気に伴う
観光客増加に乗じ住民活動が
さかんになっている地域

都市デザイン研では、
2007年度より周辺の
いくつかの振興会とともに
まちづくり活動を行なってきた。



光月町の歴史

江戸時代には大名屋敷のあった場所に、明治時代につくられた「光月町」
現在は千束２丁目、入谷２丁目となり光月町の名は使われていないが、
地元の方々の地域振興活動の一環で、町内に光月町と書かれた路標が2009年に作られた。

通りを飾る材木

光月町の特徴

光月町内に多く残る、江戸時代からの材木問屋の集積
材木が醸し出す独特な通りの風景

2　2010年度までの活動

2009 ■**まちづくりの指針をつくる**

- 光月町のポテンシャル：材木屋の集積
  それらを活用した成長戦略を練る

- 住民の方々と議論を重ね、まちづくりの
  理想を共有し、洗練させていく

2010

材木のまち・光月町

ここへくれば、材木の端材でなんでもつくれるまちへ

商店が再び立ち並び活気のあるまちへ

歴史を感じる生き生きとしたまちへ

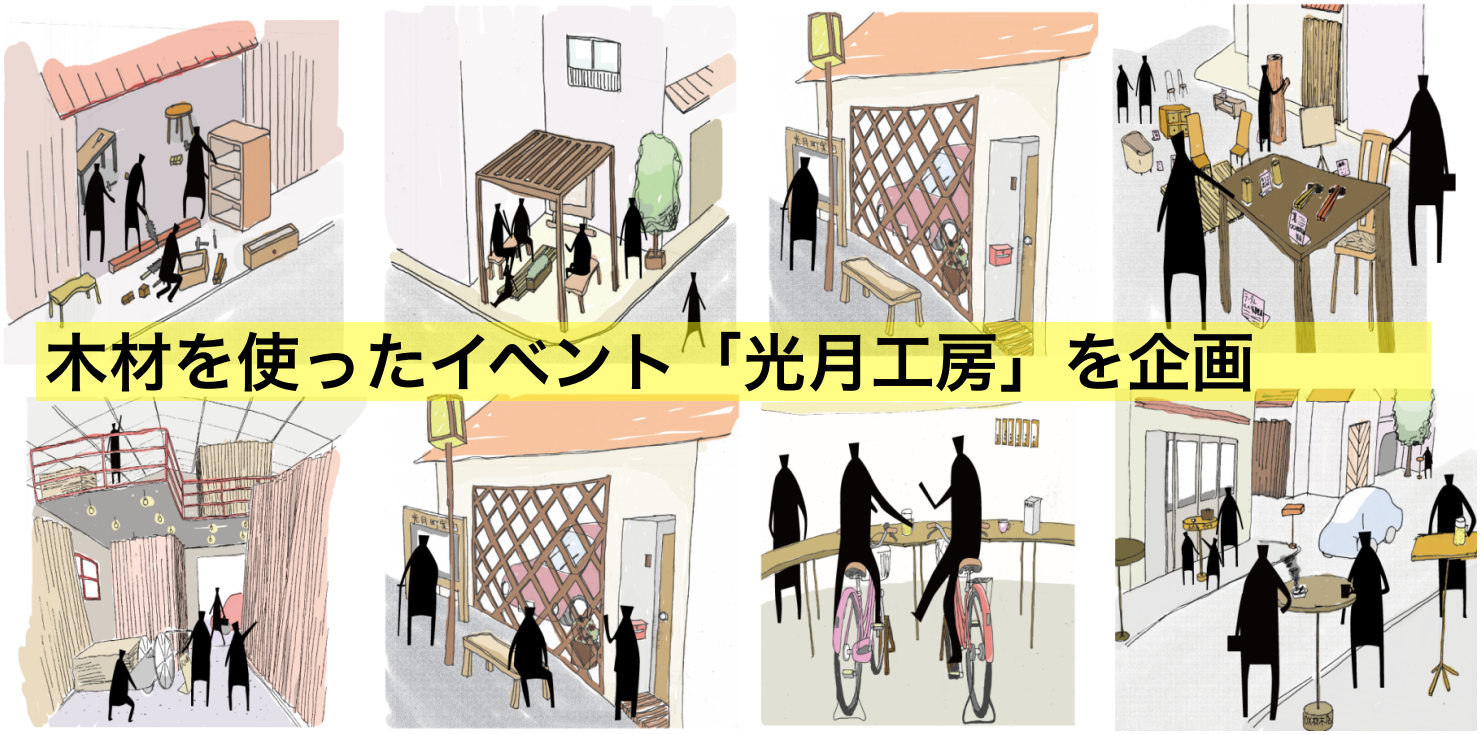
2　2010年度までの活動

2009 ■**まちづくりの指針をつくる**

■**指針に基きアイデアだし**

- 具体的なアクションプランの
  アイデアを住民の方々と練っていく
- 絵や合成写真を効果的に用い
  詳細なイメージまで共有していく

2010



木材を使ったイベント「光月工房」を企画

2　2010年度までの活動

2009 ■**まちづくりの指針をつくる**

■**指針に基きアイデアだし**

2010 ■**アイデアは実際に**
アクションにうつす！！

- アクションプランを実施し
  まちに大きなうねりを生み出す
- きちんと事後検討や反省を行い
  住民の方々にフィードバックする

- **住民自らの手でこれからのまちづくりが行われていくよう方向付ける**

3　2011年度の活動

2010 ■**アイデアは実際に**
アクションにうつす！！

2011 ■**光月工房を根付かせる**
■**料金をとる試みをおこなう**
■**振興会だけで運営できるようにする**

・住民の中でノウハウの蓄積が出来るようにする
・学生だけでなく、住民からアイディアがでるように工夫する

2011年度の活動

6月　第1回光月工房

あじさい祭りに合わせた通常の光月工房

7月　子供向け木工教室(有料)

夏休みの宿題に合わせて船と車を製作

11月　大人向け木工教室(有料)

本格的に家具を制作
通常の光月工房もおこなう(無料)

毎月　活性化対策委員会で準備、反省

6月
通常の光月工房
地元に根付いてきた

7月

初の有料化の試み
子供向け木工教室

11月
大人向け木工教室
子供はツリーづくり

おとり様で盛り上がる鳳神社

浅草PJの魅力

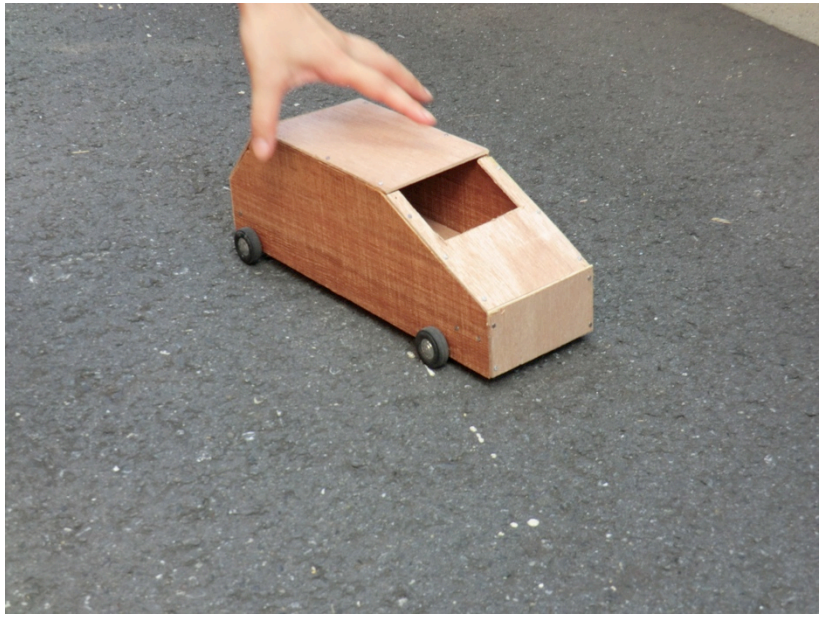
①研究室から近い

言問通りを東に、山手線を超えると、そこはもう下町
イベント直前の打ち合わせが、密にできる

浅草PJの魅力

②アイディアを実行に移し易い

木工は、誰にでも取り組め、
また技術を教えることにより
交流が生まれ易い



浅草PJの魅力

③協力してくれる地元の人が熱い！

浅草PJの魅力

④浅草は楽しい！

戦前までは日本一の盛り場、魅力あるまち

３　活動のまとめ

2011

■イベントから持続的なまちづくりへの転換

- 地域の資源を使ったとりくみを持続的な、日常的なものにしていく。
- 有料化を通して、よりクオリティの高いものを提供する。
- 事後検討や反省を行ない、検討→実施→反省→実施・・・
のプロセスを、地域の中で実施していく。

2012～

■持続的なまちづくりへを、地域の中で

- 地域でまちづくりの方針を考える
- その方針にもとづいたイベントを開催する

Thank you for listening!!

東京大学＋日本大学

清水プロジェクト 2011年度活動報告

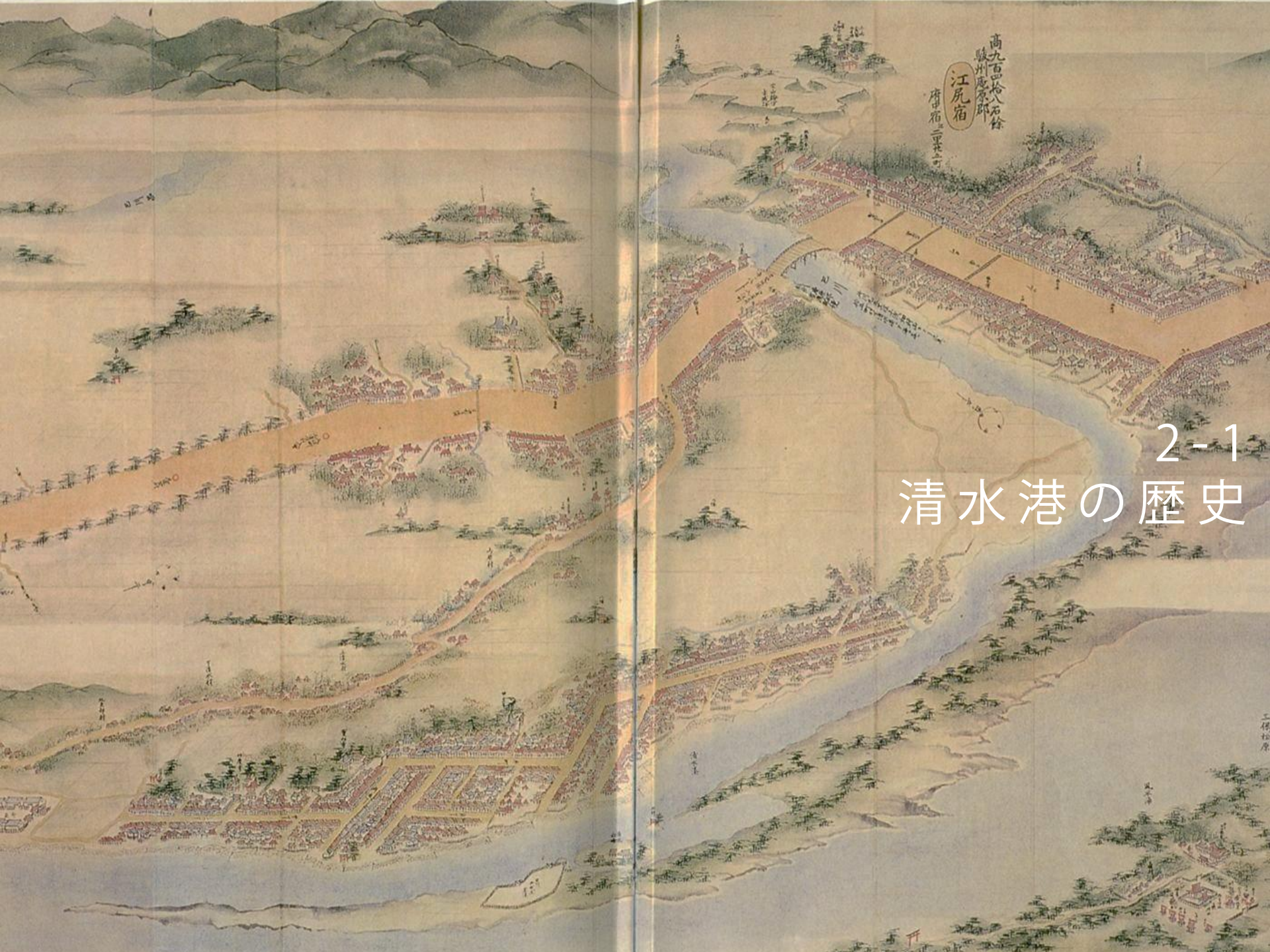
1 清水港の第一印象

海への距離が近い

新鮮な海の幸を味わえる

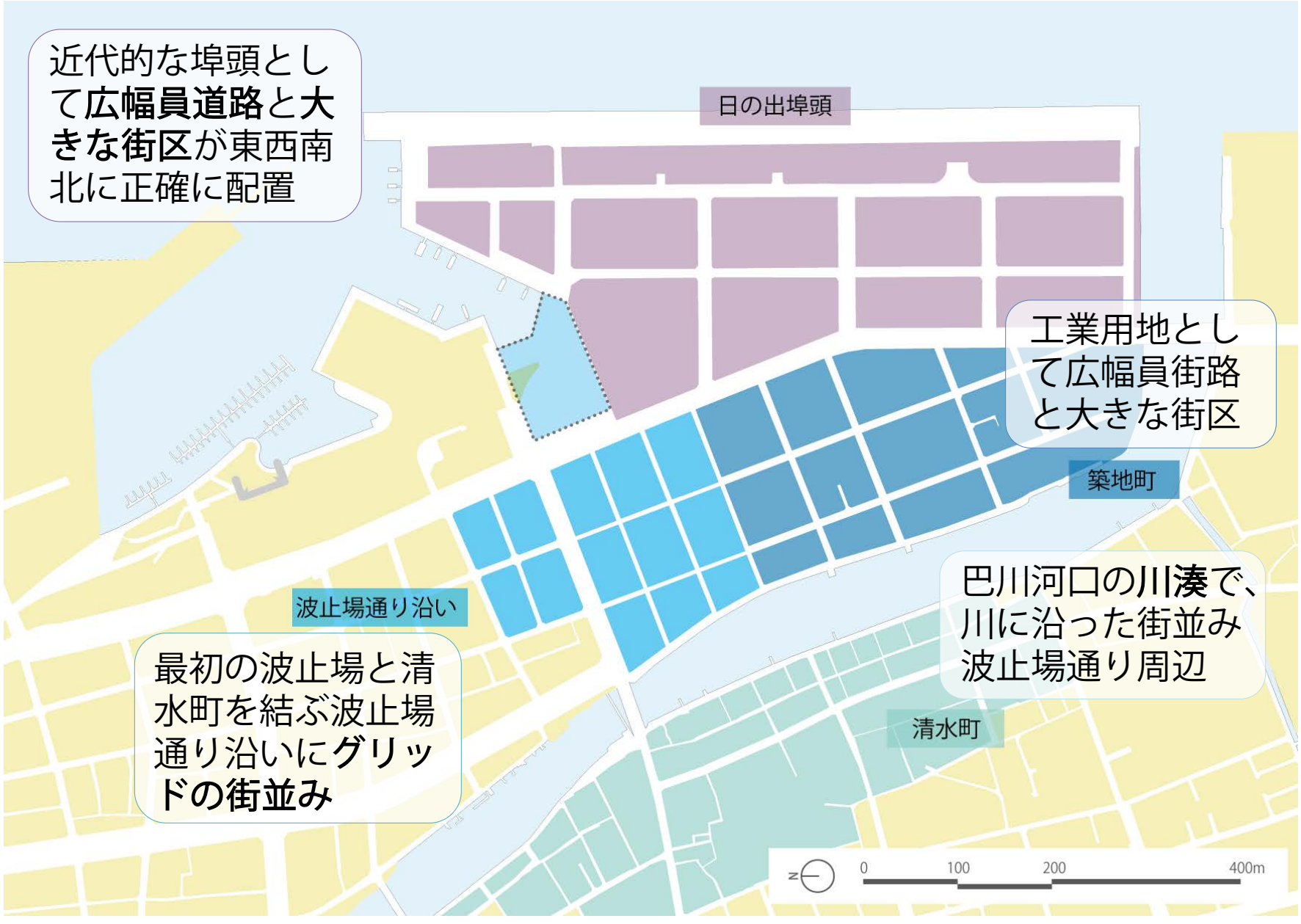
豊富な歴史的資源

折戸湾貯木場跡



2-1
清水港の歴史

道路・街区の成り立ち


近代的な埠頭として**広幅員道路**と**大きな街区**が東西南北に正確に配置
日の出埠頭
工業用地として広幅員街路と大きな街区
築地町
巴川河口の**川湊**で、川に沿った街並み波止場通り周辺
波止場通り沿い
最初の波止場と清水町を結ぶ波止場通り沿いに**グリッドの街並み**
清水町
N
0
100
200
400m

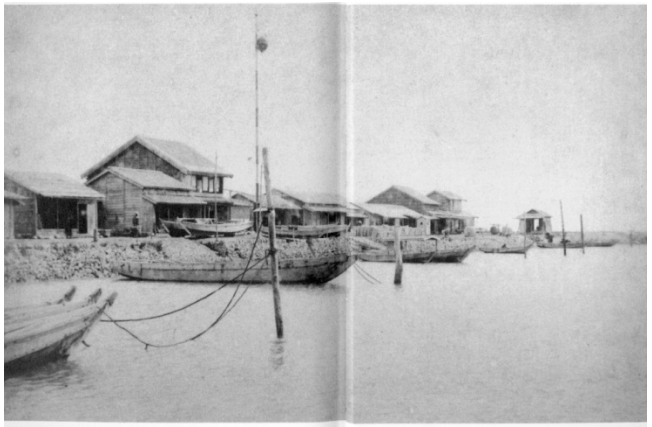
江戸～明治の清水

■ 江戸時代～明治時代

- 東海道宿場町の江尻に対して、巴川河口の**清水川湊**は海上交通の要衝
- 現日の出地区周辺は**向島と呼ばれる寄洲**で人はほとんど住んでいない
- 物流の要衝としてだけではなく、**漁港としても繁栄**した

- 廻船問屋ら有志で設立された「**波止場会社**」が最初の波止場を造成
- 他港では**内務省直轄**の港湾修築が進む中、近代港としての生き残りのために**自主的な活動**

波止場(旧舟溜り)は修築の歴史を伝える重要な場所



戦前～現在の清水

■ 戦前・戦後～現在

- 修築が進む日の出埠頭（右）
- 貨客船が直接接岸可能な**岸壁の整備**

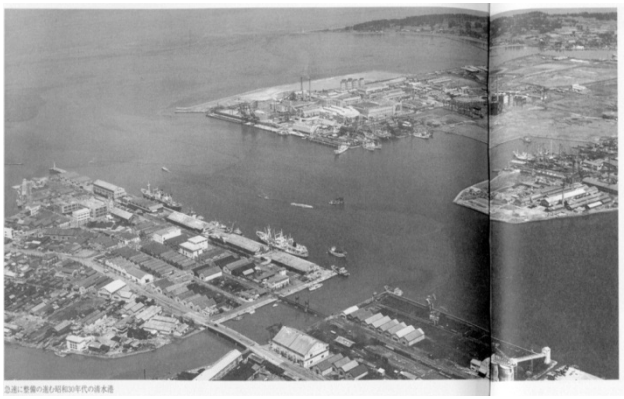
茶・缶詰などの輸出による急速な発展
静岡などの**後背地の産業活動**
貝島など三保地域の工業化

- 海外貿易再開請願→いち早く海外貿易に復帰
- **オートバイ**などの輸出

缶詰輸入(打検師活躍)など、かつてのノウハウを活かした輸入→次第に**輸入港**へ

- 60年代～**コンテナ輸送**→**袖師・興津**の整備
- 自動車輸送が拡大、**臨港鉄道**廃止

第二東名高速道路の開通と共に、**興津地域の機能強化急務**
港湾間の**国際競争激化**



2-2
歴史的資源の現況

日の出地区とその周辺の歴史的資源

旧鈴与倉庫群・清水港線跡

■ 旧鈴与倉庫群

- 切妻倉庫群は、**日の出埠頭造成中**から建設が開始される
- 戦災で焼け残った倉庫
- ･･･1931~1939年竣工
- 戦前は**砂糖(台湾産)の保税倉庫**として使用されていた

戦前の石造り港湾倉庫群が大規模に現存している場所は非常に貴重

■ 清水港線跡

- 清水港発展を支えた臨港線跡
- 臨港鉄道跡のリニアな空間は低利用が目立つ
- **路地のような魅力がある**

築地町地区・旧船溜り

■ 築地町

- **工場用地**として広幅員道路・大街区で整備
- 日の出地区の倉庫群と類似した様式の倉庫が複数点在している
  例）天野回漕店倉庫（No.14）
  1942年建設（築地町最古の倉庫）

■ 旧船溜り・次郎長堤

- 旧船溜り･･･「波止場」
- 近代港としての**清水港発祥の地**
- 港の中心が日の出に移って以降はバーが立ちならぶ
- かつての**賑わいの中心**
- 北側に埠頭の岸壁「**次郎長堤**」が残っているが、保存状態は悪い

■ 土木遺産的価値

日の出埠頭・広幅員道路・大きな街区割・近代的倉庫群・上屋群・清水港線

- 近代港湾としての骨格
- それに伴う施設群
- 同時期の土木・建築遺産が群として存続＝**産業遺産群**と言える

■ 資源の活用・保全

- 近代化遺産
- 産業遺産
- 近代化産業遺産

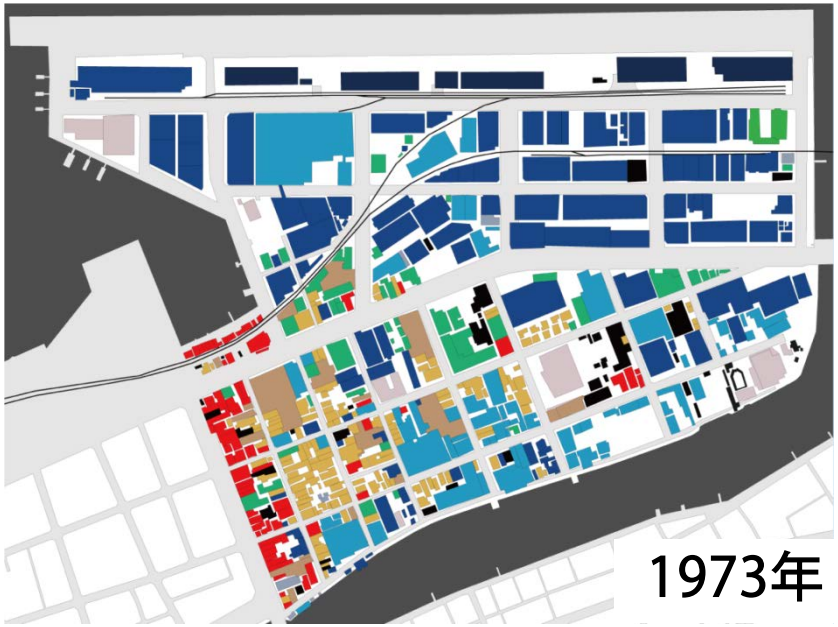
舞鶴赤レンガ倉庫群

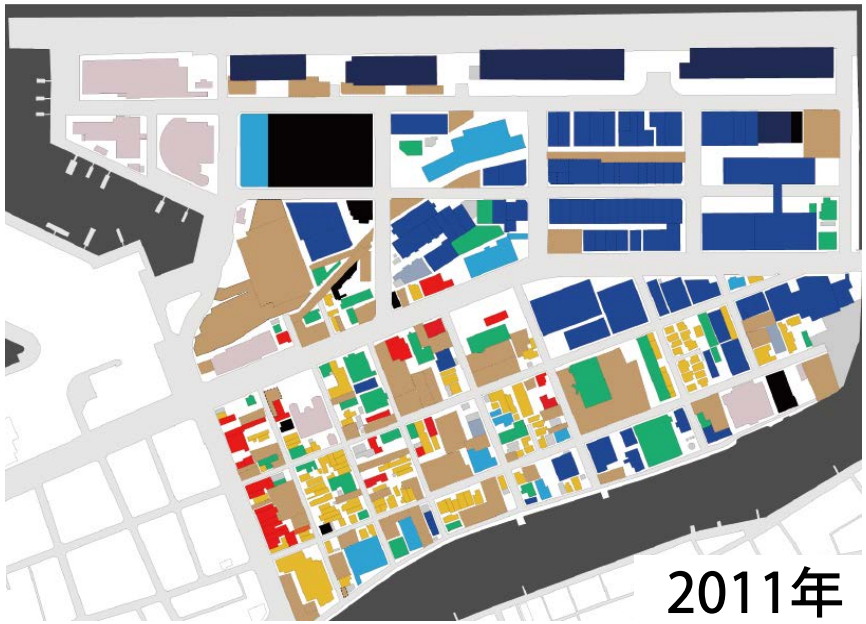
■ 産業観光のアイデア

- 工場見学
- 加工体験
- 直産物試食など

3 日の出地区および
その周辺の現況と課題

土地利用の現況と変遷





倉庫　上屋　工場　事務所　商業地　公共施設　駐車場　住宅　空地

■ 1973年から2011年の変化

- 倉庫の集約化、大規模化
- 駐車場急増と大規模化
- 公共施設増加
- 住宅密度の低下、マンション増加
- 波止場通り沿いの商業減少

■ 公有地・民有地の色分け

- 地権者の異なる土地が混在している
- 土地所有者間の連携・日の出地区将来像の共有が重要

土地所有者・建物利用者の意向

- 日の出地区の倉庫は**賃料を安く設定**でき、長期保管などに向いている
- **コンテナに対応できない種類の荷物を保管**している
- 東日本大震災の影響で、短期的には清水港の**倉庫需要は大きい**
- 日の出地区の倉庫は老朽化しているが、新築の倉庫に建て替えるほどではなく、小規模な改修にとどめて利用している

倉庫以外の用途への土地利用転換も考えられるが、**本業である物流業と清水港の港勢拡大**が大切。

日の出地区全体の水辺のアクセシビリティ

物流動線と歩行者動線の交錯

通常時

まちあるきツアー実施時

- 港湾地区のため、**道路幅員は広く、歩道がない**
- 平日はトラック・フォークリフトが行き交う
- マリンロードから日の出地区に入る街路でも**歩行者とトラックが交錯**する

広域の日の出を活かすための資源・連携・可能性

■ 次郎長生家

歴史

■ 三保の松原

自然

■ 久能山東照宮

旧跡

■ 魚市場

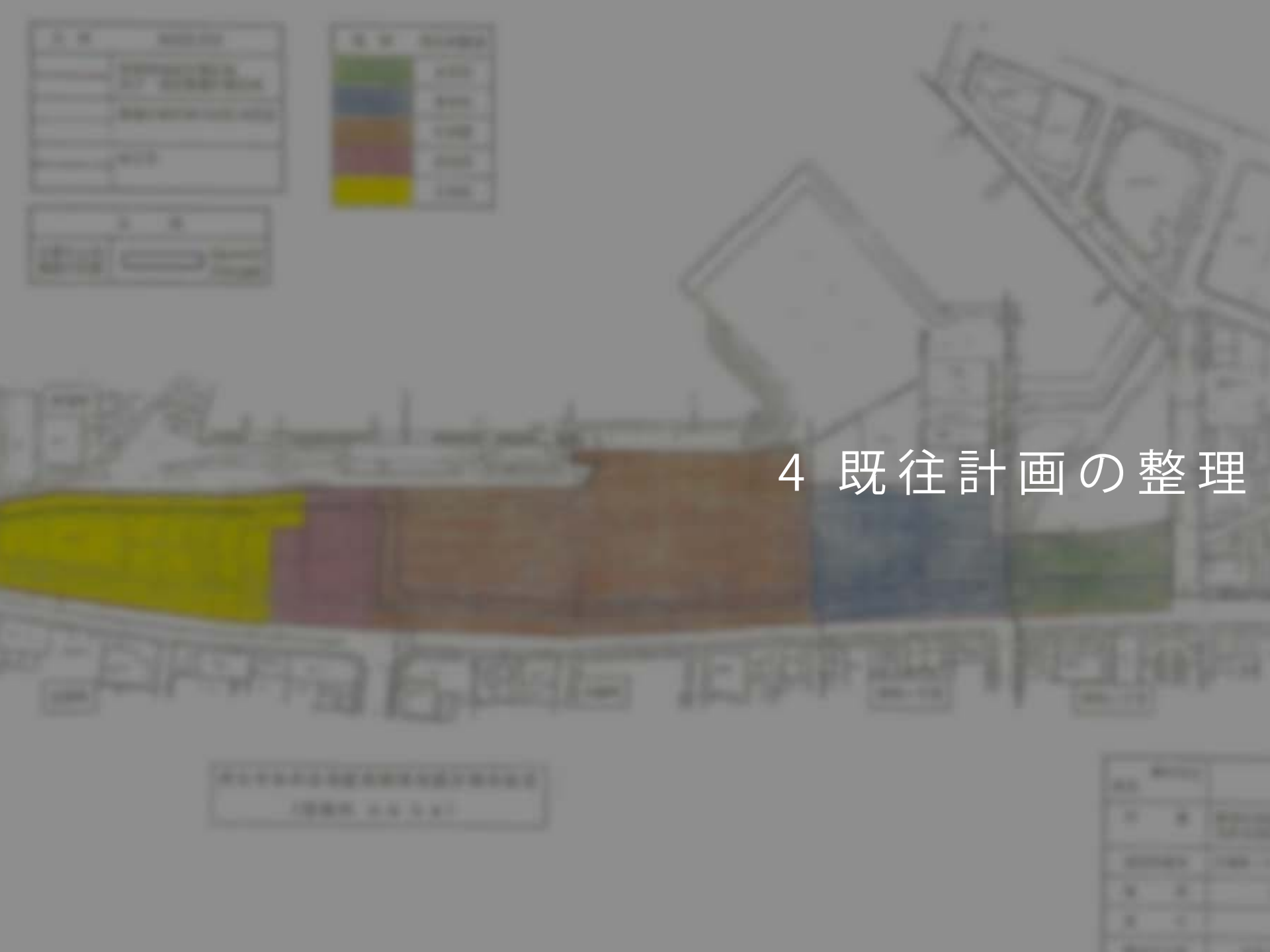
産業

■ 日本平

景観

■ 石垣いちご

体験



4 既往計画の整理

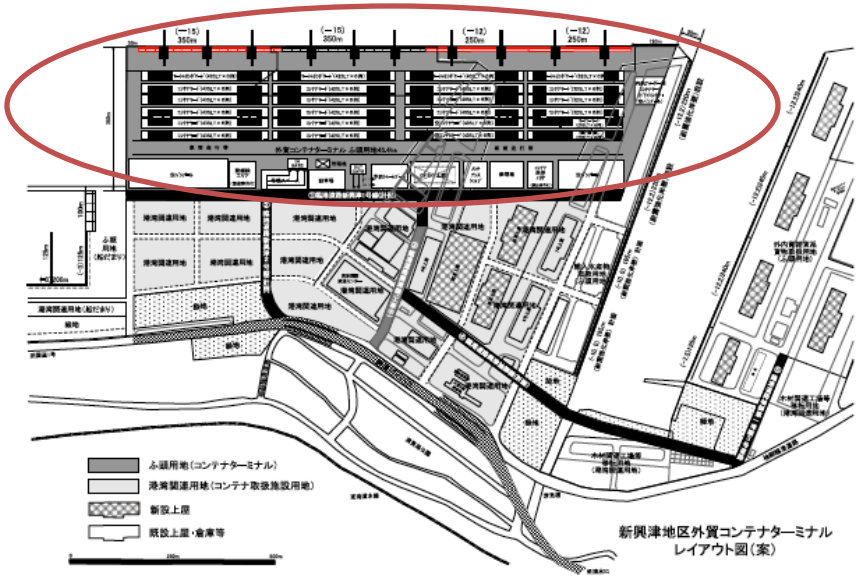
■ 概要

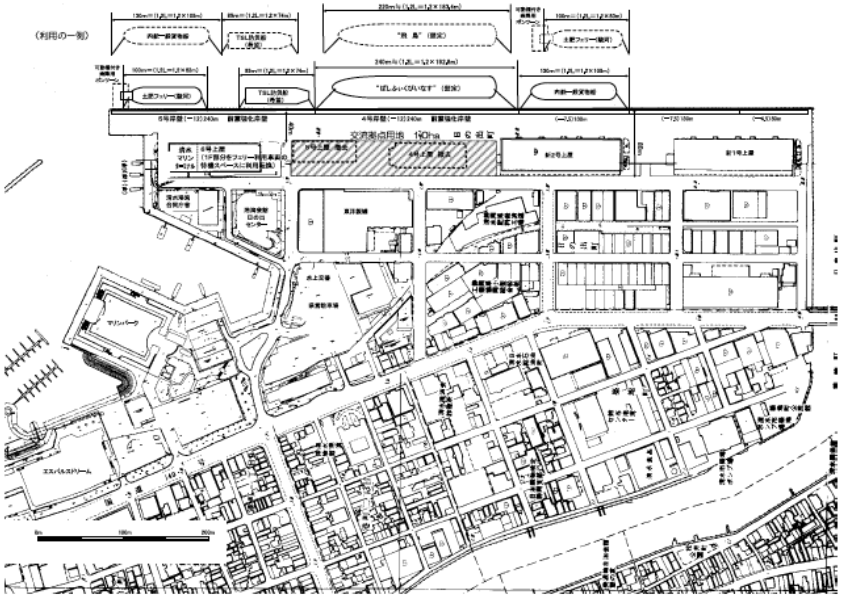
興津地域の埋め立て拡大

コンテナ荷役の速度向上・効率化
後背地の拡大による**コンテナ管理力**向上

荷役機能の興津への部分移転

上屋撤去と**交流拠点機能**整備
客船ターミナルの機能強化

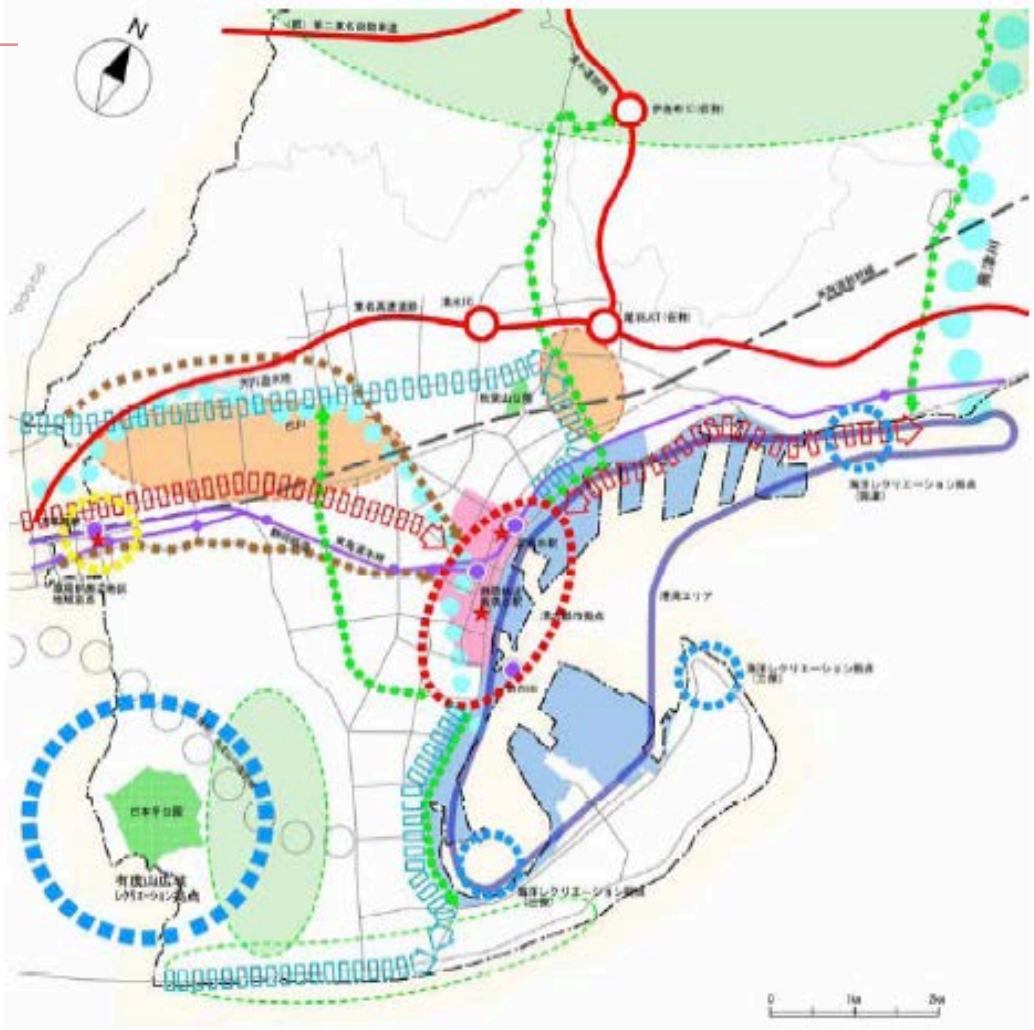




静岡市マスタープラン

■ 概要

- 清水港興津地区を中心に**物流機能**の強化
- **清水駅東口広場**と**江尻埠頭**の関係強化
- 港湾地区の**レクリエーション機能**強化
- 清水駅～日の出間の**土地区画整理事業**による住宅供給
- **みなと色彩計画**の推進
- 日本平周辺の**農業基盤整備**と**レクリエーション機能**強化



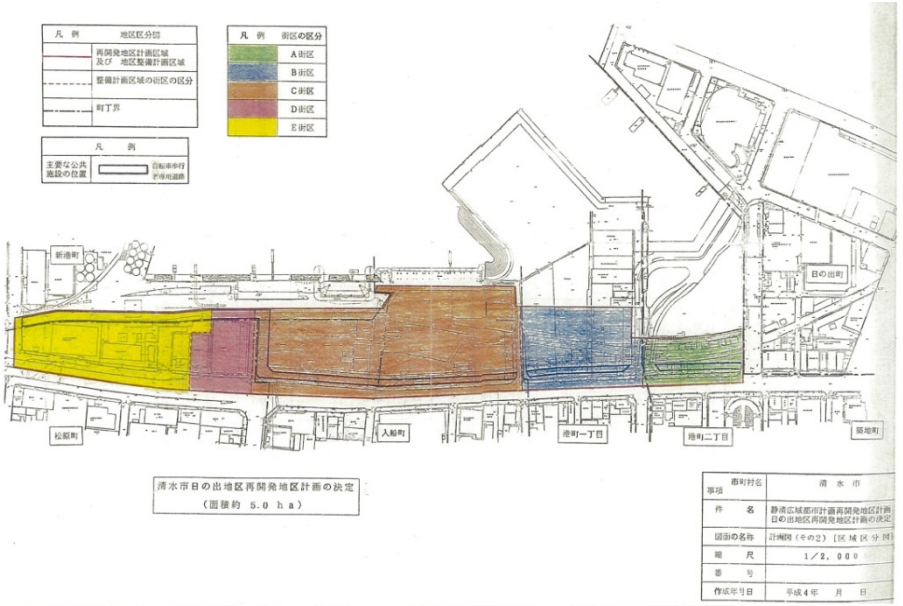
日の出地区再開発地区計画

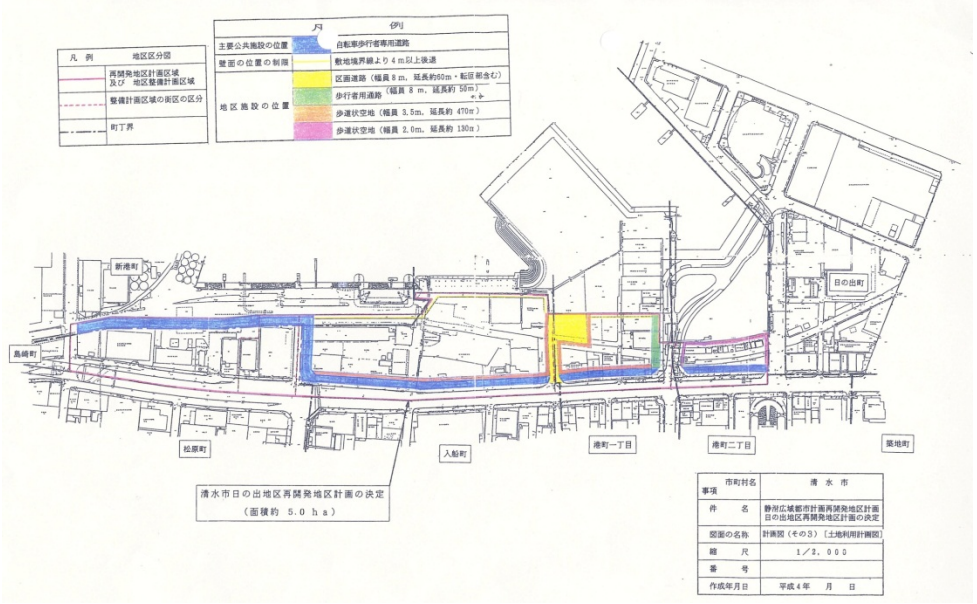
■ 概要

- 駐車場を**北側に集約**(建物化し平面駐車場は作らない方針)
- **自転車道**の整備
- マリンロード側の壁面線など**景観統一**
- 海際への人の誘導
- マリンロード西側の**街区・路地との整合性**配慮

■ 現況・計画の問題点

- **平面駐車場**が多く造られてしまっている
- マリンロード西側の街区との整合性がない





5 日の出地区の将来に関する考え方

日の出地区の将来を探るシナリオ①

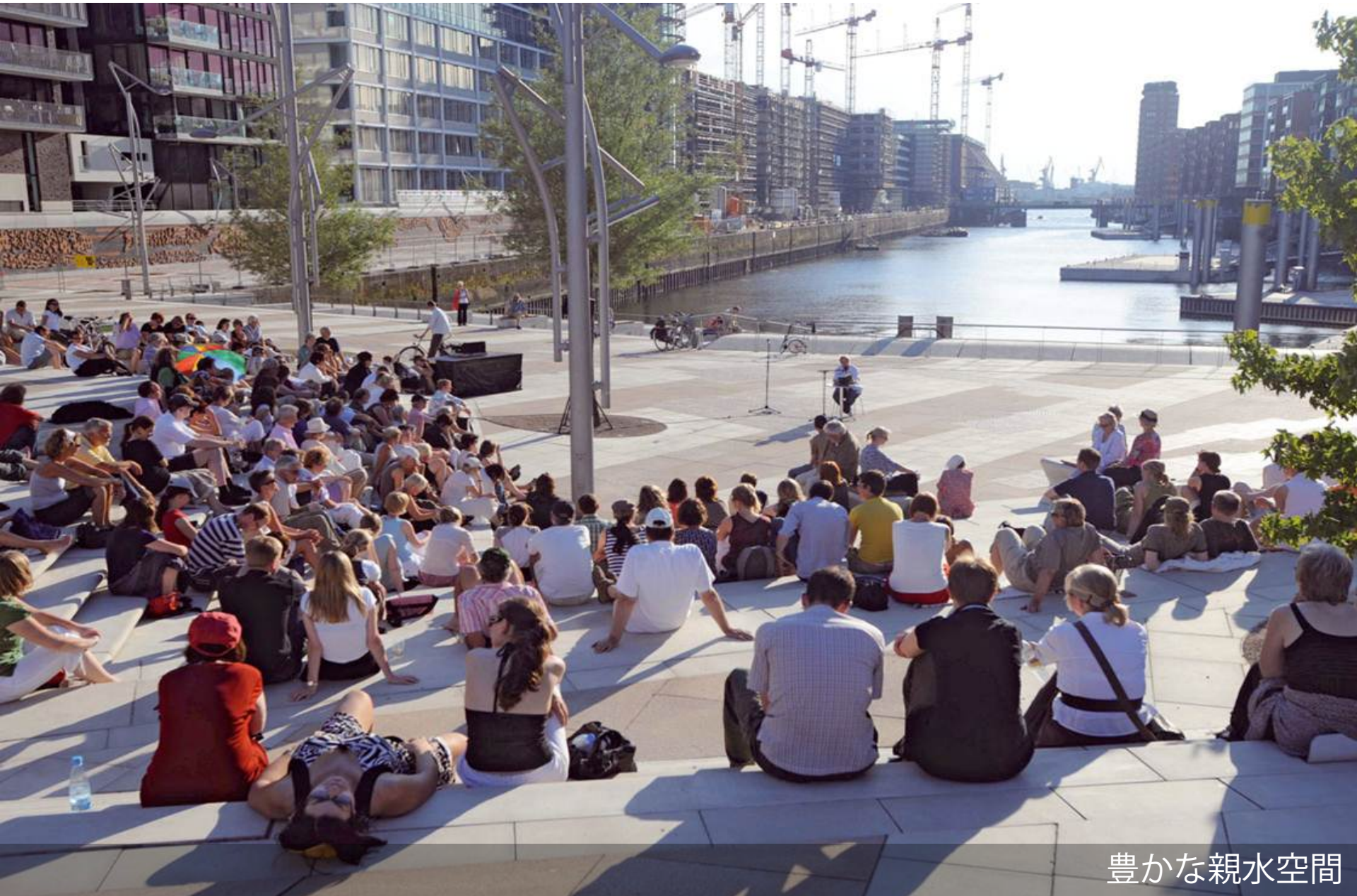
職住近接シナリオ

- **モビリティの確保**
  交通の便として路面電車を整備し、静岡市中心部までの円滑な通勤を実現する
- **多様なアクティビティ**
  臨海部にスポーツや散歩のための環境を整備する。また、マリンスポーツや、折戸湾クルーズ、フィッシングなどを満喫することの出来るまちを目指す
- **ショッピングの拠点**
  大規模商業施設を配置し、清水地区以外からの来訪者も見込む

事例1：オランダ・アムステルダム

運河沿いの大型商業施設

事例2：ドイツ・ハンブルグ



豊かな親水空間

日の出地区の将来を探るシナリオ②

芸術・文化シナリオ

- **創作・発表の場の提供**
  現在、倉庫が立ち並ぶエリアを若手クリエイターや職人などの活動や作品発表、販売の場としてリノベーションし、小型の店舗・アトリエ・工房などに転用する

- **新しい文化の発信地**
  オーダーメイドや一点ものの雑貨販売の場や、芸術鑑賞、音楽鑑賞の場を整備することで、新しい文化の創造や発信の中心地としてのまちづくりを推進する

事例3：台湾・高雄

アーティストの活動拠点としてかつての港湾倉庫を活用

事例4：神奈川県・横浜

市民参加のイベントやアーティストの創作活動を推進

日の出地区の将来を探るシナリオ③

産業観光シナリオ

- **体験型観光の実現**
  産業製品の加工過程の見学・体験や、水揚げ直後の海の幸を食す、と言った体験型観光の取り組みを行なう

- **歴史を紐解く施設**
  清水港の歴史や、清水の産業について知ることの出来る博物館などの文化施設を配置する

事例5：神奈川県・川崎市

工場見学ツアーの様子

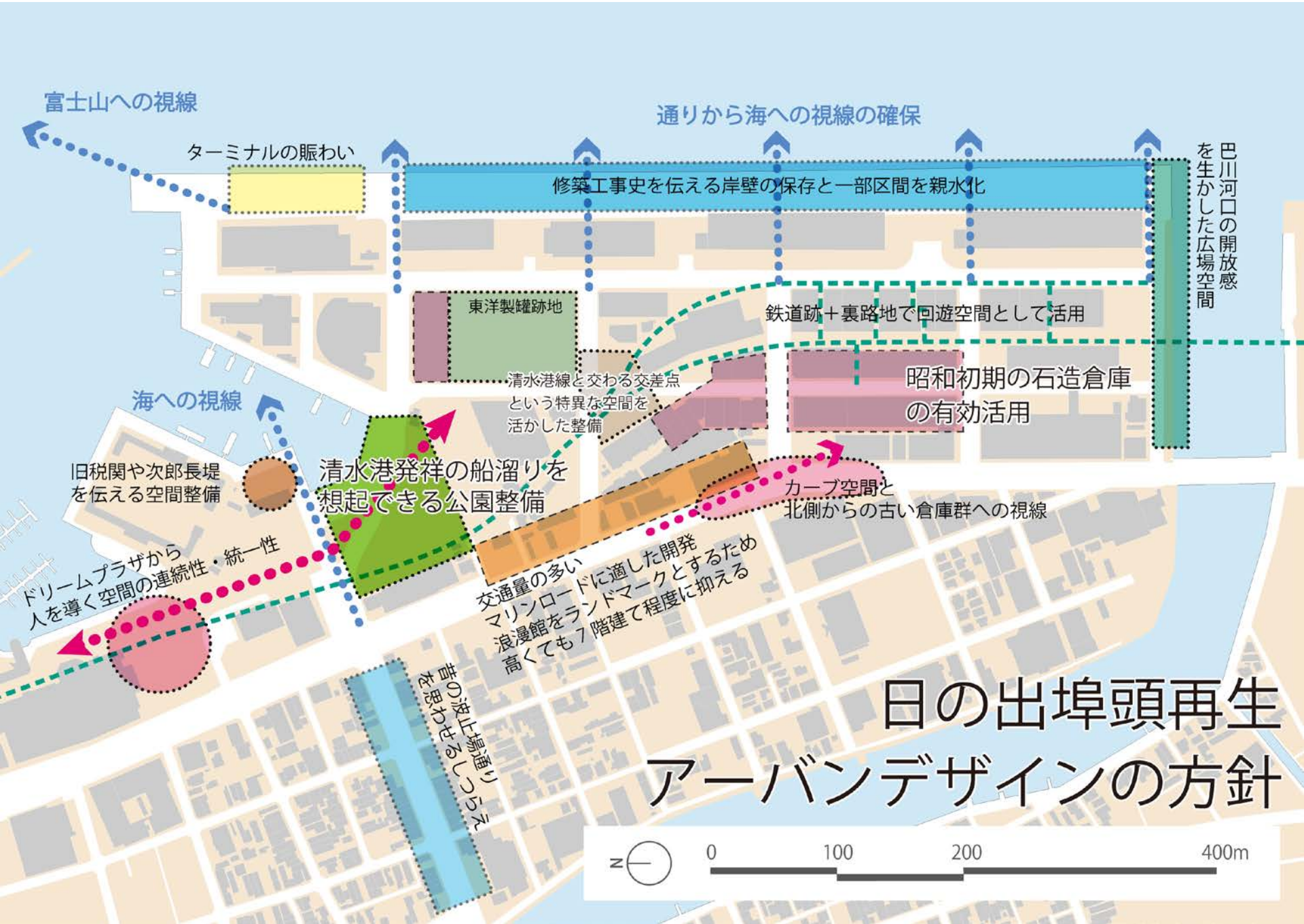
事例6：神奈川県・横須賀市

旧海軍の水道施設見学ツアーの様子

■ 行政および民間事業者・土地所有者が共有すべき目標

- 日の出地区における**空間資源・歴史資源**の保全・活用
- **公共空間**の確保
- **海側への視界**の確保
- ドリームプラザ側から人を導く空間の連続性・統一性

｜想定される土地利用転換プロセス

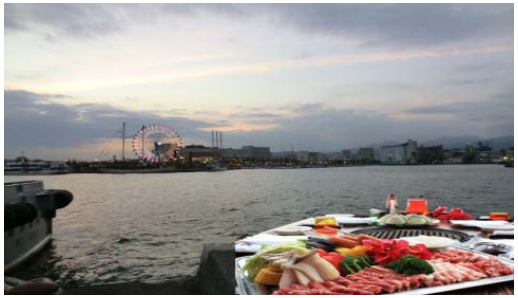

富士山への視線
通りから海への視線の確保
ターミナルの賑わい
修築工事史を伝える岸壁の保存と一部区間を親水化
巴川河口の開放感を生かした広場空間
東洋製罐跡地
鉄道跡＋裏路地で回遊空間として活用
清水港線と交わる交差点という特異な空間を活かした整備
昭和初期の石造倉庫の有効活用
海への視線
旧税関や次郎長堤を伝える空間整備
清水港発祥の船溜りを想起できる公園整備
カーブ空間と北側からの古い倉庫群への視線
ドリームプラザから人を導く空間の連続性・統一性
交通量の多いマリンロードに適した開発
浪漫館をランドマークとするため高くても７階建て程度に抑える
昔の波止場通りを思わせるしつらえ
日の出埠頭再生
アーバンデザインの方針
N
0
100
200
400m

日の出地区を変える小さなアイデア

■ 学生の作業場

■ パブリックビューイング

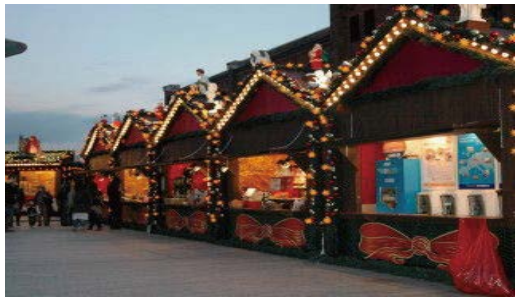
■ 海辺でバーベキュー



■ 海の見える図書館

■ 趣味の隠れガレージ

■ 臨時マーケット・物産展



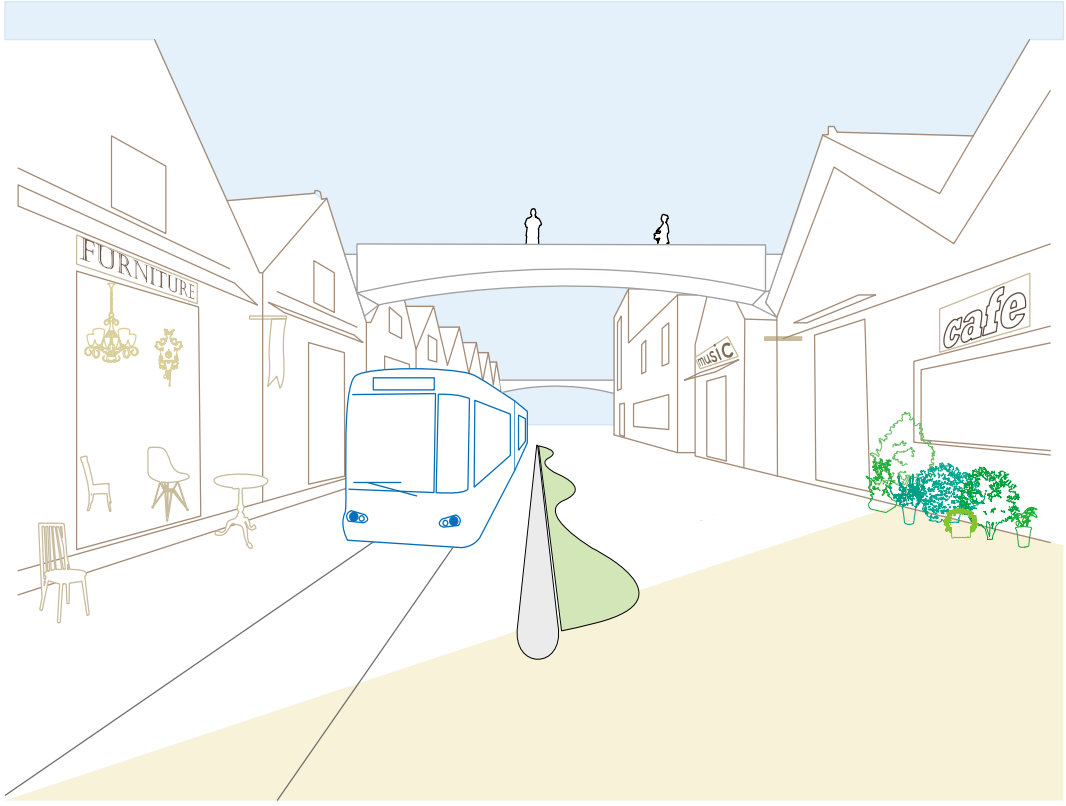
■ 遊歩道ライトアップ

■ 夏フェス in 清水

■ 清水港クルージング

日の出地区の将来イメージ案

倉庫群のリノベーション
空地を広い公園に
港を身近に感じることのできる親水空間
富士山への軸、旧波止場通り（現エスパルス通り）から港への軸を意識した空間



- ウッドデッキやボードウォークの整備
- 倉庫群を商業施設に
- 広い空間を活かした開放的な公園

港湾機能の移転と土地利用転換のロードマップ

短期	長期
歩車分離など歩行者環境の改善	水辺空間の整備
短期の実験的な空地活用	周辺市街地からのアクセス確保
地域の方を対象とした日の出地区の周知イベントの開催	海や富士山への視界の確保
	将来的な土地利用方針の具体化

物流機能の維持・集約化、物流車両のアクセス確保

石造倉庫群など歴史・空間資源の転用の方針の決定・実施

周辺地域との連携・回遊性の向上
日本平・三保など周辺地域へのゲートウェイとしての整備
分散する歴史資源の保存と活用

6 清水プロジェクトチームの取り組み

11月22日 清水港のまちづくり資源講演会

■ 講演会の概要

東京大学都市デザイン研究室　西村幸夫教授

テーマ：みなとの歴史資源

- 清水港の歴史
- 近代化、第一次・二次修築工事の概要
- 昭和初期における倉庫の急増
- 戦災の状況
- 清水港の歴史資産

大正期　船溜

日の出地区南部 左：1946年 右：2007年

11月23日 社会実験の実施

■ 社会実験の概要・目的

- ウォーキングツアー
- 水上ツアー
- 清水港線跡遊歩道でのパネル展示

■ これからの課題と期待されること

- 参加者からは好評を得ることができた

オープンな空間が思いの外気持よかった
普段では見られない風景が見られた
川から見ると風景が違っていて清水ではないように感じた
（ツアー参加者対象のアンケート自由回答欄より）

- イベントの事前周知の徹底
- 日の出地区の認知度の低さ
- 調査の続行
- 地域の団体（「しみず蔵倶楽部」等）との協力体制の強化

来年度の活動方針

■ 来年度の方針

- **歴史・資源調査の継続**
  今年度の活動で調査を行った清水港周辺の形成史や歴史的資源・空間資源を整理し、その価値を定義付ける
- **日の出地区周辺の広域的調査**
  今年度、詳細な調査を行っていない駅前・魚河岸周辺・折戸湾・三保半島などを含めた広域的な視点から、日の出地区との関連性・連携の可能性を考える
- **関連主体へのヒアリング調査**

- **地域の方々との交流**
  ワークショップなどを開催し、具体的なまちの未来像について考えるきっかけをつくる
- **歴史資源の活用イベントの開催**
  石造倉庫をはじめとした港湾地域に点在する歴史的資源を活用したイベントの開催（例：折戸湾貯木場跡のライトアップ等）

END

Kagurazaka
Project

神楽坂プロジェクト

神楽坂らしさとは？
What’s “Kagurazaka Originality” ?

東京都心部の商業地でありながら、かつての花街の歴史や
文化を伝えるまち

路地、階段、フランス料理店・・・

2011年住みたい町ランキング第11位

第15回 住んでみたい街アンケート（首都圏／関西圏）2011年/新築マンションポータルサイト MAJOR7

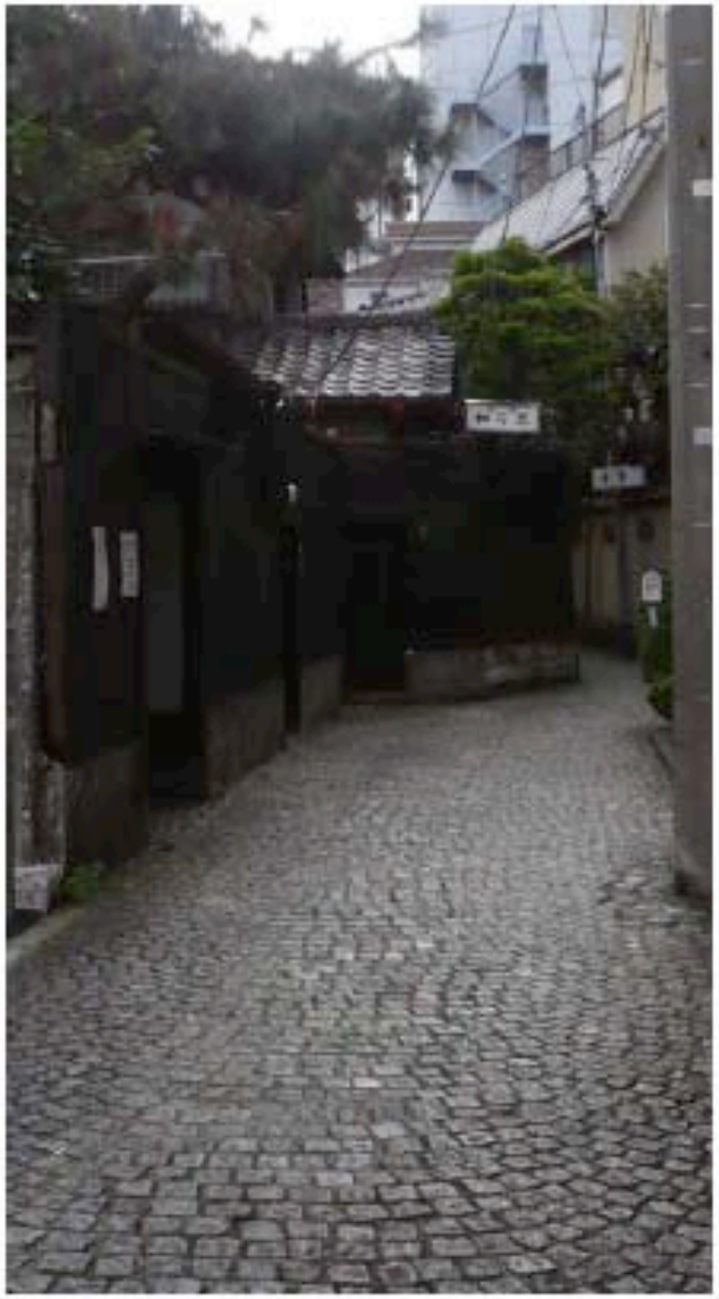
神楽坂の歴史と文化の継承

・第二次世界大戦時に空襲被害に遭っており、元々の古くからある町並みは残されていない

・しかし、間口の狭い町割は継承されており、それが沿道景観の基礎を形作っている

・近年、テレビドラマ放映後、全国的な観光地としてより認知され、来街者の急増、新規出店する店舗も増加。

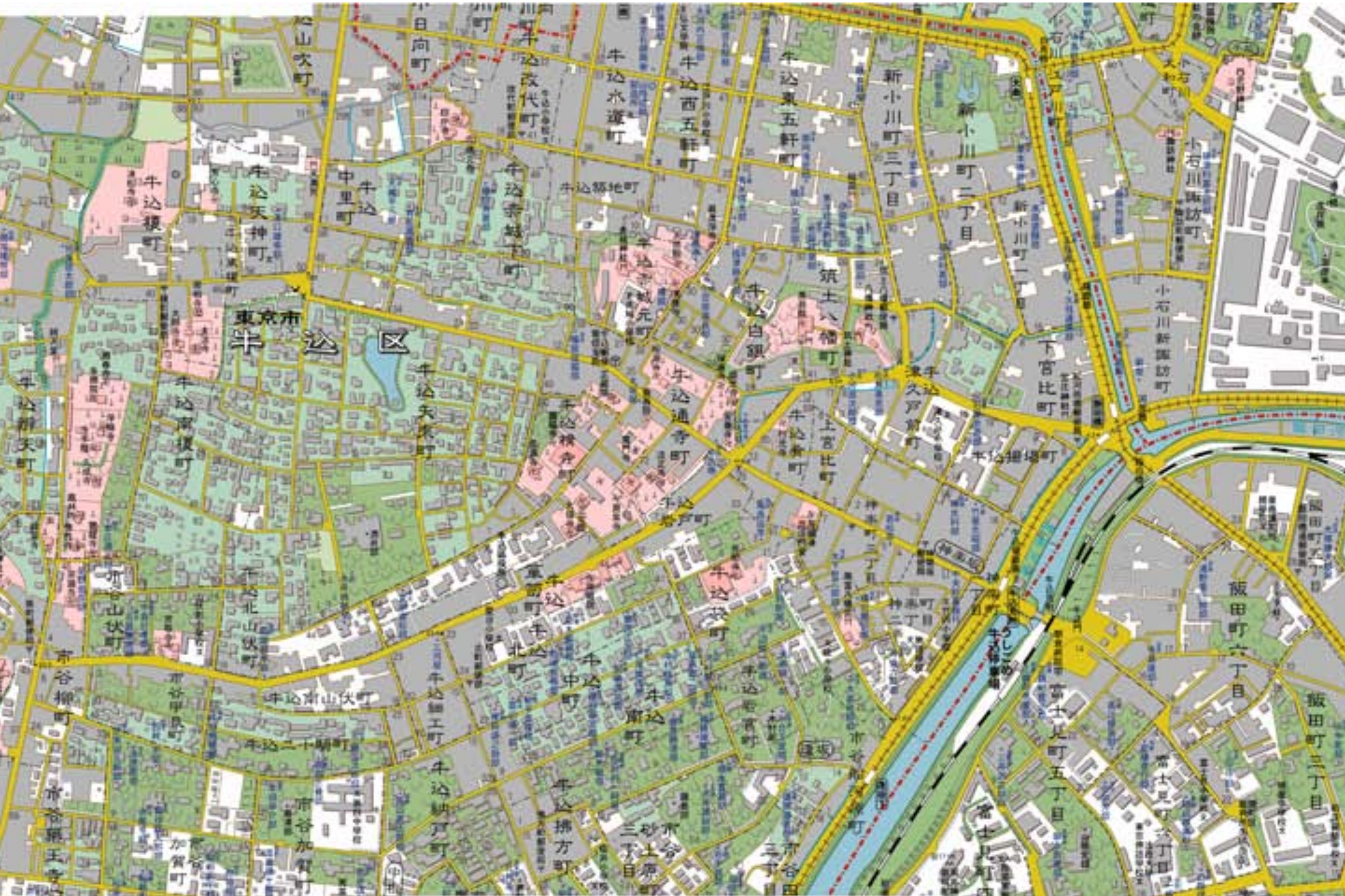
→神楽坂の景観は今もなお大きく変化し続けている



・何を維持・保全することで神楽坂らしさが維持されるのかが、常に議論されている

江戸

明治


東京市
牛込区
牛込柳町
牛込原町
牛込白銀町
牛込中町
牛込南町
牛込弁天町
牛込矢来町
牛込通寺町
牛込赤城元町
牛込水道町
牛込西五軒町
牛込東五軒町
牛込改代町
牛込北町
牛込二十騎町
牛込納戸町
牛込揚方町
牛込筑土八幡町
牛込袋町
牛込神楽坂
牛込中里町
牛込天神町
牛込榎町
牛込南山伏町
牛込細工町
牛込若宮町
牛込肴町
牛込馬場下町
牛込弁天町
牛込北山伏町
牛込新小川町三丁目
牛込新小川町二丁目
牛込新小川町一丁目
牛込下宮比町
牛込久保町
牛込揚場町
牛込宮比町
牛込神楽坂
牛込中里町
牛込赤城下町
牛込若松町
牛込市谷八幡町
牛込市谷加賀町
牛込市谷田町三丁目
牛込市谷砂土原町三丁目
牛込市谷柳町
牛込市谷薬王寺町
牛込市谷山伏町
牛込市谷甲良町
牛込市谷加賀町
牛込市谷八幡町
牛込市谷田町
牛込市谷砂土原町

現代

外苑東通り
山吹町
江戸川橋通り
水道町
改代町
西五軒町
東五軒町
白山通り
春日一丁目
中里町
赤城下町
築地町
新小川町
東京メトロ有楽町線
後楽二丁目
榎町
東榎町
天神町
赤城元町
東京メトロ東西線
早稲田通り
白銀町
筑土八幡町
下宮比町
神楽坂六丁目
矢来町
横寺町
神楽坂五丁目
津久戸町
揚場町
神楽河岸
南榎町
岩戸町
神楽坂三丁目
飯田橋四丁目
袋町
神楽坂二丁目
市谷山伏町
北山伏町
若宮町
神楽坂一丁目
細工町
中町
南山伏町
市谷柳町
市谷甲良町
二十騎町
南町
市谷船河原町
富士見二丁目
富士見一丁目
納戸町
払方町
市谷砂土原町三丁目
市谷田町三丁目
市谷加賀町一丁目

神楽坂のまちづくりは、都心住商混在地におけるまちづくりの先進事例

・1990年前後よりまちづくりの会が発足、まちづくり憲章などがつくられる

・2000年前後より起こる超高層マンション建設を巡っての住民運動が起こる

・まちづくり活動が活発化、住民主導による地区計画の導入などの実績

■都市計画的課題と関心

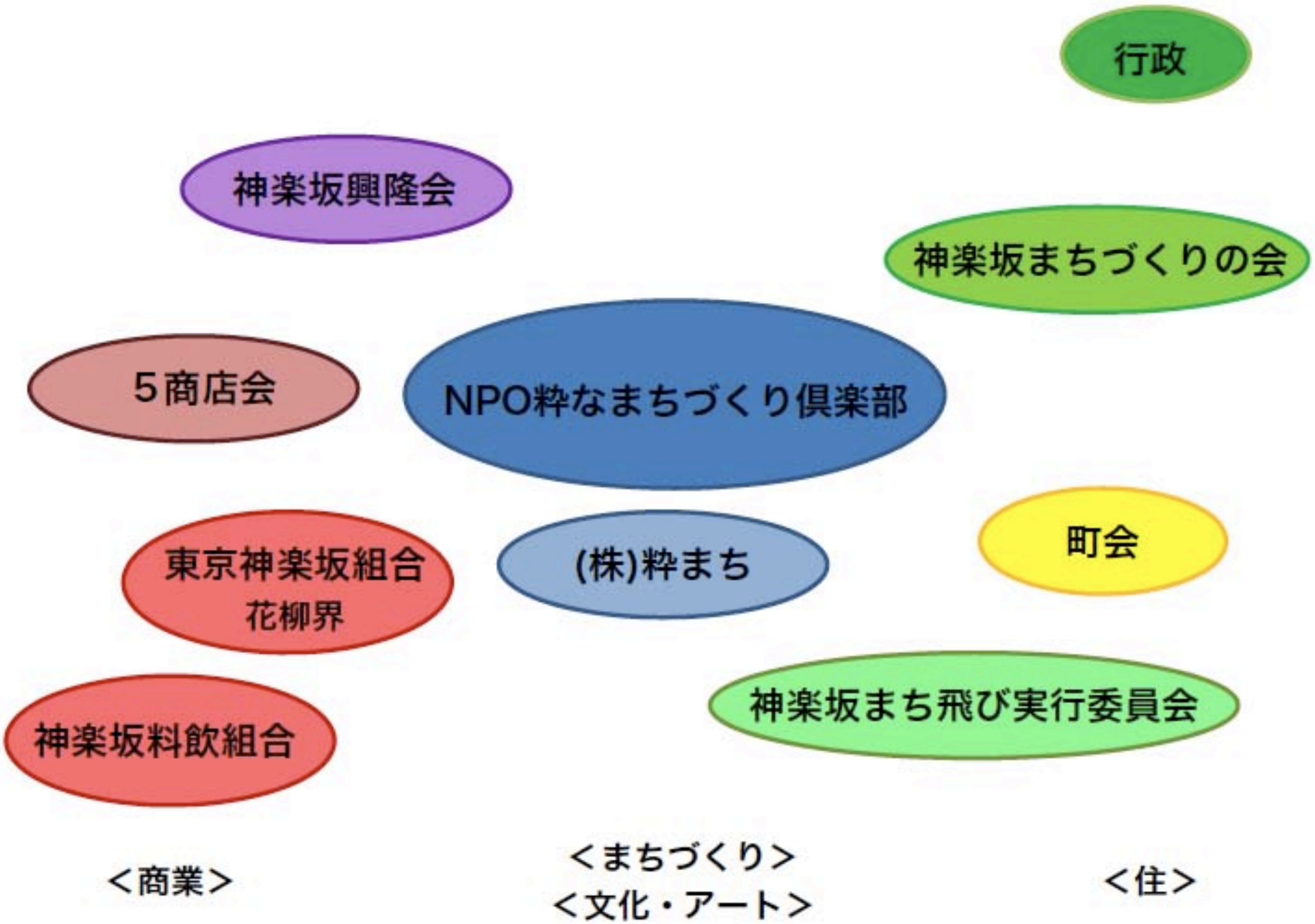
- 高い開発圧力や多主体の関与
  都心の住商混在地の課題や状況を代替しうる

- まちづくりが行政主導から地域主導へと展開
- NPOを中心に内外の多様な主体の参加と連携がなされている

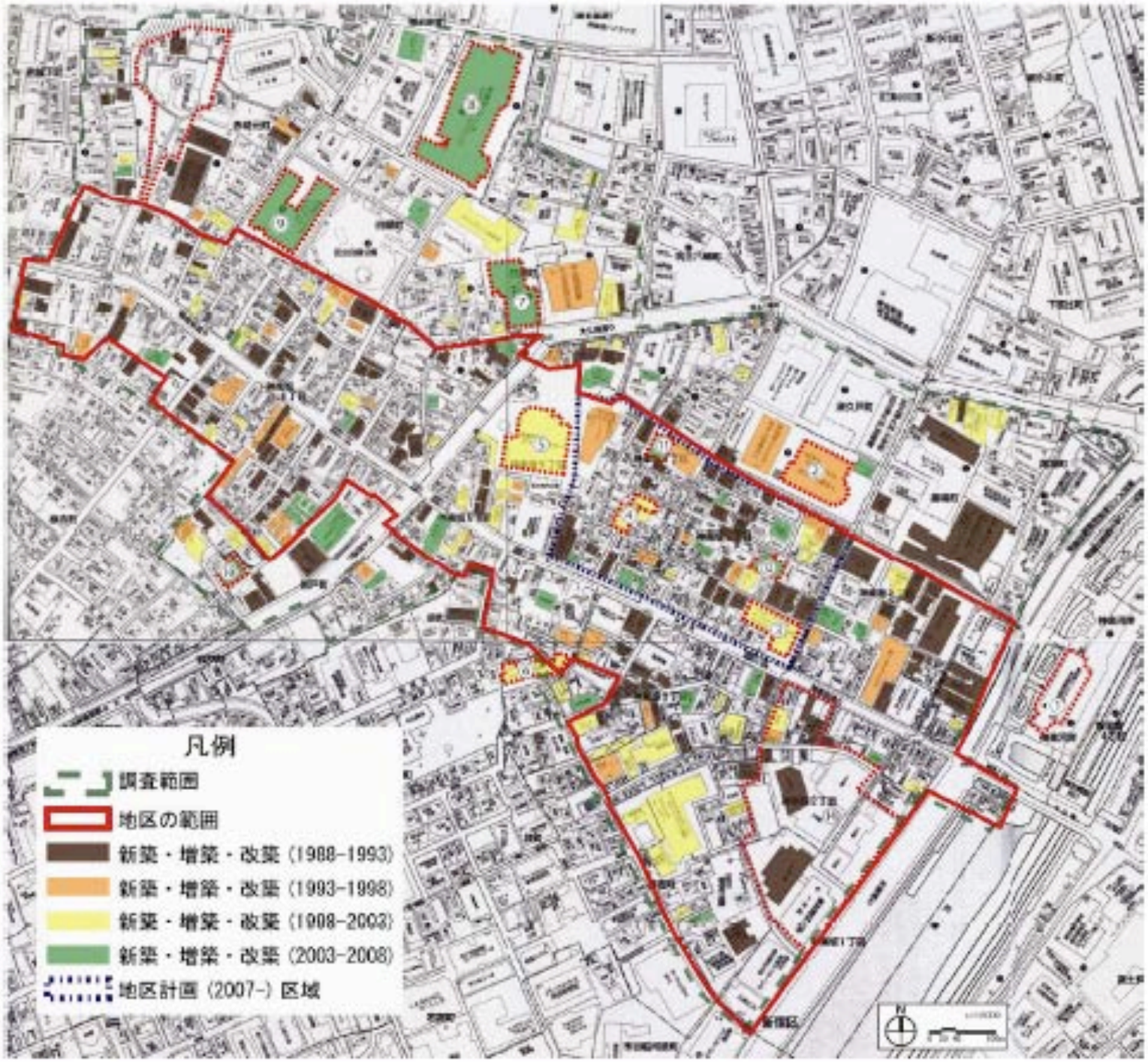
- 地域資源（文化など）を活かしたまちづくり活動を展開している
  他の都心住商混在地における保全まちづくりへ示唆に富む

まち飛びフェスタ

神楽坂のまちづくりを担う多様な主体



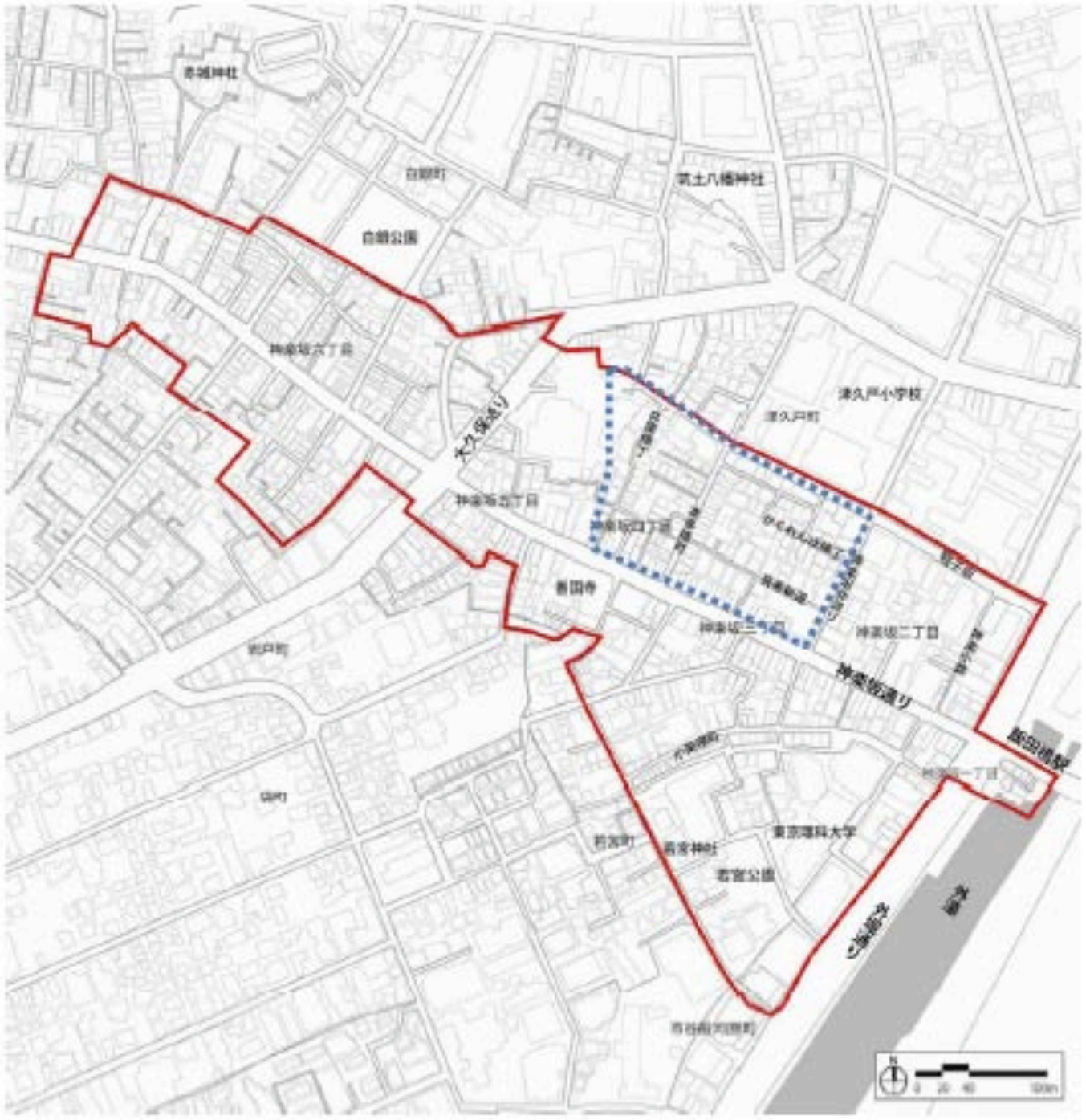
神楽坂のまちづくりの主な課題は、建替えの増加とそれに伴う建物の大規模化による街並みの変容である



・変容の主な要因は、
高い開発圧力を実現する
高い容積率（500%）

超高層マンションの開発

新宿区の保全施策は神楽坂にとって不十分であったが近年詳細化、拡充が図られてきている



1992 景観まちづくり条例
　　中高層建築物の事前協議

2006 絶対高さ制限の導入

⇩

2007 地域主導で地区計画作成

2008 景観行政団体への移行
2009 景観計画の作成
　　詳細な事前協議の導入

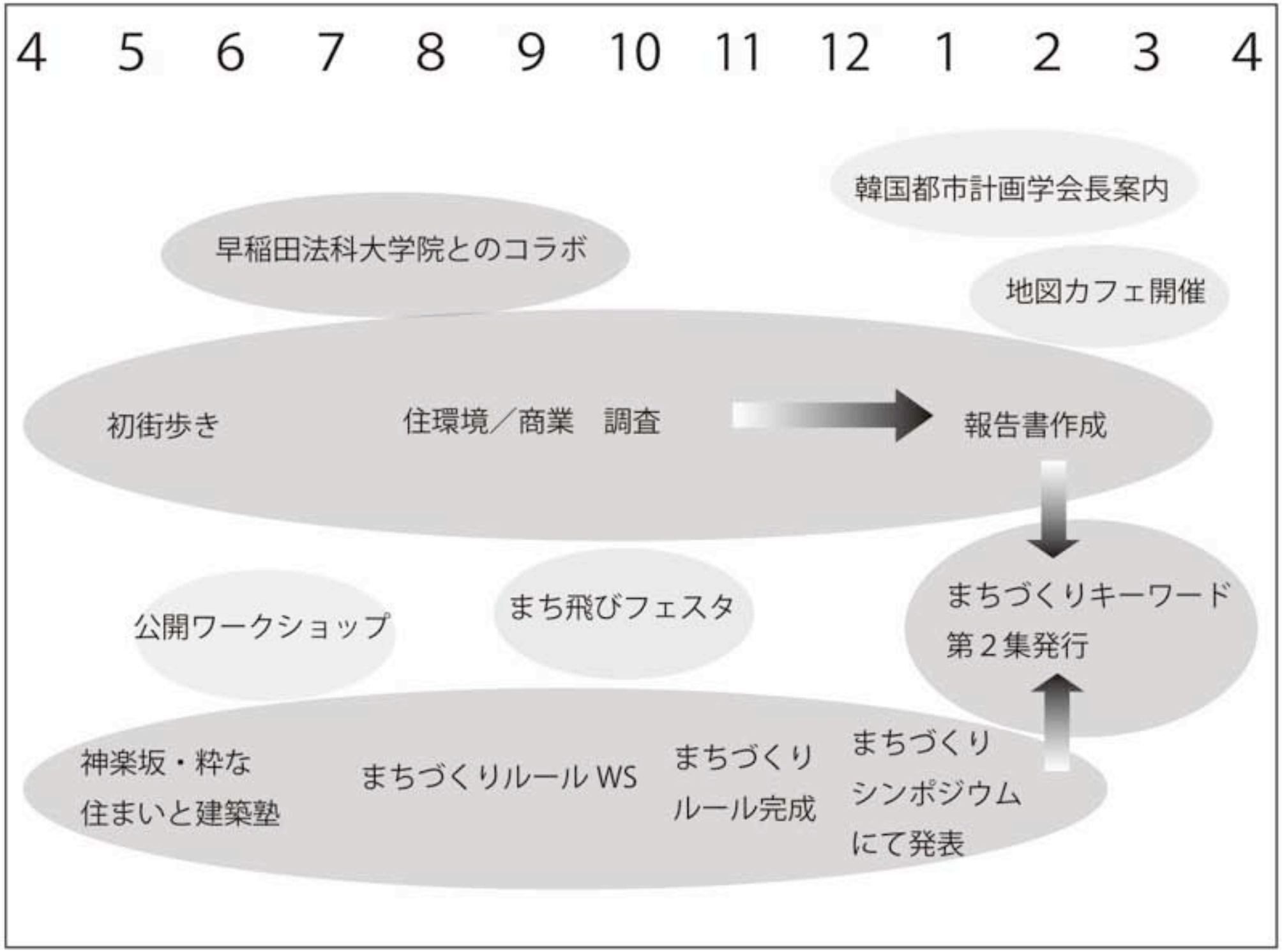
神楽坂では地区計画区域を対象に
高さ＞ 7m又は延べ面積＞300㎡
が事前協議対象になる

～2008

- 景観ガイドブック（新宿区発行）作成のための調査
- それをもとに2008年に地元の人へ発表。
- 街歩きで地元の人を案内

～2009

- 住環境／商業調査
- 地元と協働によるまちづくりルールWS
- まちづくりキーワード第2集発行へ



～2009

- 住環境／商業調査
- 地元と協働によるまちづくりルールWS
- まちづくりキーワード第2集発行へ

神楽坂らしい 粋なまちづくりルール
ワークショップレポート

第５回

■日 時 ： 2010(H22)年1月20日(水) 午後8時～10時
■場 所 ： 神楽坂通り商店会事務所
■主 催 ： NPO法人粋なまちづくり倶楽部
■協 賛 ： 神楽坂まちづくり同盟会、神楽坂まちづくりの会

■ 第5回ワークショップ 「まちづくりのルール案と運営方法」

これまでに実施したワークショップでは、神楽坂通り1～5丁目沿道地区及び伝統的路地界隈を中心として、「これだけは残したい／次世代に継承したい」ことについて意見交換を行い、まちづくりルールの素案及びその運営方法を検討してきました。

今回はこれまでの成果を踏まえ、まちづくりルール案とその運営方法について検討します。また1月27日に予定されている神楽坂まちづくりシンポジウムでの発表内容についても合わせて検討します。

※このワークショップはNPO粋なまちづくり倶楽部主催で、神楽坂まちづくり実行委員会と神楽坂まちづくりの会に協賛いただいて実施しています。NPOは、神楽坂のまちづくりの意思決定機関ではありませんので、NPOが中心となり皆様のご意見を伺いながら、まちづくり提案をとりまとめます。成果は実行委員会はじめ区など関係機関に提案します。

■プログラム

司会進行 NPO粋まち・鈴木俊治

1. 前回の確認と今回の趣旨及び検討内容・方法の説明

2. 「まちづくりルール案」の検討
 ① まちづくりルール案の説明
 ② グループ内で質疑や意見交換を行います。
 ・案の修正と、気になるところ(強調すべき個所、表現を修正すべき個所、不足など)について、全員からひとことずつ意見を出します。
 ・運営方法について、基本事項の確認や修正についても意見交換します。
 ・ファシリテータがその項目を整理し、意見交換と確認を行います。
 ③ グループごとに討議結果を発表します。
 シンポジウムで発表する案についての追加・修正意見をまとめてください

4. 全般的な意見交換とシンポジウム発表案の検討

5. まとめ、閉会

（仮称）神楽坂 粋なまちなみルール（案）

目 的

神楽坂界隈は中世に端を発し、江戸時代初期に坂下の外濠から坂上の台地に至るまで二代将軍家光によって切り開かれ、一つの坂（現神楽坂通り）に上って商店が形成された由緒ある地域です。第二次世界大戦で戦禍に見舞いましたが、花街界を中心にいち早く復興しました。以降神楽坂のまちは「粋なお江戸の坂のまち」と称され、東京の真ん中にあって今もって江戸情緒や風情を残している希有なまちです。

私たちは、まちが受け継いできた粋な文化や景観を尊重し、それを新時代風しながら、次世代につなげることを願います。そのために、「神楽坂まちづくり憲章（1994-平成6-年 神楽坂まちづくりの会が策定、宣言）」の理念に基づいて「（仮称）粋なまちなみルール」を定めるとともに、まちの人々がそれを主体的に実践していくものとします。

本ルールは、まちなみや景観など「かたち」に関する規範を中心としますが、その根拠や背景となるまちづくりの心を表現し、表面的・形式的なものとならないようにします。また、地区計画や商業区域まちづくり条例などの法定計画、行政指導や誘導・指定し、法的計画等では書ききれない、しっとりとしたまちの情緒がにじみ出るためのものとします。

範 囲

本ルールの上たる適用範囲は、「坂下」と呼ばれる神楽坂通り1～5丁目地区とし、神楽坂通り沿道地区及び伝統的な路地がある地区（以下、伝統的路地界隈）を中心とします。（次図）

上記以外の「坂下地区」、及び「坂上」と呼ばれる神楽坂6丁目地区のまちなみルールについては、目的を同じくしながら、地元の方々のご意見等を踏まえ、今後の追加を検討します。

（なお伝統的路地界隈において、本多横丁、姐子坂、仲通りに面する建築物について地元住民らの合意によって別途のルールが策定され、本ルールとの不整合がある場合は、各通り沿いのルールを優先することを基本とします。）

●・・・ワークショップで出された意見

● 範囲を広くので「坂下」「坂上」ではなく、「1～5丁目」「16丁目」の方がよい。

＜範囲を広げたい！＞
●試供検討地区も入れたい。（区議会員）
●範囲は厳密なものではなくて、もう少し広めにとってもいいのではないか。
●登録を向上するためにも広げたい
●江戸時代に神楽坂通りを賑わせた頃には、矢来の酒井家までだった。それぐらいの広がりが欲しい。
●試供検討地区を広げるイメージ。6丁目だけでなく、新宿町や矢来町まで
●資料に示されている範囲だけだと、狭いと思う。（区議会員）

＜今後拡げる範囲を検討したい。＞
●確かに、この範囲は狭いと思われるが、一方で今検討しているルールの対象となる範囲と考えると、大久保通りより北側は入らないと思う。今検討しているルールとは少し違った内容にして、範囲を広げていった方が良いのではないか。
●他に2回「まちあるきマップ」が出ている。そのマップに掲載されている範囲を今後対策範囲として検討していっても良いのではないか。
●歴史を資源として範囲を検討する。
●あまり拡げすぎると、ピンボケしないか。

＜ここまで拡げたい！＞
●神楽坂小路も路地地区に入れたい
●軽井大、アグネスホテルのあたりも範囲に入れても良いのでは。
●熱海温泉後のあたりも範囲に入れても良いのでは。
●熱海温泉り～肉屋さん！肉屋さんに行く道のひと皮を入れたい。

＜その他＞
●資料に示されている範囲の根拠が分からない。
●どこからどこまでと明確すぎて、わかりやすい範囲の方がいい

NPO法人粋なまちづくり倶楽部
（事務局：山下 03-3269-6250）
●このニュースレターやワークショップについてのお問い合わせ先は、下記まで。
NPO粋なまちづくり倶楽部 担当：鈴木
（03-5275-4441、ハーン環境デザイン内）

●参加者 20名（敬称略、○はファシリテータ）
A班 6名 天野、石井、坂本明実、須川、三浦、○鈴木智香子
B班 6名 坂本二郎、木村、西谷、松井、菅原、○山本
C班 5名 若林、寺園、根岸、山崎、○中島
※受付、全体
山下、中村、鈴木俊治

～2009

- 住環境／商業調査
- 地元と協働によるまちづくりルールWS
- まちづくりキーワード第2集発行へ

2010~2011

1．登録文化財事業

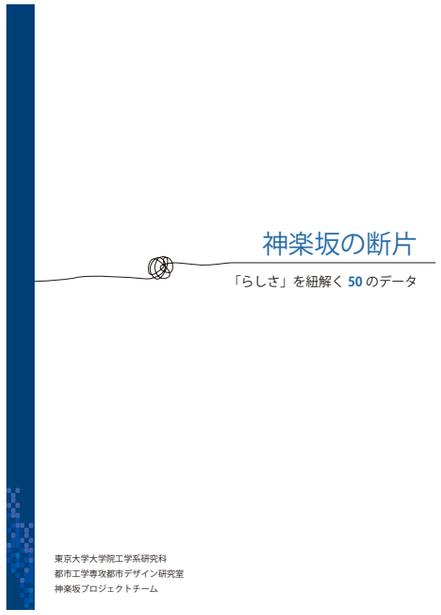
神楽坂の象徴となる建物の
保存のための取り組み
地元建築家との協働作業

2．花街研究・発表

花街建築の残存状況及び
景観特性の調査、発表

3．報告書の作成

これまでの調査データを報告書として
『神楽坂の断片「らしさ」を紐解く50の
データ』として作成。今春発行。



2011年度活動member

Associate Prof. Kubota Aya

Nakajima Shin (D3)

Matsui Daisuke(D3)

Kambara Kosuke(D1)

Fu shulan(D3)

Yoshida Kenichiro(M2)

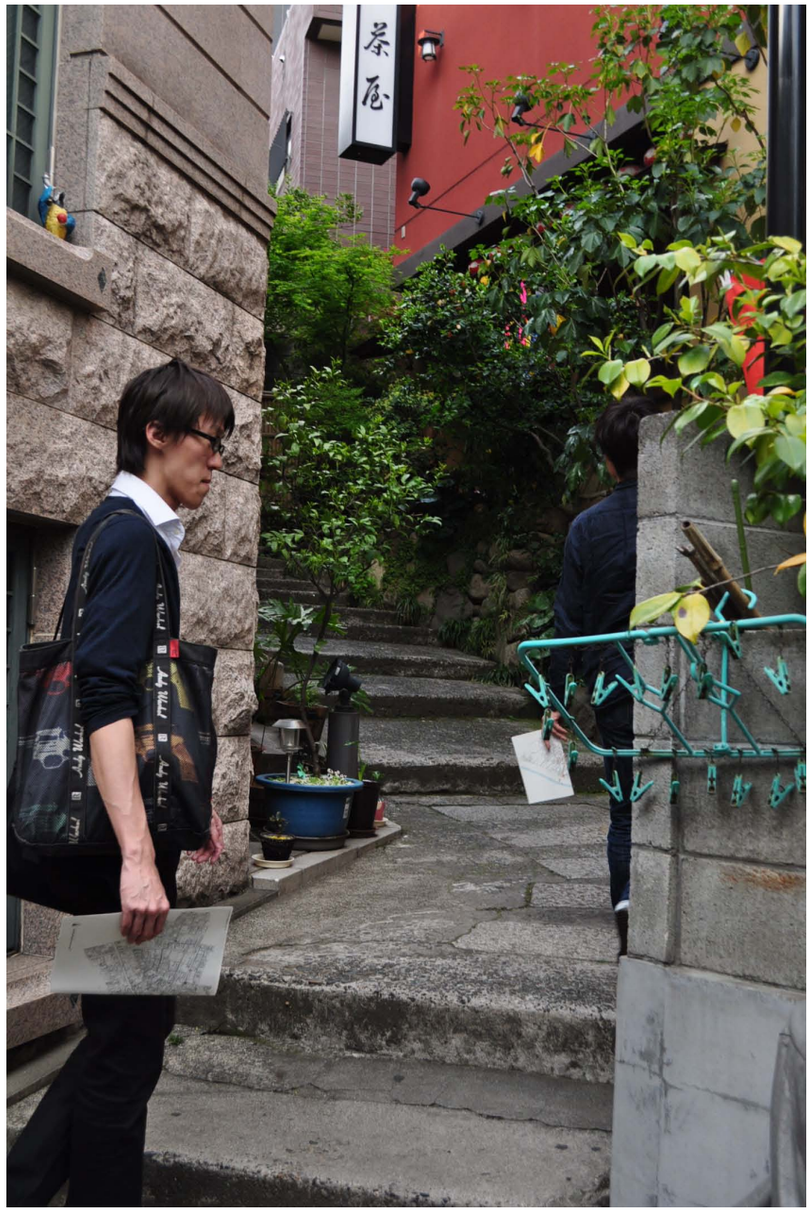
Nakamura Takafumi(M1)

１．登録文化財事業

登録文化財とは？

平成８年にはじまったこの制度では、建築物と土木構造物、その他の工作物のうち、原則として築後50年が経過し、かつ、次の各号のひとつに当てはまるものが登録の対象となる。

(1)国土の歴史的景観に寄与しているもの、
(2) 造形の規範となっているもの、
(3)再現することが容易でないもの



１．登録文化財事業

概略調査（9月～）

神楽坂周辺の建物の外観を調査

↓

文化財登録にふさわしいと思われる建物の抽出

↓

シート作成、建物の特徴を記入

↓

地権者の方と話し合い、登録文化財申請に向け、実測調査

１．登録文化財事業

新宿区協働事業

登録文化財制度を利用した歴史的景観保存事業◎調査票

記入日：2011. 9. 5　　記入者名：仲村

地域名	北山伏町(正雲社運送店駐車場横	所在地	新宿区北山伏町２−２３
建物名称・屋号	邸		
居住者		所有者	
所有者の住所			
用途	住宅		
構造	木造		
規模	２　階建て		
屋根形状	切妻		
屋根葺き材	主屋根がトタン。南側平屋部分は、燻し一文字瓦。		
外壁材料	表面はドイツ壁、モルタル塗り		
形式	擬洋風建築		
建築年代	大正		
（その根拠）	居住者の記憶　洋館に定番のシロの木がある。		
各部意匠	スクラッチタイル、鉄製格子、木製建具		
備考	正面がスクラッチタイルで、腰壁３段を擬石風にしており、鉄製格子、木製建具も当時のまま残っている。一部だけが当初のものと思われる銅板製でできている。矩形突出部の玄関で、正面の妻壁がペディメントのように強調されており、洋館の定番のスタイルを踏襲している。まわし引きの高御簾が軒桁レベルだけでなく、全ての庇にも用いられている。 屋根もシンプルな切妻を乗せ、垂木を見せているのがユニークである。		

概略調査（9月～）

神楽坂周辺の建物の外観を調査

↓

文化財登録にふさわしいと思われる建物の抽出

↓

シート作成、建物の特徴を記入

↓

地権者の方と話し合い、登録文化財申請に向け、実測調査

1．登録文化財事業

2010年までに登録となった建築物

常盤家

あゆみギャラリー

矢来能楽堂

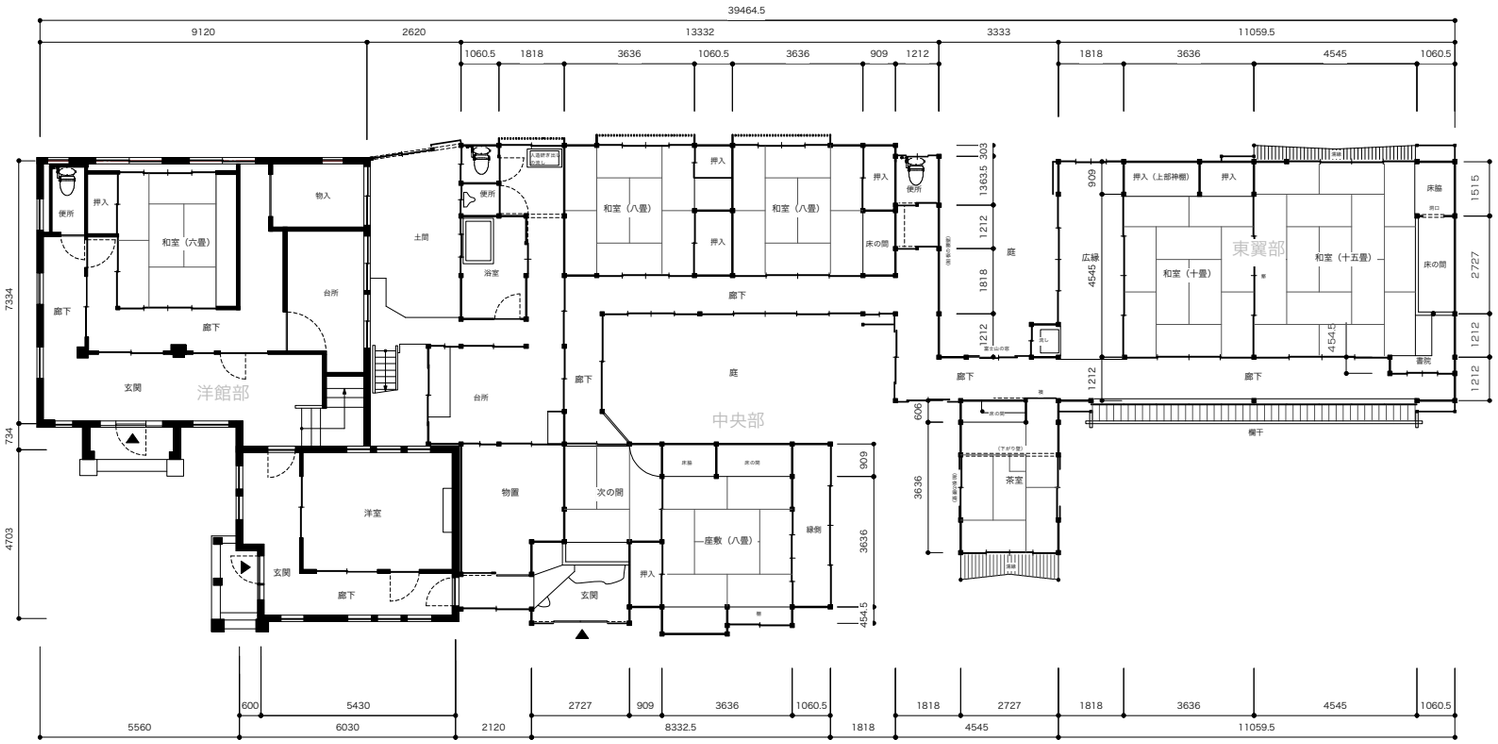
宮城道雄記念館

実測風景

実測風景

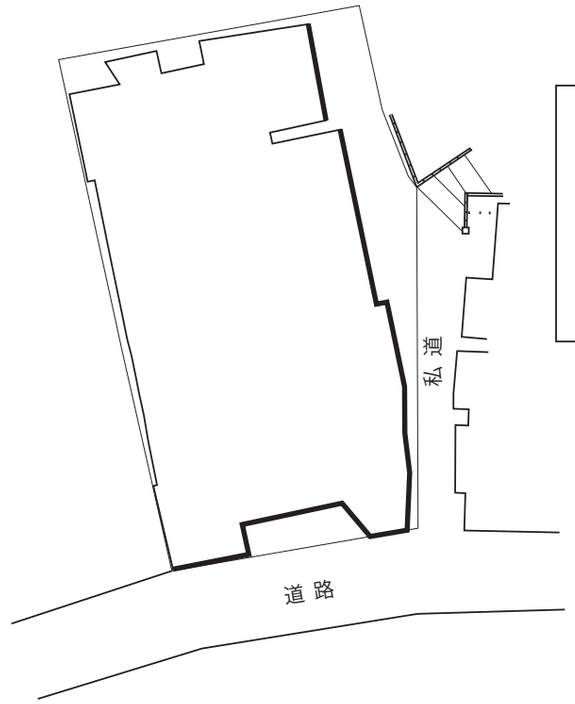
１．登録文化財事業

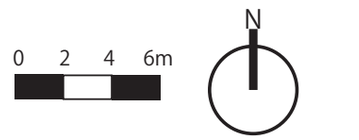
建築家が作成した図面と我々が作った所見を
元に申請。



通常望見できる外観について (S=1/200)

熱海湯は、道路に面する建物南側の正面部分と石畳でできた私道に面する東側部分を望見するすることができる。西側全面と北側の建物背面は、隣接している建物との距離が非常に狭いため望むことができない。従って、通常望見が可能な範囲は下図の太線で示した部分に限定されるものとする。





通常望見できる範囲

１．登録文化財事業

勉強会（9月～1月）

・住民の方々に登録文化財とその制度について説明、ディスカッション

・花街の視点から見た神楽坂の景観特性を紹介。今後の神楽坂の在り方をワークショップを通して議論。

・他都市における登録文化財を活かしたまちづくりの先進事例紹介

２．花街研究

- 神楽坂の花柳界に関係する文化的景観の調査
- 戦前の建築、まちの景観を抽出

  …目視による判定＋ヒアリング

  →登録文化財概略調査の活用？

  →戦後神楽坂花柳界の最盛期（昭和30年代に神楽坂で育った世代）
- その他文献、各都市の事例調査

京都での発表

舞妓さんと記念写真＠京都

3．報告書の作成

□□□

4. その他の活動

まちづくりに熱心な方たちと、様々なイベントの手伝いを通じて
交流を深めることができる

鹿児島プロジェクト　2011年度活動報告

１．２０１０度の活動より

2010度の活動

・2010年度は、天文館をはじめとした中心市街地の現状を分析し、回遊性向上のための改善策として65の提案を行った

2010年度報告書

回遊性の向上

気づかなかった
まちの「顔」や「表情」にふれ
まちを好きになってもらうこと

回遊性向上のために

・回遊性の高いまちとは？

まちなかに様々な「顔」がある

・魅力的なスポットが多様に存在する

まちなかに魅力的な「表情」がある

・スポットに立ち寄りたくなる仕掛けがある

「顔」や「表情」を眺める「場」がある

・休憩スポットが用意されている

回遊の風景が多様である

・各々の要素がネットワークされている

回遊性向上のために

・鹿児島市の資源や特性とは？

明快な都市構造

歴史・文化的魅力の豊かさ

市電やバスなどのモビリティの存在

天文館一帯の賑わい

回遊性向上のために

- 昨年度の提案の一つである
  USK（アーバンステーションカゴシマ）を
  社会実験として実施する

- 鹿児島市の資源や特性を活かしながら
  回遊性を高める効果を検証する

アーバン ステーション カゴシマ

回遊性向上のために

・USKの機能とは？

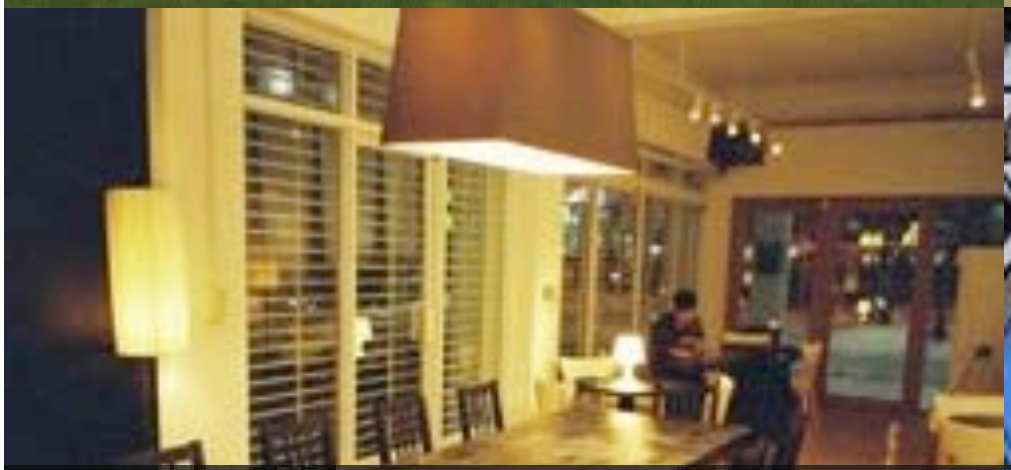
日常のまちの魅力を発信する

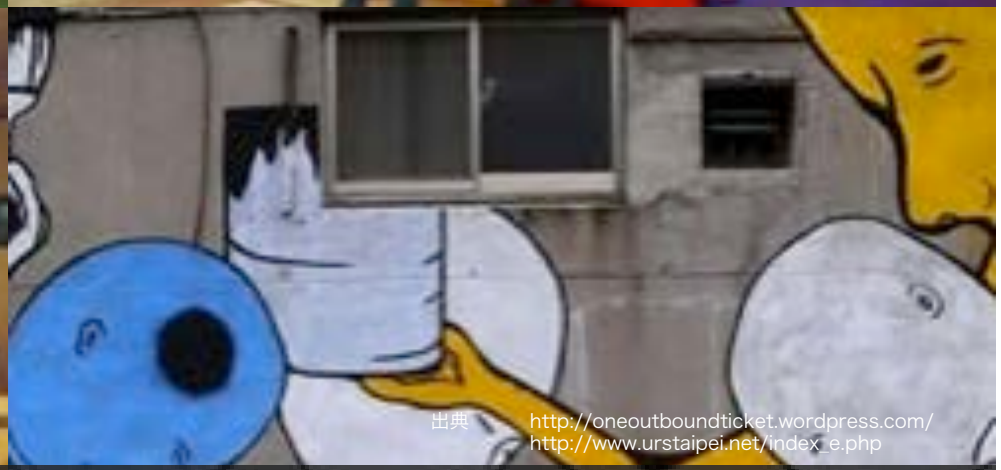
まちの回遊行動の起点になる

市民や観光客の交流拠点となる

アーバン ステーション カゴシマ

台北URS（Urban Regeneration Station）の事例





出典　http://oneoutboundticket.wordpress.com/
http://www.urstaipei.net/index_e.php

都市再生前進基地

都市内の未利用空間を地域コミュニティ再生を促す場へ

市内7ヶ所に展開、各々の用途は周辺住民に委ねている

２．社会実験での取組

広馬場通りの位置

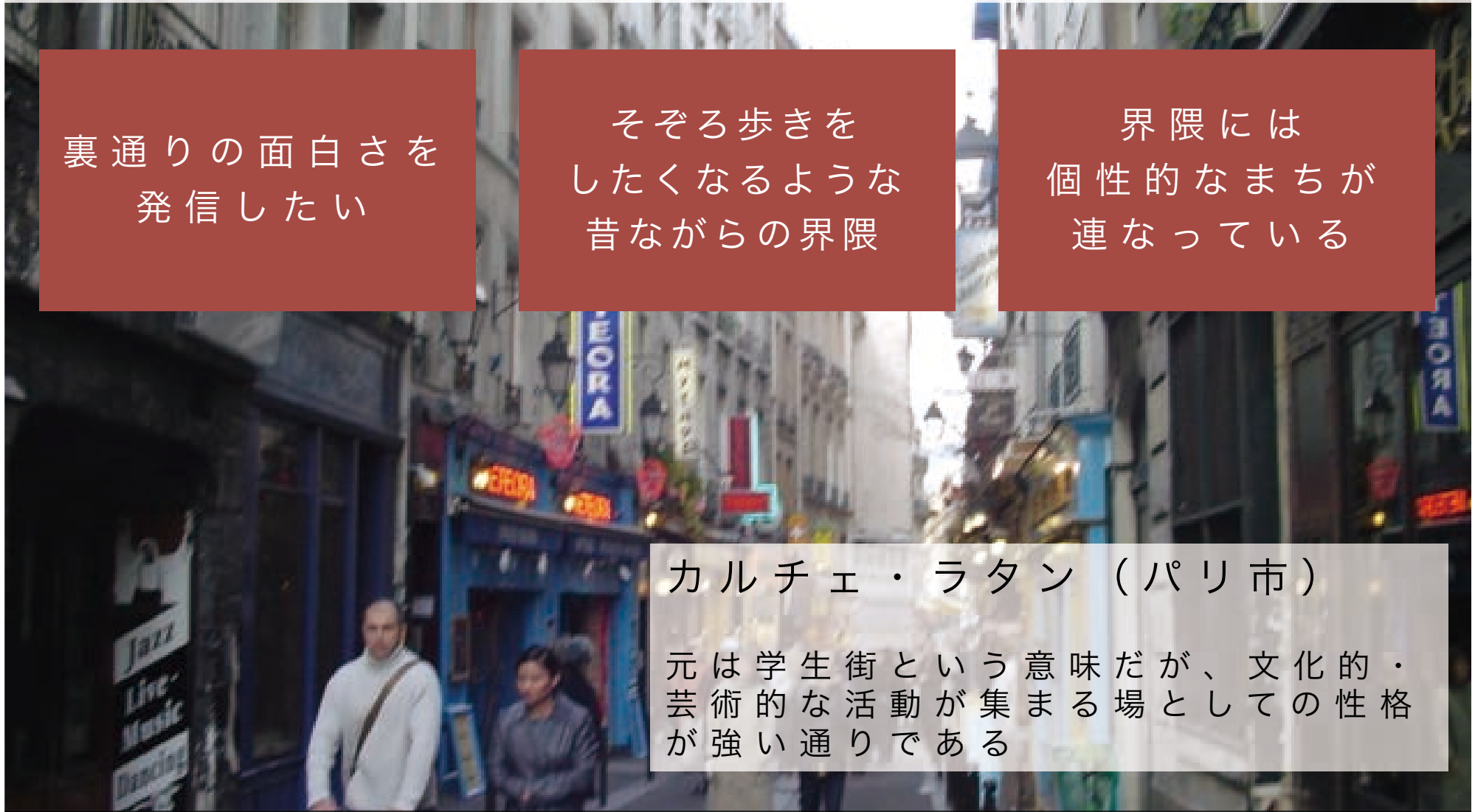
No.10

社会実験の対象とした「広馬場通り」

裏通りの面白さを
発信したい

そぞろ歩きを
したくなるような
昔ながらの界隈

界隈には
個性的なまちが
連なっている



カルチェ・ラタン（パリ市）

元は学生街という意味だが、文化的・芸術的な活動が集まる場としての性格が強い通りである

広馬場通りに、カルチェ・ラタンのような
街並みが生まれる可能性を感じたことが発端になった

広馬場通りの現況

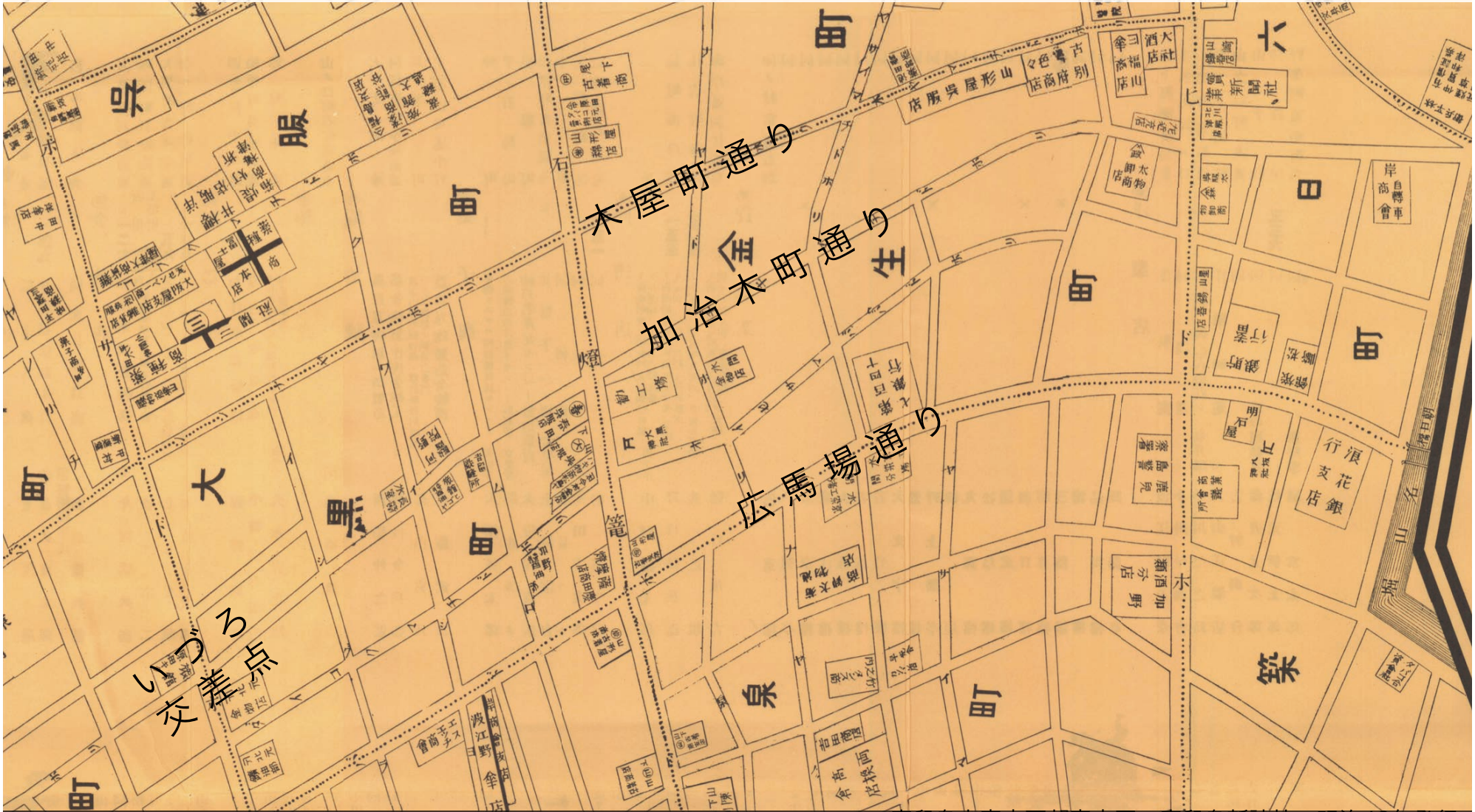
マイアミ通り付近から朝日通り方面を望む

広馬場通りの現況

名山町からみなと大通り方面を望む

No.13

広馬場通りの特徴



鹿児島市案内要部案内図　鹿児島新誌社　明治40年発行

明治時代は金融機関や老舗店が多く集まる、
鹿児島市のメインストリートとして賑わっていた

広馬場通りの特徴

現存する近代建築

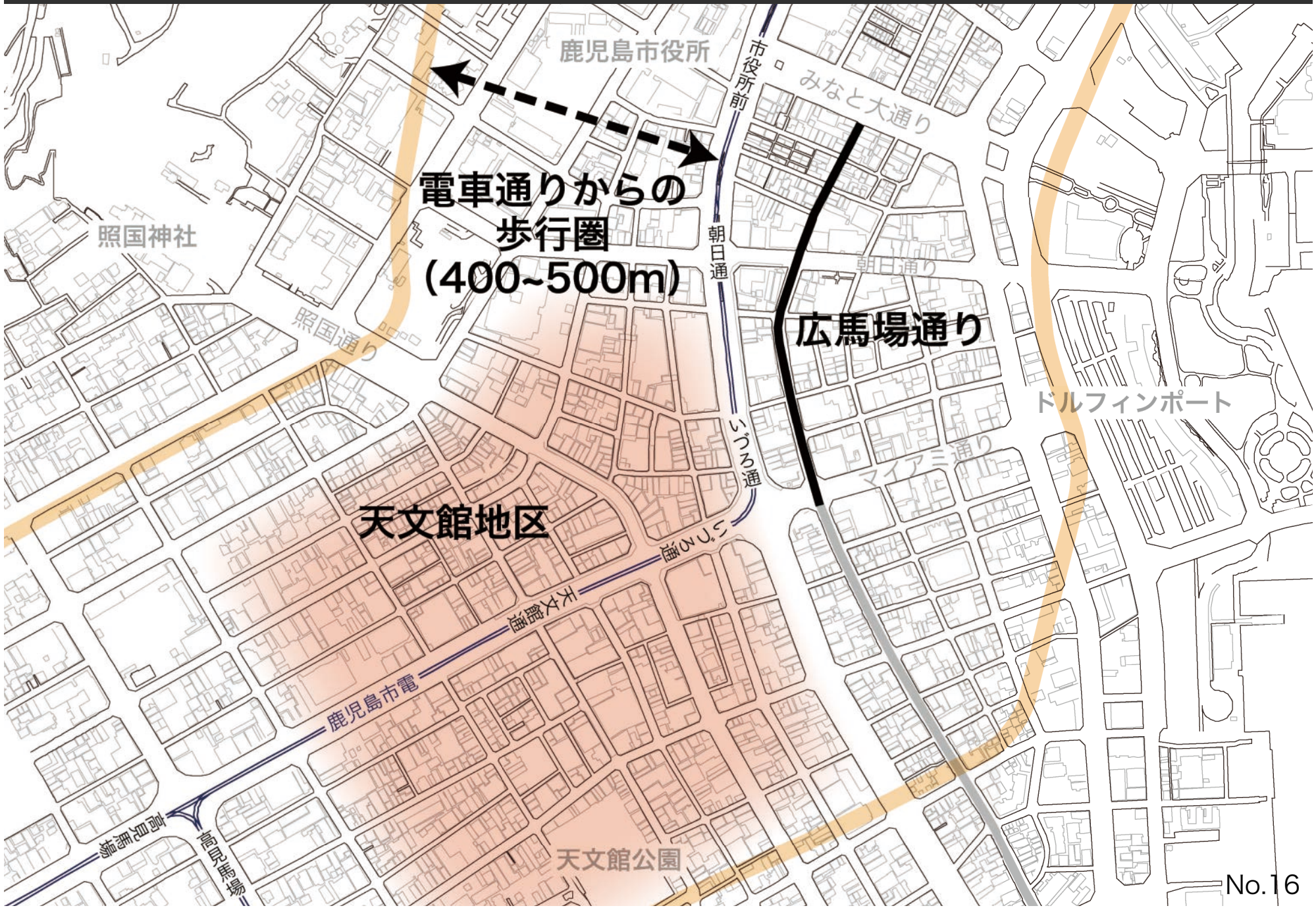
名山町の街並み

みなと大通り公園

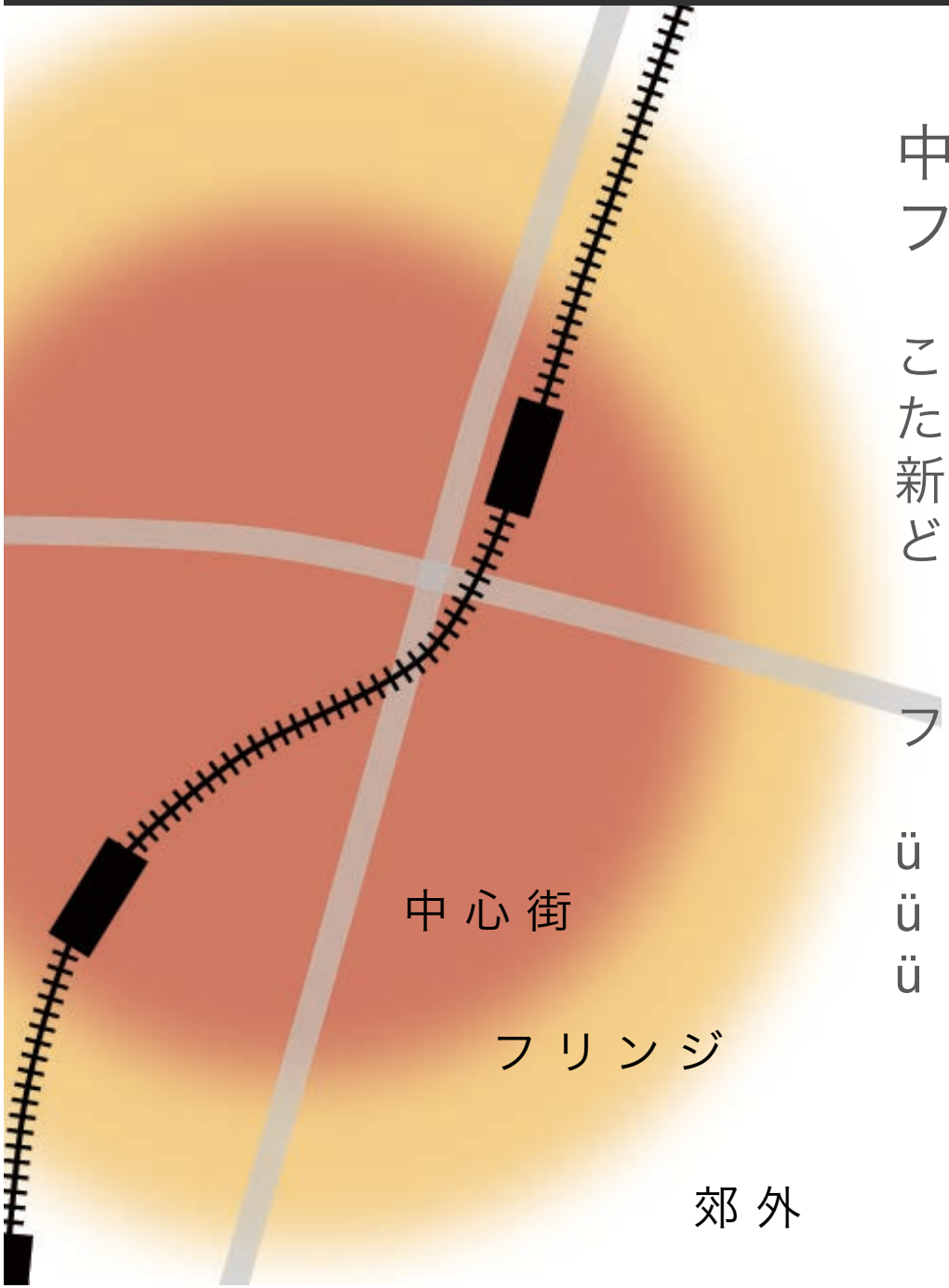
Google Earthより

名山町、みなと大通りをはじめとした界隈からは
歴史の重層性を感じ取ることができる

広馬場通りの特性：中心部のフリンジにある



広馬場通り界隈のもう一つの特性



中心街の天文館に対するフリンジ（周縁部）

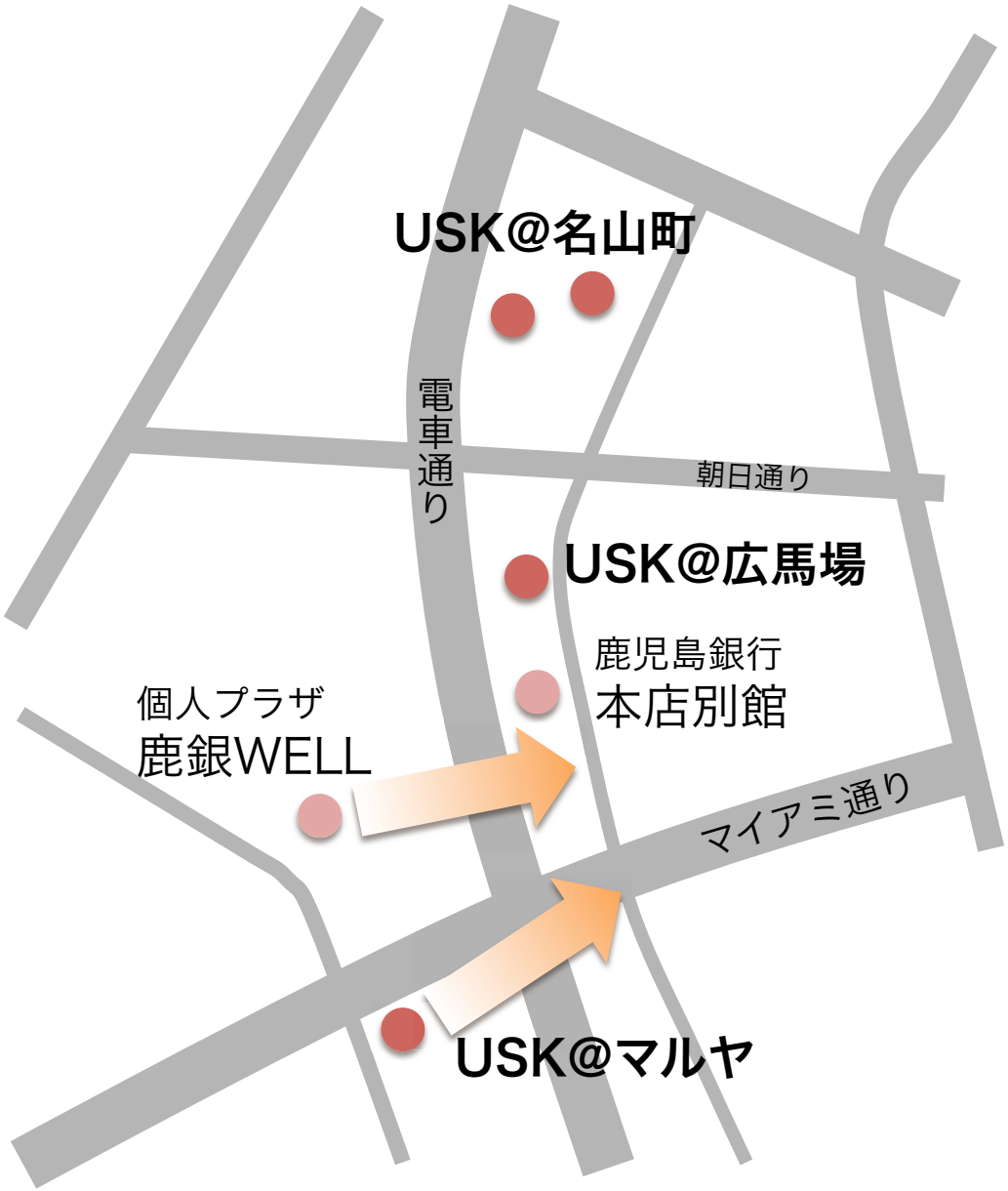
これまで注目されてこなかった地区だが、だからこそ、新たな取組の受け皿になるなどの発展の余地が残されている

フリンジの持つ特長

- ü 空間に余裕がある
- ü 地価が低く賃料が安い
- ü 交通利便性が高い

など

USKの狙い



往時のメインストリートである
広馬場通りの界隈を
「通り」として顕在化する

＋

天文館地区からフリンジへ
動線を引き込む

各会場の概要

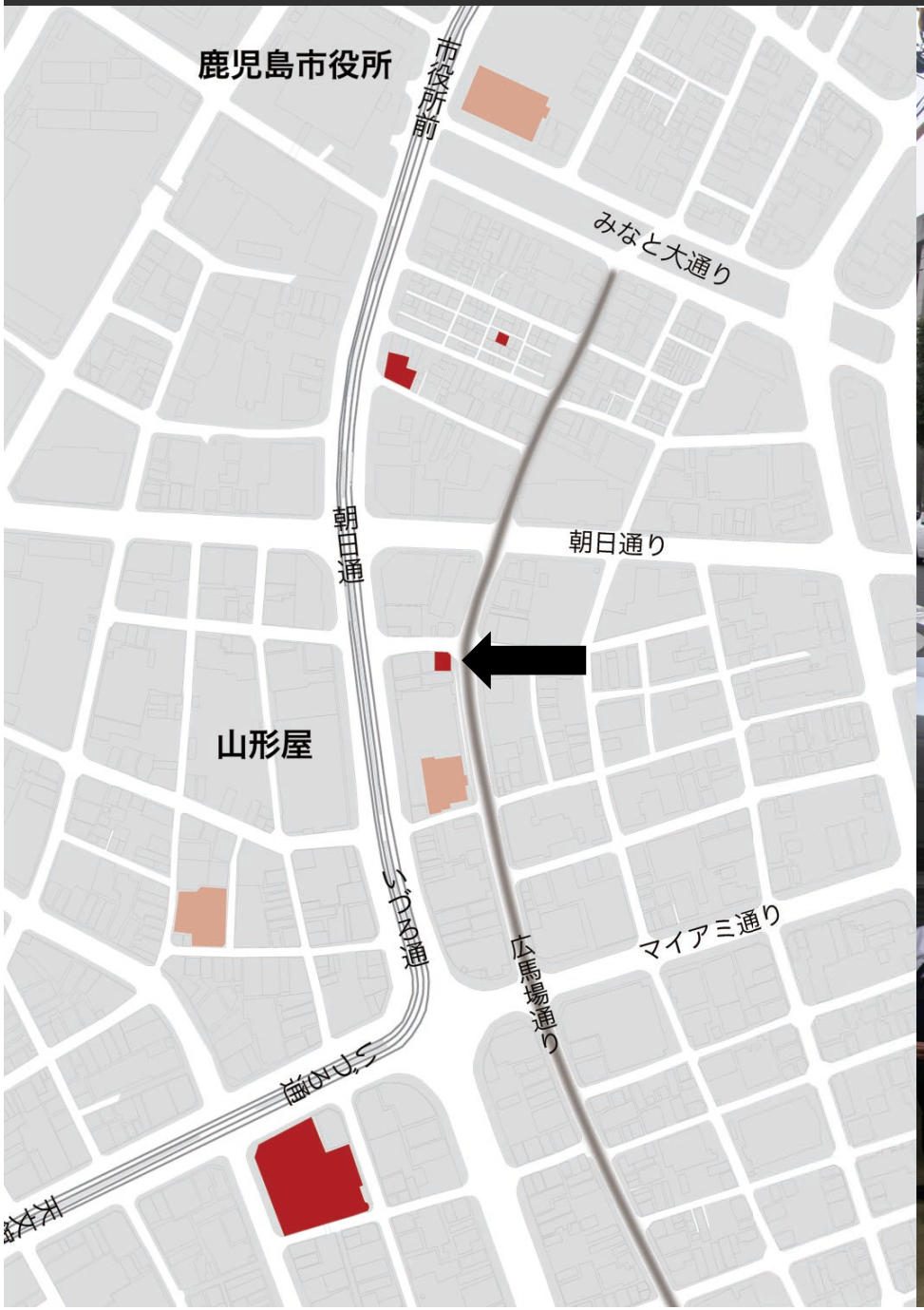
区分	USK				連携拠点	
名称	**USK@マルヤ**	**USK@広馬場**	**USK@名山町**		**鹿児島銀行本店別館**	**個人プラザかぎんWELL**
会場	マルヤガーデンズ4F	井上ビル1F	三街区ギャラリー	レトロフト千歳ビル2F	鹿児島銀行本店別館2F旧頭取室	中町中央ビル1F
普段の用途	レンタルスペース	空き店舗	ギャラリー	ギャラリー	企業の会議室	企業の情報発信空間
位置づけ	情報発信	回遊拠点	回遊拠点	回遊拠点	文化財の公開	情報発信
会場テーマ	まちに出よう、まちを知ろう	カゴシマの導火線	名山町を味わう		広馬場通りはかつてのウォール街	アーバンデザインセンターの紹介

＋

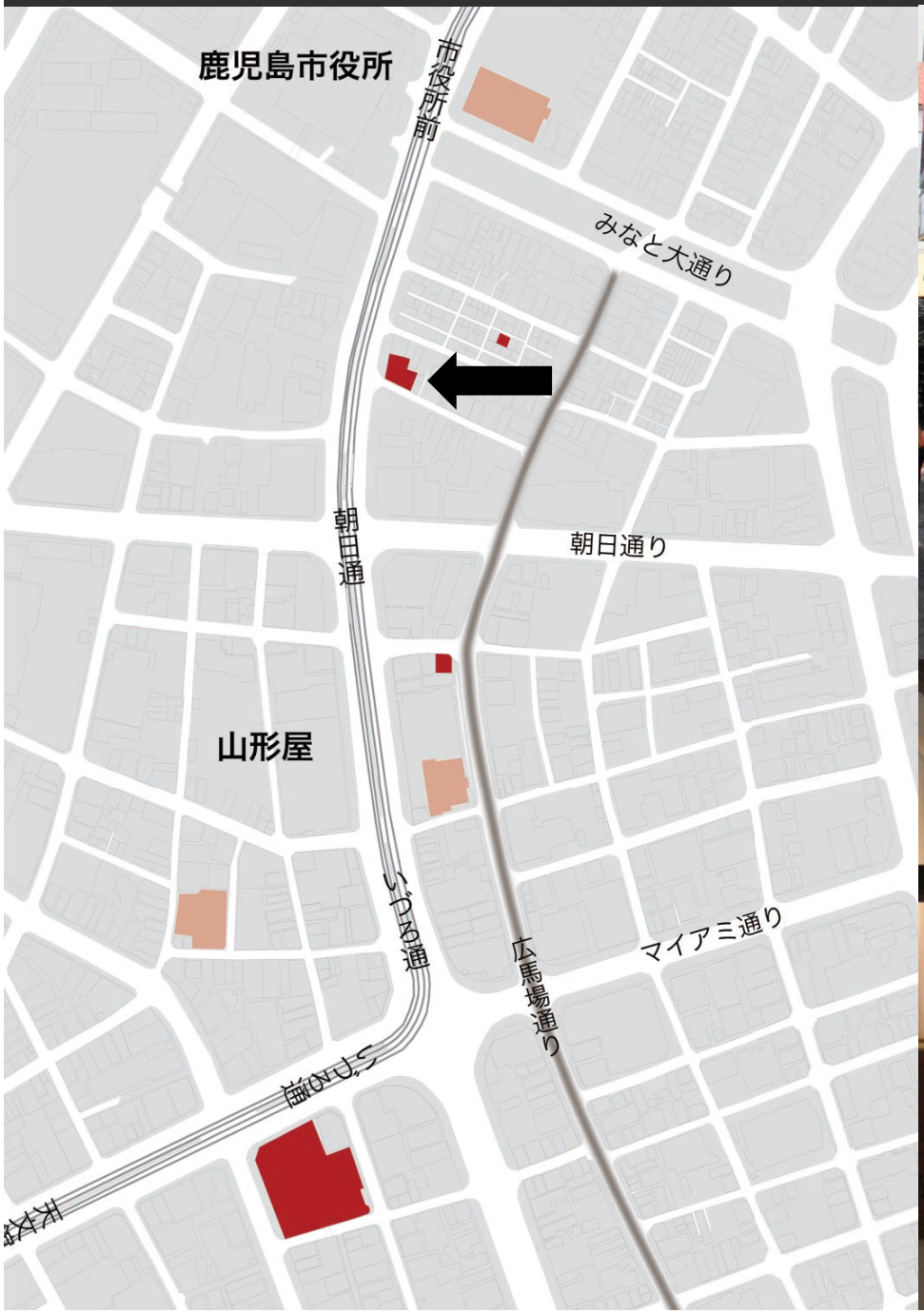
トークイベント＆まち歩きイベント開催

11/5（土）16:00～18:00　鹿児島市役所みなと大通り別館1F

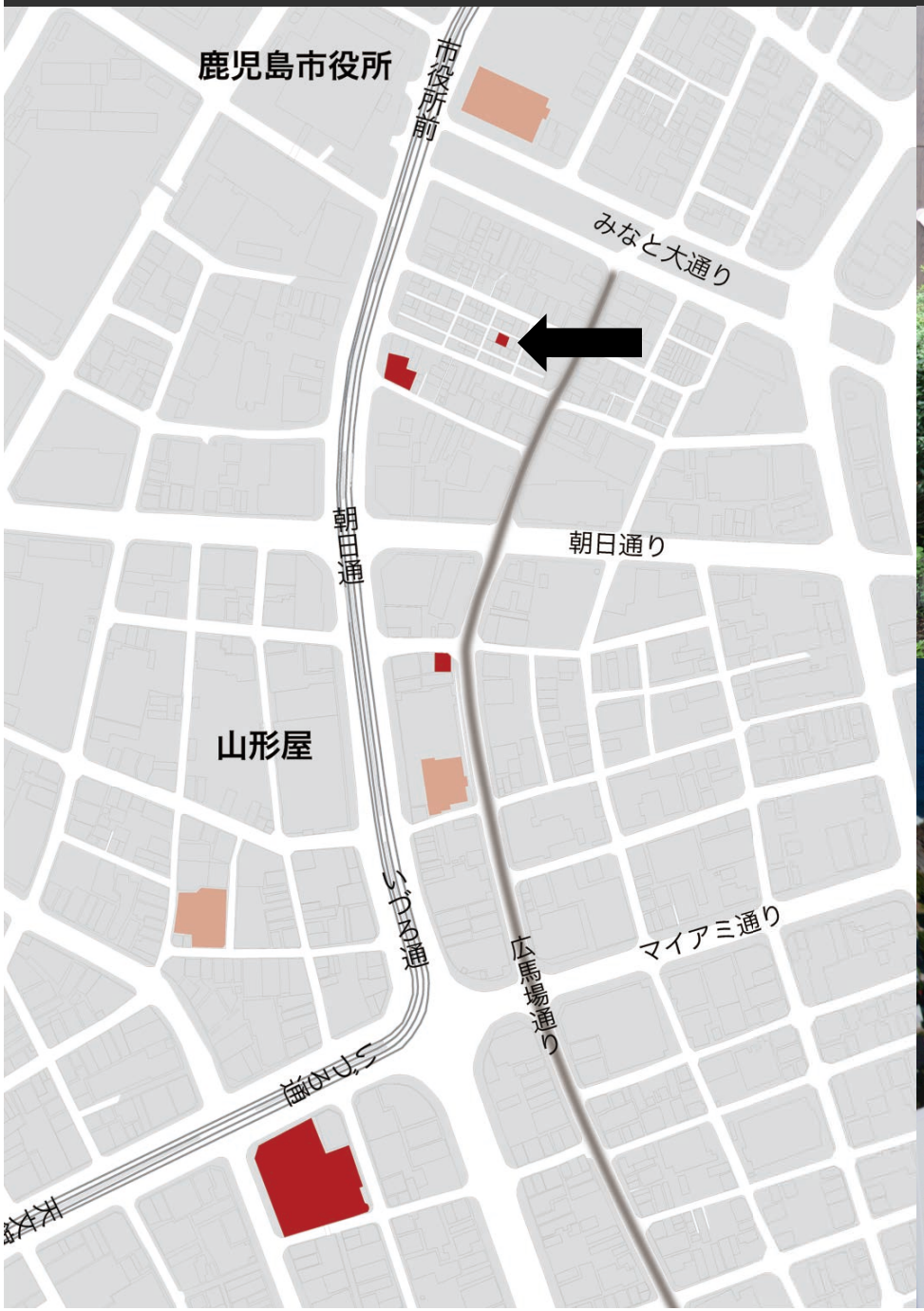
ＵＳＫ＠広馬場会場：井上ビル１Ｆ



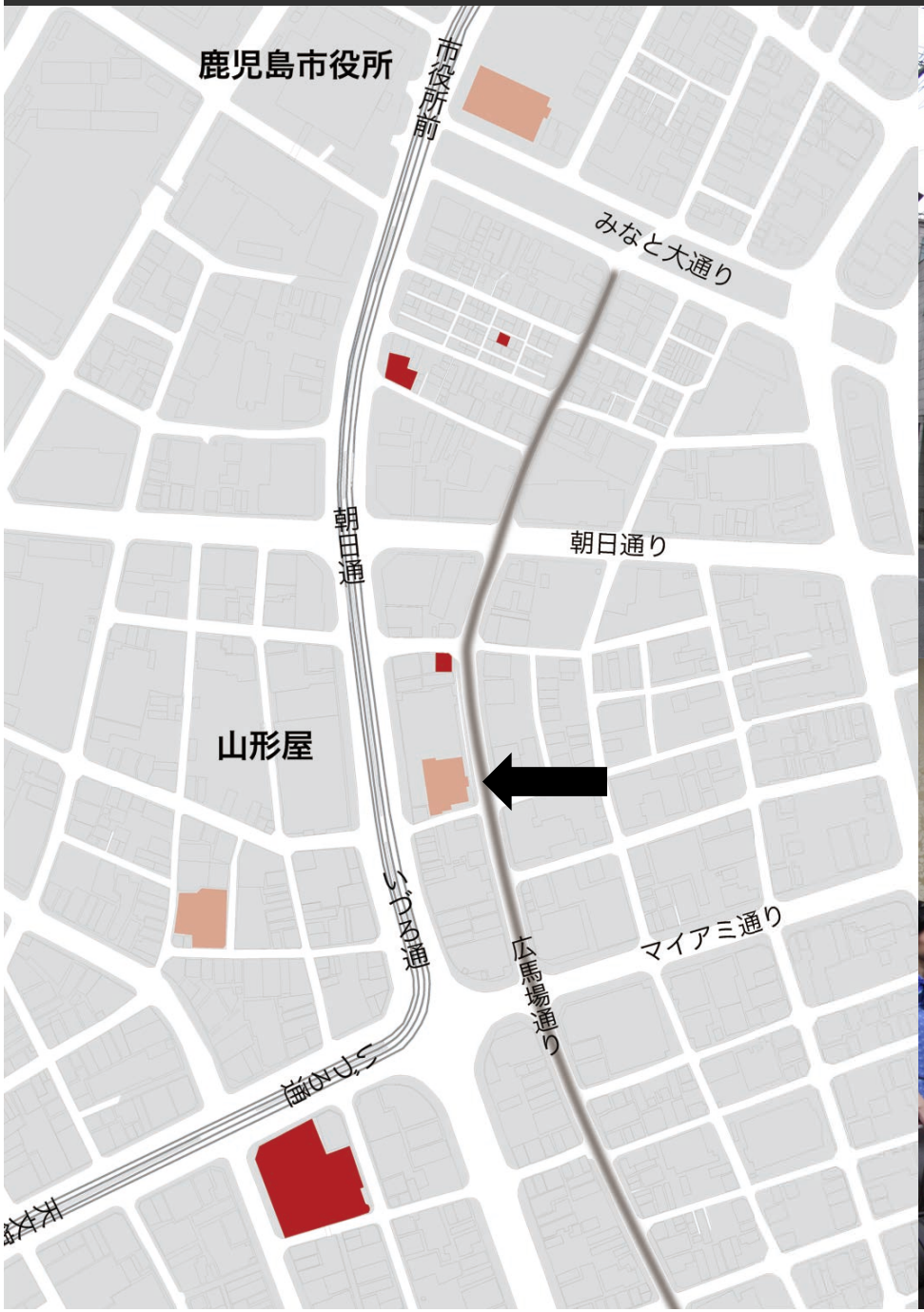
USK@名山町会場：レトロフト千歳ビル2F



USK名山町会場：三街区ギャラリー



連携拠点：鹿児島銀行本店別館



USK＠マルヤ会場：マルヤガーデンズ4F

鹿児島市　東京大学　鹿児島国際大学

（連携・協力）

団体名	連携・協力内容
㈱鹿児島銀行	本店別館、個人プラザかぎんWELLを展示場所として提供
鹿児島大学建築学科	企画の作成、調整、運営、トークイベントでの協力
かごしま探検の会	USK@名山町の企画、トークイベントでの協力
マルヤガーデンズ	イベントスペースの提供
㈳鹿児島県建築士会	まち歩きパンフレットの提供
いづろ商店街振興組合	商店街でのポスター掲示での協力
金生通り商店街振興組合	商店街でのポスター掲示での協力、資料の提供
名山町通り会	USK@名山町の企画での協力
WeLove天文館協議会	天文館内でのポスター掲示、リーフレット配布での協力
鹿児島ブランドショップ	サイン設置での協力

準備スケジュール

4月	USK社会実験の企画 企画意図・メンバーの確定	企画
6月4日~6月8日	第一回現地調査 鹿児島市の視察と会場の検討	
8月18日~8月22日	第二回現地調査／ワークショップ 鹿児島大学とのWS、資料収集	準備
9月30日~10月3日	第三回現地調査／ワークショップ 連携各所での打ち合わせなど	
10月	展示物の作成 東京大学および鹿児島大学にて作業	
10月30日~31日	社会実験準備 各会場の設営作業	運営
11月1日~11月6日	**社会実験開催**	
11月7日	社会実験終了 各会場の撤収作業	

鹿児島大学とのワークショップ

8月　鹿児島大学にて

会場設営の様子

USK＠広馬場にて

広報活動（Web）

ホームページ

URL：http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/project/Kagoshima/HOME.html

Twitter

アカウント：@USK_KAGO)

広報活動（製作物）

ポスター（34ヶ所）

商店街アーケードなど

リーフレット（5000部）

天文館地区各所

ステッカー（29ヶ所）

観光案内板に貼付け

サインスタンド（4ヶ所）

電車通りと広馬場通りに設置

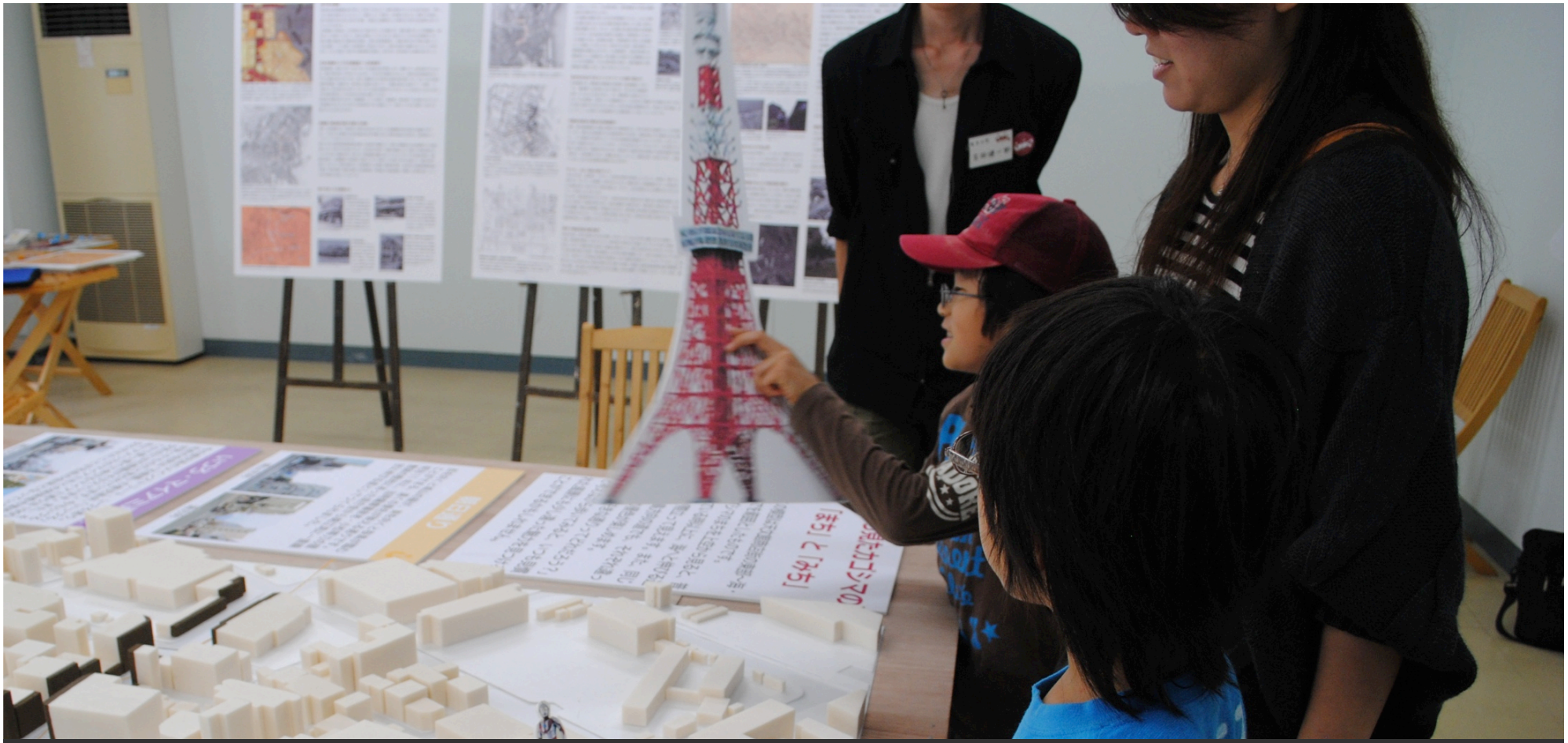
USK@マルヤでの取組

テーマ　まちに出よう、まちを知ろう

戦　略　マルヤガーデンズの集客力を活かしながら、
3カ所の「ガーデン」にて広馬場通りや名山町、
USKの取組みなどを紹介する

名山町連続立面パネル

ガラスマップ



USK@広馬場での取組

テーマ　カゴシマの導火線

戦　略　空き店舗を活用し、広馬場通りや周辺街路などの「通り」を顕在化する

空から見たカゴシマの「まち」と「みち」

アーバンステーション カゴシマ @広馬場

にぎやかな広馬場通

：武家屋敷町と名山堀を

薩藩御城下絵図 安政 7 年または万延元年（1860 年）

城下町の
鹿児島は
突川の川
城下町発
だすこと

広馬場通
通り（現
通りです
も併設し
たことか
を受けま

生活の動
明治維新
かは、焼
はただち
金生町、
考えられ
中心地と

USK@名山町での取組

テーマ　名山町を味わう

戦　略　既存のギャラリーで名山町の魅力を紹介し、
名山町自体の空間を体験できる展示を行う

各店舗の逸品紹介（レトロフト千歳ビル2F）

名山堀の系譜（三街区ギャラリー）

名山堀の系譜

―街としての発展―

1910~1915頃　市電の開通と堀の埋め立て

明治初期にようやく大規模工事は終了しましたが、1900年頃になると早くも堀の埋め立てが始まります。その契機となったのは市電の開通でした。大正元年に谷山線が開通したのち、当時の市の中心だった鹿児島駅周辺とを結ぶ新たな市内線を計画しました。そこで堀の一部を埋め立てる必要が生じたわけです。

1909年には現在の市電通り側の埋め立てが完了し、1919年までに北側の部分も併せて計10000㎡が埋め立てられました。市電は1914には開通しましたが、現在の「市役所前」の電停は当時「名山堀」という名前の電停でした。

大正2年の名山町周辺（鹿児島市　鹿児島のおいたちよ

1920~1940頃　昭和初期の堀の役割

昭和初期頃、現在のみなと大通りの辺りでは石造りの倉庫群が立ち並び、貨物の荷揚げや荷おろしのための小さな船も数多く停泊していました。またカキ舟と呼ばれる、広島からカキを運ぶ舟がは港の沖合に停泊し、団平船に積み荷を移し替えて堀まで来ていました。このカキ舟は当時非常に大きな人気を博したといいます。

この頃の堀の水は悪臭が立つほどよどんでおり、水面に「名山」を映した江戸時代のそれとは程遠いものでした。しかし夜には提灯で飾られその光がゆるやかな波でゆらゆら揺れる、詩情を誘う趣きある場所として多くの人を集めました。

昭和10年頃の名山堀（石山信夫氏　提供）

1935~1937頃　公設市場が名山町へ

最後まで残っていた堀の南側の部分は、1935年頃にようやく埋め立てが始まります。まず現在の名山町三・四街区にあたる部分が埋め立てられます。

路地パネル

飛び梁で支えあう
この路地から空を見上げると、電線とともにほぼ
一定の間隔で渡されている棒の存在に気づきます。
実はこれ、「飛び梁」といって建物の耐震性を
高める役割を果たしているそうです。
金属の板がかぶせられているのは、木でできてい
るために雨で腐らないようにするための工夫です。
狭い路地をはさんで建物を支えあうこの光景は、
この町で暮らす人々の支えあいの姿を象徴してい
るかのようです。
▲ 実は「ただの棒」ではなかった
アーバンステーションカゴシマでは
名山町の歴史と今を知るのみならず
昔の書籍や新聞などを手に取って
昭和の気分を味わうことができます。
ぜひ足を運んでみてください。
★：現在地
●：アーバンステーションカゴシマ
製作：　東京大学　鹿児島大学

まち歩きマップの作成・配布

広馬場通り界隈の建築物の魅力を集約
魅力的な建築物が有効利用される契機となるよう期待

地域資源の活用

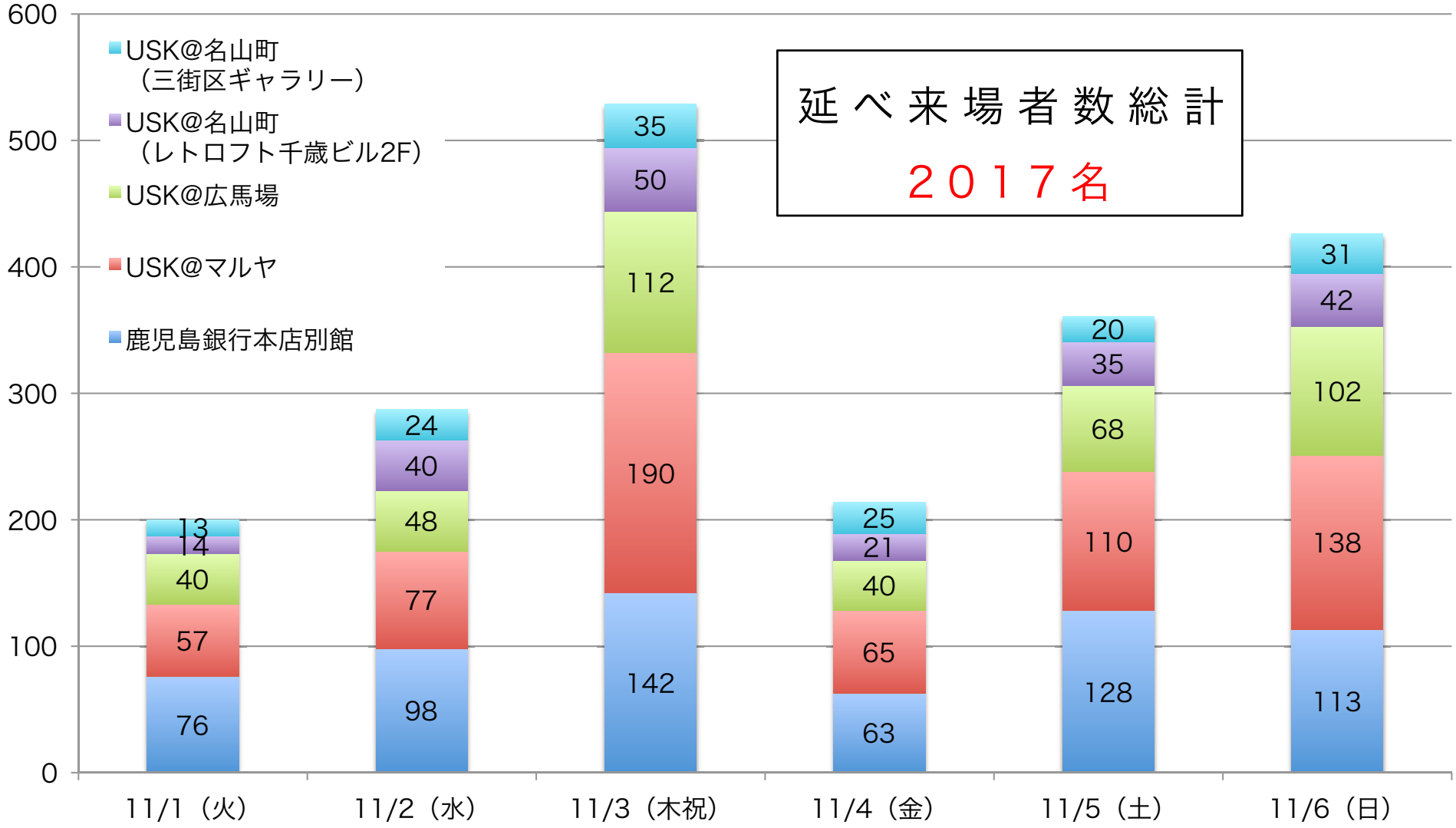
国登録有形文化財　鹿児島銀行本店別館
個人プラザかぎんWELL

鹿児島銀行本店別館

・広馬場通りの持つ金融街としての歴史を際立たせる
・国登録有形文化財としての建築的価値を再認識する
・旧頭取室の公開、および広馬場通りに関する歴史を展示する

３．社会実験の効果

各会場の来場者数



おはら祭
夜まつり

おはら祭
本まつり

実施した調査の一覧

調査方法	意図	調査方法
来場者 アンケート	来場者の属性と その傾向を調査	来場者に対し 口頭によるアンケート
ルート調査	来場者の回遊行動の ルートを調査	来場者の回遊行動の軌跡 を地図に記録
モニタリング 調査	USKの有無による 回遊ルートの変化を調査	特定対象者について 開催前と開催中の2回 回遊行動の軌跡を記録
歩行者 交通量調査	USKの有無による 広馬場通りの 断面交通量の変化を測定	県産業会館前の交差点 でビデオ撮影を行い 目視により計測

広馬場通りの回遊性に対する効果

広馬場通りにおける断面交通量の変化
（測定は11:00~16:00）

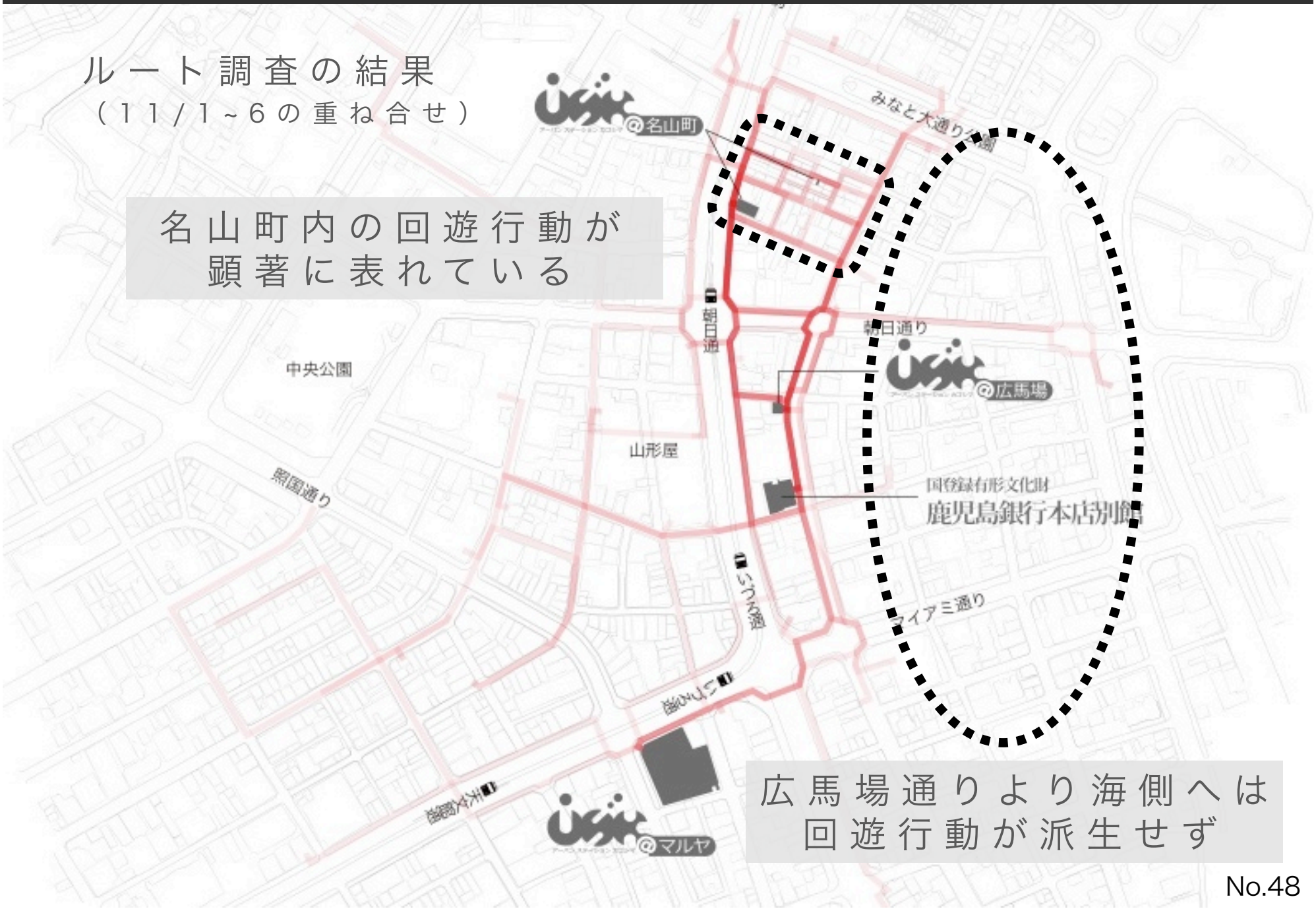
測定	平日	休日
通常時	317（9/29）	193（10/1）
USK開催時	356（11/4）	263（11/5）
増加率	12.3%	36.3%

USK開催によって広馬場通りの交通量は増加している

広馬場通りの回遊性に対する効果

ルート調査の結果
（11/1~6の重ね合せ）

名山町内の回遊行動が
顕著に表れている



広馬場通りより海側へは
回遊行動が派生せず

広馬場通りの回遊性に対する効果

・広馬場通りの交通量増加の大きな要因として、鹿児島銀行本店別館の集客力が挙げられる

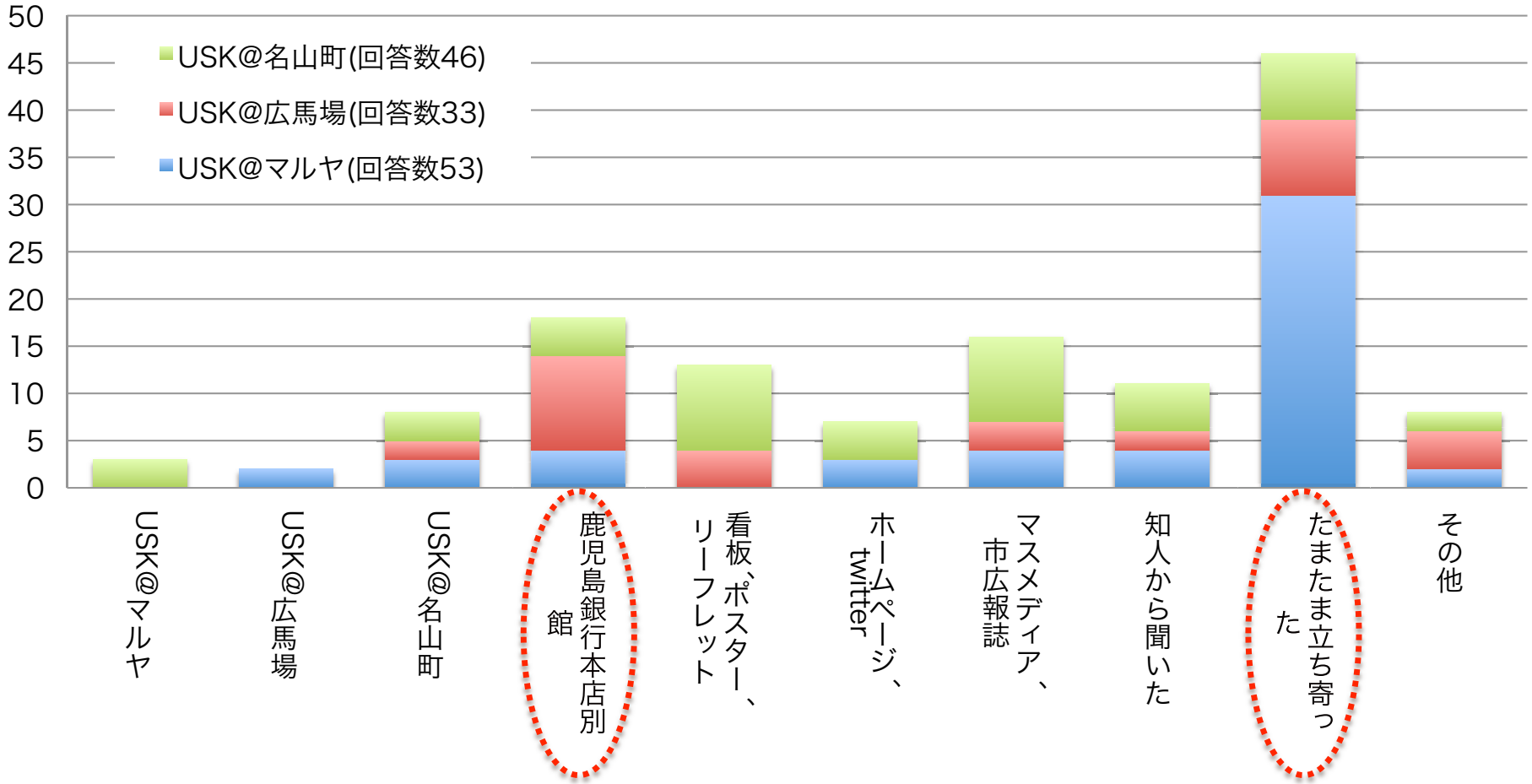
・名山町界隈における回遊行動の表れは、町内に多数配置した路地パネルによる効果と考えられる

・海側への動線を誘導するためには、海側にも企画や展示を配置する必要があった

地域資源の活用（施設）

アンケート調査より

「どこでUSKの存在を知りましたか？」の回答結果



地域資源の活用（施設）

・USK@マルヤでは、「たまたま立ち寄った」来場者が多かった
  - 中心部の集客力のある施設でUSKを告知することの重要性を示している
  - マルヤガーデンズのような**日常生活の延長にある交流空間**の可能性が見出された

・鹿児島銀行本店別館は、USKの企画を知らない方々も数多く来場した
  - 建築遺産を地域資源として顕在化する重要性が確認できた

地域資源の活用（ひと）

まちに魅力を感じた人たちと様々な形で連携できた

語り合う場としての重要性

自分の好きな場所を書き込むガラスマップ

幅広い年代が都市に触れるきっかけとなった模型

展示に共感した市民の方が持参した古地図

市民のまちへの興味の受け皿としても機能した
新たに多くの逸話や史料が来場者から入手できた

４．鹿児島市のまちづくりへの示唆

鹿児島市の「豊かさ」

・社会実験の鍵となった鹿児島市の地域資源

天文館という中心街の存在

・賑わいの象徴としての天文館

まちなかに静かに残っている歴史的魅力のある空間

・石にまつわる空間が数多く存在

まちの歴史に魅力を見いだしていた多くの人々

・すでに活動している多様な主体の受け皿の必要性

活動に理解を示し、気軽な交流を生んだ多くの市民

・日常生活のなかでのまちへの関心の高さ

事例：マルヤガーデンズの取組

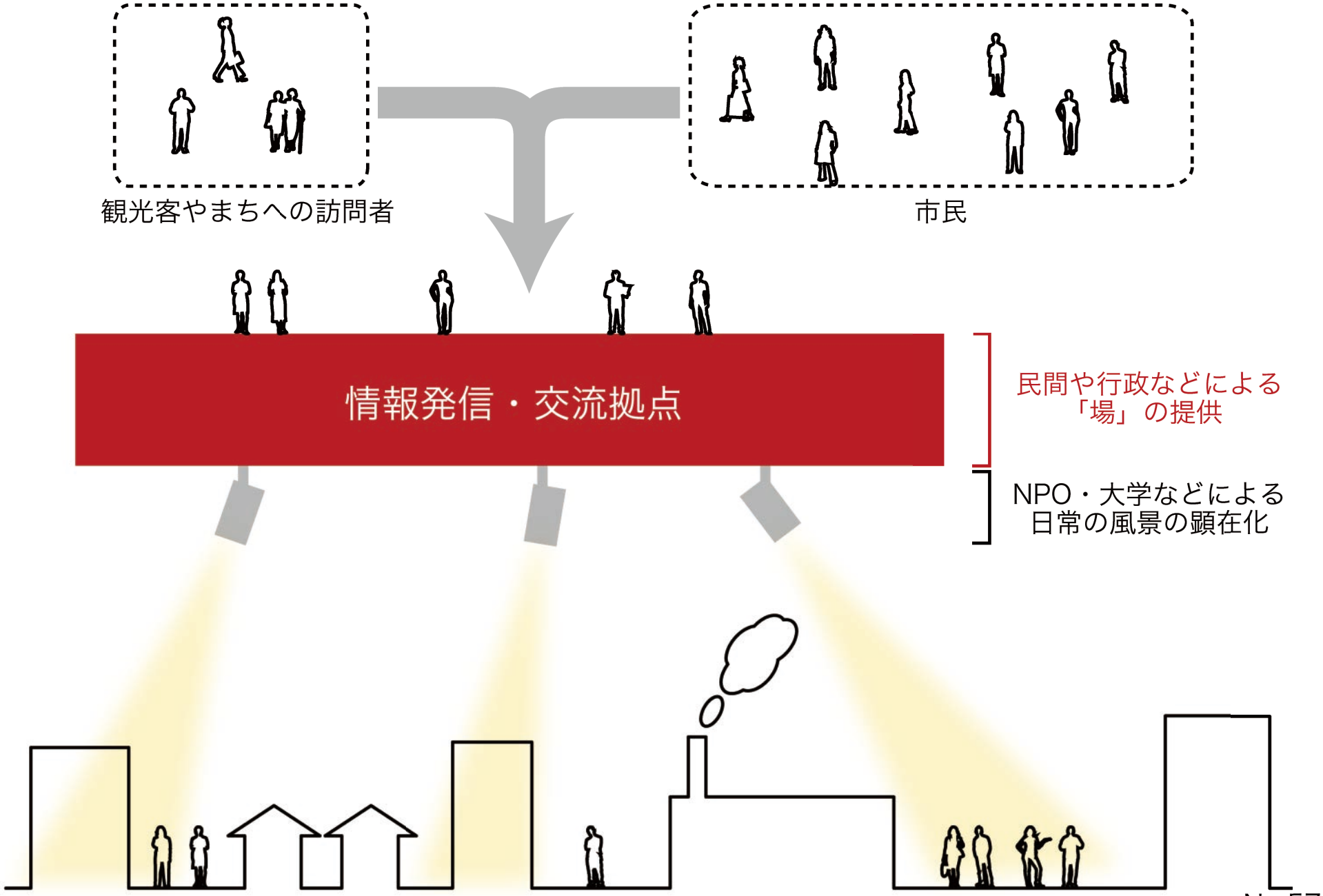
空間としての居心地の良さ

日常生活と結びついた
立地・企画戦略

幅広い市民が入りやい
雰囲気づくり

各フロアに設けられた「ガーデン」は
買い物や食事などの日常生活のすぐそばにある

日常の風景に光を当て、まちを語り合う場をつくる



これからのまちづくりに必要な取組

日常の風景に光を当て、発信する

まちについて語り合う場を提供する

持続的なまちづくりのきっかけをつくる

↓

観光客だけでなく市民にも
実際にまちに出て魅力を体感してもらい、
まちをもっと好きになってもらうことができる

ご清聴ありがとうございました。

佐原プロジェクト

概要

所在地：千葉県香取市

- 東京駅からバスで2時間

中世

香取神宮を中心とする農村集落から商業都市へ

江戸時代

利根川舟運の中継地として繁栄。「北総の小江戸」とも呼ばれる水郷のまちに

近代

歴史的町並みを中心とした観光地

関東初の重伝建地区指定

歴史的まちなみ

■ 歴史的まちなみ

1996年･･･「商家町」として重要伝統的建造物群保存地区に指定

- 国指定史跡　1件　千葉県有形文化財　8件
- 江戸時代（主に土蔵）から明治、大正、昭和まで幅広い年代の建造物が混在
- 1892年に大火が起こったため、現存する建物の大半はそれ以後に建築
- 商店、レストラン、カフェなどとして活用

祭事・イベント

■ 祭事

佐原の大祭 （国指定重要無形民俗文化財）

- 7月　八坂神社の祇園祭り（山車10台）10月　諏訪神社の秋祭り（山車14台）
- 歴史上の人物の人形や大きな飾り物を飾り付けた山車が曳き回される

■ イベント

- 5月　水郷佐原あやめ祭り（水郷佐原水生植物園）
- 8月　地元おかみさん会主催　盆ふぇすた
- 11月　佐原の町並み建物特別公開（年に1度、重伝建地区・景観形成地区の建物内部を一般に公開するもの）

佐原PJのコンセプト

■ 佐原PJのコンセプト「回遊性の向上」

- 急速な観光地化
- 重伝建地区への観光客の集中
- 佐原駅前など重伝建地区周辺のにぎわいが失われつつある

まちの回遊性の向上

まち全体で来訪者を受け入れることで、観光客の一極集中を緩和し市街地を活性化させる

2010年度

ACTION 1

サイン実験

既存の回遊空間の末端と思われる場所にサインを設置

→重伝建地区からその先へ人を導く

ACTION 2

灯りあそび

あんどんを設置して散策ルート「灯りの小路」をつくる

ACTION 3

空間事典

建物ひとつひとつの特徴を解説したパネルを設置

→まちを歩く楽しみ方を知ってもらう

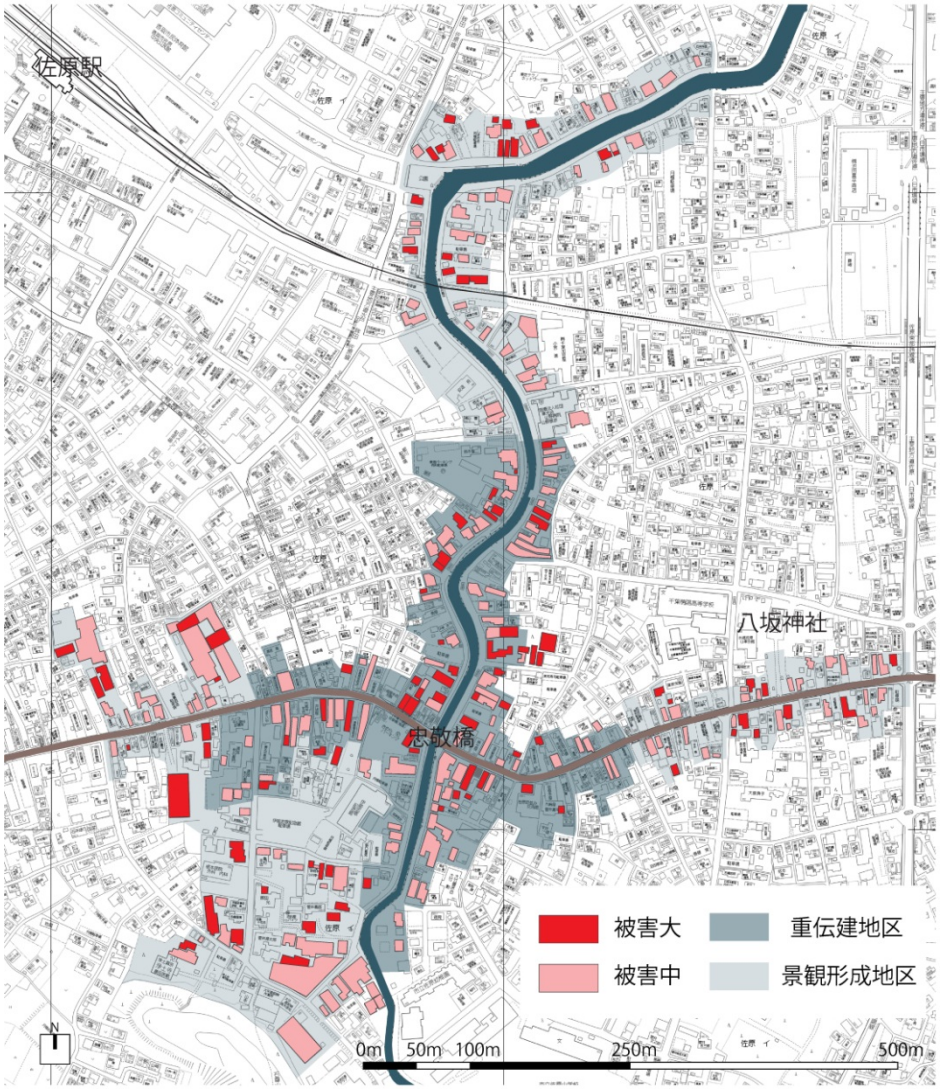
2011年度の活動

2011年度の活動

東日本大震災の発生

- 重要伝統的建造物保存地区・周辺地域を対象の被害と商業・観光への影響について調査
- 地域住民へのヒアリングやアンケート調査
- 震災発生時の状況や物的被害の実態
- 歴史資料などの文献調査

■ 調査その1 重伝建地区



小野川護岸の崩壊

瓦の崩落

建物のゆがみ

土蔵の損傷

■ 調査その2 液状化現象

現水郷町地区（香取市役所周辺）

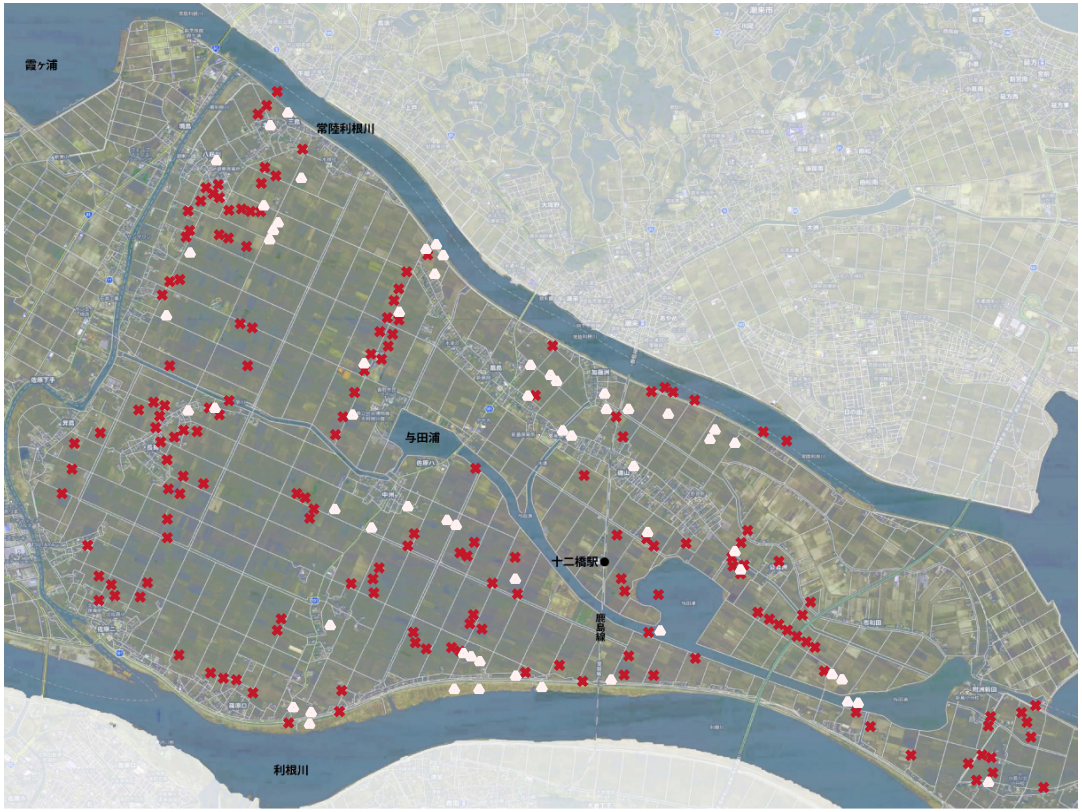
1900年代初頭･･･元々沼地だった場所を埋め立て、利根川の川砂を用いて市街地として整備

2011年･･･川砂の軟弱地盤の影響により、道路面や住宅などへの甚大な液状化被害

■ 調査その2 液状化現象

新島地区

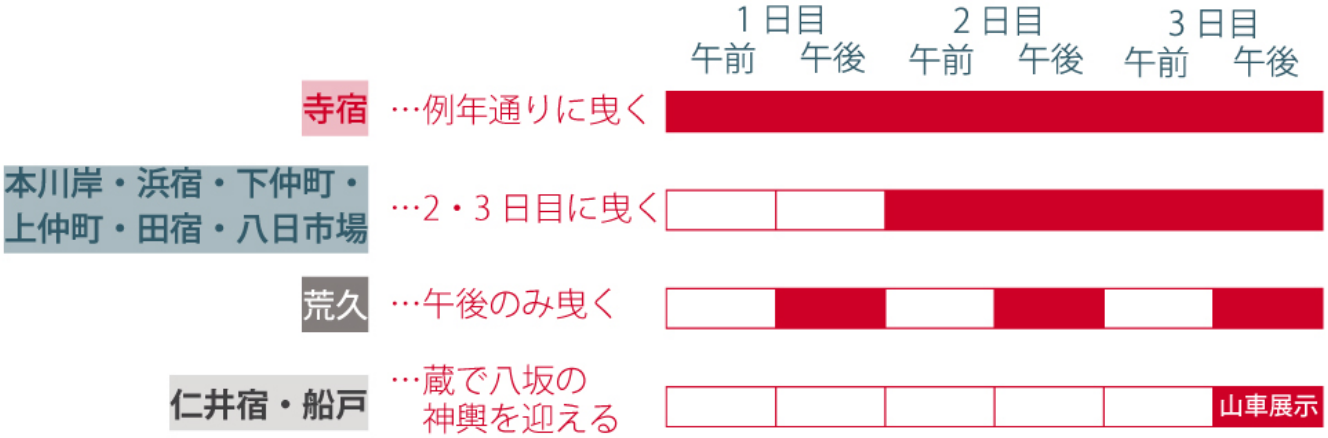
- 水道管の破裂、農地の液状化などの被害が見られた
- 香取市全体の2011年度作付不能面積は約2,500ha
- 作物に対する風評被害

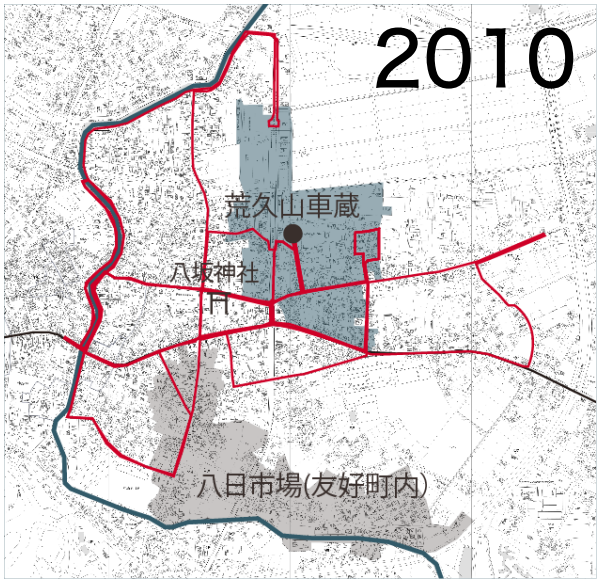


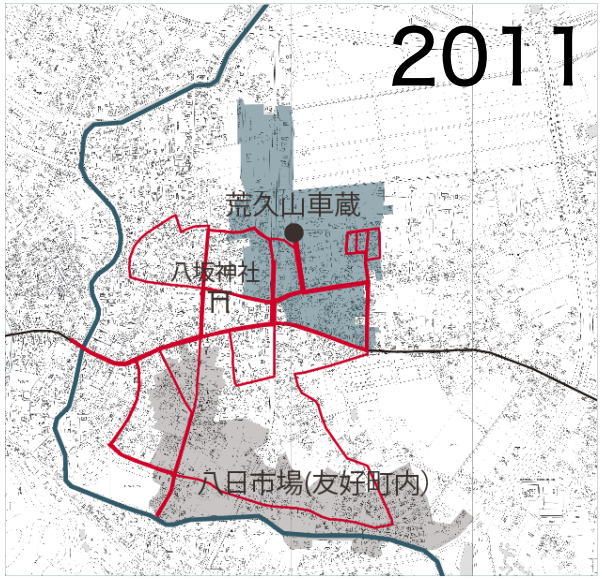
農地の液状化実態の目視調査
（6月22日実施）

✕・・・液状化した水田
▲・・・一部液状化した水田

調査その3 佐原の大祭への影響







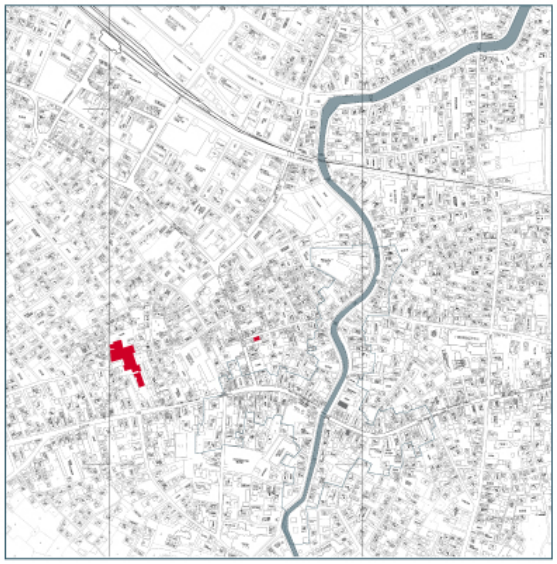
ルートの変更

- 安全が確保出来ない川沿いは通らない
- 自分の町内を多く通る
- 移動範囲が狭くなった分より多くの道を通る

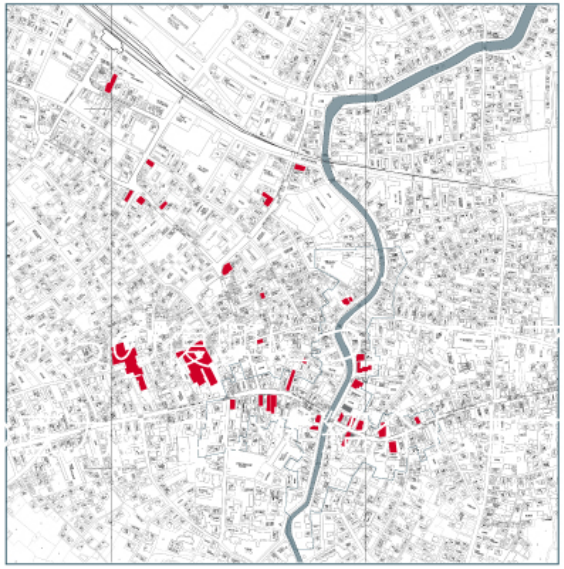
■ 調査その4 商店・観光業への影響

商店へのアンケート調査

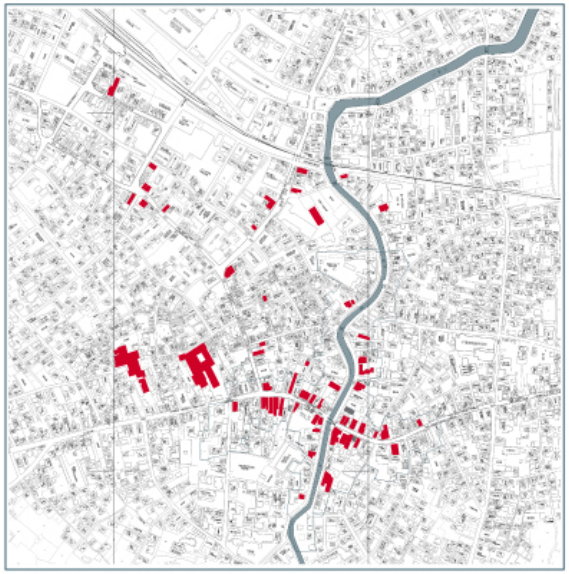
実施日　：2011年7月2日・3日
調査方法：アンケートの配布
調査対象：佐原重伝建地区および周辺地区の商店主
調査数　：61件
項目　　：①観光との関係性②震災の影響③今後の復旧・復興への方針と意識④自由記述



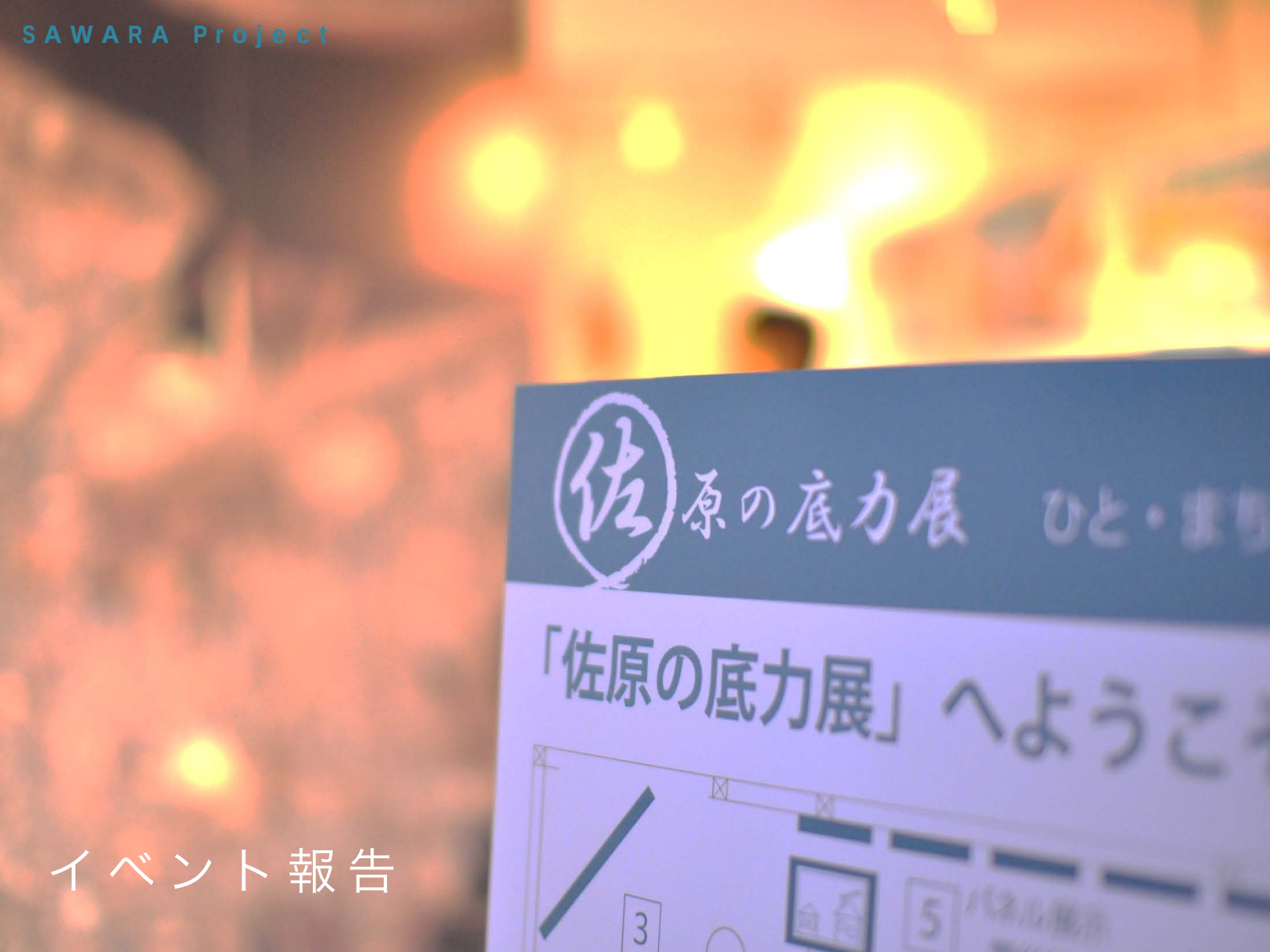
地震当日（3.11）



3日後



3ヵ月後

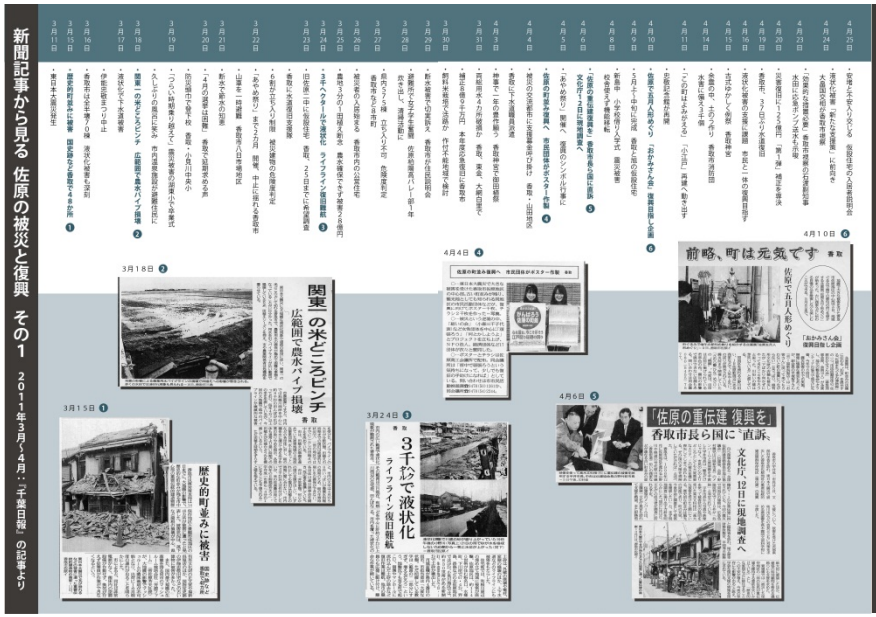


イベント報告

■ 盆ふぇすた「佐原の底力展」

開催日：2011年8月

- 空き店舗を展示空間として利用
- 調査パネル・新聞記事のまとめ・模型・大型航空写真などを展示



新聞記事から見る 佐原の被災と復興 その1 2011年3月～4月：『千葉日報』の記事より

3月11日 東日本大震災発生

3月15日 1 歴史的町並みに被害 郷土史家

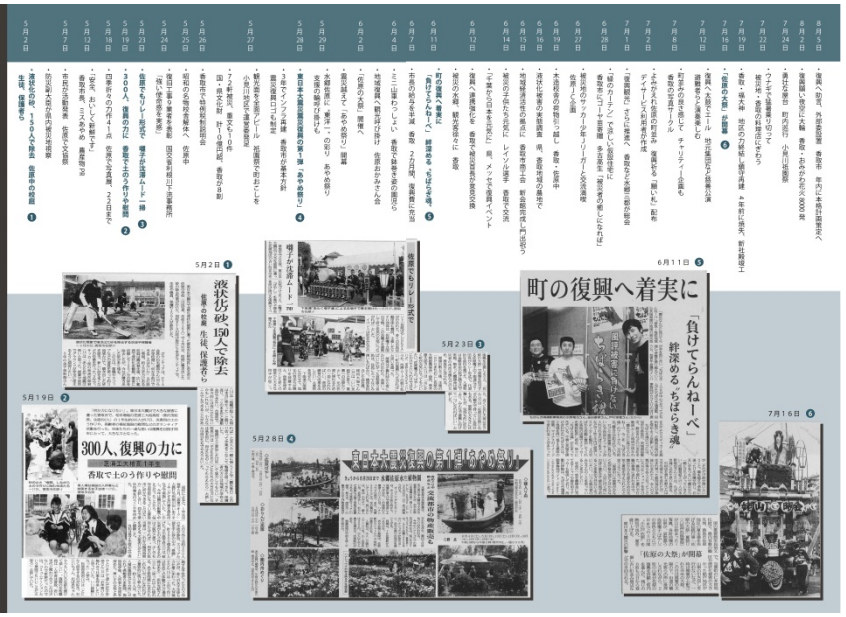
3月18日 2 関東一の米どころピンチ 広範囲で農水パイプ損壊

3月24日 3 3千㌧で液状化 ライフライン復旧難航

4月4日 4 佐原の町並み復興へ 市民団体がポスター作製

4月6日 5 「佐原の重伝建 復興を」 香取市長ら国に「直訴」 文化庁、12日に現地調査へ

4月10日 6 前略、町は元気です 佐原 佐原で五月人形めぐり



新聞記事から見る 佐原の被災と復興 その2 2011年5月～8月：『千葉日報』の記事より

5月2日 1 液状化砂 150人で除去

5月19日 2 300人、復興の力に

5月23日 3 町の復興へ着実に 「負けてらんねーべ」 絆深める「ちばらき魂」

5月28日 4

6月11日 5

7月16日 6

■ 建物公開「佐原の原動力展」

開催日：2011年12月

- 景観形成地区内の空き店舗を利用
- 8月以降の追加調査の結果を踏まえた展示

■ 2012年度の活動予定

- 歴史まちづくり法（歴史的風致維持向上計画）認定を見据えた歴史資源・空間資源の調査
- 商店街の変遷・形成史
- 井戸など新たな資源の発見
- 回遊性向上の可能性

メンバー：

窪田先生、鈴木（D2）、安東、松本（M2）

初回MTG：4月24日14:30-

初回現地訪問（仮）：5月9日

高山プロジェクト2011

野原　卓　（横浜国立大学准教授）

安東　政晃　（東京大学大学院工学系研究科修士課程1年）
的場　弾　（同上）
八賀　俊一郎（同上）
鶴和　誠子　（横浜国立大学大学院都市イノベーション学府博士課程前期1年）

活動舞台：　岐阜県高山市上宝町

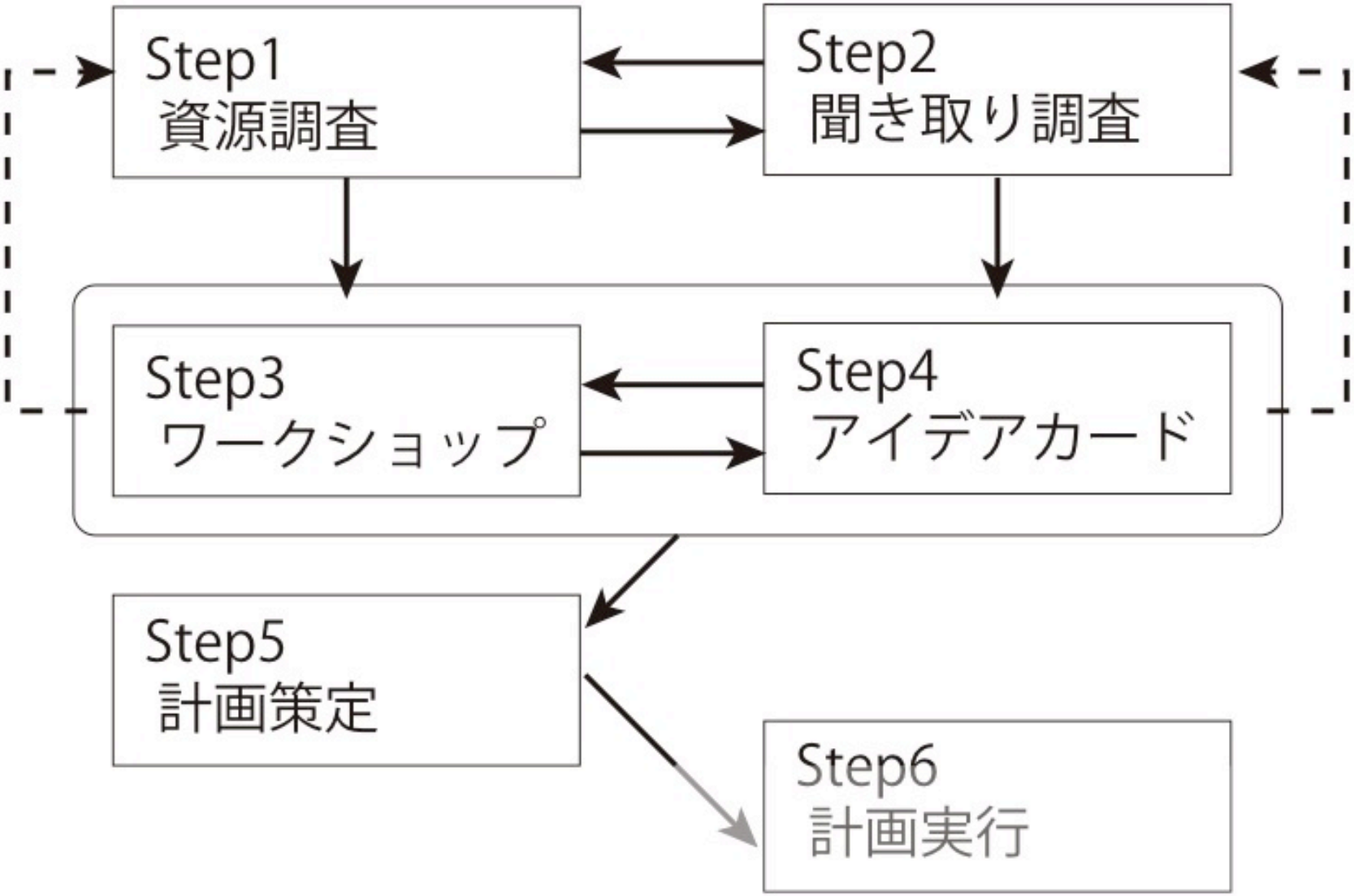
長倉集落

景色：　きれい

特徴：　農山村集落

集落内標高差…120M

2011 年度　活動の流れ



長倉での活動１

集落歩き

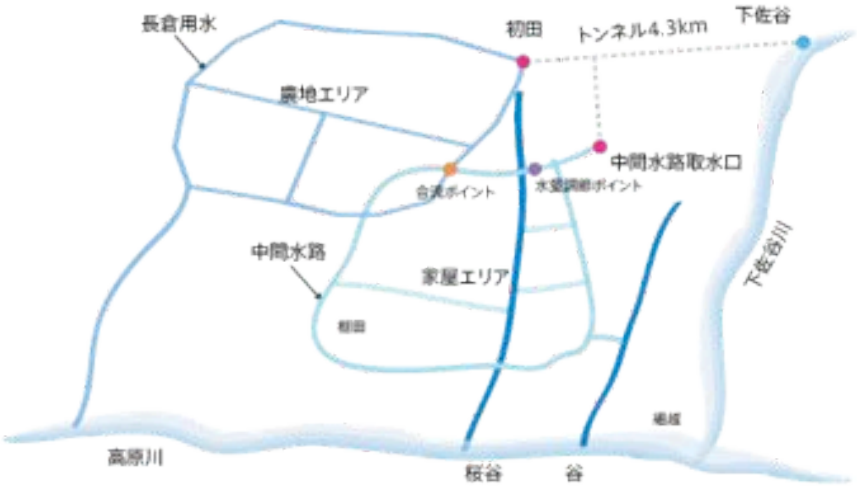
ヒアリング

2-1水

集落をめぐる用水路　―長倉用水と杖石用水―

もともと水不足地域であった長倉用水の建設が開田を可能にした

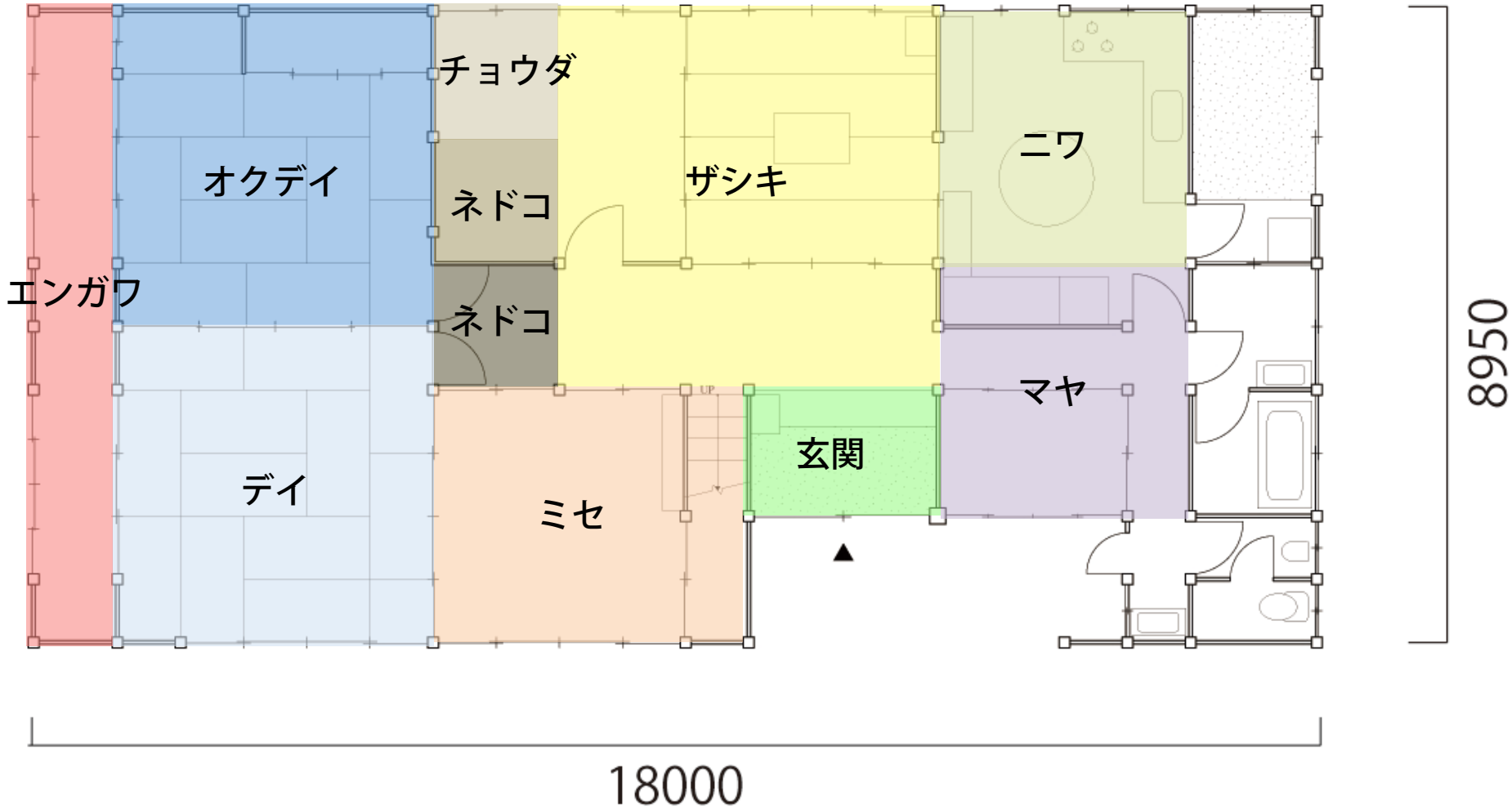
→現在の長倉の生活とその風景をつくりだしている。



水舟のかたち

2-2建物

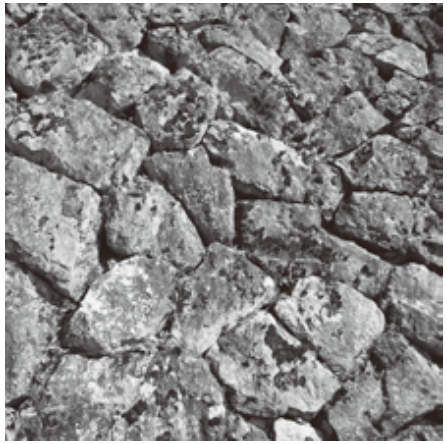
母屋の意匠と伝統空間



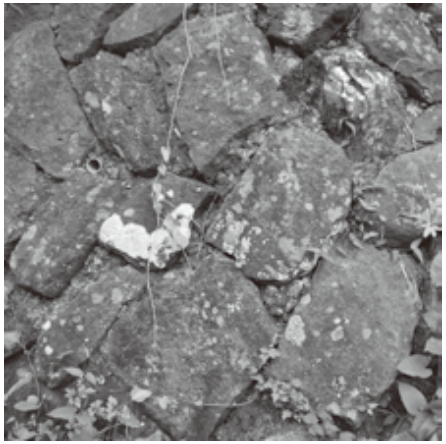
2-3石垣

石垣の種類

01 角石 × 角石



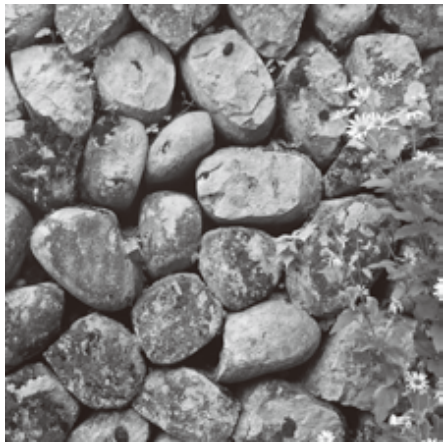
02 角石 × 角石 × コンクリート



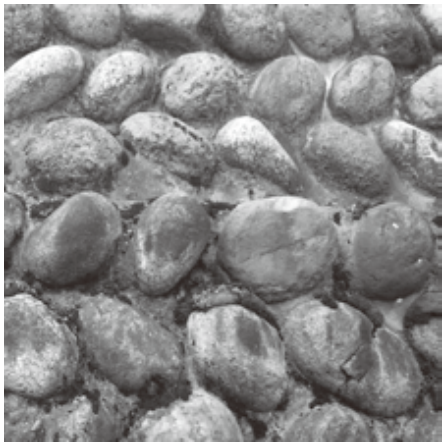
03 角石 × 丸石

04 角石 × 丸石 × コンクリート

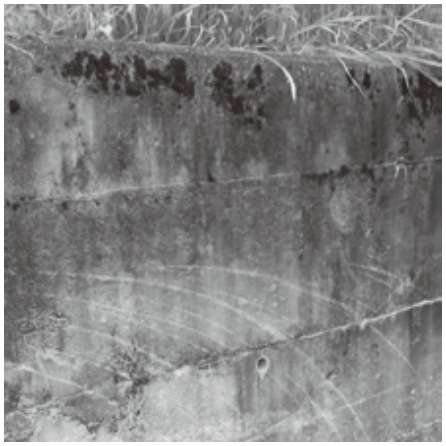
05 丸石 × 丸石



06 丸石 × 丸石 × コンクリート

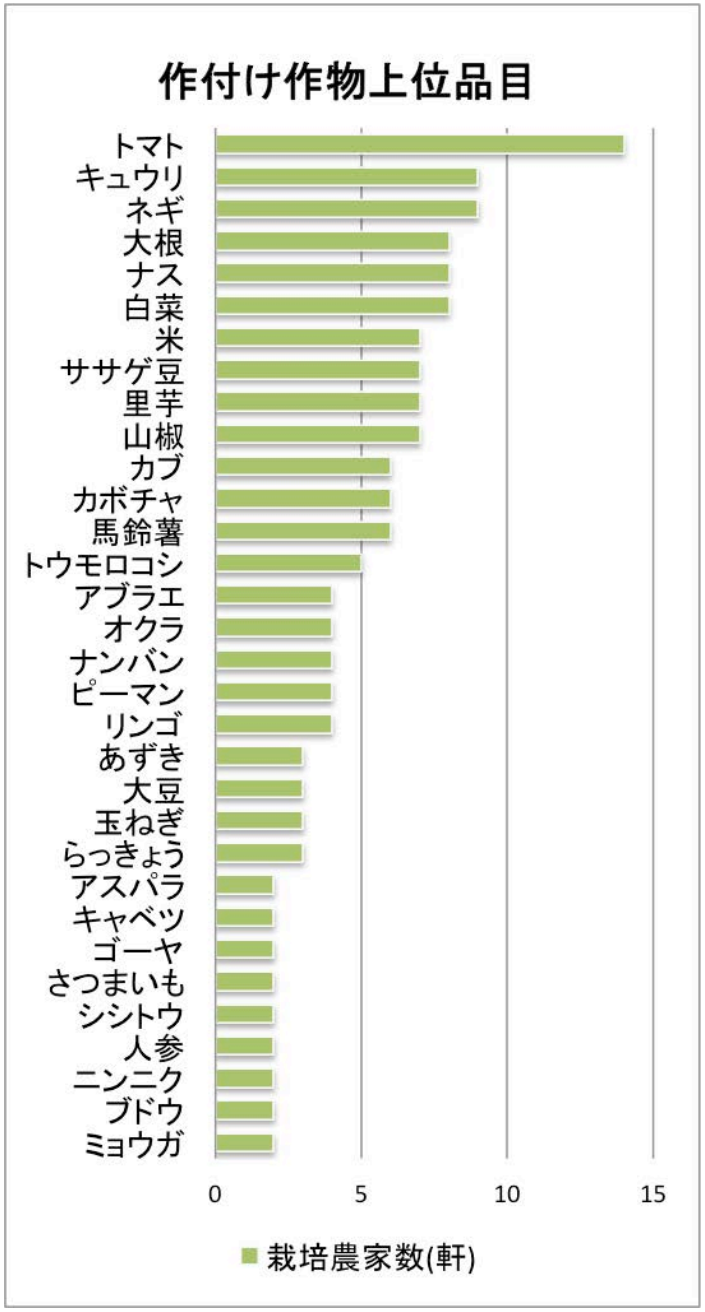


07 コンクリート



2-4農地

細越



長倉では高地を中心に比較的規模の大きな農園が広がり、
集落内では斜面も利用した畑作、
細越では全面の平地での稲作が中心。

規模は様々ながら、家庭消費の野菜を始めとして、
４０品目を超える種類の作物の作付け。

2-5眺望

長倉の課題（全体像）

長倉の課題

危機感はあっても、実行がなかなか出来ない。お金もない。
みんなで語る場が無い

飲み屋が無い

・近くなら神岡、遠くは富山（神岡は鉱山で栄えていた）
・若い人達が飲みに行くところがない
・やっぱり飲み屋が欲しい
・年寄り向けの飲み屋あっても良いかも
・昔は飲み屋があった

職場不足

・若い人が働く場所が近くにない
・役場以外に民間の働く場所が少ない
・村に仕事が限られて、若い人が職を求めて村外へ出て働く

農業の仕組み

・農業だけで食べていくのも難しい
・若い人は今からノウハウを学ばないと
専業農家→兼業
今は年金をもらっている人が生活できている。
・営農で収入の高いもの
＝山椒
米
ナンバン
・農業組合の難点として、個々の努力は素晴らしいが、みんなで（協力して）何かしようとはならない。
・農業隆盛の壁として、「農地の拡大が出来ない」という点が大きい。
・昔、農作は斜面での作付けも行われていた。公民館前山椒はその名残。現在ではその技術は残っておらず、おそらく斜面作付けが出来る人はいないんじゃないか、という話。

水路の管理

・トンネルの管理の維持（泥を出す作業は、とりあえずどけているという状態）
・今のうちにしっかり修繕しておけば、（農業の）担い手は外にでも見つけられる
・下佐谷の導水路は地震で落盤の心配あり（素掘り）
・水路を今のうちに修理しておく必要あり
・水路が維持できなくなると、農地も荒らさざるを得ない

文化の維持

・出ていった息子は山境も分からないのでは

祭礼

・少子高齢化社会により、集落の祭り事・慣習等、伝統文化の継承が出来なくなる
・春の例祭の維持はすでに困難な状態

石垣

・石垣の維持が出来るのか。
・石積みの人もいなくなるし（今一人）、石積みの技術がなくなる。
・今は石を集める状況も変わっている。（石は小さくなった。）

建物

・家の維持管理
・あと10年後には墓山のようになるかも
・住宅の管理
30～40年に一四土台を上げる（柱寒冷）
・高齢化が進むと建物の管理もできなくなる
空家の活用もしたい
空家になるなら、外から人を呼び込みたい

担い手不足

・もう5年も立てば、普請に出て来れない人も増える。→大仕事ができない。
・外から人を呼ぶにしても農村の生活は大変なところが大きい
・人が少なくなってきた今、人づくりが最重要視が離れているので、充分な議論がつくせない感がある
・奥さんをもらってもすぐ出て行ってしまう
・世代交代しても12-13人しか若い世代がいない
・稲刈りの手伝いとかには来るけど、稲作をやるとなると、やらない
・Uターンは見込めないのではないか
・自分たちが営農できている間はいいが、後が心配
・農業の後継者の不在

農地の維持

・草刈りもままならず、すでに一部は杉植林によりその傾向はあるが、今後ますます森林化が進む
・3年前から35aの水田のうち19aの稲刈りをコンバイン委託した老夫婦では維持できない
・湿潤化が進み作物が作りにくい
・農作物が作れなくなる
・長倉の上の方の畑は借りてもらえないのではないか（機械が入れないため）

山仕事

・山仕事から畑仕事へ移行
・山仕事はお金にならない
・今は山仕事で食べている人はいない
・部区内植林・くりが大きくなり、困っている
・木を切ってもらうには、金（賃金）と酒が要る。
・木を切る
＝昔は、冬の暖のために必要だった。
・杉は国策だった。昔は金になったが今は邪魔。みんなで取り組まないと。
・善蛮と杉が、昔は現金収入だった。

杉

・杉をきるのもお金がかかる
・木を切っても運び出せない（運びだす為の）道路が、急峻な地形によりつくれない

移動の不便

医療施設

・（長倉に）病院がない、医療施設が遠い
・何かあった時不安
・健康なうちはいいが、病気になると大変（医療機関がないので）

・ガソリンスタンドなくなると大変

買物

・買い物と言えば神岡
・昔は農協のひまわり号があった
・買い物がちょと遠い　街と違うところはそこ
・良いものを買うなら富山へ
・（移動販売は）冷蔵庫がある車じゃないと新鮮なものが売れない
・移動販売は欲しくなる
・3日に一回届けてくれる？（農協とかで？）

・ナナモトさんがマイクロバスを高山まで出していた　便利だった

集落外の移動

・車がないと全く不便
・車の運転をできない人の移動手段が極めて少ない、好きな時間にどこでも出かけられない
・今のところ運転が出来るので心配ないが、ゆくゆくは心配
・車がないと思うとゾッとする多分生活できない

少子高齢　化

・半分が60歳以上
・後継者がいない
子供が少なく、今後が心配
・人口が減って集落の維持ができない
・なんとか定年後でも夫婦で帰ってきて欲しい
・高齢者が多く集落全体の運営困難

集落内の移動

健康面
・坂が多く、足、膝、腰への負担が心配

交通
・坂道が多く歩いての移動が困難
・神社が大変高いところにあり、若い時は気にならなかったのですが後期高齢者となった現在、祭りなどに行きにくくなった。

地　形

地盤が　弱い

・すり鉢状の地形で地盤が弱いあるため、現在どのような状況なのかが心配
・地滑り地域で地滑りで石積み等の擁壁に亀裂が入り、母屋板蔵が傾く
・焼岳の火山＝やわらかい地層

草刈りが大変

・田は小さいがノリが大きい　草ばかり
・草刈りの維持が大変
・坂が多くて、草刈りに重い負担がある
・農業にもガソリンが要る（草刈機、耕運機）
・空家／空き地は、草刈りに来る人がいる継続するかどうか
・他が荒れてくると管理が続くかどうか
・草刈りが充分でないと獣がおりてくる

獣害

・動物の被害が多い
・ここ15年前くらいからサル、イノシシ、クマ等による野生動物の害が多くなり、収入に影響するようになった
・獣害のため作付け作物を限定する必要がある（場所によって食害をさけるため）
・電気柵の設置／管理だけでもかなりの労力がかかる
・動物の被害が多くて作る意欲が損じる
・山仕事、管理が行き届いていないと、獣がおりてくる
・そのうち、熊も来るのでは
・今は山は荒れ放題。
→成りもの（実）が不安定
→獣が餌をもとめて降りてくる

積雪

・雪のメーター超え
・冬の雪道は事故の危険ぶつけたり落ちたり
・冬、区内の道路積雪のため気をつけて移動
・大雪となると車の通行に支障が出る
・雪下ろし、雪かきは、斜面を使ってラク出来る面も
・ふれあいの道の雪かき（各地区2・3人で分担、週3・4日でも

安心・安全

・桜谷が危険なので西端に避難所がある
・安全をアピールする必要性がある
・防火水槽から家までのホースが届くかどうかは確認済み
・災害時の避難場所は公民館。あとから役場がかけつける
・市の取り組みの結果（水抜き、地盤）今は安全となっている

防災

・消防の自己組織（町内会）はあるが訓練はしていない

水抜きボーリング

・地すべりを防ぐための水抜きボーリング
・ボーリングで水抜きしたことで地盤が割れる
・ボーリングしてからは水舟の水が出なくなった
・砂が流れ出る。地盤が沈む
ボーリングにも良し悪しがある

高原川

・子供たちが河原で遊べなくなった。
・漁協が…入漁券がいるので…
・川への立ち入りは漁協の管理が厳しい

マイクロ水力発電

水の力と高低差を活かす

「マイクロ水力発電」

■マイクロ水力発電の特徴

・水が流れ落ちる力を利用

・「水力発電」より小規模

・身近な用途の電力を発電

・発電量＝流量×落差

■世間でのマイクロ水力発電の難点

・流量とともにある程度の落差が必要

・生み出した電力を使用する場所が離れていると送電設備の設置に費用がかかる

発電機　設置想定箇所

A.　洞組から水が流れる場所

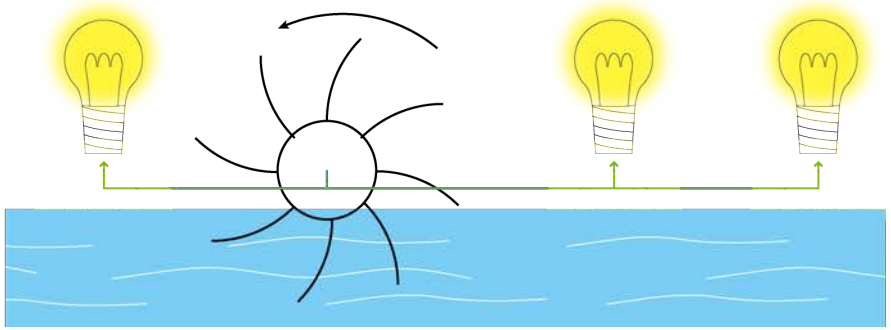
B.　大平を流れる農業用水路

C.　用水路と桜谷の合流地点

D.　桜谷下流地点

生み出した電力の活用

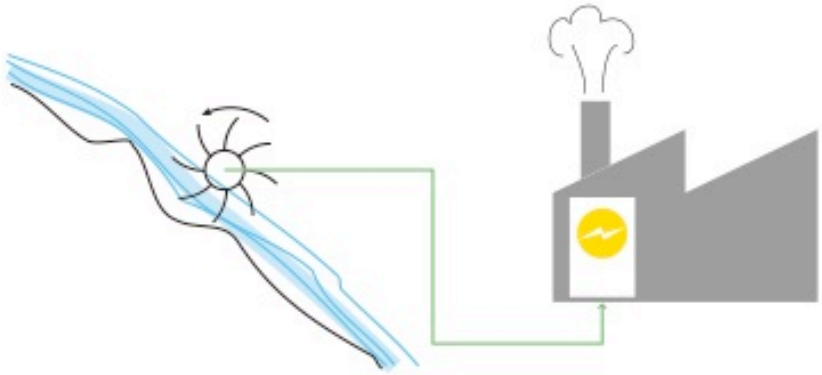
水量の少ない場所での発電



■水量の少ない場所での発電

外灯のような小さい規模の用途に向けて実施する
（農業用水路、桜谷の上流地点など）

水量の多い場所での発電



■水量の多い場所での発電

農作物の加工所など、比較的大きい規模の用途にて実施する
（桜谷の下流地点、水路の合流地点など）

長倉での活動２

ワークショップ

計画内容の議論・発表

魅力ある地域を育むための7つの方針

1 斜面とともに暮らす

2 安心、安全に長倉で暮らしていく

3 生業を高める

4 交わる場を創っていく

5 長倉なかまを増やす

6 文化を育む

7 自然力を活かす

方針3. 生業を高める

集落内で働ける環境を創る

長倉地区内で営める生業を育む

長倉集落では生業として農業が営まれてきたが、様々な事情により、生業として成立しなくなっている。そのため、集落の若い人は働く場所を求めて外に出るようになってしまう。

そのため、集落内で営める生業を高めていかなければならない。農業の課題を克服し生業として成立するように高めることと同時に、農業以外の新たな生業を増やしていくことで、長倉集落内で働くことのできる環境を創っていく。

取り組み

- ■商品開発
- ■農業インターン
- ■モンキードッグ

小方針１．生業としての農を高める

生業としての農を高める、というのは、職業として成立する
状態を目指すということ。

集落内の未利用地

農業の課題

■獣害

獣害により農業の収益や作付け作物の種類に
影響する。

■農業の効率化の難

地形的制約によるところが大きい。

直売所の販売風景

農業の長所

■ブランド力のある「山椒」

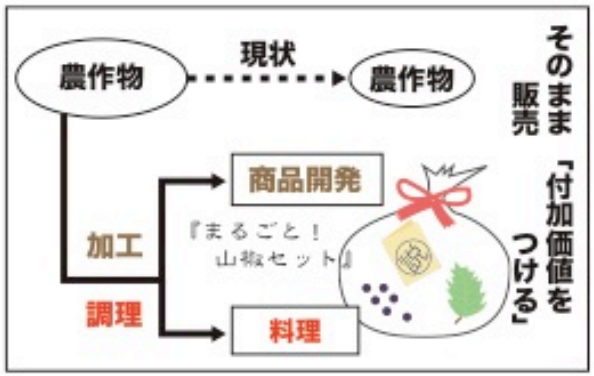
品質も良く、評判が高い。

■多彩な作付け状況

直売所で農作物を販売する際、新鮮かつ、
様々な農作物の提供は強みになる。

小方針２．生業となる新産業を創る

農業の発展の可能性

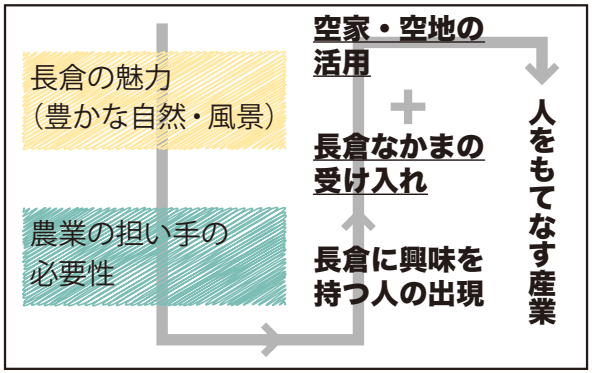


■直売所を活かした「第２の販売」

利用客からの評判も良い。
高原街道を通る観光客も利用

販売する野菜に付加価値をつけるなどの工夫

農業以外の産業の可能性



■豊富な資源の活用

集落内の豊かな資源
高原川や街道の観光力

既存の空家、使われなくなった板倉を活用

方針3. 生業を高める
集落内で働ける環境を創る

小方針１.
生業としての「農」を高める

小方針２.
生業となる新産業を創る

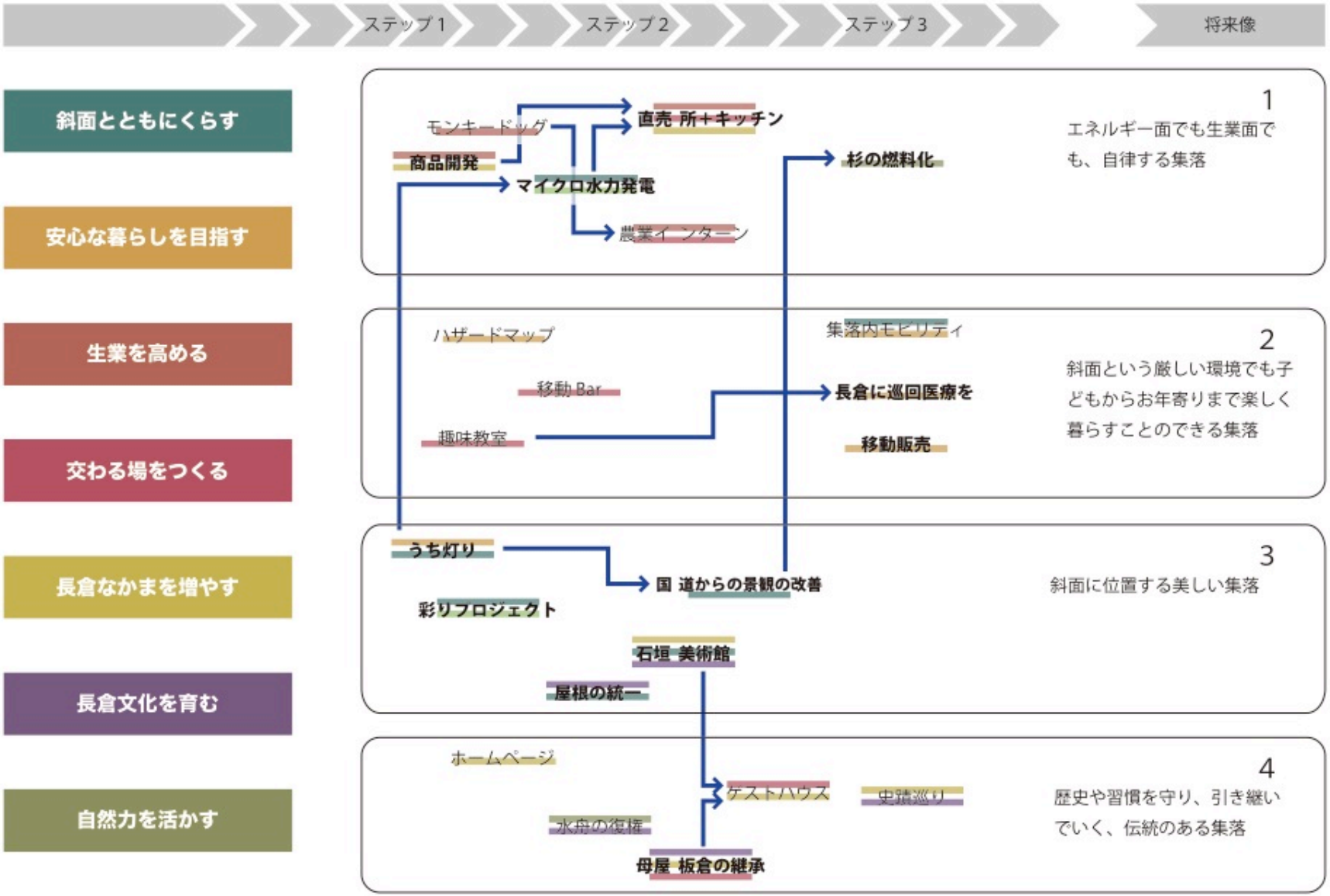
取り組み

■商品開発

■農業インターン

■モンキードッグ

取り組み全体のシナリオ

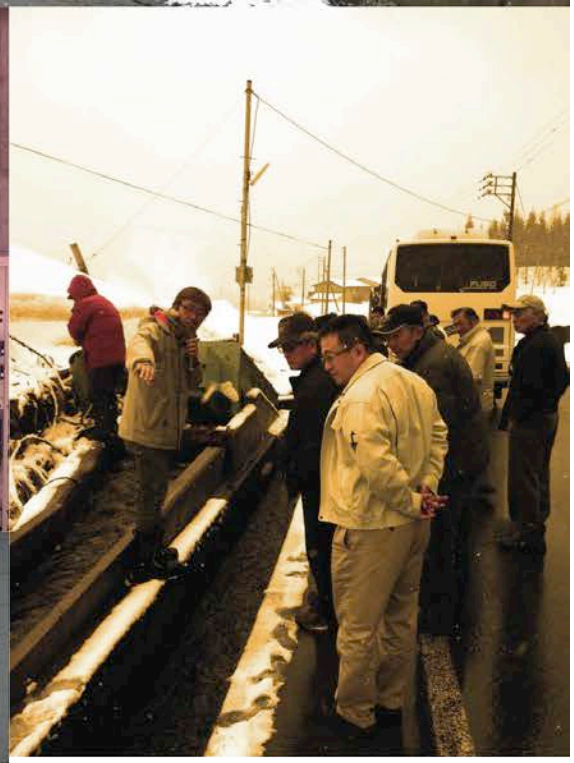


計画実行への第一歩

小水力発電の見学会

事例を実際に見る、聞く

多くの住民の方々が興味を示していた「小水力発電」。研究室の OB の方が、岐阜県郡上市石徹白にて小水力発電の導入、推進を行っていたため、ご協力いただいて見学会を企画した。百聞は一見に如かず。



今後に向けての意見交換会

同じ「集落の再興」を目指す者として、

URBAN DESIGNER

Associate prof.

Yokohama NU

熱

Taku Nohara

ご清聴ありがとうございました

五箇山プロジェクト　2011年度活動報告

五箇山地域　相倉集落･菅沼集落
地域の価値を継承しながら、暮らしの在り方を探るため、
2012年6月に世界遺産マスタープランを策定予定

相倉伝統的建造物群保存地区における構成要素の位置づけ

●伝統的建造物（建築物）

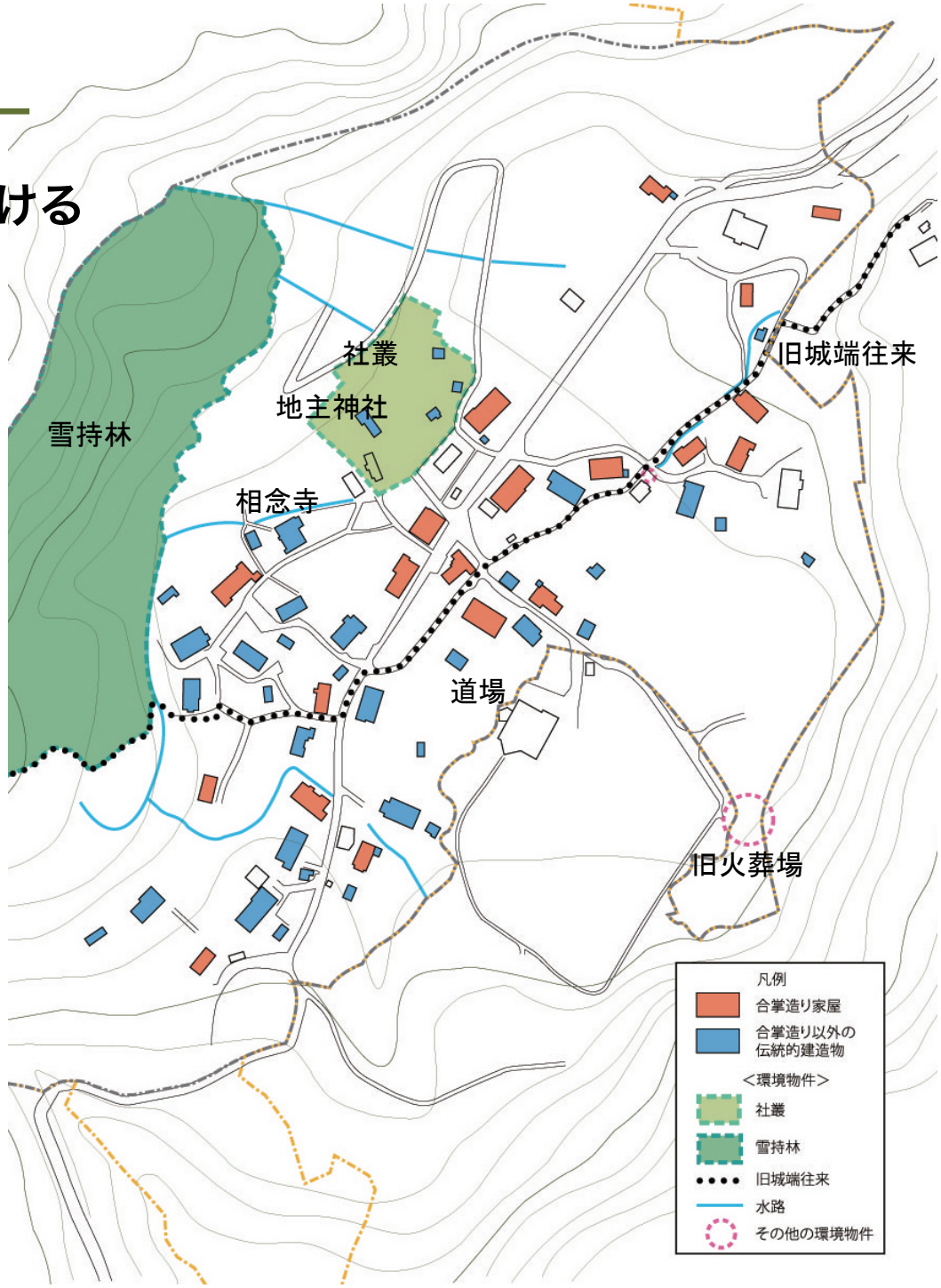
•合掌造り家屋：２０棟
•合掌造りを改造した家屋：５棟
•非合掌造りの木造家屋：７棟
•附属建物：便所８棟、板倉７棟、
　　土蔵１２棟、その他３棟

●伝統的建造物（工作物）

•地主神社社標、石橋、石鳥居、
石狛犬、石灯籠

●環境物件

•旧火葬場、地主神社の社叢、
　旧主要道（城端往来）、石垣、
　水路、雪持林、夫婦ケヤキなど



菅沼伝統的建造物群保存地区における構成要素の位置づけ

●伝統的建造物（建築物）

•合掌造り家屋：９棟
•非合掌造りの木造家屋：３棟
•附属建物：板倉１０棟、土蔵３棟、
　　水車小屋１棟

●伝統的建造物（工作物）

•神明社石鳥居、石狛犬

●環境物件

•神明社の社叢、湧水池（清水岩含む）

集落を潤す豊かな水

●資源としての価値

・美しい水田を支える水路群
・水が引き立てる合掌家屋の表情
・池と水路が育む豊かな親水空間
・集落に響く水路のせせらぎ

●受け継ぐ上での課題

・清水岩周辺の再生・活用

水田に映る「逆さ合掌」

消雪池のうるおい

清水岩

新旧の農地のコントラスト

●集落の内側の細かな農地

かつて沼地であった集落の内側には、不整形の田畑が入り交じり、合掌造り家屋とともに素朴な景観を生み出している。

●集落外側の広い水田

庄川に面した集落北西の水田は、耕地整理がなされて整然としており、山々を控えた合掌家屋とともに雄大な景観を形作っている。

●農地の維持の難しさ

観光客の多い時間帯には農作業を控えるなどの配慮をされている

集落内の農地

集落外の水田

かつて沼だった農地

暮らしの知恵を伝える樹木

●資源としての価値

・集落を包み込むように防護する
　雪持林と防風林
・火事から財産（倉）を守る樹林（社叢）
・山の暮らしの記憶：クルミ・トチノキ・クワ

●受け継ぐための課題

・樹木・山林の手入れ・維持管理
（集落内／五箇山全体）
・樹木の意味を伝える工夫
（地域での共有／来訪者への伝達）

北側の水田から望む防風林と雪持林

養蚕の記憶を受け継ぐ桑の木

コンパクトな中にも豊かな回遊体験

●集落内外からの多様な眺望

・国道沿いの高台
・集落内の道路
・集落外側の農道など、多様な視点場。

●滞在時間の短さ

・大半は集落内側をコンパクトに回遊
・食事客以外は短時間の滞在に

●合掌の里との隣接関係

・滞在・体験型観光との連携が可能

①国道老いからの眺望

②集落外側からの眺望

集落内の道からの眺望

合掌造りを支える茅場

●資源としての価値

・「要」の伝統素材を地元で産出
・無駄のない循環利用：古茅は肥料に
・茅場を含む史跡の価値

●受け継ぐための課題

・茅場の確保、自給率の向上
・茅場の維持管理を集落内外で
　いかに支えていくか

下草刈りの様子

地域の茅場で採れるカリヤス

急傾斜地の茅場（菅沼）

斜面地に折り重なる石垣と水路

●資源としての価値

・水路：貴重な水を斜面地に分配する工夫
・石垣群：棚田を支える農業の基盤
・美しい農業景観：合掌造りとの調和
・池の多面的役割：消雪・防火・生活用水、
　　潤いの空間としても機能。

●受け継ぐ上での課題

・石垣の維持管理：景観資源として再確認
・コンクリートのU字溝
→ホタル等の生き物が棲める近自然型水路に

農業を支える石垣と水路

U字溝となっている水路

暮らしの知恵を伝える樹木

●資源としての価値

・景観を細やかに特徴づける
　杉木立ち（防風林）
・集落を背後から支える森（雪持林）
・食文化の源：クルミ・トチノキ
・土地の成り立ちを伝える岩

●受け継ぐための課題

・樹木・山林の手入れ・維持管理
（集落内／五箇山全体）
・樹木の意味を伝える工夫
（地域での共有／来訪者への伝達）

景観を特徴づける杉木立

土地の成り立ちを伝える岩

傾斜地に細やかに配された農地

●資源としての価値

・傾斜地を開墾した先人の遺産
・合掌造りを引き立てる農地
・山村集落の「生活感」を映し出す田畑
・来訪者の心をとらえる農の風景

●受け継ぐための課題

・担い手の確保
・耕作放棄地の低減
　※棚田オーナーの展開のあり方

来訪者が最初に目にする棚田

畑の作物に目を向ける観光客

通り往復型の観光行動

●山々を背景とした回遊資源

集落の全景を収める眺望点、人形山への眺め、旧街道沿いの夫婦ケヤキなど、傾斜地で山寄りの立地条件ならではの回遊資源が周囲に散在。

●直線型の観光動線と滞在時間

一方で観光客の多くは、まつやさんの手前、もしくは民俗館の手前まで来て引き返している。短時間（30分~１時間）の滞在が目立つ。

眺望点からの集落全景

夫婦ケヤキ

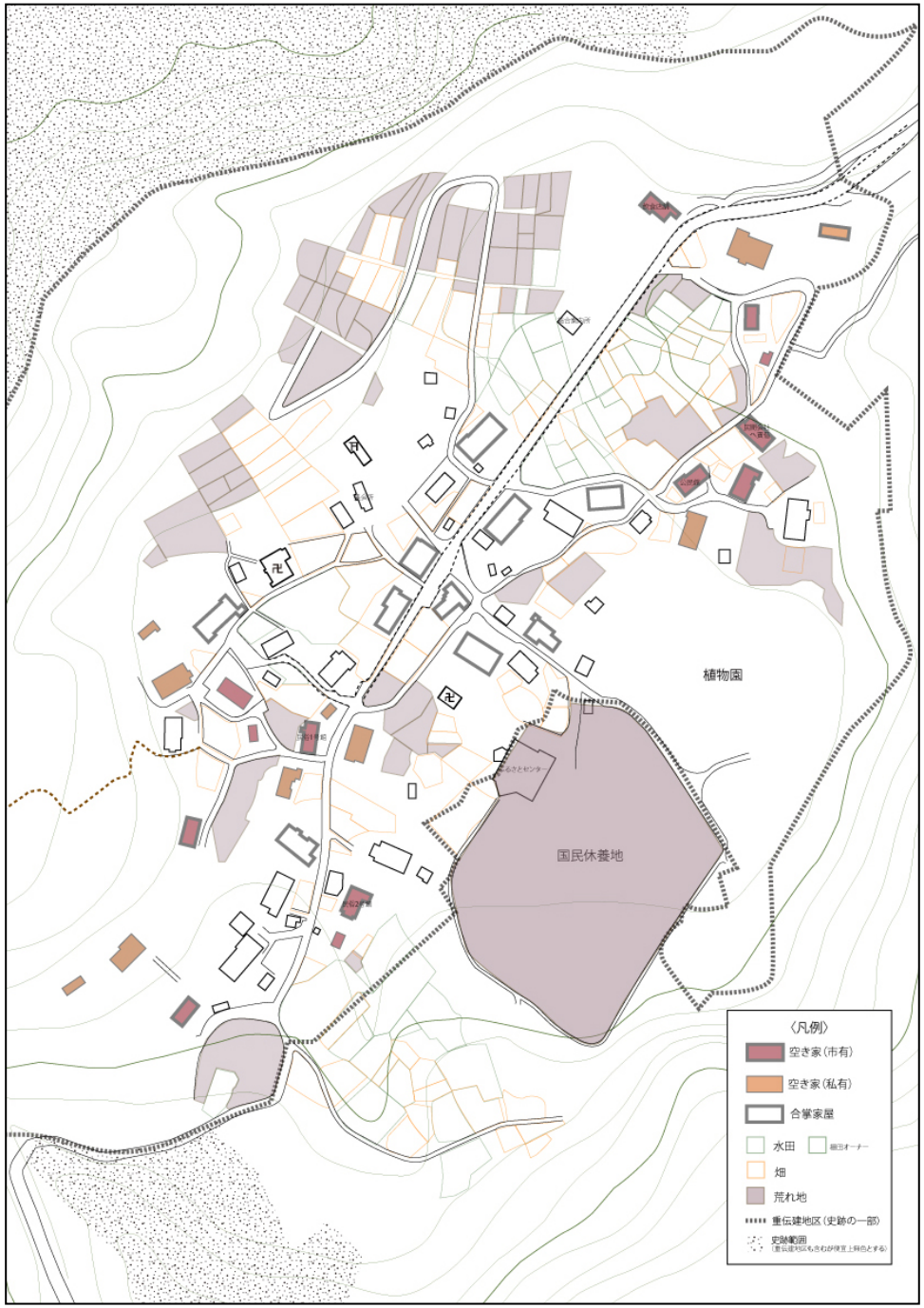
【現在の観光客動線と立ち寄りスポット】

空家／荒地の現状

●周辺部に増える荒れ地
　斜面地・棚田エリア
●空家の増加（旧街道沿い／奥）
　自動車道路から一つ奥の空間
●国民休養地エリアの将来計画

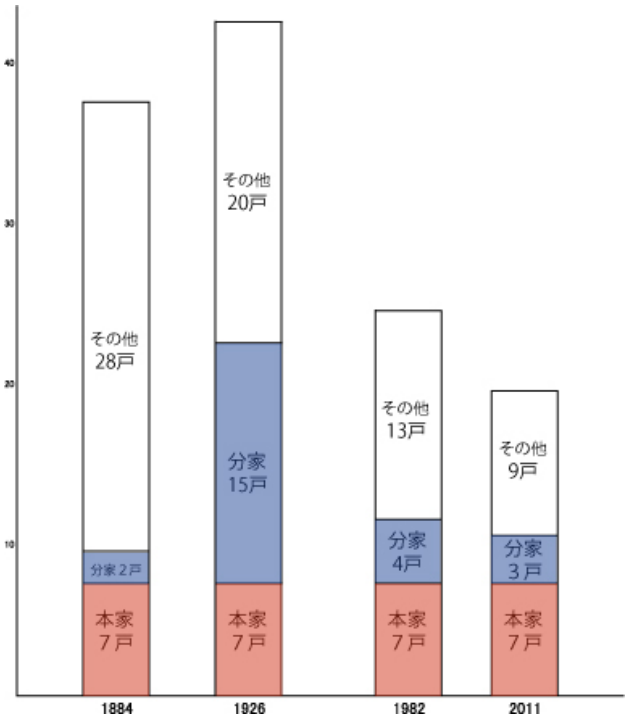
↓

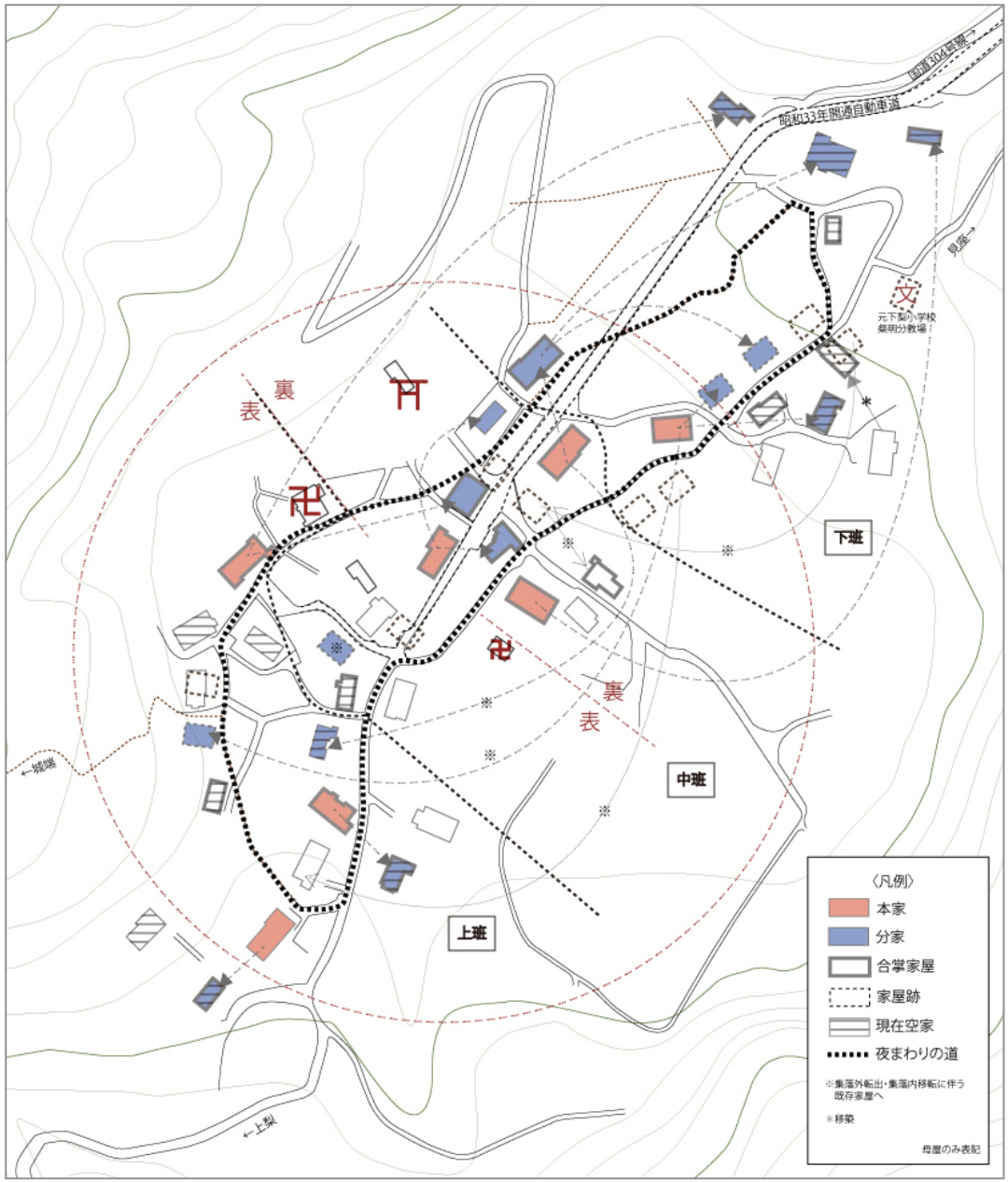
将来に向けた、
・生活空間の改善計画
・観光ルート計画
等に対する基礎調査として、
集落空間構造について調査しています。



集落の変遷調査１
（本家と分家）

●表／裏の境は、本家群の中心
●中心から外へ分家、集落の拡大
●集落外転出家屋への分家化
●分家の増加と減少





集落の変遷調査２
（自動車道路新設前後）

●城端街道→自動車道路、軸の変化
●城端街道沿いに多く見られる空家

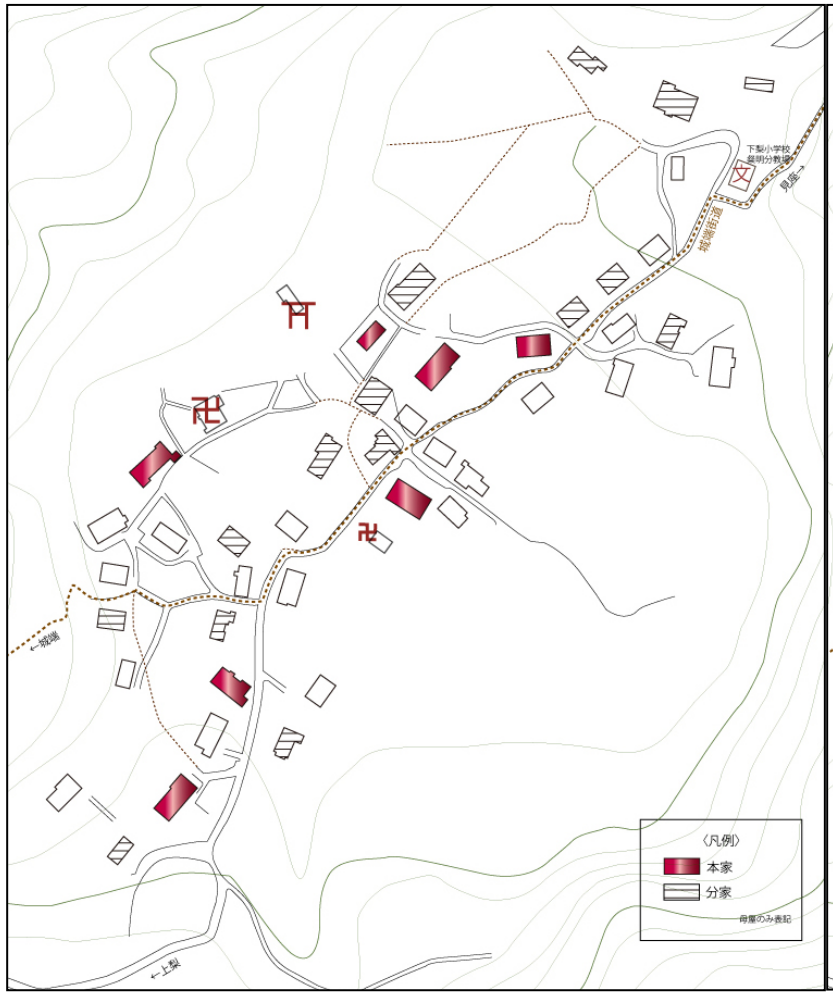


図　昭和初（1926）年　（42戸）

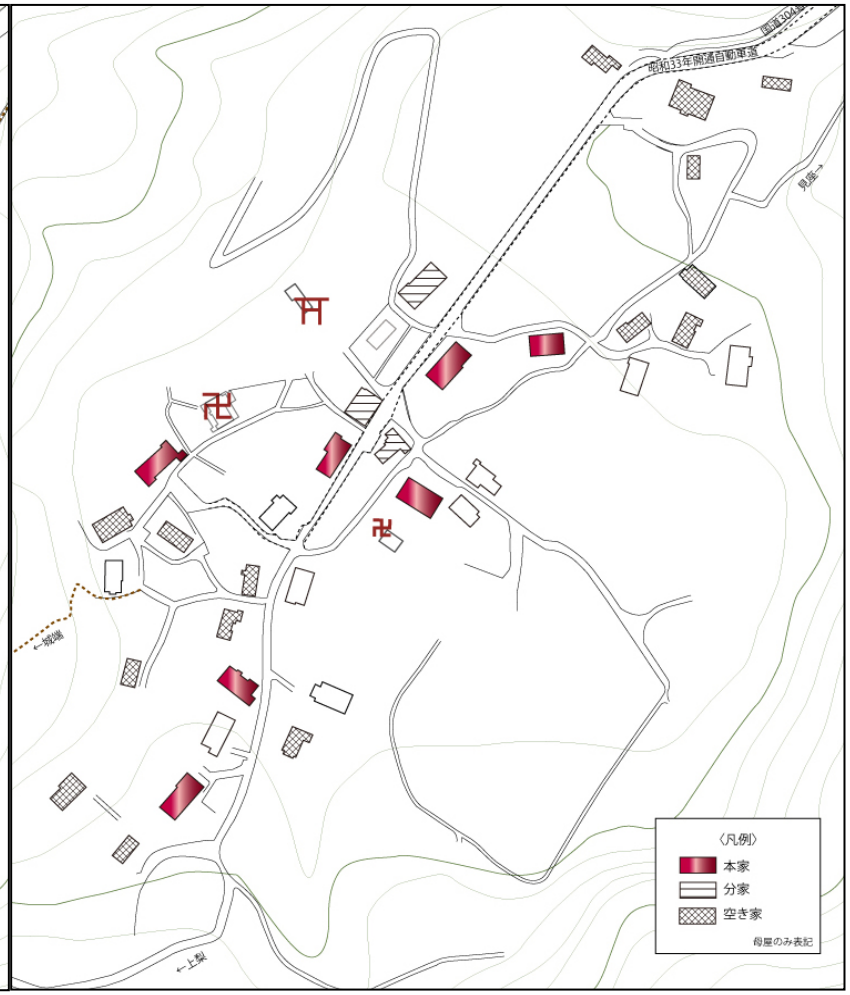
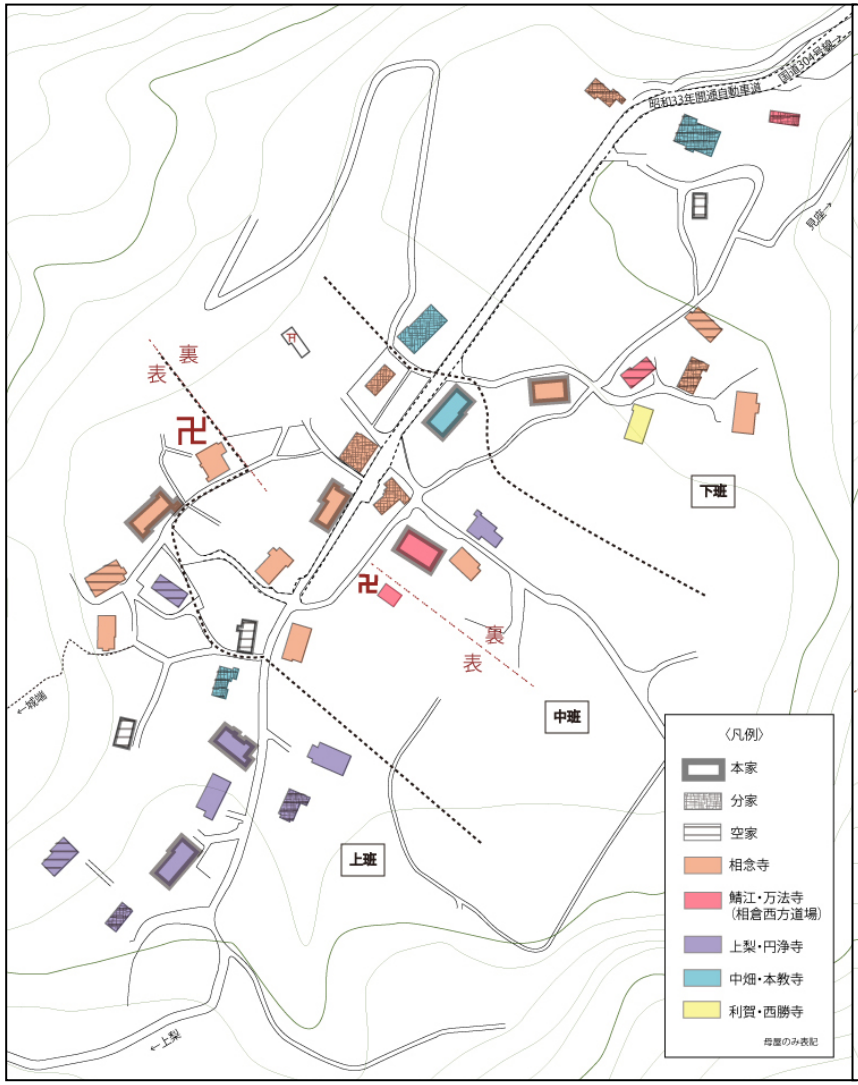
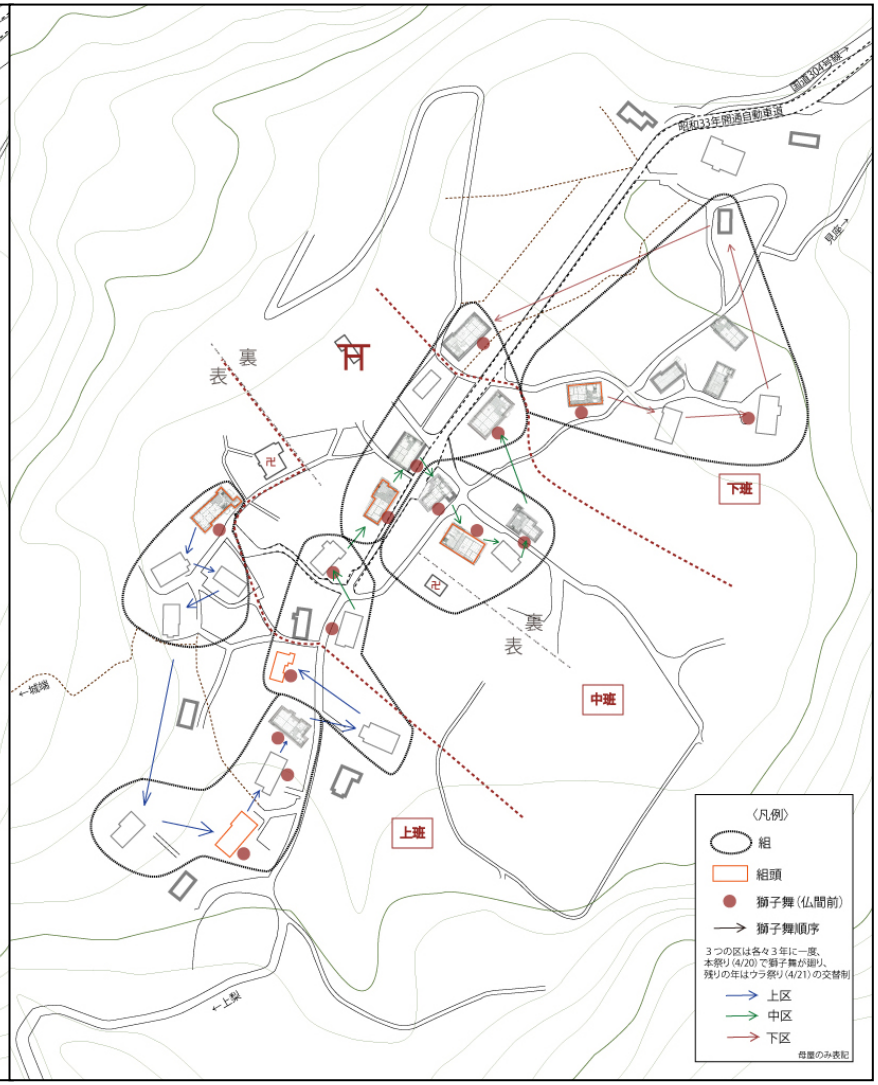


図　現在（2011年）（19戸）

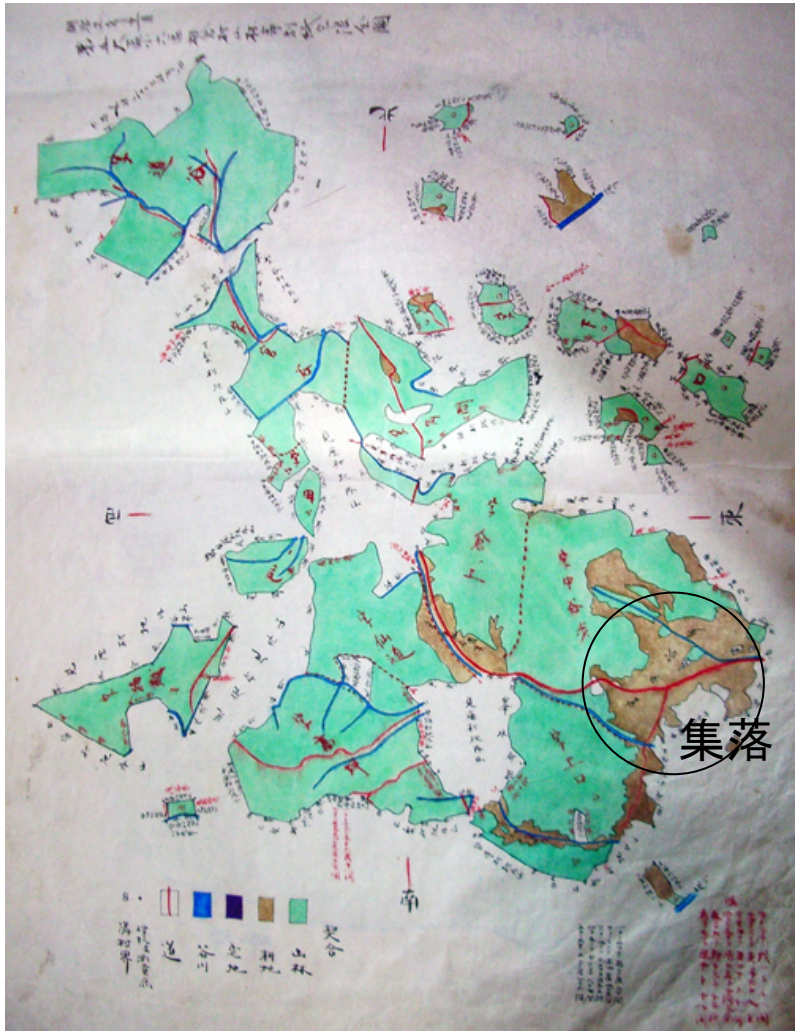
集落の変遷調査３
（宗教から見た集落構造）

●仏教（檀家）による空間構成
●檀家の違いを超えた集落一体の神事
●獅子舞空間と住居間取りの関係

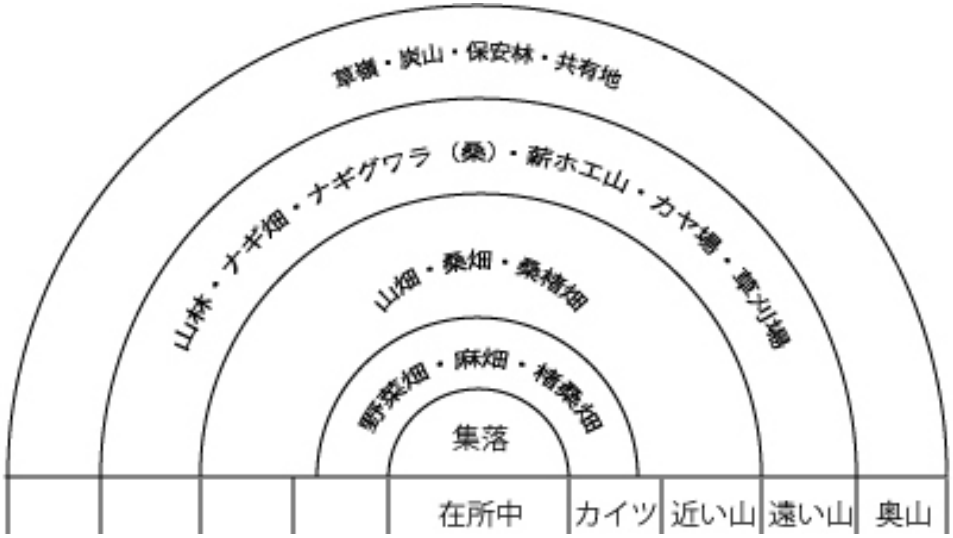




集落の変遷調査４
（山・道・水路と集落の構造）



●集落への２つの水路と集落構造
●山・道と集落の関係性



上図　土地の利用（出典：平村史上巻）

左図　相倉村山林等別紙字限全図（明治11年）相倉区長保管資料

集落の変遷調査５
（生業の変化／共同体の変化と集落）

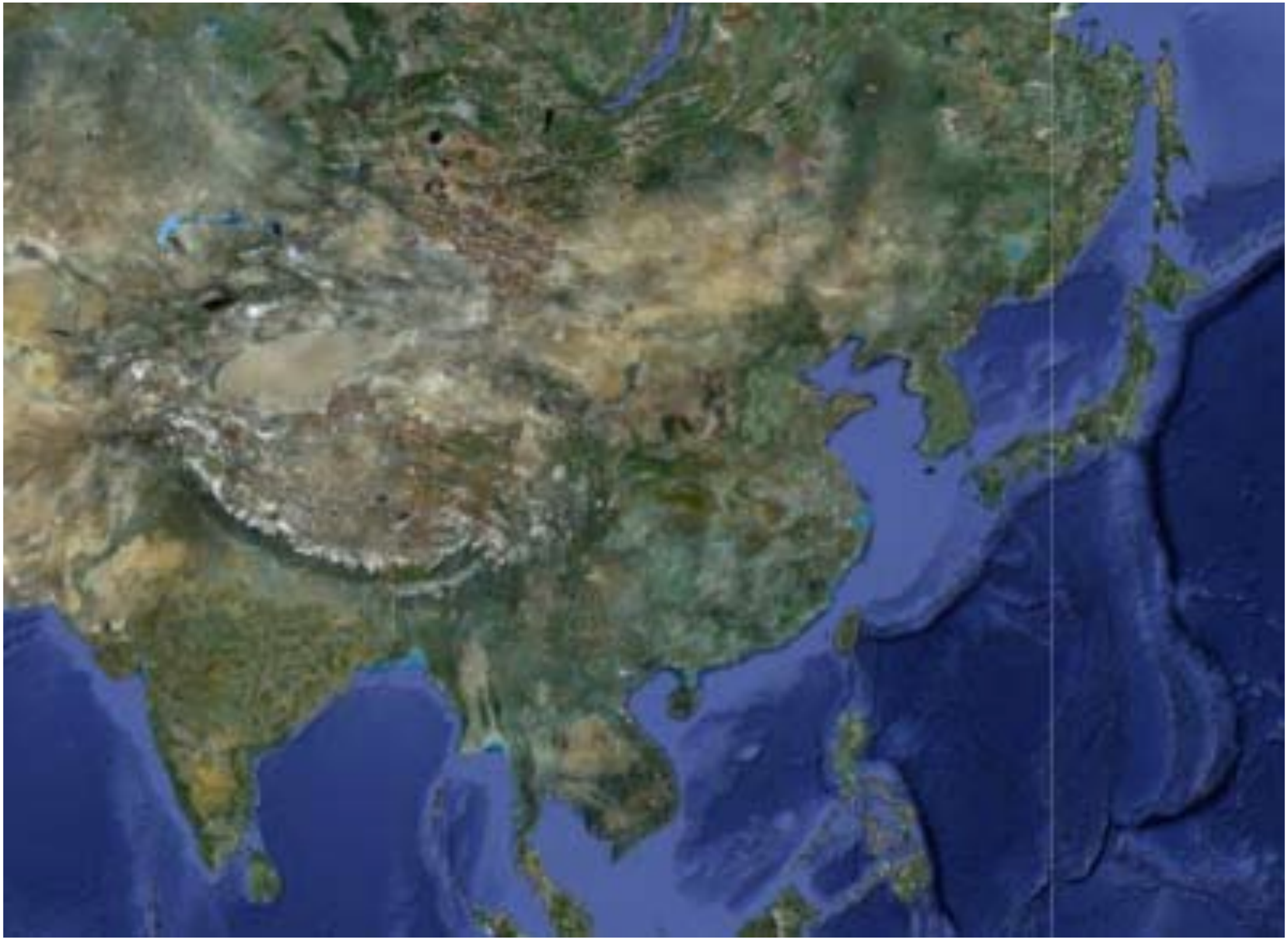
労働が行われる人間関係の種類	A. 制度化された人間関係	B. 血縁的・地縁的・階層的人間関係の濃密さ	C. 希薄な人間関係	D. 個人労働に対する金銭的価値
共同労働の名称	ヤヤク（公役、賦役）＊ ←	コーリャク（合力）＊1 テツダイ＊2 ←→ ソーサク(惣作)＊3	ユイ（結）＊4	賃労働
仓事の種類	共同的 ←	――――	→ 個別的	
労働の主体	村人 ←	親類、近隣、大家 ←→	個人	
労働の内容	＊いわゆる村仕事（道普請、祭り、葬式、念仏道場の修理など）	＊1. 無賃金、自発的手伝い（火災後始末、葬式、社寺普請、屋根葺き、木流し、楮はぎ ＊2. 賃金あり・なし　両方含む ＊3. 大家、物持ちが若人招集し酒食/賃金で労働	＊4. 労働の交換、原則労働以外の反対給付なし、一般的には親類、近隣同士の労力交換、ユイは決して奉仕的な労力交換でなく、極めて功利的ないわば契約	

出典：地域調査(昭和30年)p179第14表を元に、筆者加筆

Lumbini Project

ルンビニプロジェクト

What’s Lumbini?



Nepal 南部

Indiaと接するタライ平原

Nepal 南部

Indiaと接するタライ平原

仏陀の生誕地である。

仏教４大聖地の一つ。

1:生誕の地ルンビニ Lumbini

2:悟りの地ブッダガ Bodhgaya

3:最初に説法したサールナート Sarnath

4:入滅の地クシナガラ Kushinagar

Kenzo Tange

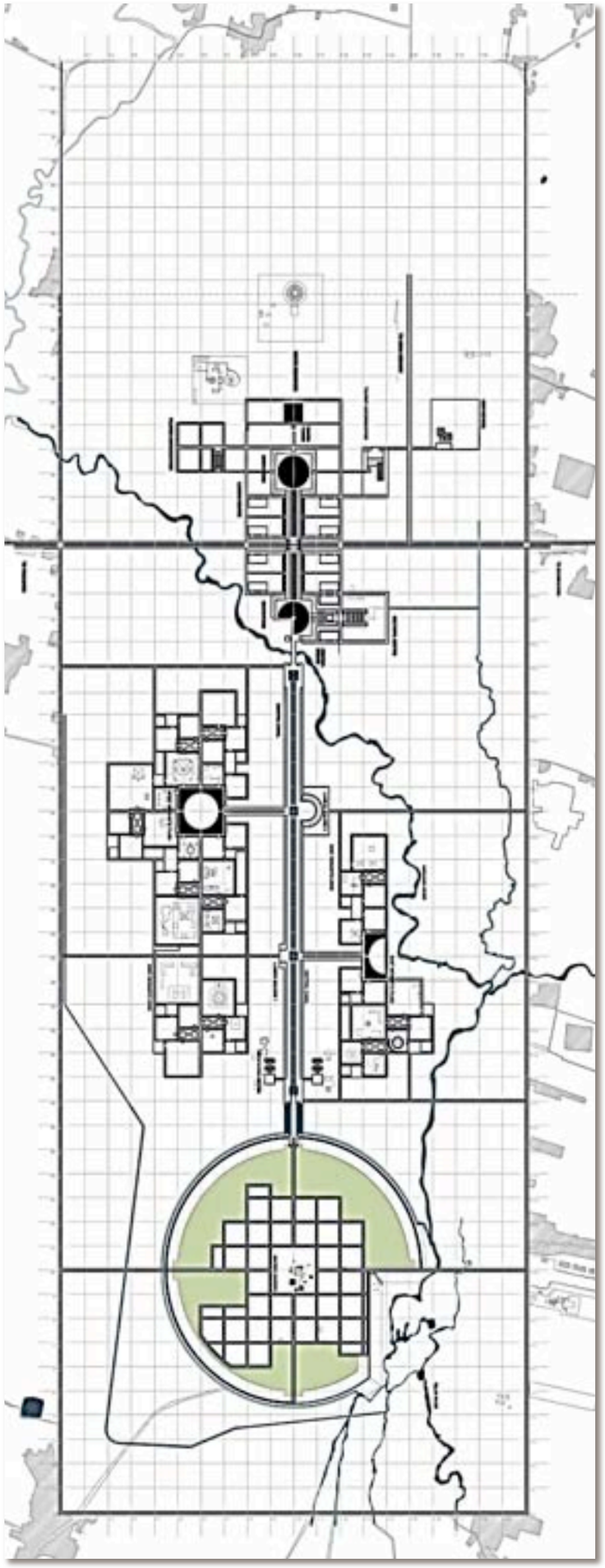


Image by Google Earth

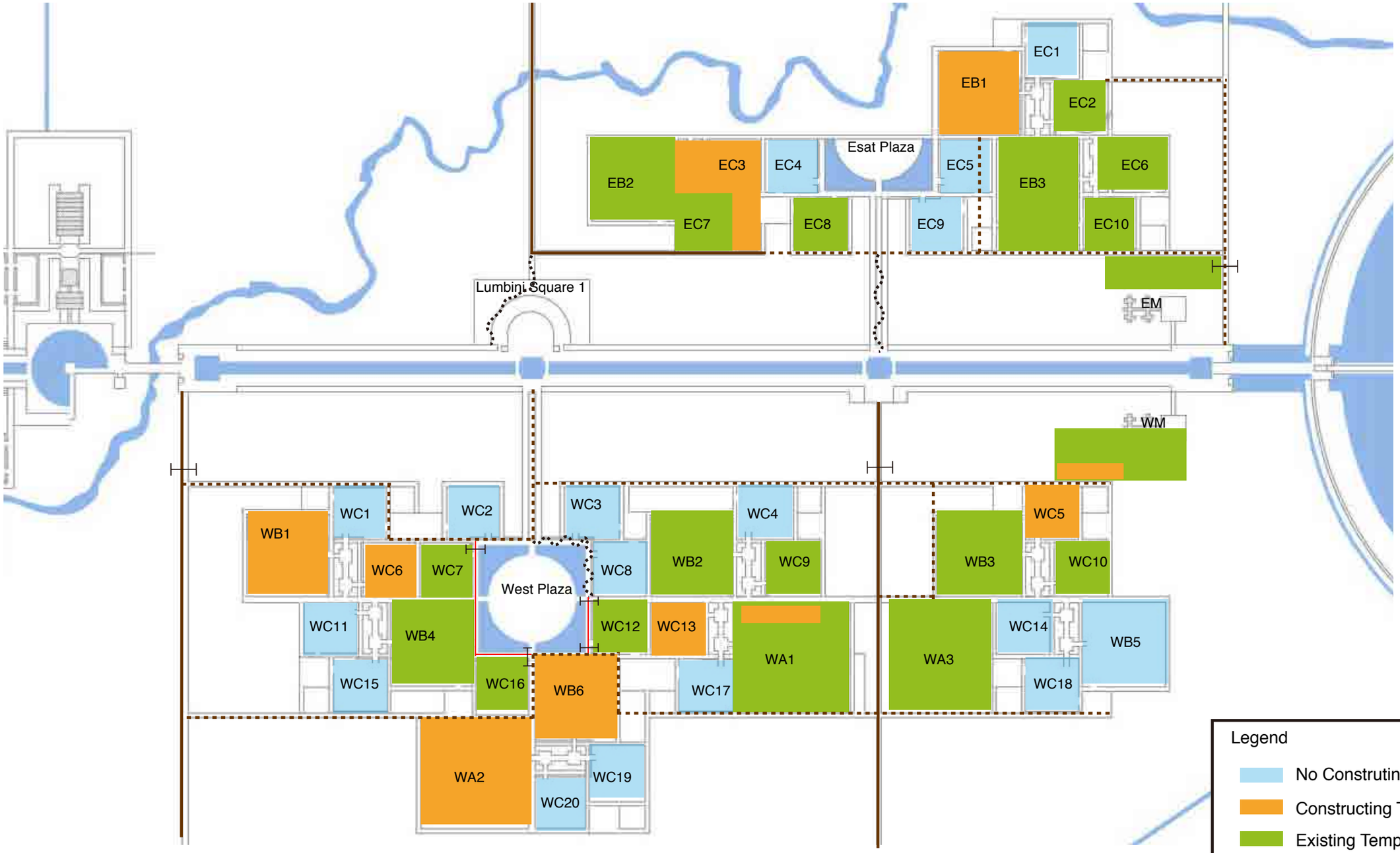
MEMBERS

Prof. NISHIMURA Yukio
Assistant Prof. KUROSE Takefumi
FU Shulan (D3)
PUNNOI Nattapong (D3)
Abdulla Ahlam Mohamed Saleh(D1)
LEE Bongho (M2)
NAKAMURA Takafumi (M1)
ISHIGURO Tatsuya (M1)

周辺調査

Research of surrouding sites

Exsiting Conditions of Monastic Zone



Legend

- No Construting Temple(Empty Area)
- Constructing Temple
- Existing Temple
- Paved Road
- Unpaved Road
- Unpaved narrow Road
- Paved Road for Pedestrian
- Car Stop

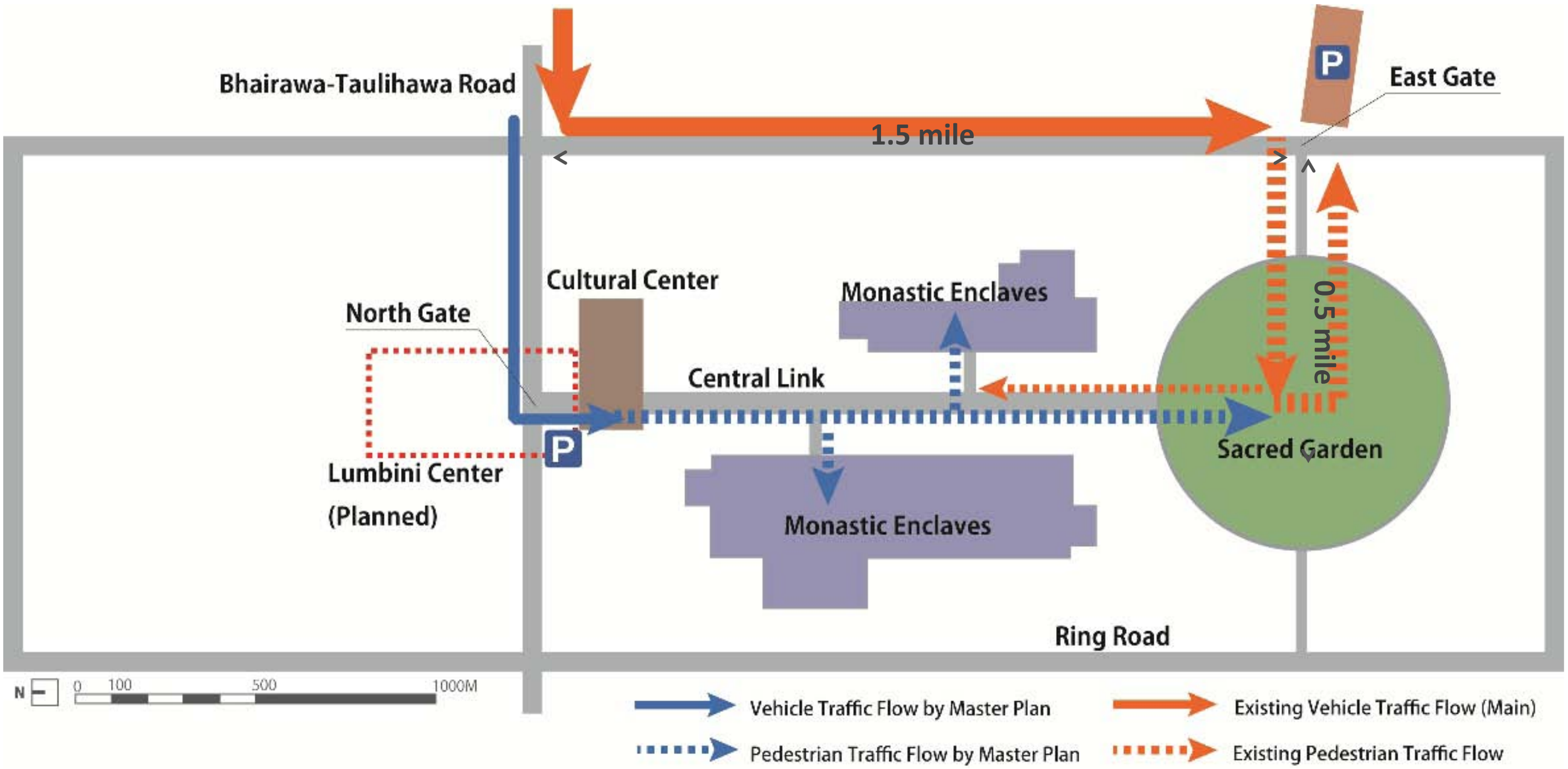
Comment

The development rushes of the temple continue in Monastic Zone.
The temples which extend accommodations are increasing in number.

動線計画

Flow design Planning

● Existing Traffic Flow



Integrated Management Plan for the Sacred Garden

End of Phase I (~2013)

Principle & Implementation

Access Management:
Transfer the Traffic Flow of Tourists/Pilgrims from East Garden Gate to North Garden Gate.

1. Set a New Ticket Booth/Information beside the North Garden Gate.
2. Set a New Temporary Ticket Booth beside the East Garden Gate.
3. Remove existing Ticket Booth and Information Center in the World Heritage Site.

∗As a transitional period, Tourists and Pilgrims' Access from both North & East Garden Gate will be allowed during until Phase II.

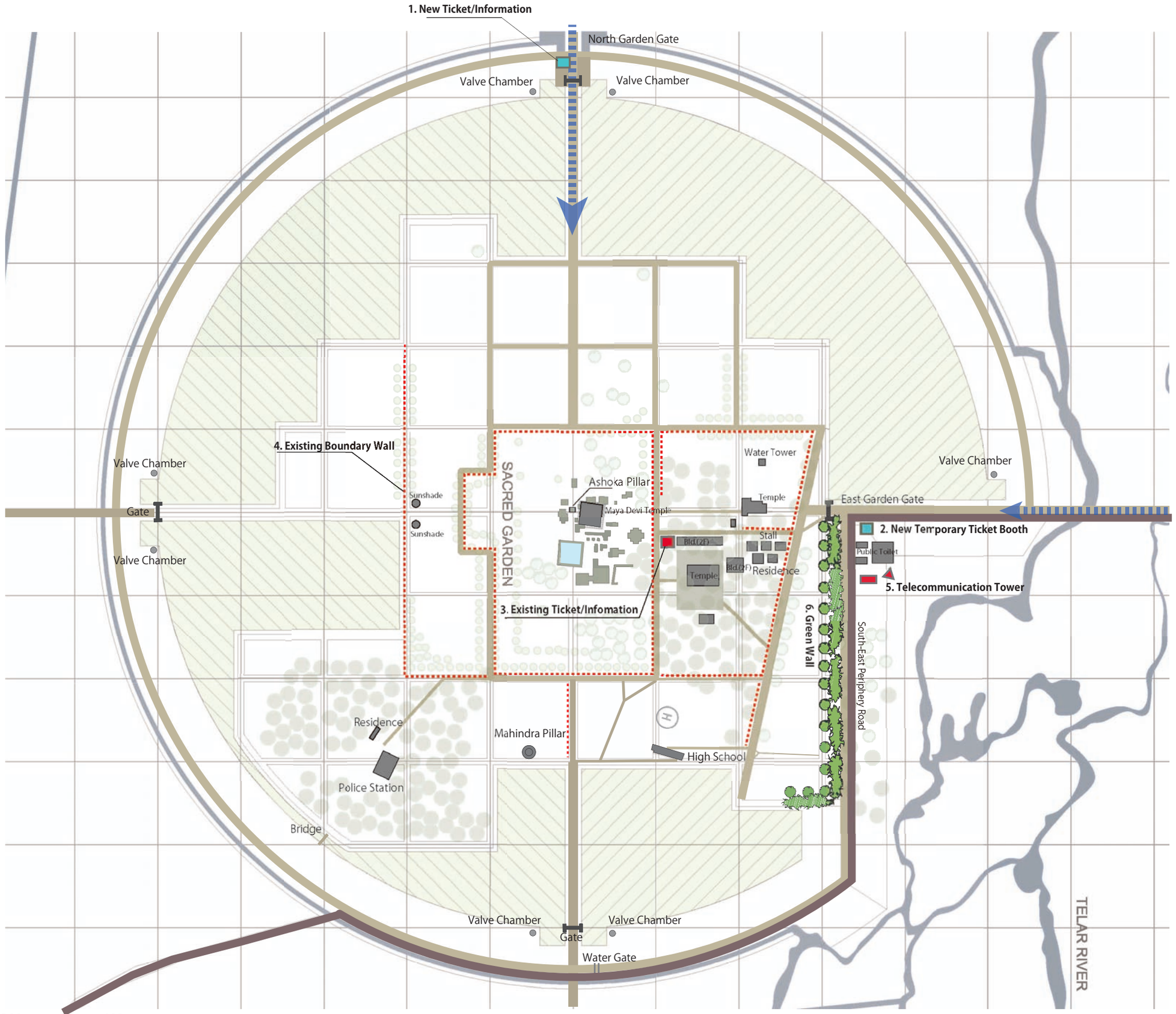
Landscape Management:

・Existing Structures & Facilities: Eliminate immediate threat to the site to preserve the visual and spiritual essence of the SG.

4. Remove all the existing boundary walls inside the SG.
5. Relocate exsiting Telecommunication Tower in the East Garden Gate.

・Greening:Create sense of isolation from surrounding environment.

6. Plant new trees along the South-East Periphery Road of SG to form a Green Wall in order to separate the existing access road for the local residents from the SG.



Legend

- Gate
- Road
- Access Road for Local Residents
- Traffic Flow
- Existing Building/Facility to be removed
- Existing Boundary walls to be removed

N

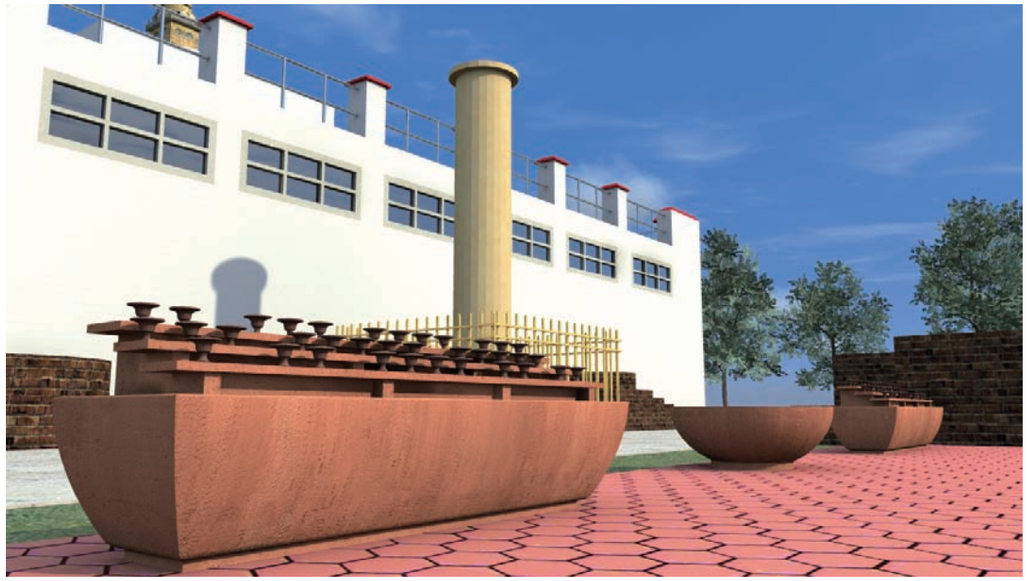
0 100 300 400m

施設計画

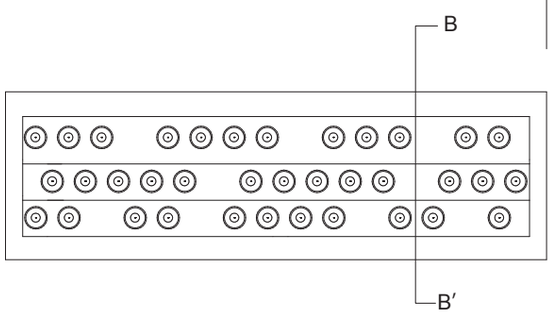
Facility Planning

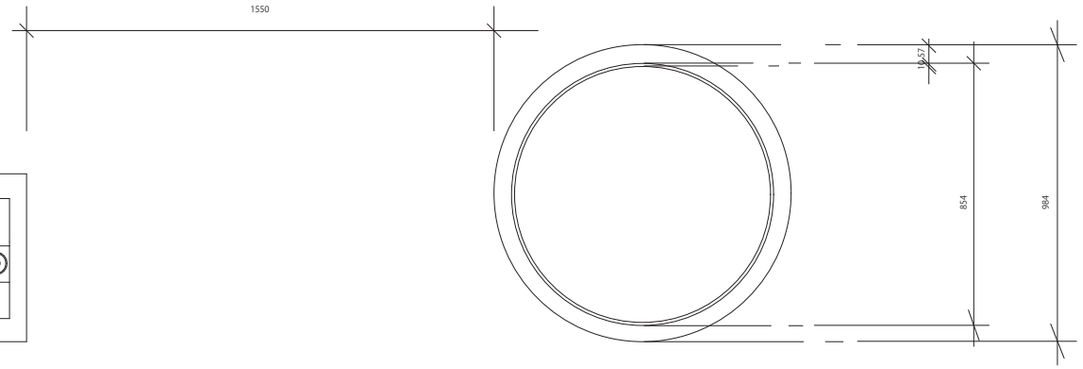
PLAN **B**

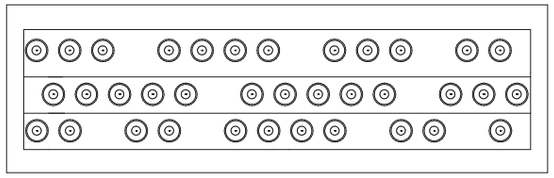
SCALE 1:20



IMAGE





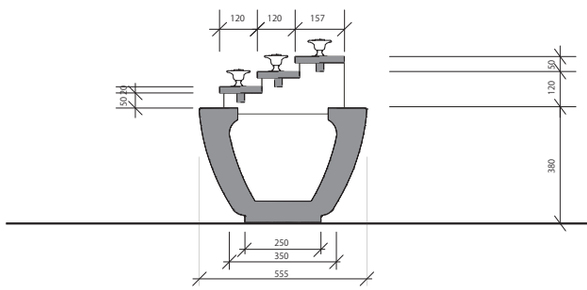


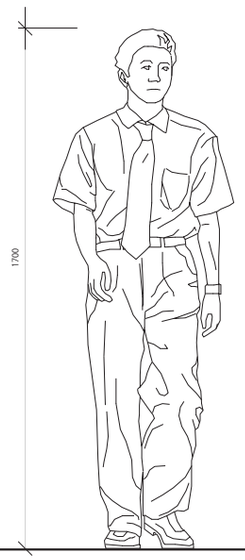
PLAN

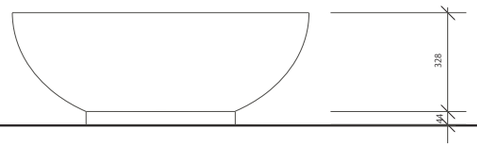
Plan B

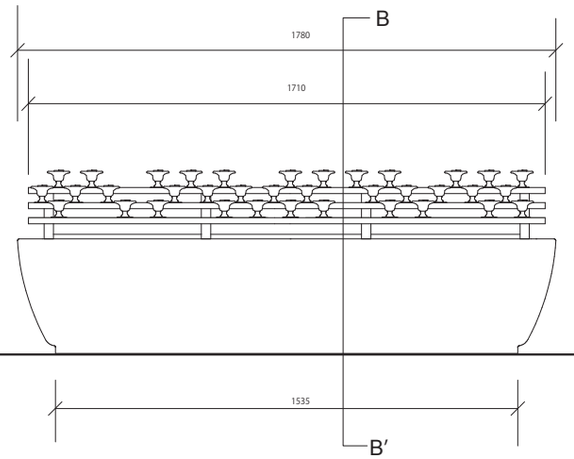
Pros: None transparent structure consistent with surrounding archaeological remains compared to Plan A, combined with relatively simple structure which is also easy for maintenance.

Cons: A few more complex parts than Plan A.





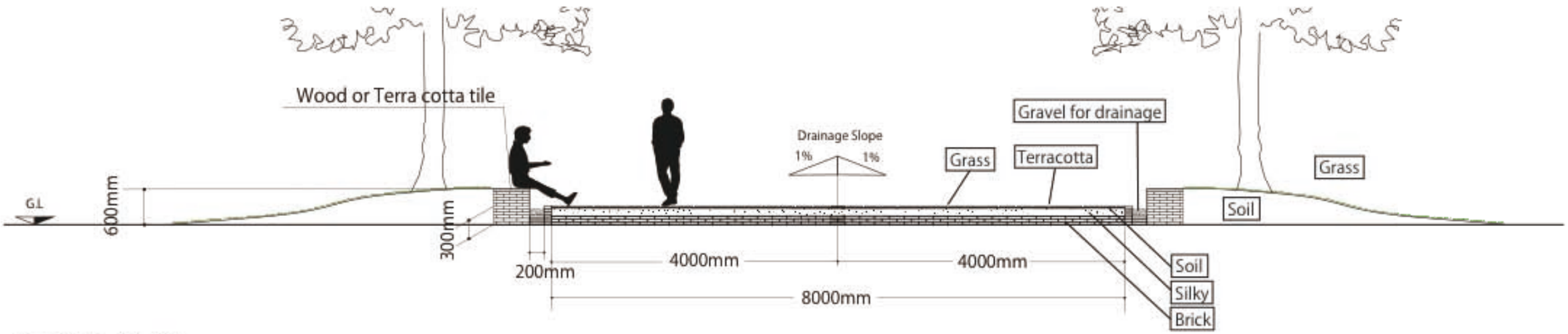




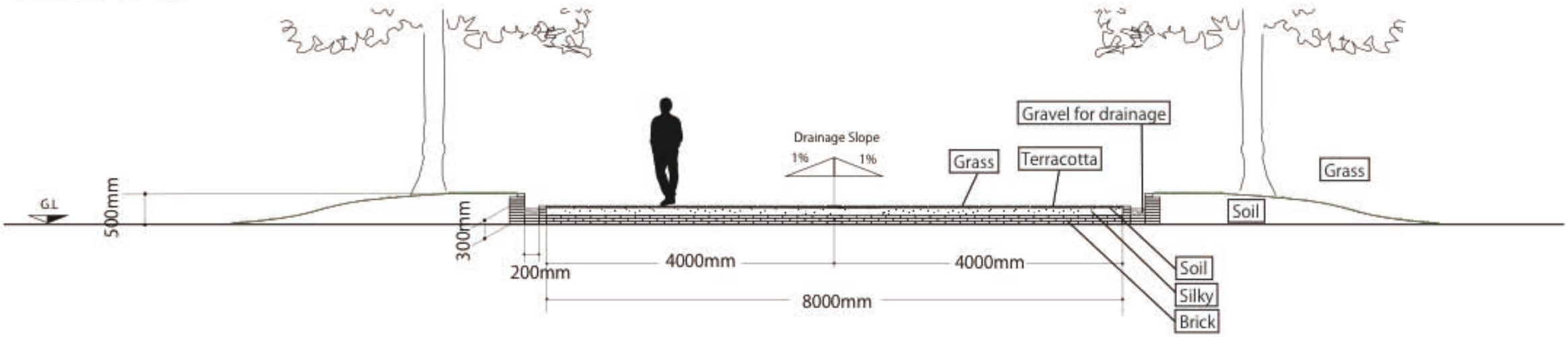
SECTION B-B'

ELEVATION

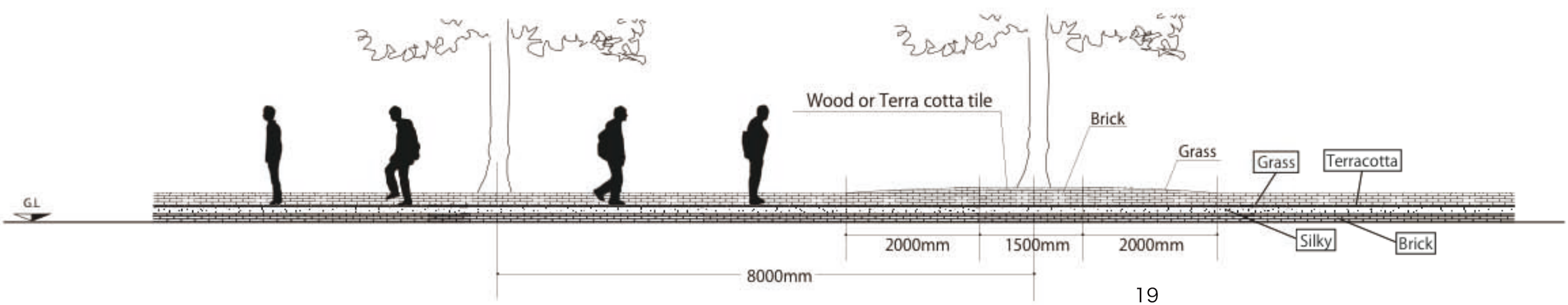
Section (A-A')



Section (B-B')

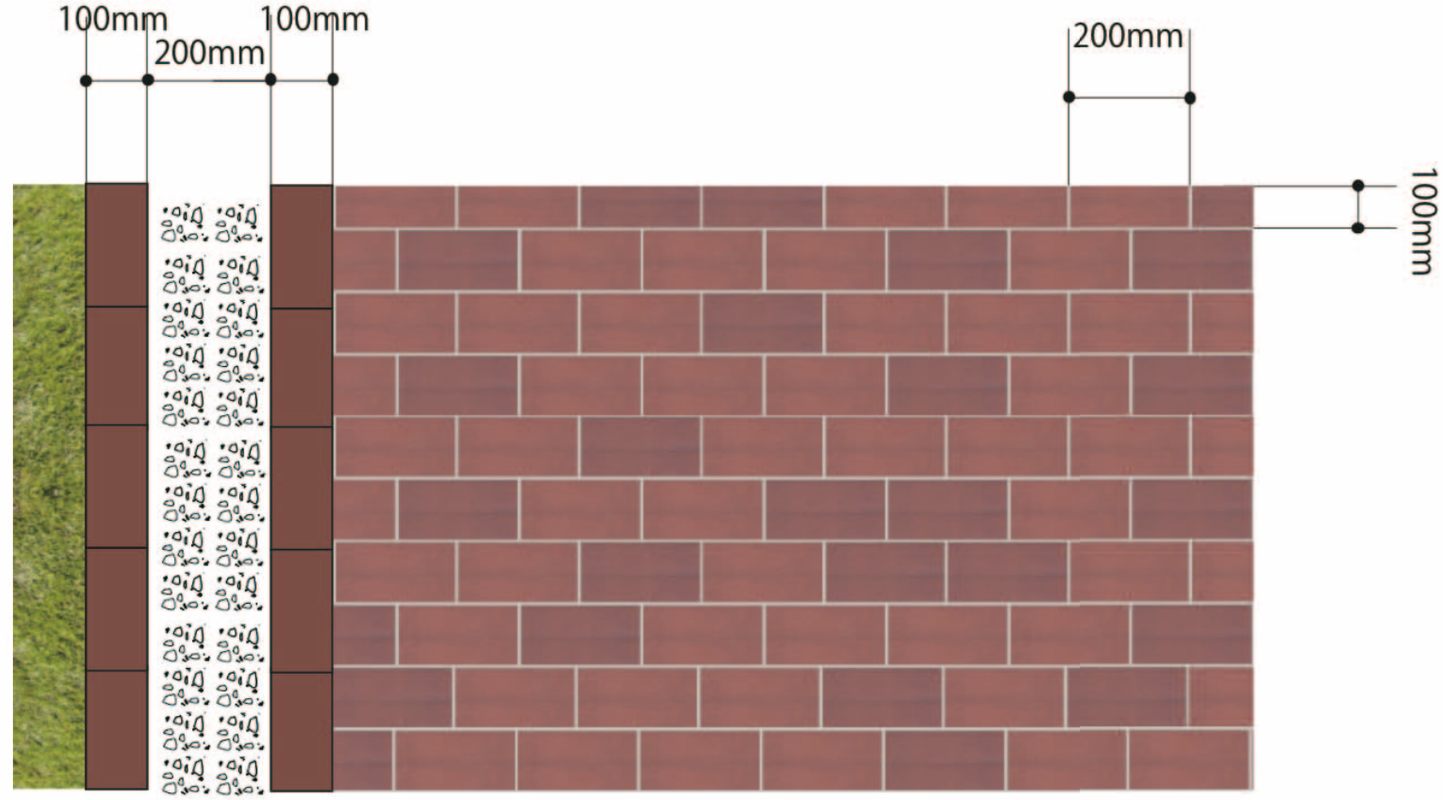


Section (C-C')

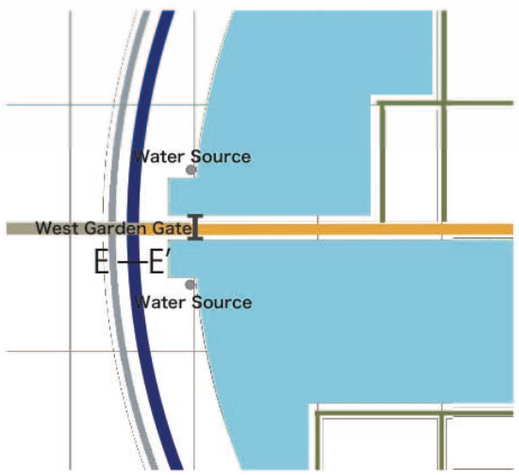


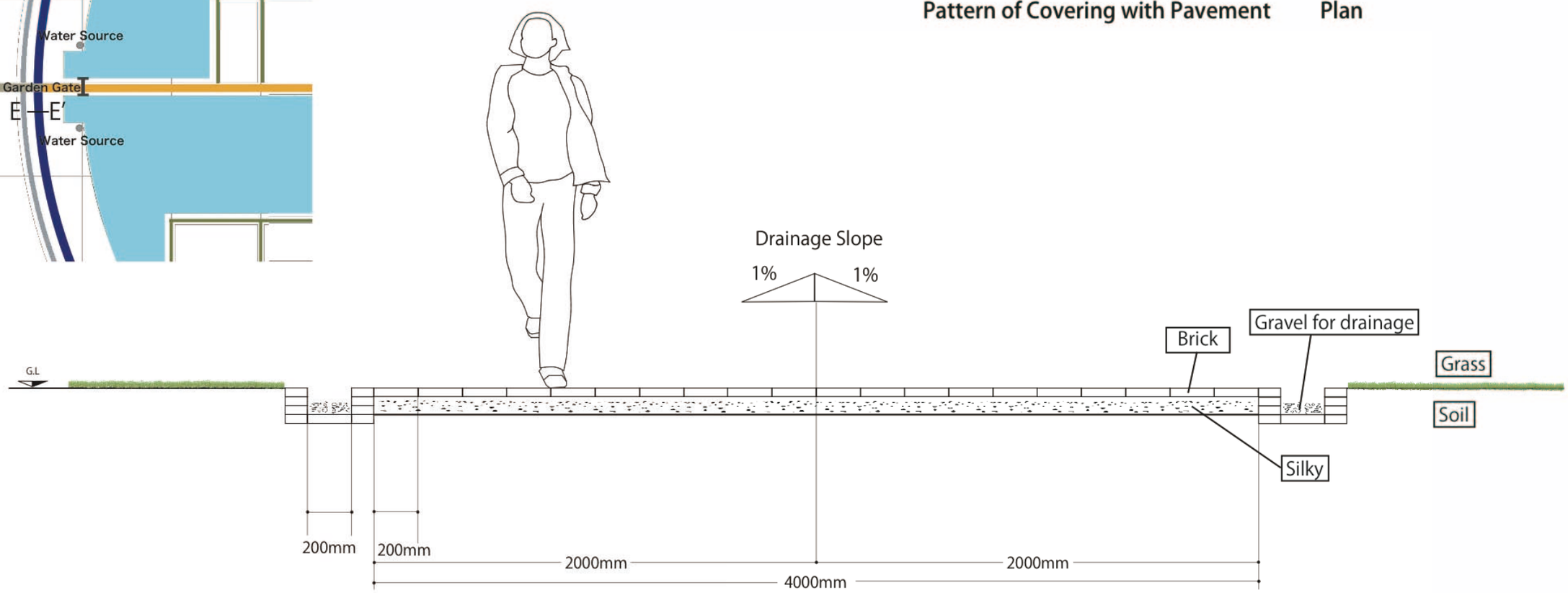
Details of Pavement (Levee)

Brick



Pattern of Covering with Pavement Plan



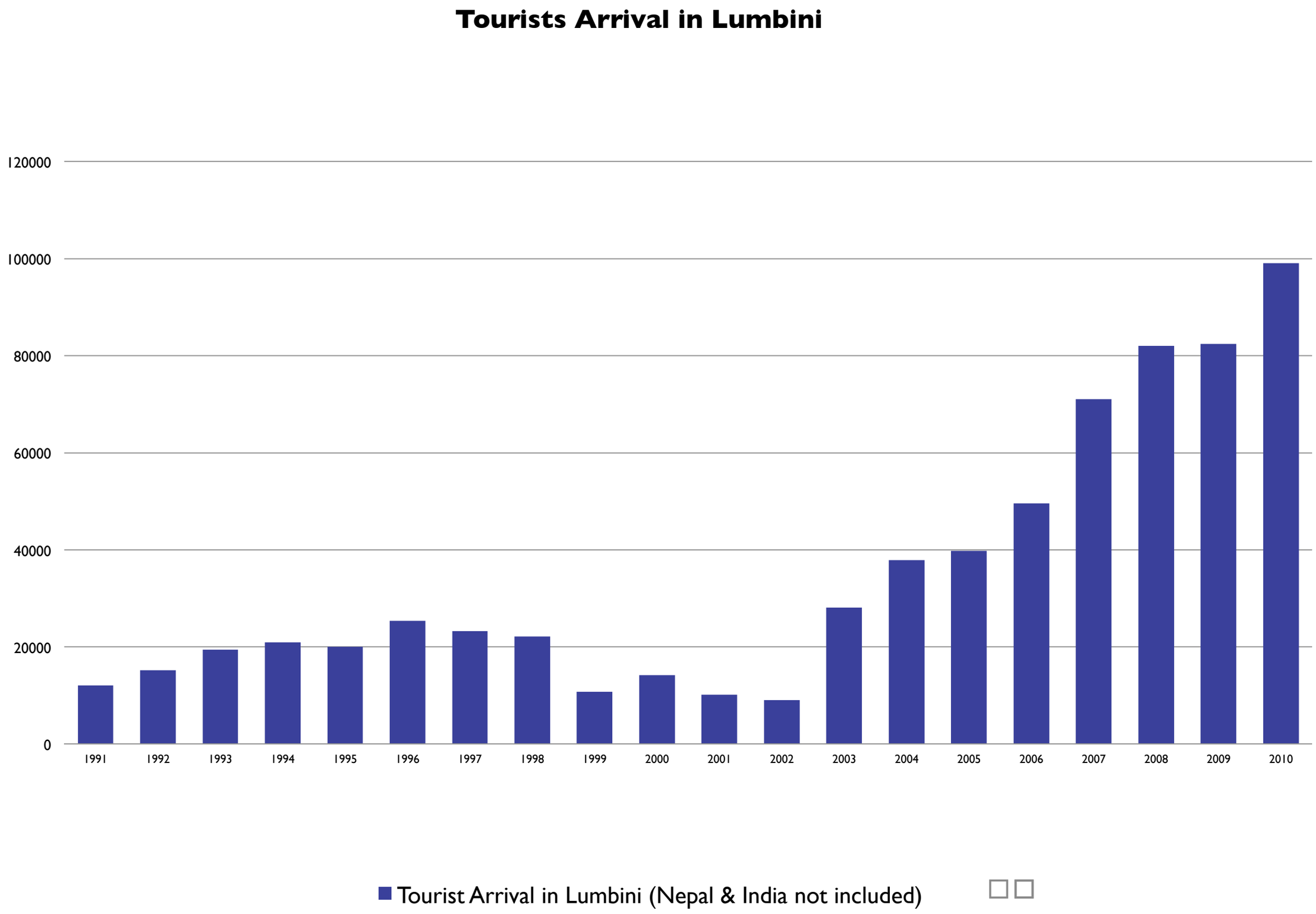


Section (E-E')

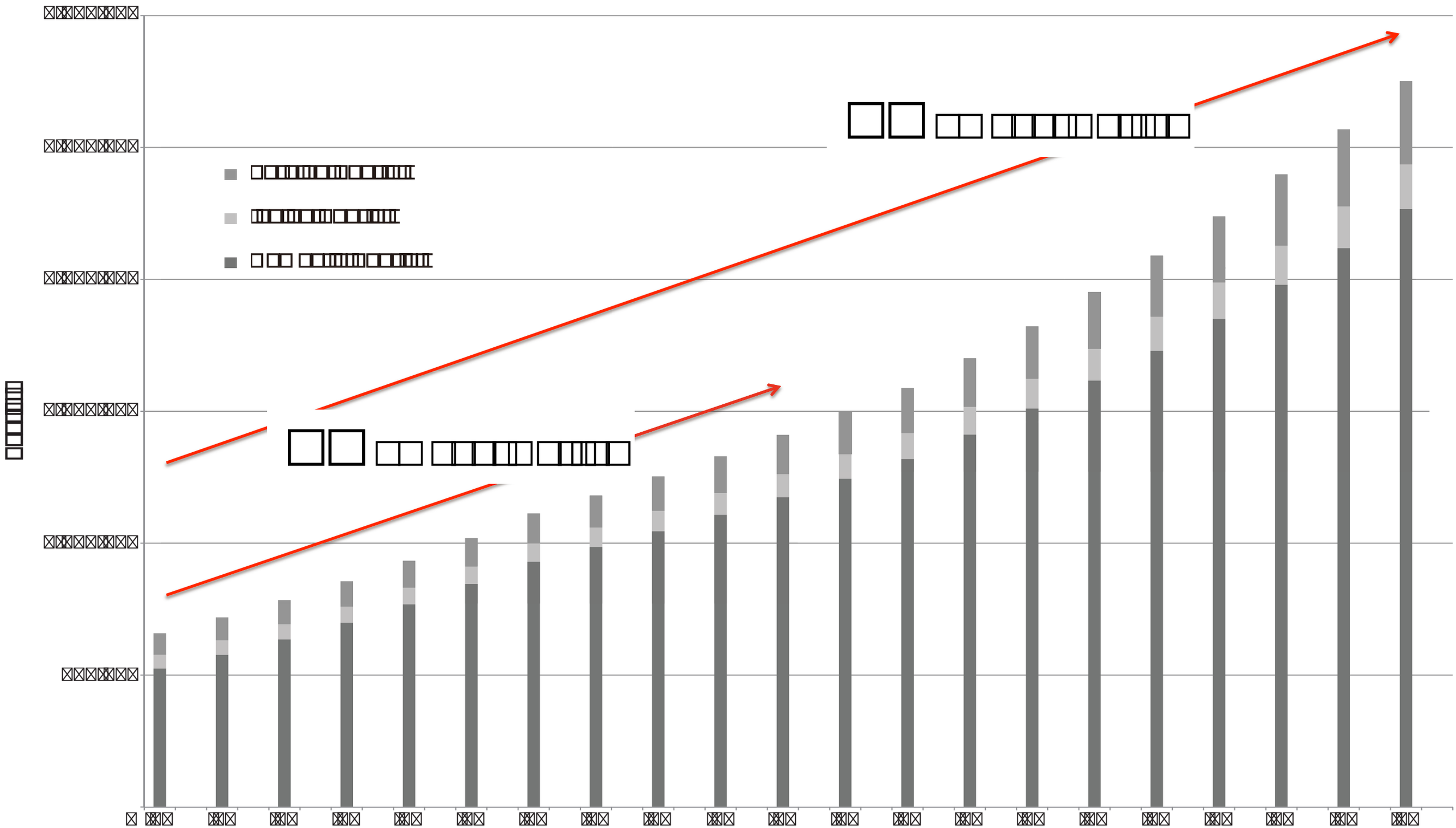
交通計画

Transport Planning

-Increasing Visitors in Lumbini (Foreign Visitors)



-Expectation of the number of the future visitors 2008~2028.



Technical Assistance Consultant's Report ,Asian Development Bank

-Survey Overview-

Understanding the traffic flow to/from SG based on the number of people going in/out from East Gate and North Gat

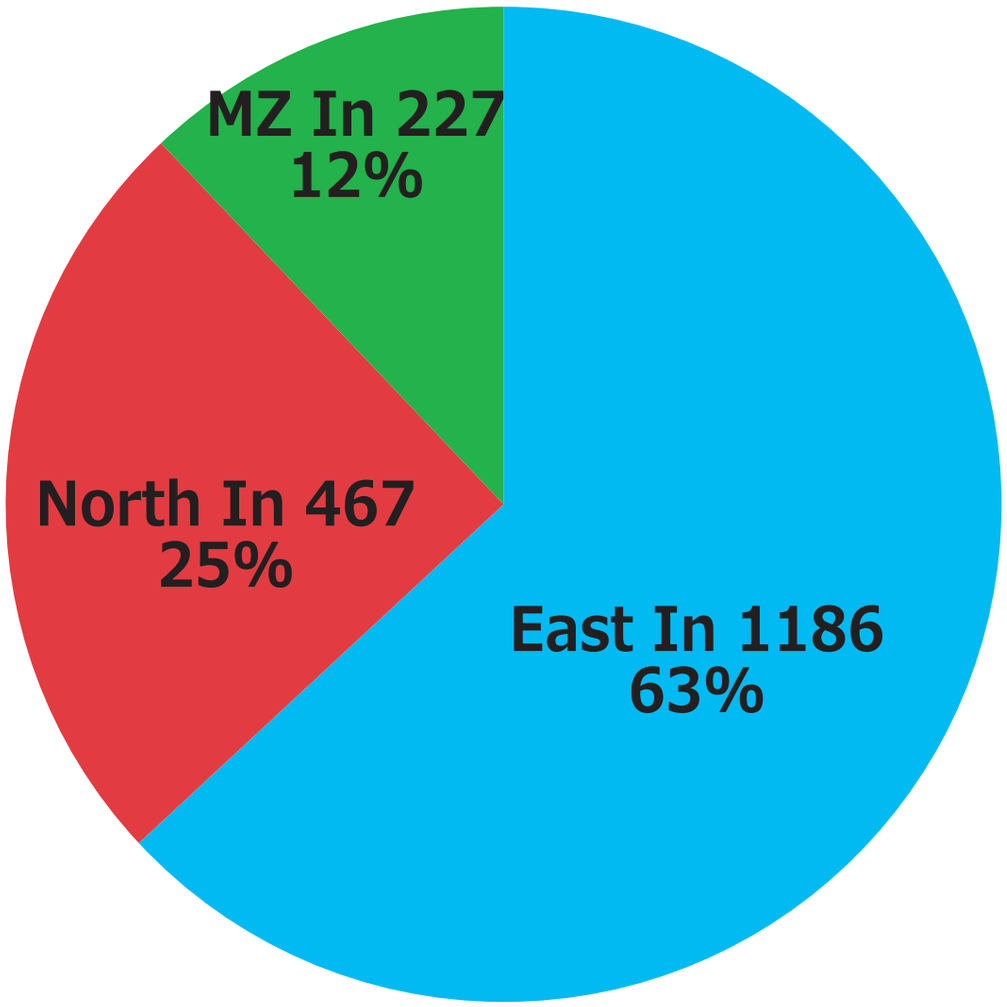
Survey Condition

29/DEC/2011 8:00-17:00
Place: East Gate, North Gate(Bridge near the Lumbini Center)
Record the number of people going in/out to SG per a hour.

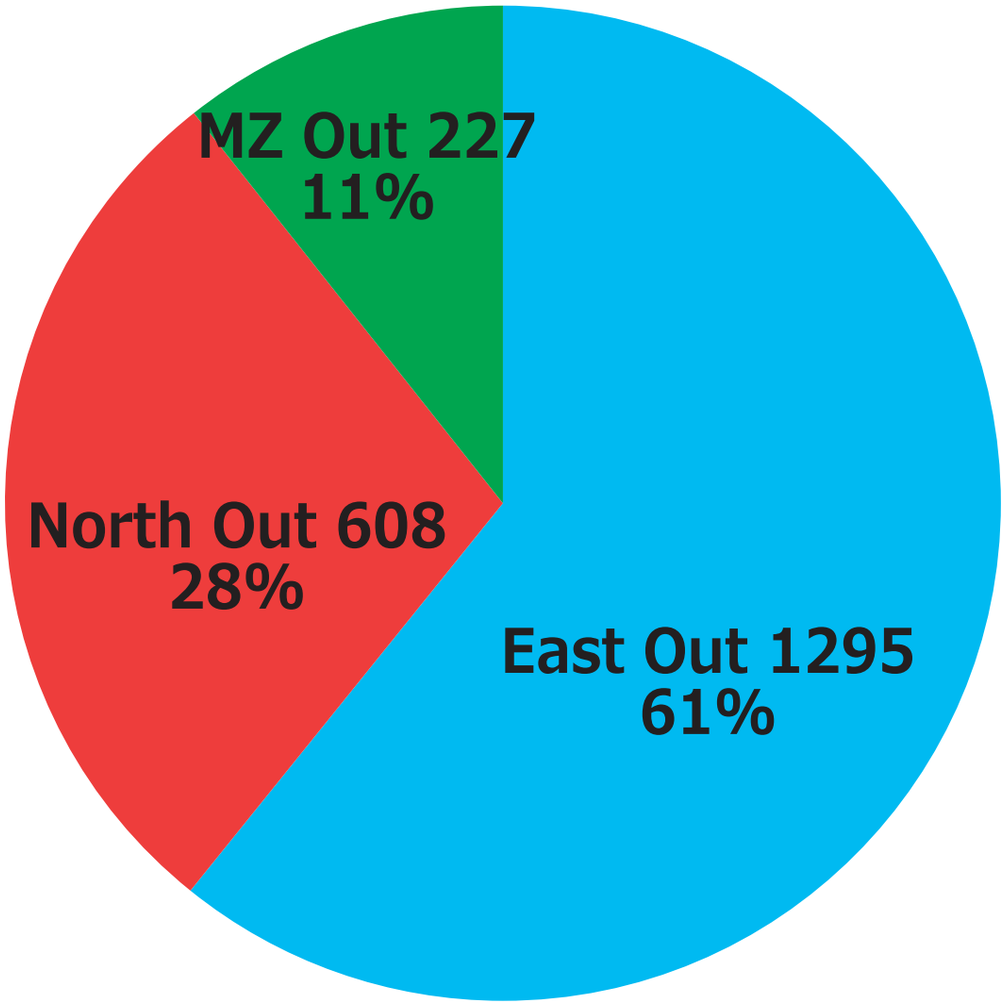
The Place of Measurement 2011, Dec, 29

-The Result of Survey-

Compared to Walking Tourists Flow



Go In (1880 persons)



Go Out(2130 persons)

In the future, we expect that about 90% visitors come from North Gate.
1300 × 90 (%) = 1170 ≒ 1200 (persons/h)

29/DEC/2011 8:00-17:00

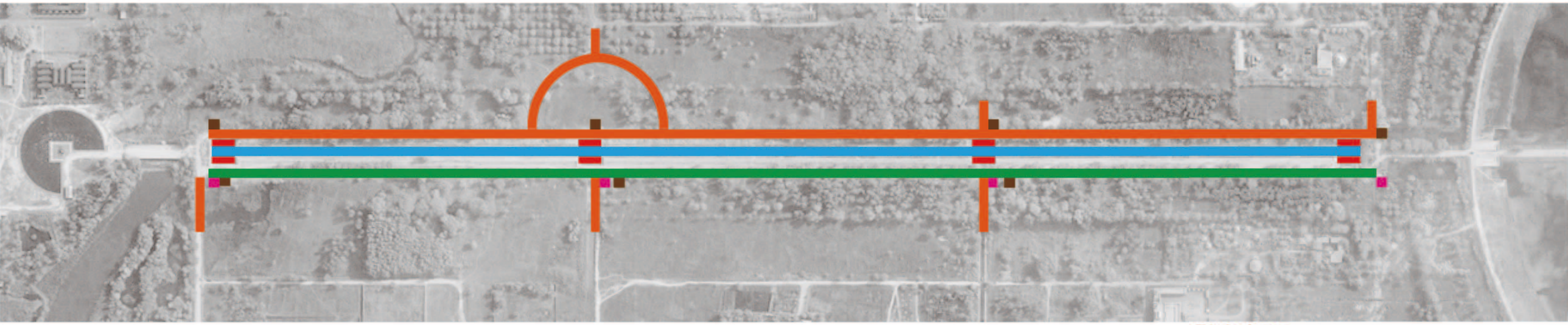
MZ In/Out: Numbers of pilgrims stayed in Temples(29th-30th)
Myanmar golden Temple:58 Korean Temple:69 Royal Thai Monastery:30 International Gantami Nuns' Temple:70

i□□□□□□□□ □□□□□□□□□

Important visual axis
重要な眺望

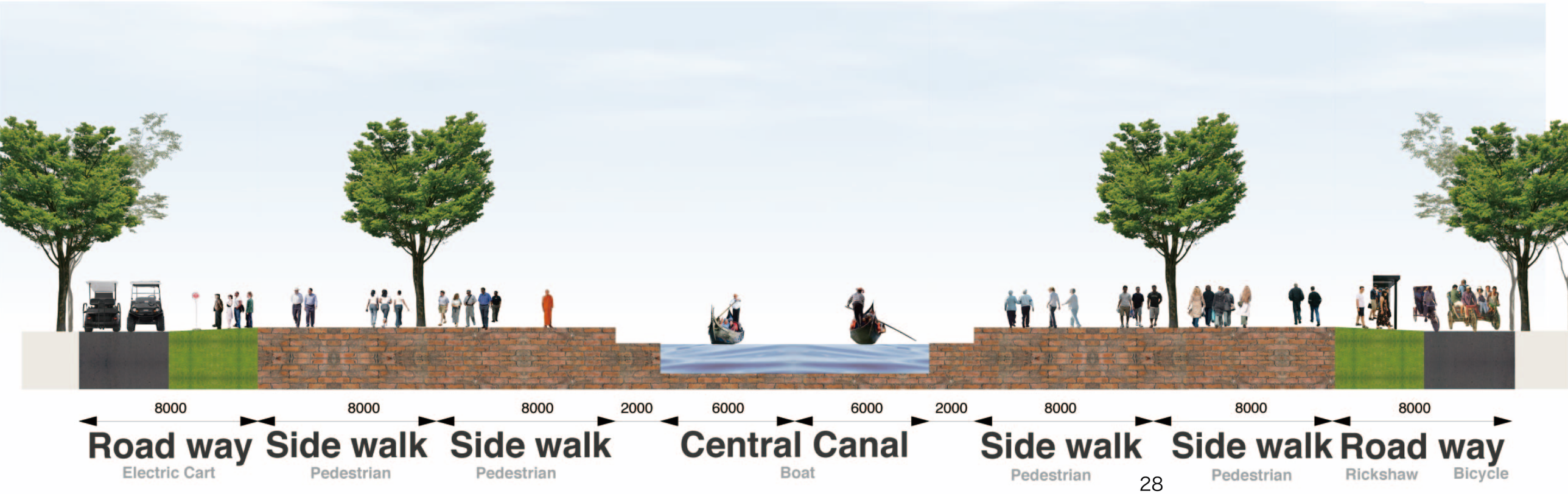
???

Route



Rickshaw Bicycle — Station
Electric Cart — Station
Boat — Pier

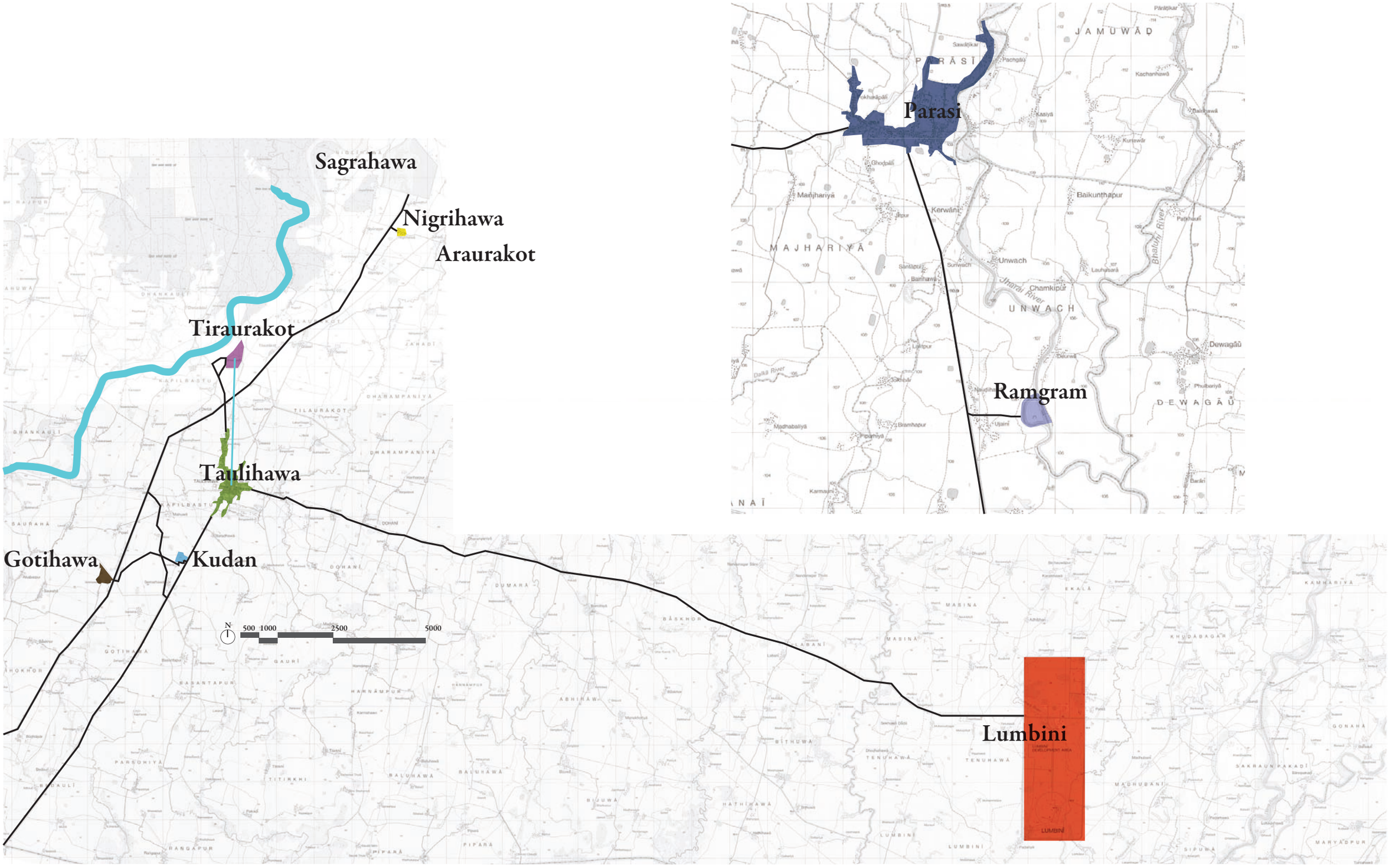
Section

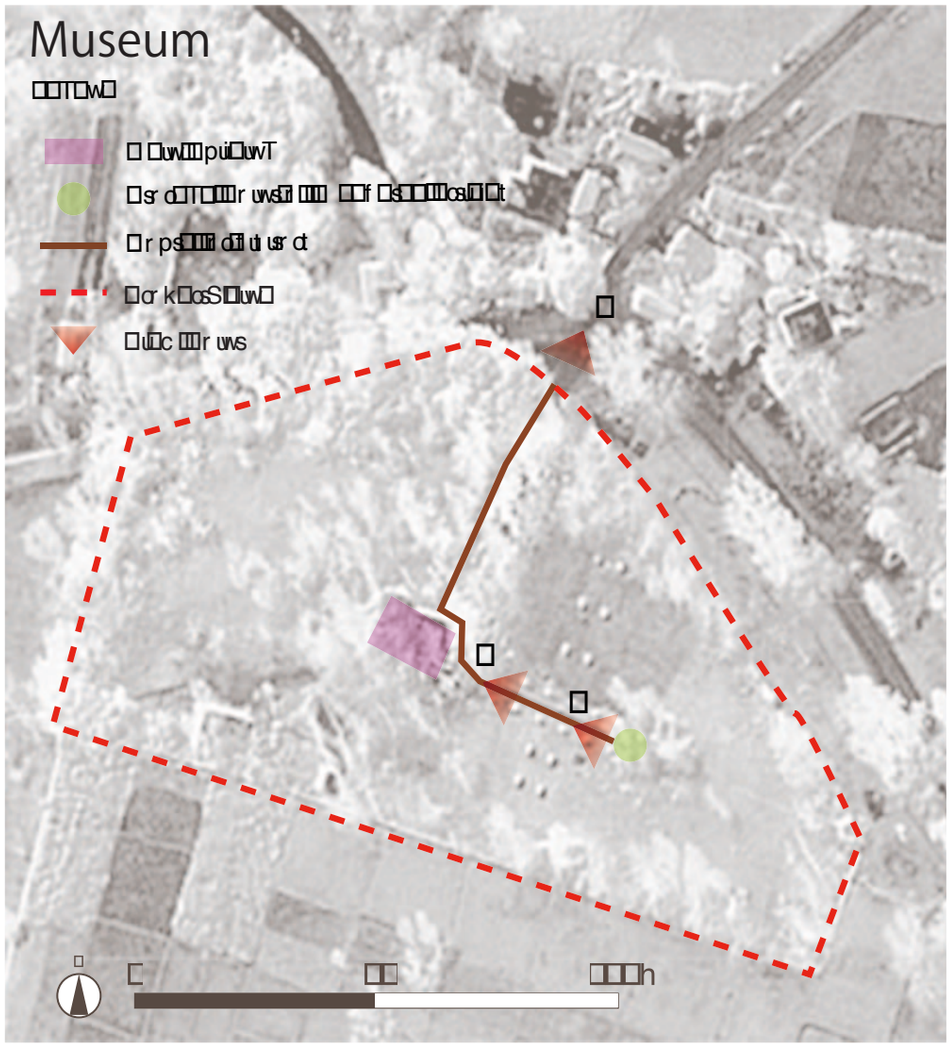


仏教遺跡群の調査

Research of buddhist sites

The region of Lumbini and its Buddhist sites





Museum

Introduction

The Kapilvastu Museum is located in the Tilaurakot area, approximately 5 km from the Kapilvastu Museum. The Kapilvastu Museum is a small museum with a collection of artifacts from the Shakya period. The museum is located in a small building and has a small collection of artifacts. The museum is located in a small building and has a small collection of artifacts. The museum is located in a small building and has a small collection of artifacts.

Conclusion

The Kapilvastu Museum is located in the Tilaurakot area, approximately 5 km from the Kapilvastu Museum. The Kapilvastu Museum is a small museum with a collection of artifacts from the Shakya period. The museum is located in a small building and has a small collection of artifacts. The museum is located in a small building and has a small collection of artifacts. The museum is located in a small building and has a small collection of artifacts.

[illegible]

[illegible]

Proposal of land use control

Core Zone

The area of Core Zone is 200m from the Monument Zone.
Since this area is also important in archaeologically and landscape, Construting and commercial activities is prohibited in this area.

Prohibited Developing Zone

To protect the surrounding environment and landscape, land use is regulated along roads, rivers and canals.
Inside this zone is essentially limited to agricultural use.
(Especially in the south and west)
Inside this zone, car traffic is prohibited.
Inside this zone, reconstruction of housing is only admited. But the building is within second floor limit.

Buffer Zone

The area of Buffer Zone is 2000m from the Monument Zone.
This zone can cover major villages near Tilaurakot to control the land use.
Basically, the development is permitted.
But the height is limited to the second floor.

Legend

- Fence
- Monument Zone
- Core Zone
- Prohibited Developing Zone
- Buffer Zone
- Residential Area
- Roadside Control Zone

丹下健三先生の意志を継いで

Succeeding the will of Kenzo Tange

その国の在り方、世界遺産の在り方を考える

今年度は、１名募集。
Any question
M2仲村(don-nakamu@ud.t.u-tokyo.ac.jp)

Privately owned Public Spaces {POPS}

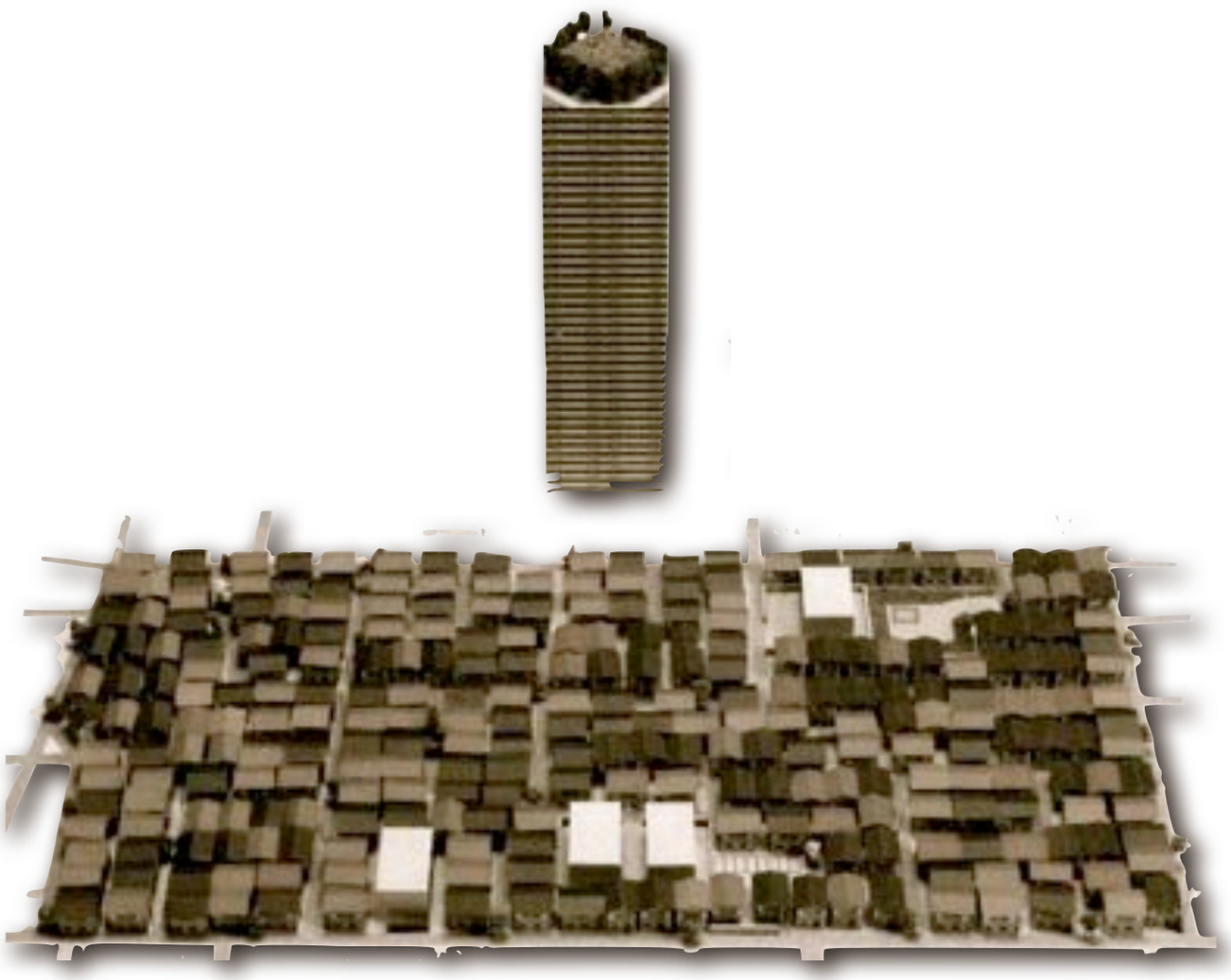
Places, People, Policies, Processes, Projects, Perspectives

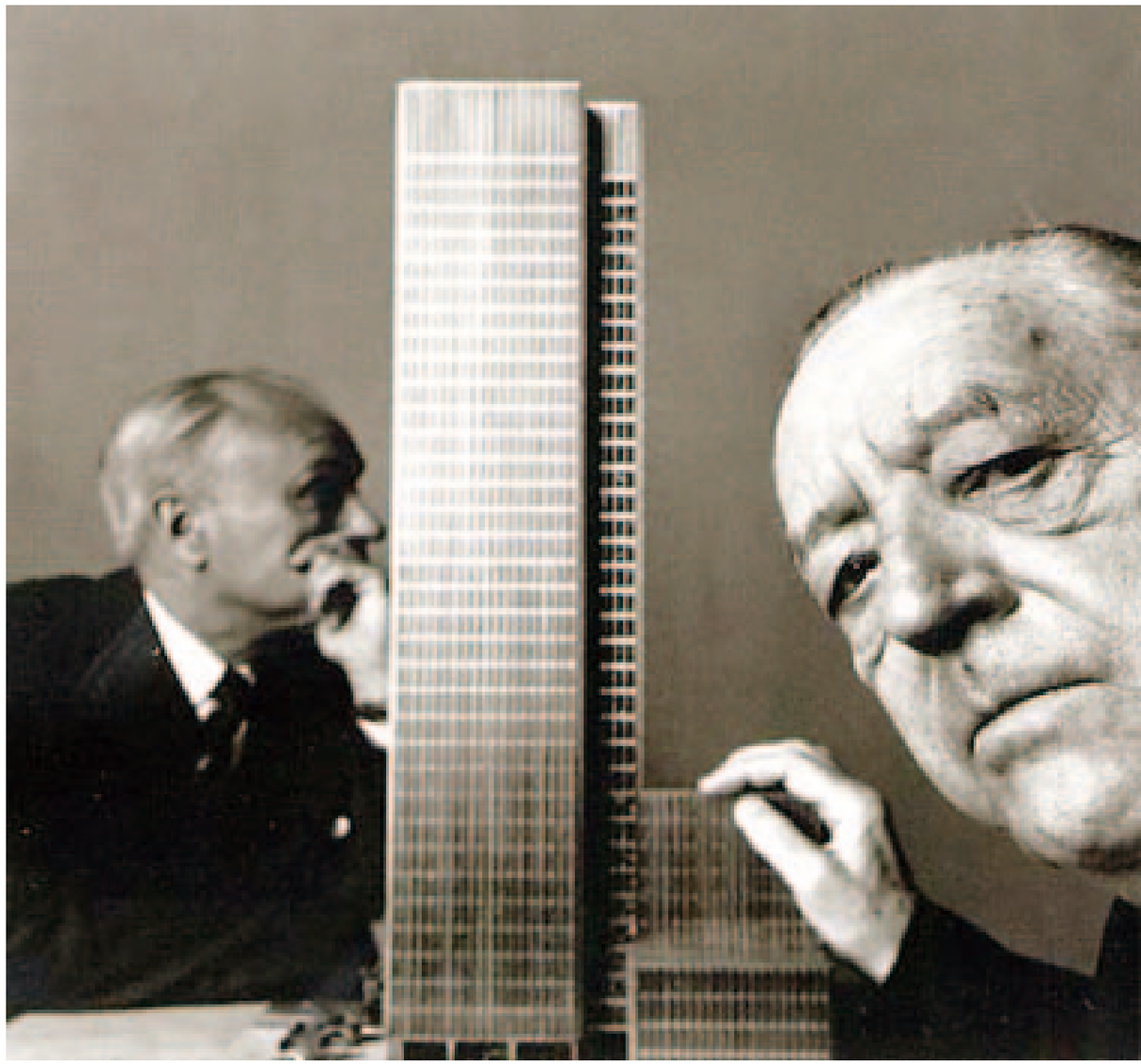
Urban Design Laboratory | Project Intoduction | April 13 2012

Group D:Planning & Design
The University of Tokyo Global Center of Excellence
for Sustainable Urban Regeneration

01. What are POPS, why and how are the produced?

What was the idea? Are the origins all the same?

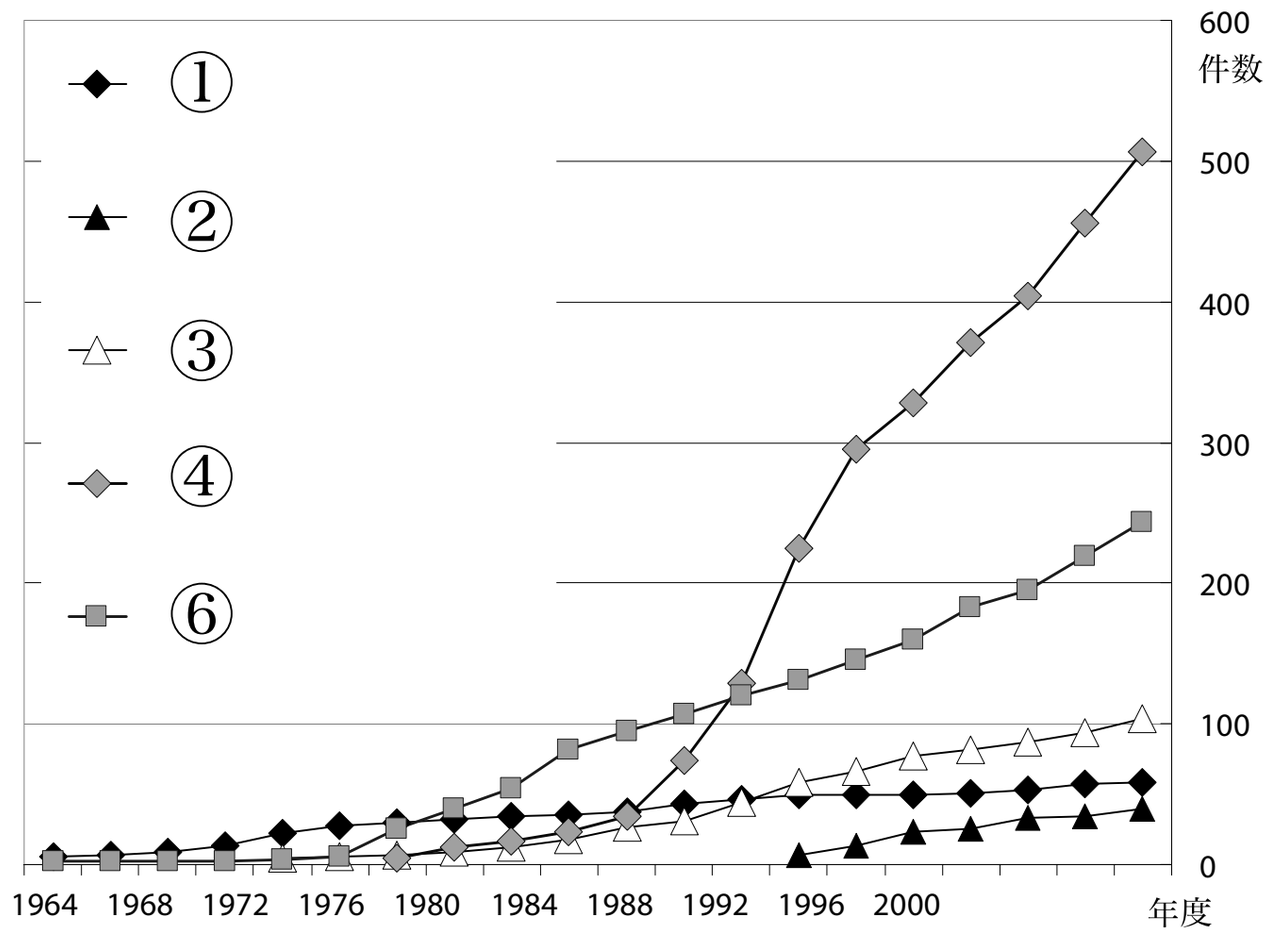




01. What are POPS, why and how are the produced?

How are POPS produced and who decides what?

kind of incentive	city plan. decision	planning instrument	legal base	number
deregulation-type	needed	① specified block (1961=1964)	BSA	58 (2003)
		② redevelopment type district plan (1988)	BSA	40 (2003)
		③ area of high landuse utilisation (1969)	BSA	104 (2003)
	not needed	④ comprehensive design system (1971)	BSA	674 (2008)
economic type		⑤ green infrastructure development plan	UGSA	5 (2004)
legal obligation type		⑥ development permit (1968)	CPA	300 (2006)



02. Why are POPS significant? Why this research? Much research, little continuity

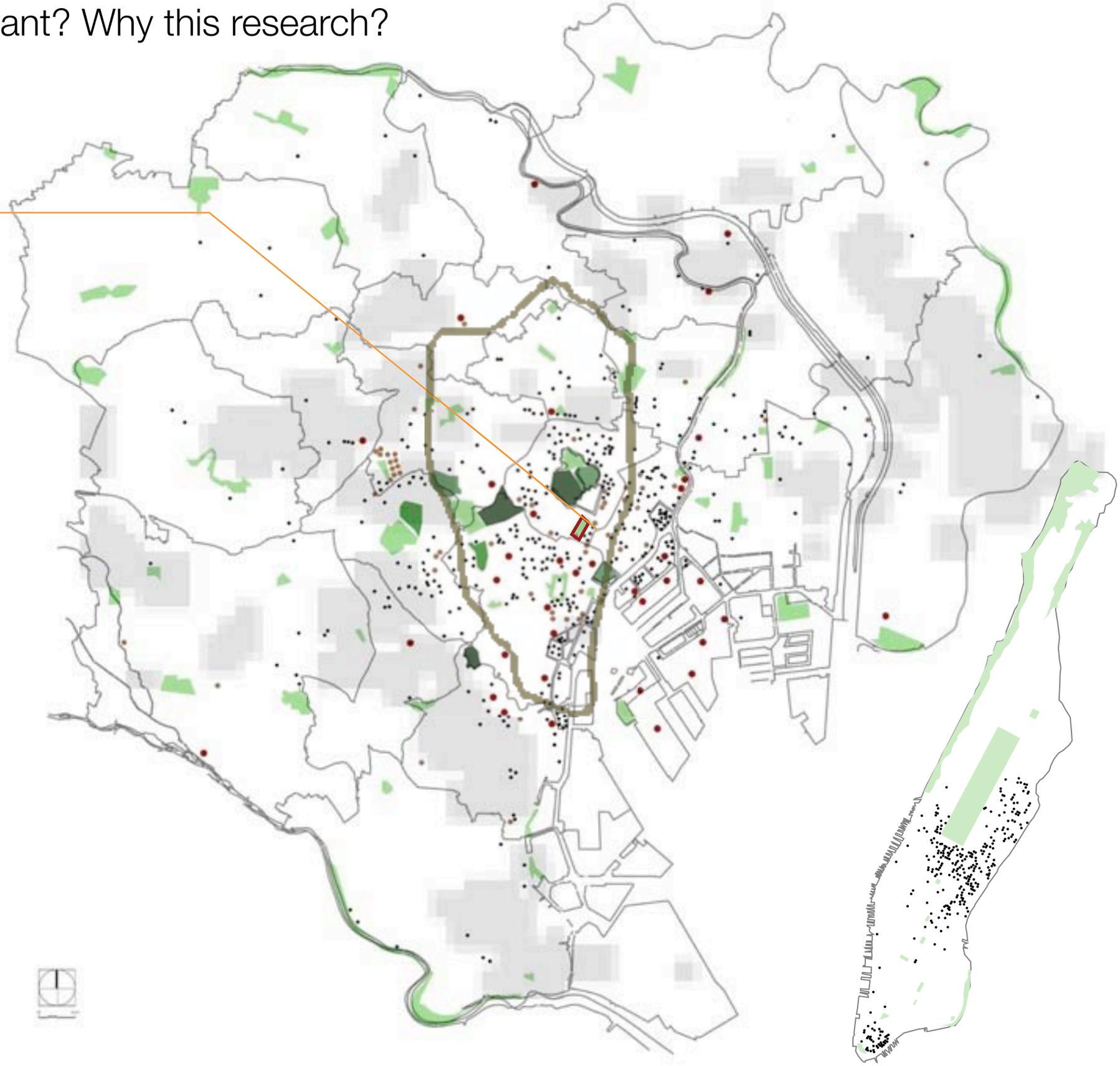
168 academic papers on ‘公開空地’ {POPS} since 1982

118 academic papers on ‘総合設計制度’ {Comprehensive Design} since 1973

... etc.

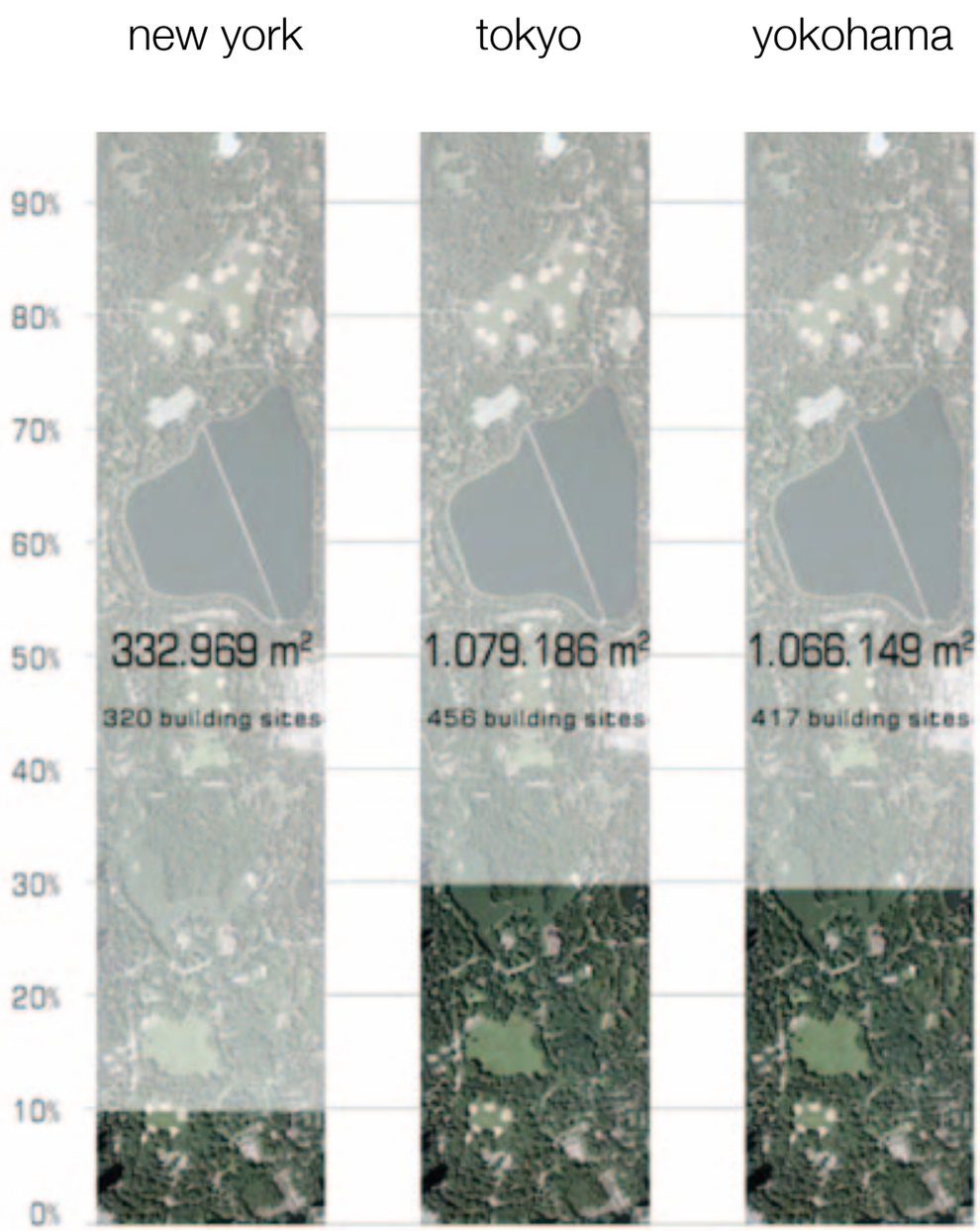
Name	Date Modified	Date Created	Size	Kind	Label	Comments
110007051356_公開空地による都心の歩行空間整備… 総合設計制度(大阪市)による歩行空間の利用実態より.pdf	2 Feb 2012 16:42	2 February 2012 16:42	569 KB	Adob...cument	--	--
110007052787_住工混在市街地における住宅系総合… - 今福地区の総合設計制度適用共同住宅の事例から.pdf	31 Jan 2012 14:49	31 January 2012 14:49	549 KB	Adob...cument	--	--
110007072927_市街地環境における公開空地の利用実態.pdf	31 Jan 2012 15:22	31 January 2012 15:21	328 KB	Adob...cument	--	--
110007074204_広島市総合設計制度許可取扱要綱の規定内容とその運用状況に関する研究.pdf	31 Jan 2012 15:19	31 January 2012 15:19	348 KB	Adob...cument	--	--
110007074226_市街地再開発事業における計画参加…運用に関する研究 - その3 公開的空地の管理・運営.pdf	31 Jan 2012 15:19	31 January 2012 15:19	279 KB	Adob...cument	--	--
110007074325_地方都市における駅前広場整備手法…1 郡山駅西口駅前広場における流動者の実態について.pdf	31 Jan 2012 15:18	31 January 2012 15:18	299 KB	Adob...cument	--	--
110007074327_マンハッタンの私有パブリックスペースに関する研究 - 3次元形態分類とその利用.pdf	31 Jan 2012 15:17	31 January 2012 15:17	279 KB	Adob...cument	--	--
110007074328_大阪・船場における制度が生み出す私有敷地内空間に関する研究.pdf	31 Jan 2012 15:13	31 January 2012 15:13	442 KB	Adob...cument	--	--
110007074344_大阪都心3地区における非隣接性土地形状に関する比較分析.pdf	31 Jan 2012 15:13	31 January 2012 15:13	496 KB	Adob...cument	--	--
110007075515_超高層集合住宅の公開空地を含む屋外空間の計画に関する研究 - その2 快適性に関する計画条件.pdf	31 Jan 2012 15:12	31 January 2012 15:12	307 KB	Adob...cument	--	--
110007075516_超高層集合住宅の公開空地を含む屋外空間の計画に関する研究 - その1 屋外空間の実態.pdf	31 Jan 2012 15:12	31 January 2012 15:12	266 KB	Adob...cument	--	--
110007132675_福岡市天神地区における「朝カフェ」による都心の魅力創出.pdf	31 Jan 2012 14:44	31 January 2012 14:43	520 KB	Adob...cument	--	--
110007566563_分譲共同住宅における公開空地の利…における公開空地の利用と管理に関する研究(その1).pdf	9 Feb 2012 11:07	9 February 2012 11:07	381 KB	Adob...cument	--	--
110007566564_分譲共同住宅における公開空地の管…共同住宅における公開空地の利用と管理に関する研究.pdf	9 Feb 2012 11:07	9 February 2012 11:07	385 KB	Adob...cument	--	--
110007566585_総合設計制度の運用状況と公開空地…における公開空地の利用と管理に関する研究 (その3).pdf	9 Feb 2012 11:07	9 February 2012 11:07	348 KB	Adob...cument	--	--
110007644856_広島市における総合設計制度に関する研究 - 制限緩和の影響・公開空地の評価.pdf	9 Feb 2012 11:23	9 February 2012 11:23	406 KB	Adob...cument	--	--
110007708482_都心型集合住宅における公開空地に関する研究.pdf	9 Feb 2012 11:03	9 February 2012 11:03	418 KB	Adob...cument	--	--
110007981396_超高層マンションにおける外部空間の特性に関する研究.pdf	31 Jan 2012 14:43	31 January 2012 14:43	270 KB	Adob...cument	--	--
110007984439_複合ビルに附随するオープンスペースの構成要素と利用実態.pdf	31 Jan 2012 14:43	31 January 2012 14:43	406 KB	Adob...cument	--	--
110007984539_空地視認度による公開空地の評価に関する基礎的研究.pdf	31 Jan 2012 14:42	31 January 2012 14:42	197 KB	Adob...cument	--	--
110007984617_都心における公開空地の活用実態と… - 大阪市北区・中央区のイベント活用を事例として.pdf	31 Jan 2012 14:41	31 January 2012 14:40	299 KB	Adob...cument	--	--
110007984733_高層集合住宅の公開空地における部外者の利用実態に関する研究.pdf	31 Jan 2012 14:46	31 January 2012 14:46	225 KB	Adob...cument	--	--
110008012959_公開空地の実態と計画課題に関する研究 -札幌市の場合- - 地区・街区の景観計画に関する研究.pdf	9 Feb 2012 11:00	9 February 2012 10:59	537 KB	Adob...cument	--	--
110008013041_133 歩行者の意識から見た公開空地…る考察 - 地区・街区の景観計画に関する研究 その3.pdf	9 Feb 2012 10:58	9 February 2012 10:58	582 KB	Adob...cument	--	--
110008013289_公開空地の空間実態と利用特性 - 地区・街区の景観計画に関する研究.pdf	9 Feb 2012 11:02	9 February 2012 11:02	442 KB	Adob...cument	--	--
110008112014_パブリックスペースにおける環境デザイン評価に関する研究.pdf	31 Jan 2012 14:46	31 January 2012 14:46	332 KB	Adob...cument	--	--
110008112024_平面形態と利用実態からみた公開空地の性質について - 東京都千代田区を対象として.pdf	31 Jan 2012 14:46	31 January 2012 14:46	688 KB	Adob...cument	--	--
110008112420_東京・月島地区における外部空間の…層集合住宅の特徴的な対人的環境に関する研究 その4.pdf	31 Jan 2012 14:45	31 January 2012 14:45	279 KB	Adob...cument	--	--

02. Why are POPS significant? Why this research?



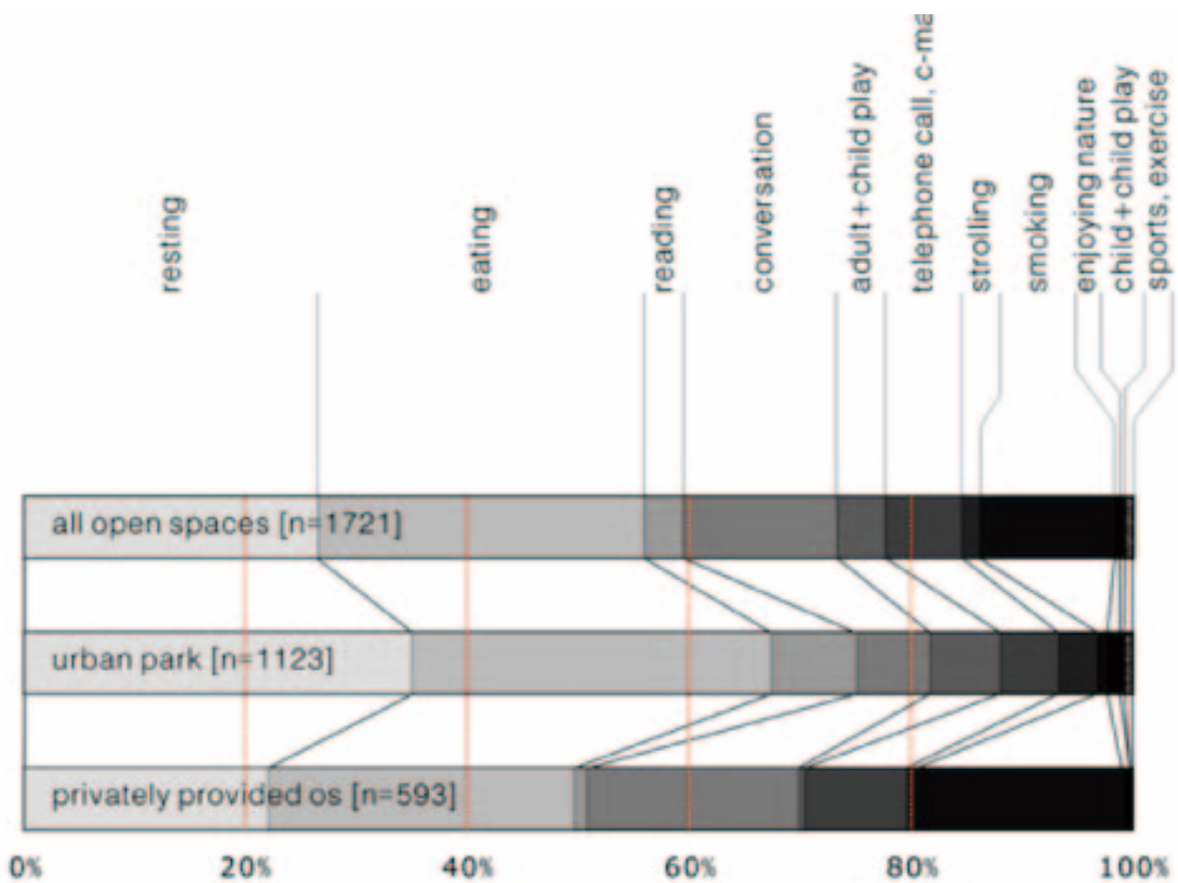
more than 694 places, equaling 11.5 x hibiya park (16ha) (2008)

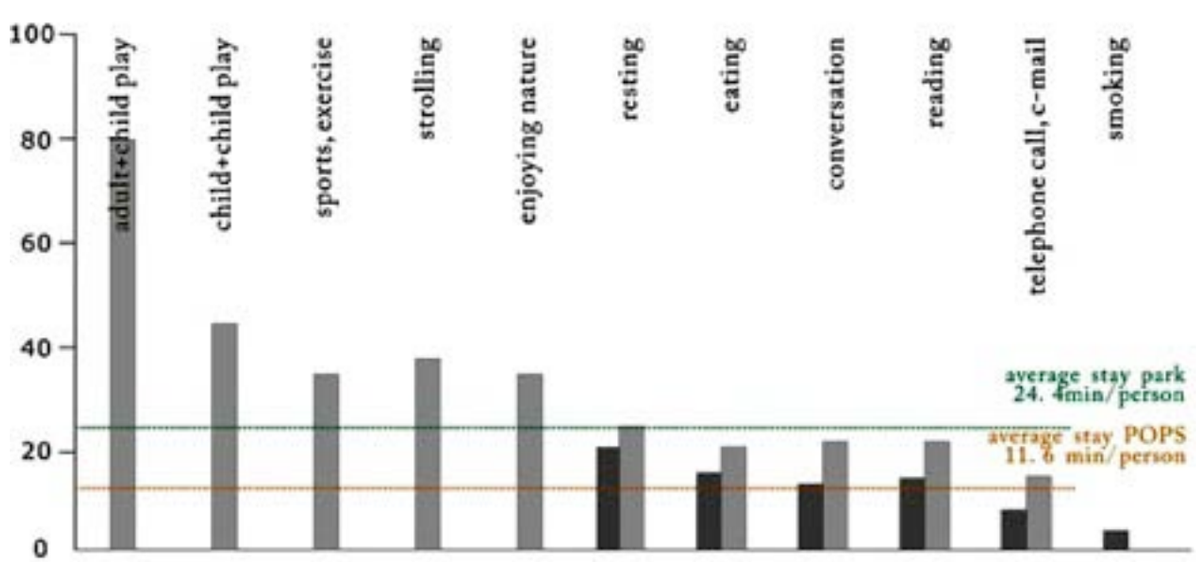
02. Why are POPS significant? Why this research?



new york		tokyo		yokohama	
1056.0	mean	2598.3	mean	2720.8	mean
646.6	median	1368.9	median	1270.0	median
47.4	smallest	171.0	smallest	65.54	smallest
12847.8	biggest	49687.4	biggest	26653.3	biggest
47.4	10 smallest	171.0	10 smallest	65.5	10 smallest
74.0		176.5		74.8	
78.7		197.5		77.8	
100.4		211.6		87.0	
102.7		213.7		91.1	
107.6		218.3		97.3	
123.2		231.7		98.7	
130.5		234.3		99.4	
131.9		237.6		103.6	
135.8		240.8		104.3	
3934.5	10 biggest	13272.3	10 biggest	16334.3	10 biggest
4538.2		13910.0		16774.2	
4789.2		14422.2		17777.7	
4802.1		17407.6		18675.2	
5014.3		18485.0		20912.0	
5058.0		20807.9		21948.1	
5234.1		22886.8		24492.0	
6902.5		24911.0		25005.0	
8500.1		34065.1		25124.0	
12847.8		49687.4		26653.3	

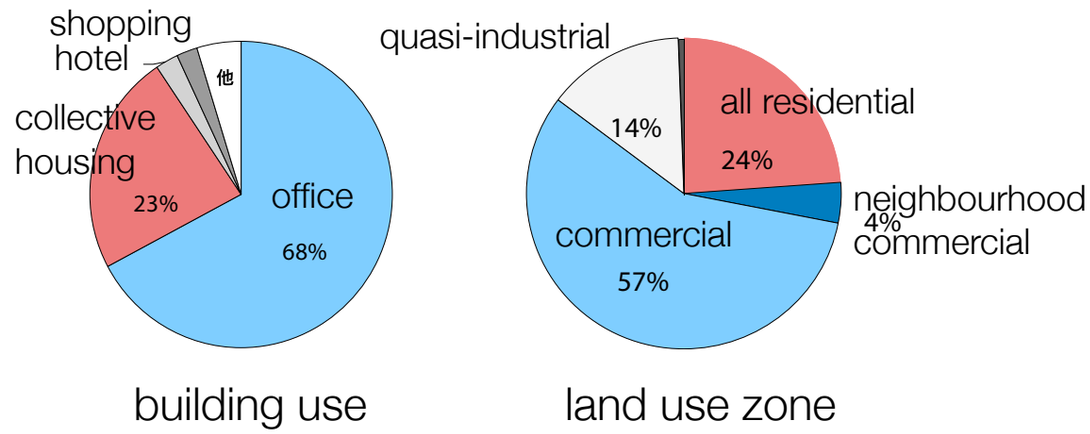
02. Why are POPS significant? Why this research?

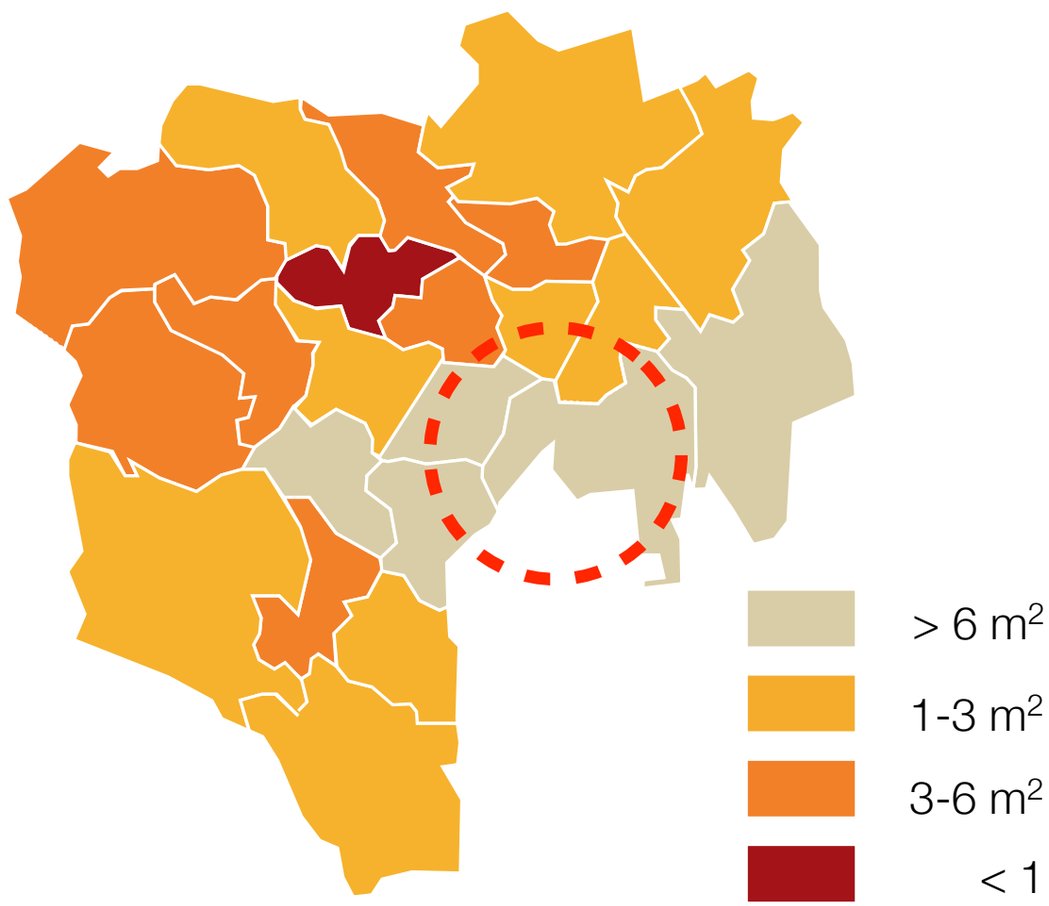




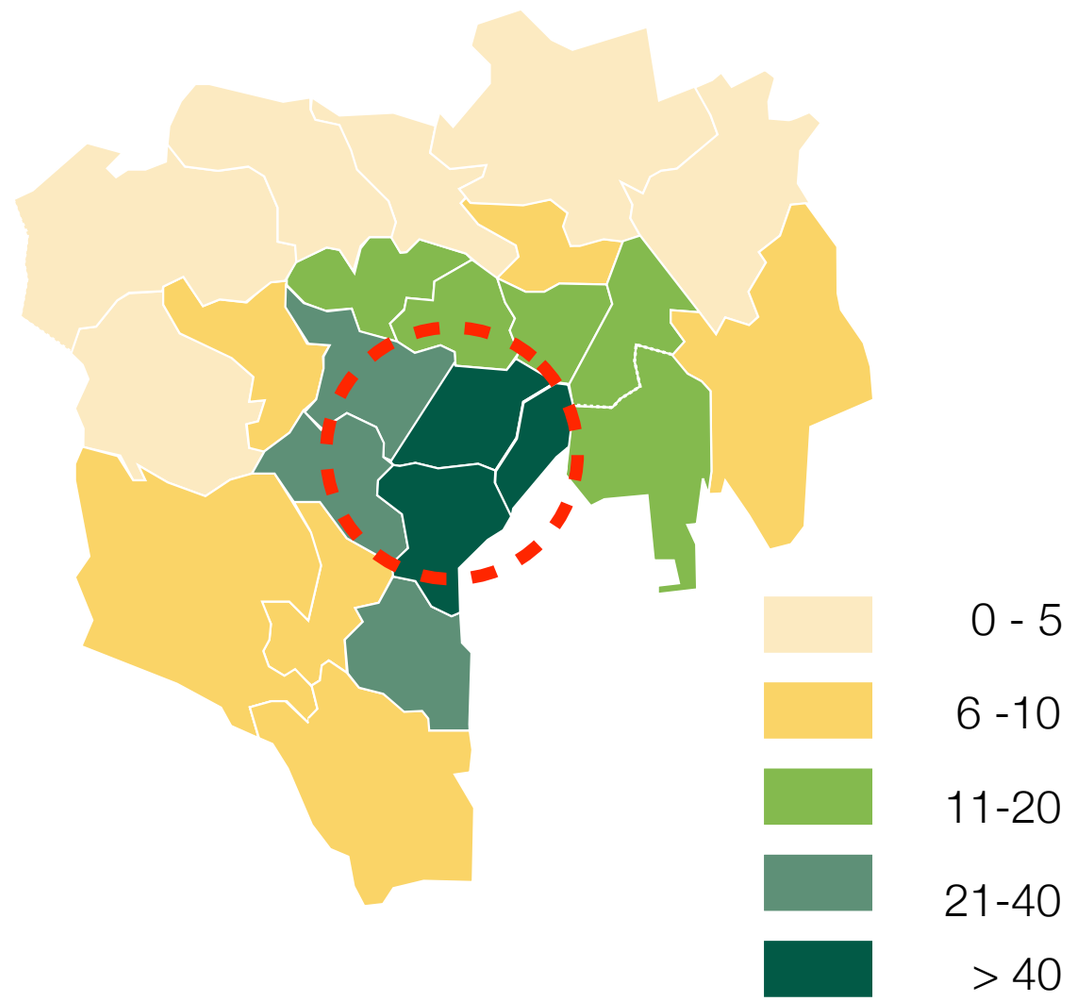
matsushita et al 2003

02. Why are POPS significant? Why this research?





public parks per capita in central tokyo (in m^2)



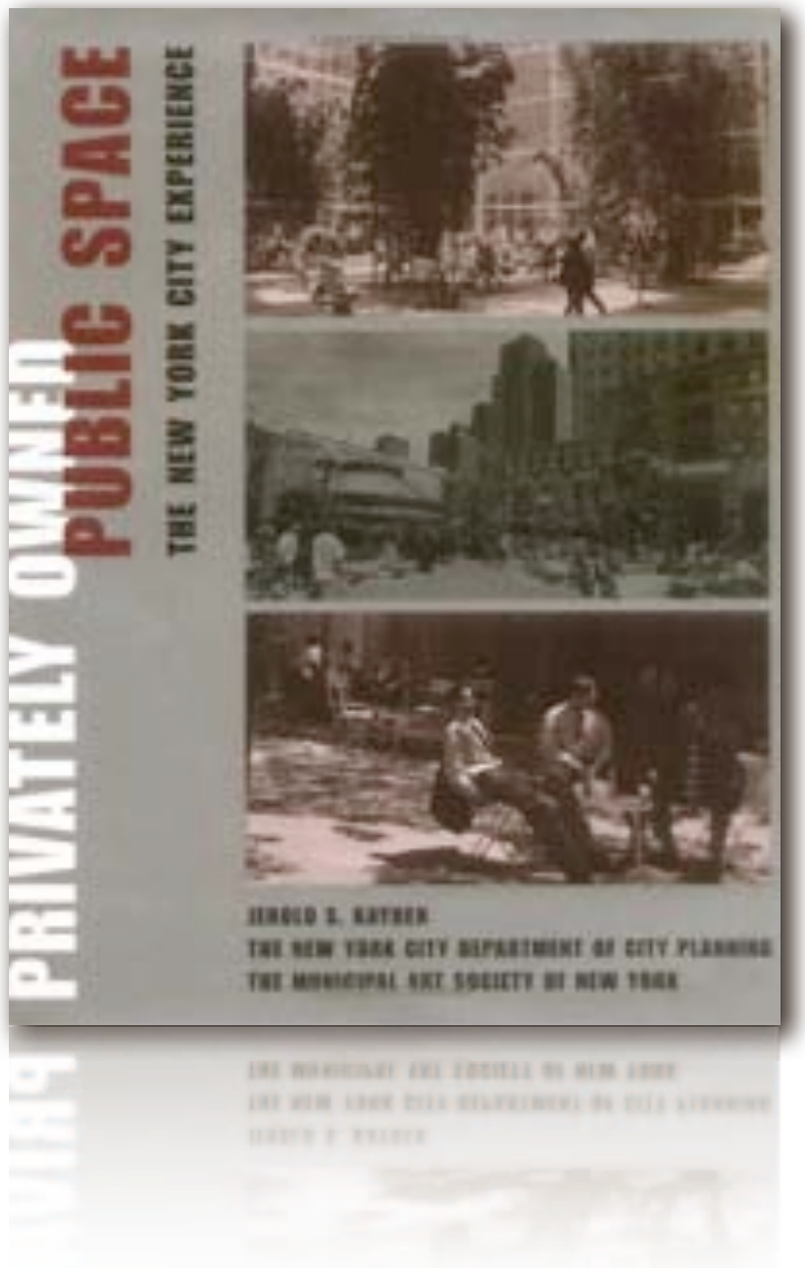
number of comprehensive designs in central tokyo

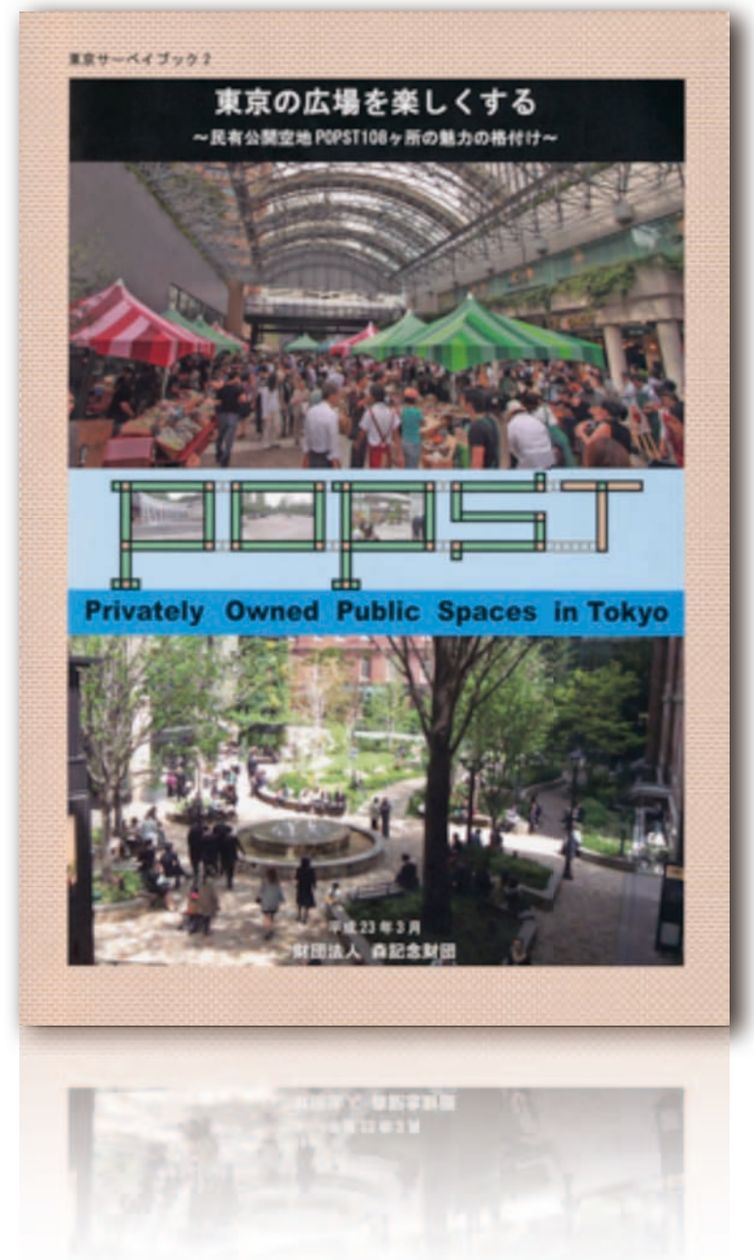
02. Why are POPS significant? Why this research?

Who should decide how we use public space?

02. Why are POPS significant? Why this research?

Need to take Stock: What is produced where? By whom? How? With what Effect?



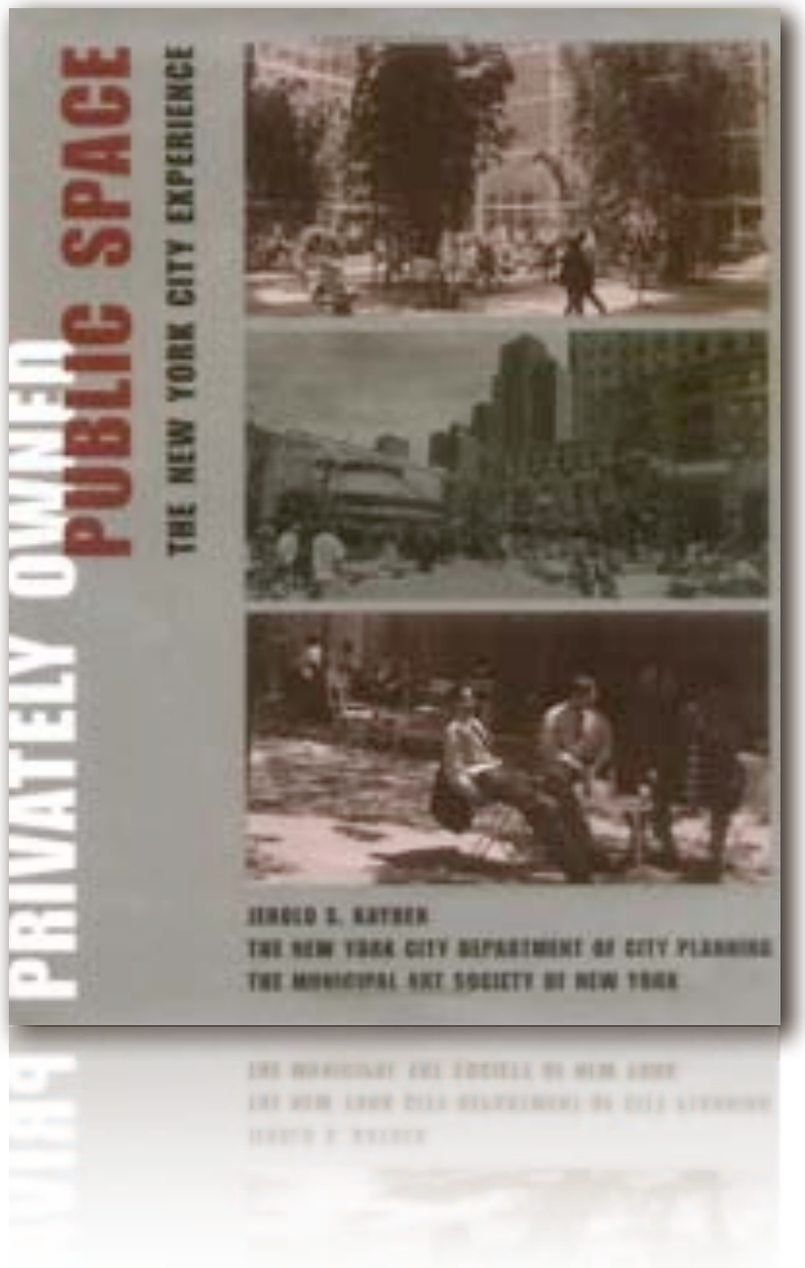


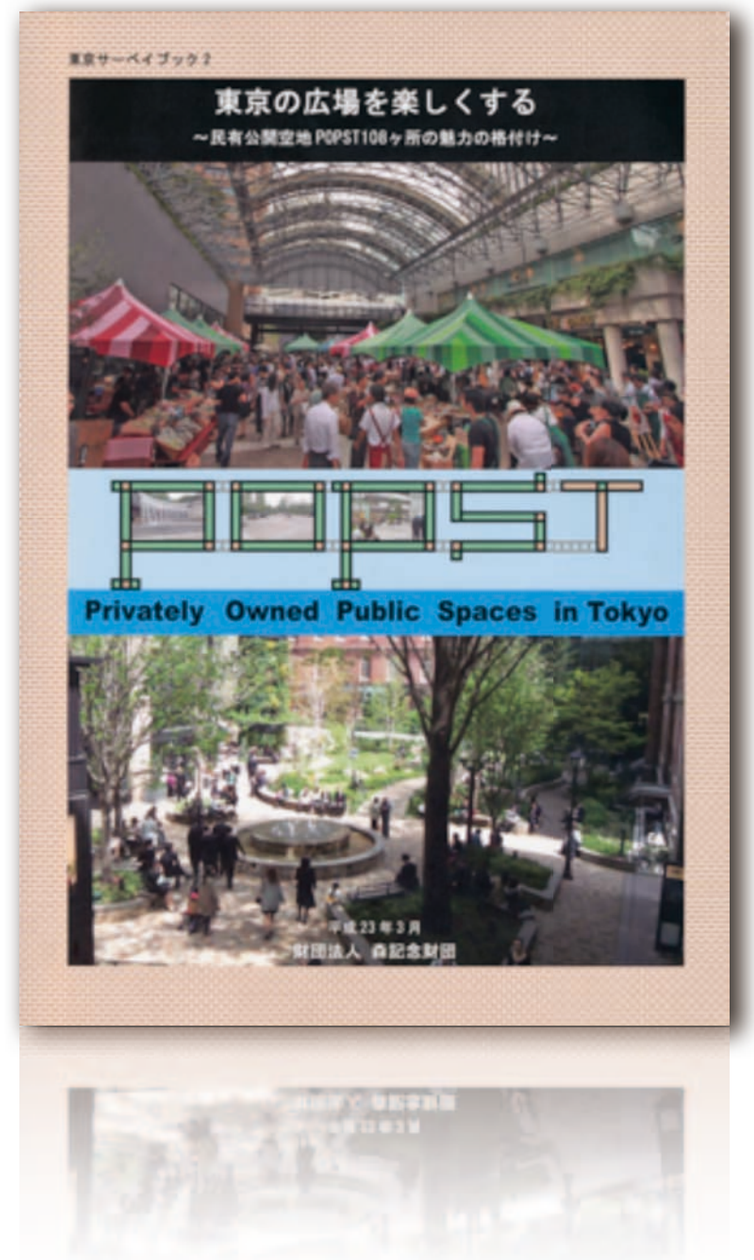
Mori Memorial Foundation: *Making Tokyo's Squares more enjoyable -Rating the Appeal of 108 Privately Owned Public Spaces in Tokyo*, 2011

Kayden J., The Municipal Art Society of New York, The New York City Department of City Planning: POPS - *The New York Experience,* 2000

02. Why are POPS significant? Why this research?

Public(ly usable) Space should be in public stewardship





Mori Memorial Foundation: *Making Tokyo's Squares more enjoyable -Rating the Appeal of 108 Privately Owned Public Spaces in Tokyo*, 2011

Kayden J., The Municipal Art Society of New York, The New York City Department of City Planning: POPS - *The New York Experience,* 2000

03. The Research Setup

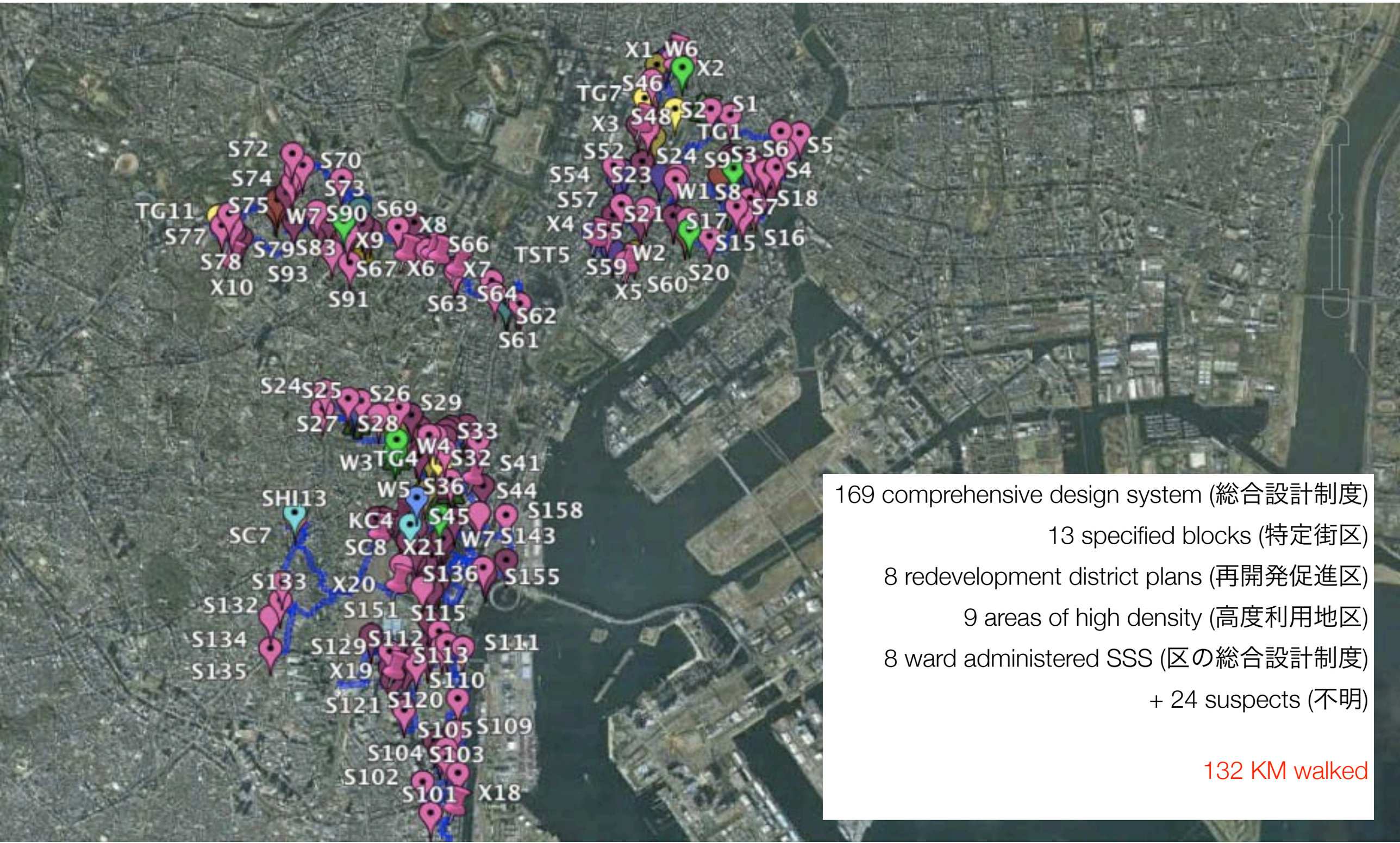
The Bigger Picture: Are POPS a good Deal? Can the System be improved?

03. The Research Setup

3 Layered approach: Tokyo | Japan | Global Level

04. Research: The Tokyo POPS Survey

First we need to know what has been produced where and in which Quality!



169 comprehensive design system (総合設計制度)

13 specified blocks (特定街区)

8 redevelopment district plans (再開発促進区)

9 areas of high density (高度利用地区)

8 ward administered SSS (区の総合設計制度)

+ 24 suspects (不明)

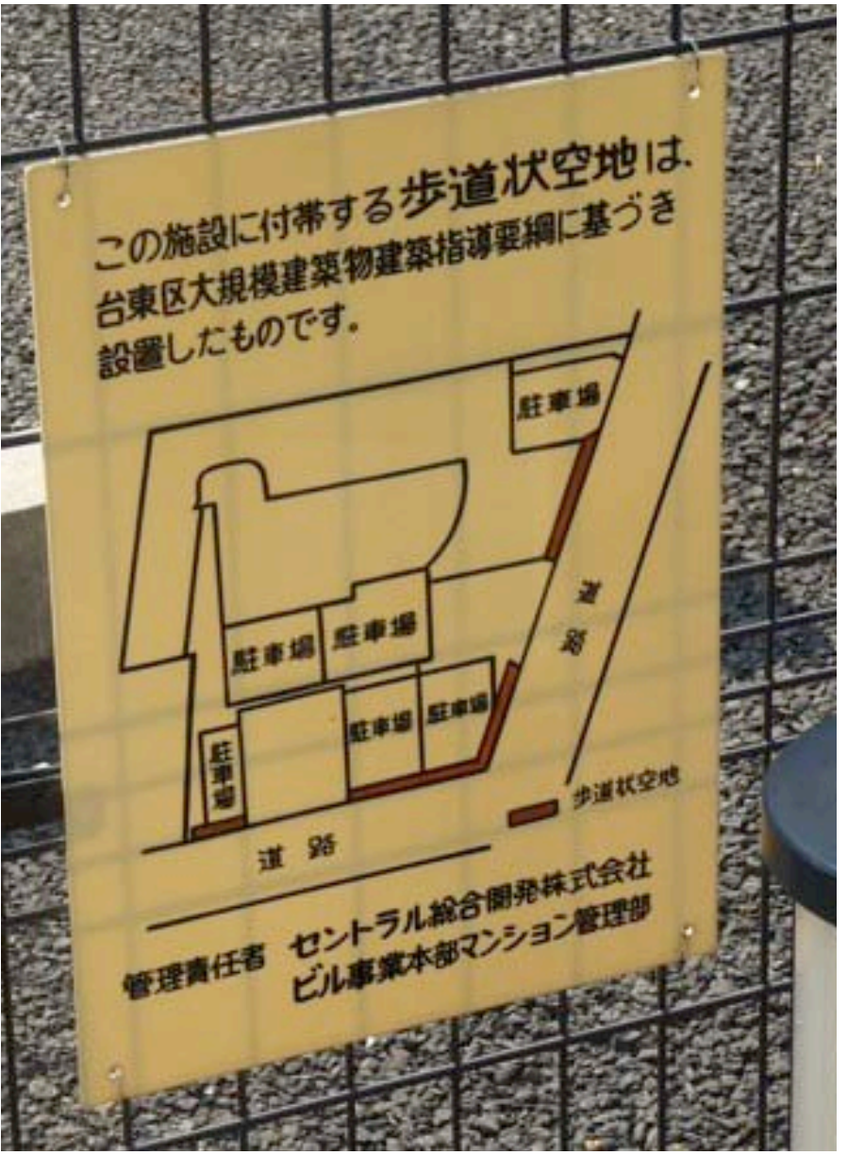
132 KM walked

04. Research: The Tokyo POPS Survey

Does it matter who produces POPS?

04. Research: The Tokyo POPS Survey

‘small’-scale larg-scale housing developments



04. Research: The Tokyo POPS Survey

New Condominiums

Banks and Securities

04. Research: The Tokyo POPS Survey

Retail

04. Research: The Tokyo POPS Survey

Spaces for Corporate Branding

04. Research: The Tokyo POPS Survey

Headquarters

04. Research: The Tokyo POPS Survey

Headquarters

04. Research: The Tokyo POPS Survey

Public Land/ Buildings

05. Research: The International Perspective

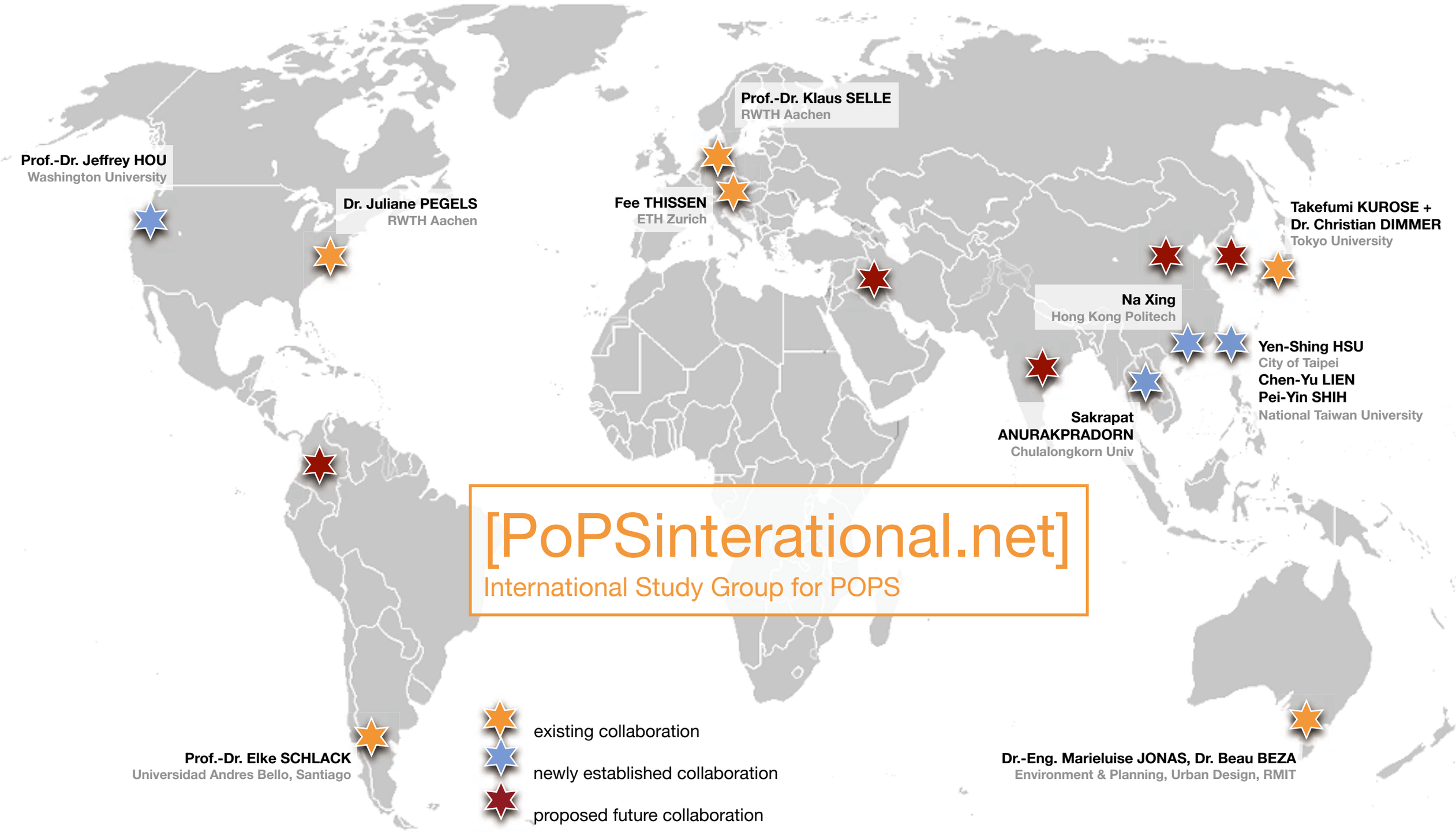
a growing research network

05. Research: The International Perspective

a growing research network

05. Research: The International Perspective

a growing research network



05. Research: The International Perspective

February 24th-27th POPS Workshop, February 28th: International POPS Seminar

SESSION I

Jan LINDENBERG
IIDJ

Yuki KATSURA
City of Yokohama

Yasuhiro TANABE
Tokyo Metropolitan Gov.

Ayane MAEKAWA
The University of Tokyo

Toshihiro HORI
Tokyo Denki University

Masami KOBAYASHI
Meiji University

SESSION II

Jeffrey HOU
University of Washington

Yen-Shing HSU
City of Taipei

Juliane PEGELS
University of Aachen

Chen-Yu LIEN
Pei-Yin SHIH
National Taiwan University

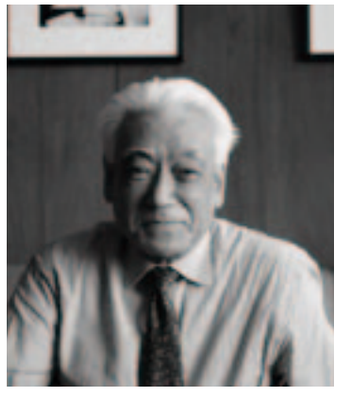
Sakrapat ANURAKPRADORN
Chulalongkorn Univ

Na Xing
Hong Kong Politech

Elke SCHLACK
Andres Bello Univ

SESSION III

Atsushi DEGUCHI
The University of Tokyo

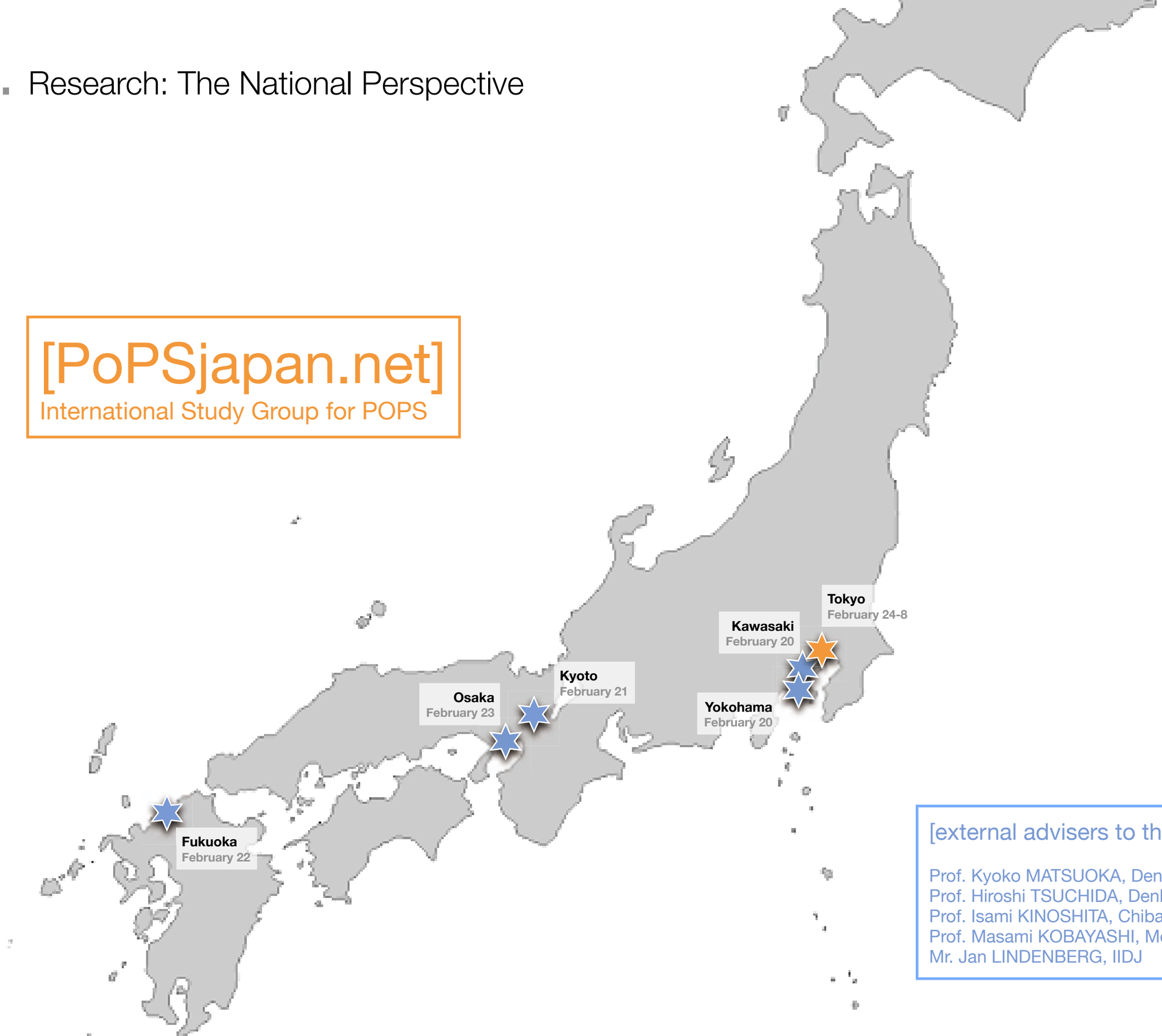


Kei MINOHARA
MPCO

Hiroshi TSUCHIDA
Tokyo Denki University

06. Research: The National Perspective

[PoPSjapan.net]
International Study Group for POPS

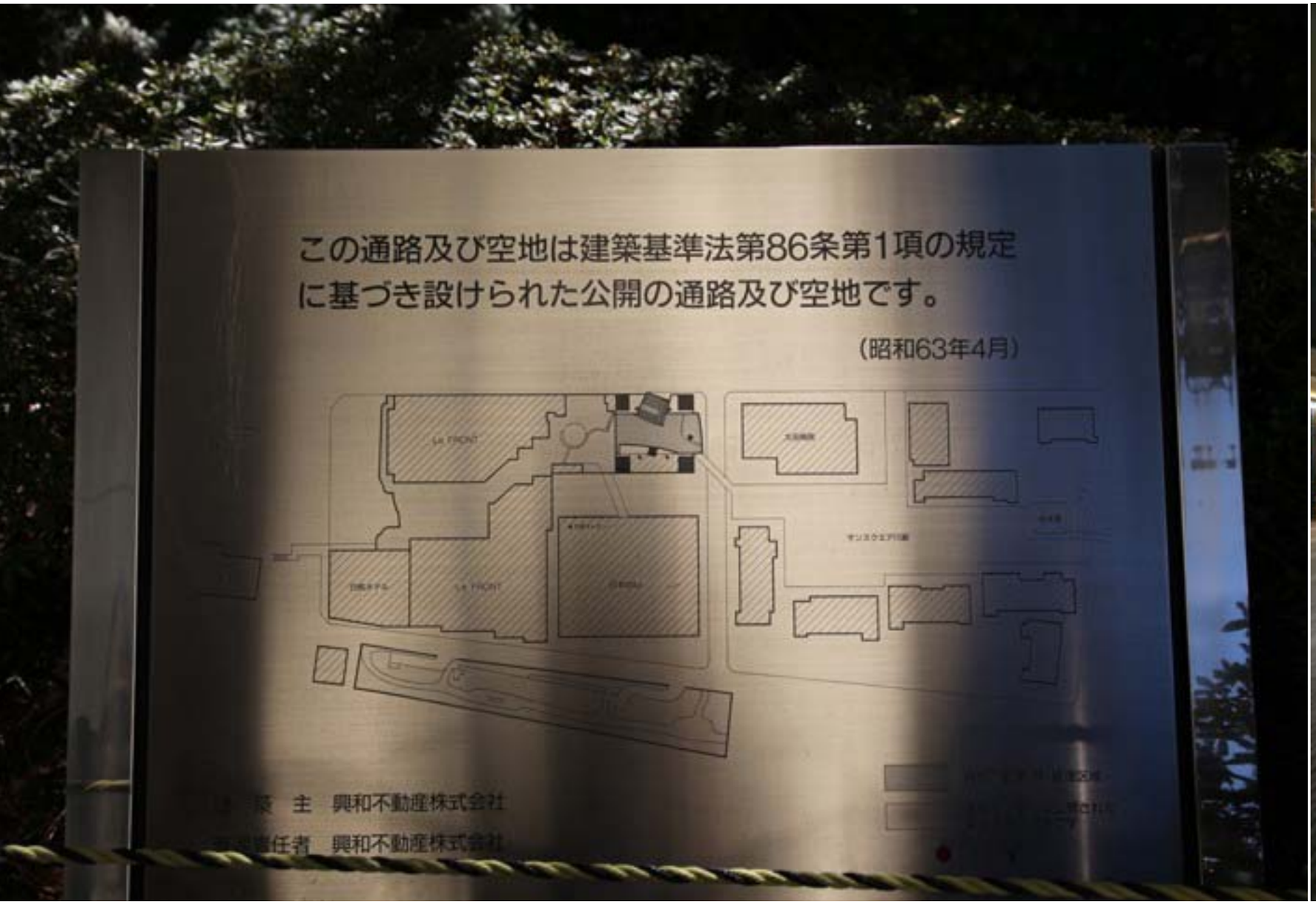


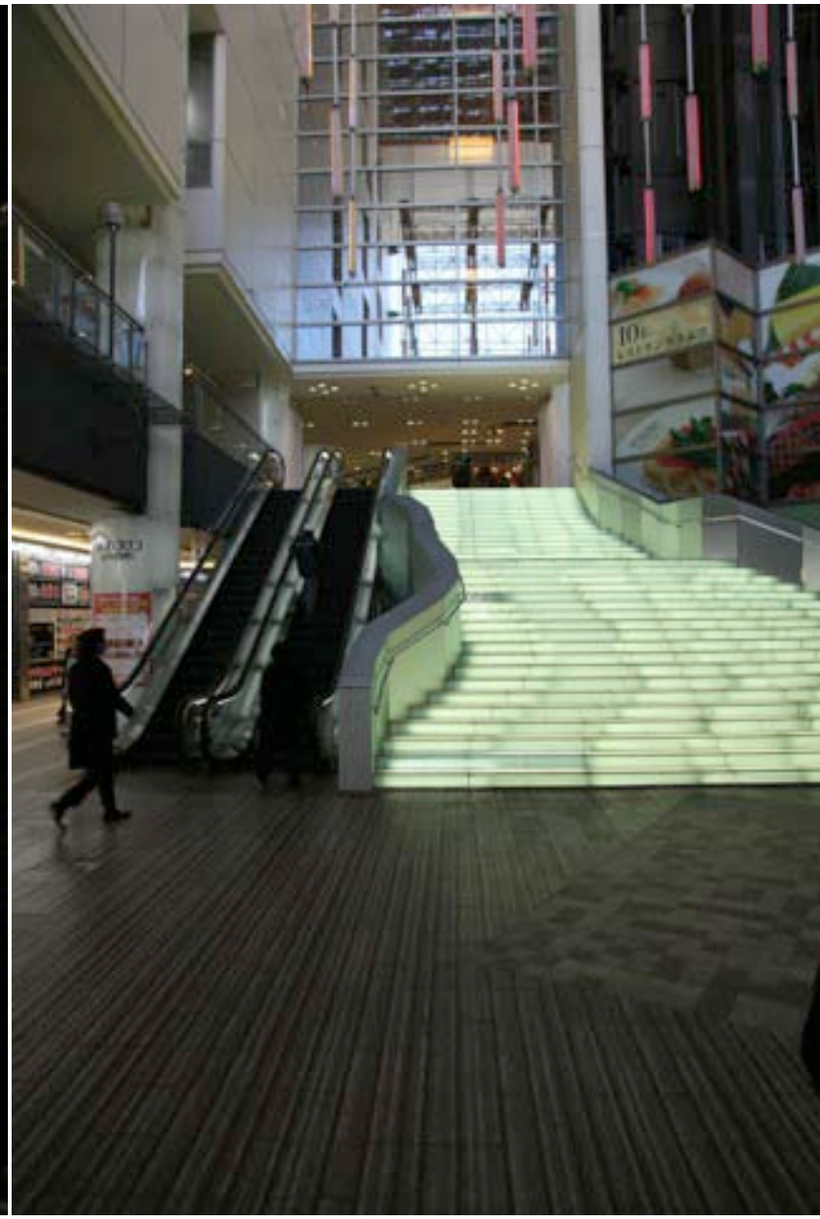
[external advisers to the project]

Prof. Kyoko MATSUOKA, Denki Daigaku
Prof. Hiroshi TSUCHIDA, Denki Daigaku
Prof. Isami KINOSHITA, Chiba Daigaku
Prof. Masami KOBAYASHI, Meiji Daigaku
Mr. Jan LINDENBERG, IIDJ

06. Research: The National Perspective

February 20th: Kawasaki





06. Research: The National Perspective

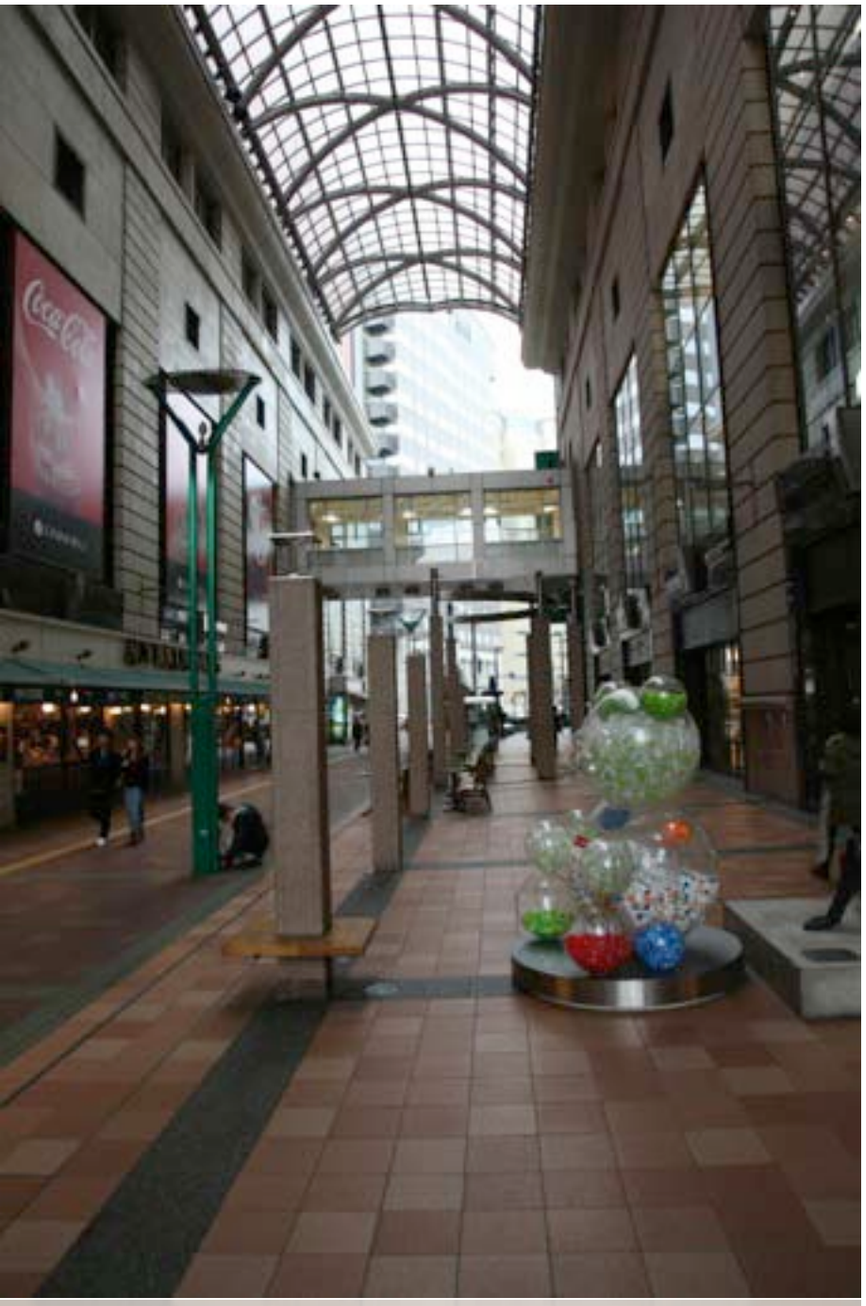
February 20th: Yokohama

06. Research: The National Perspective

February 21th: Kyoto

06. Research: The National Perspective

February 22nd: Fukuoka

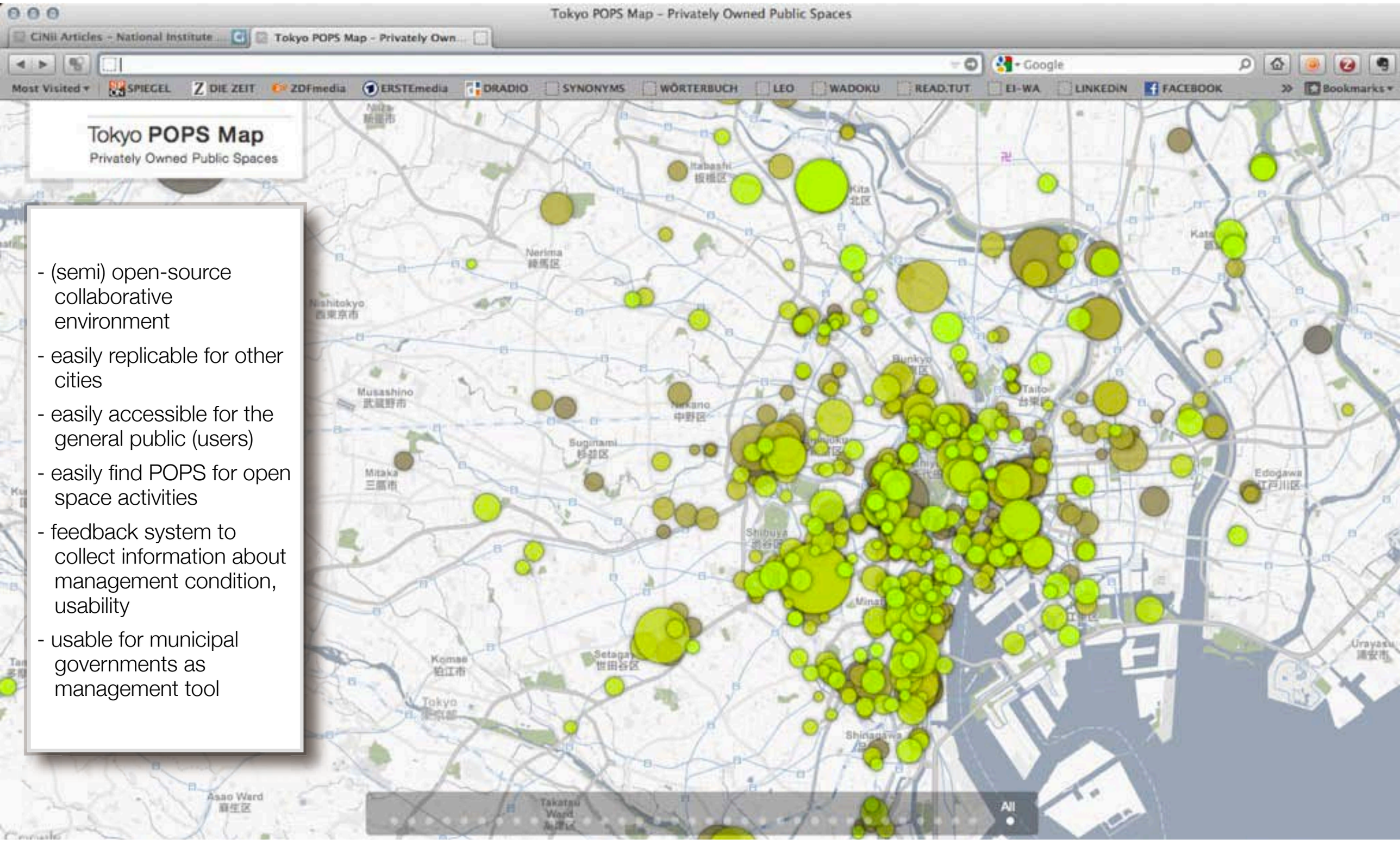


06. Research: The National Perspective

February 23rd: Osaka

07. Towards Application: The Tokyo POPS Map

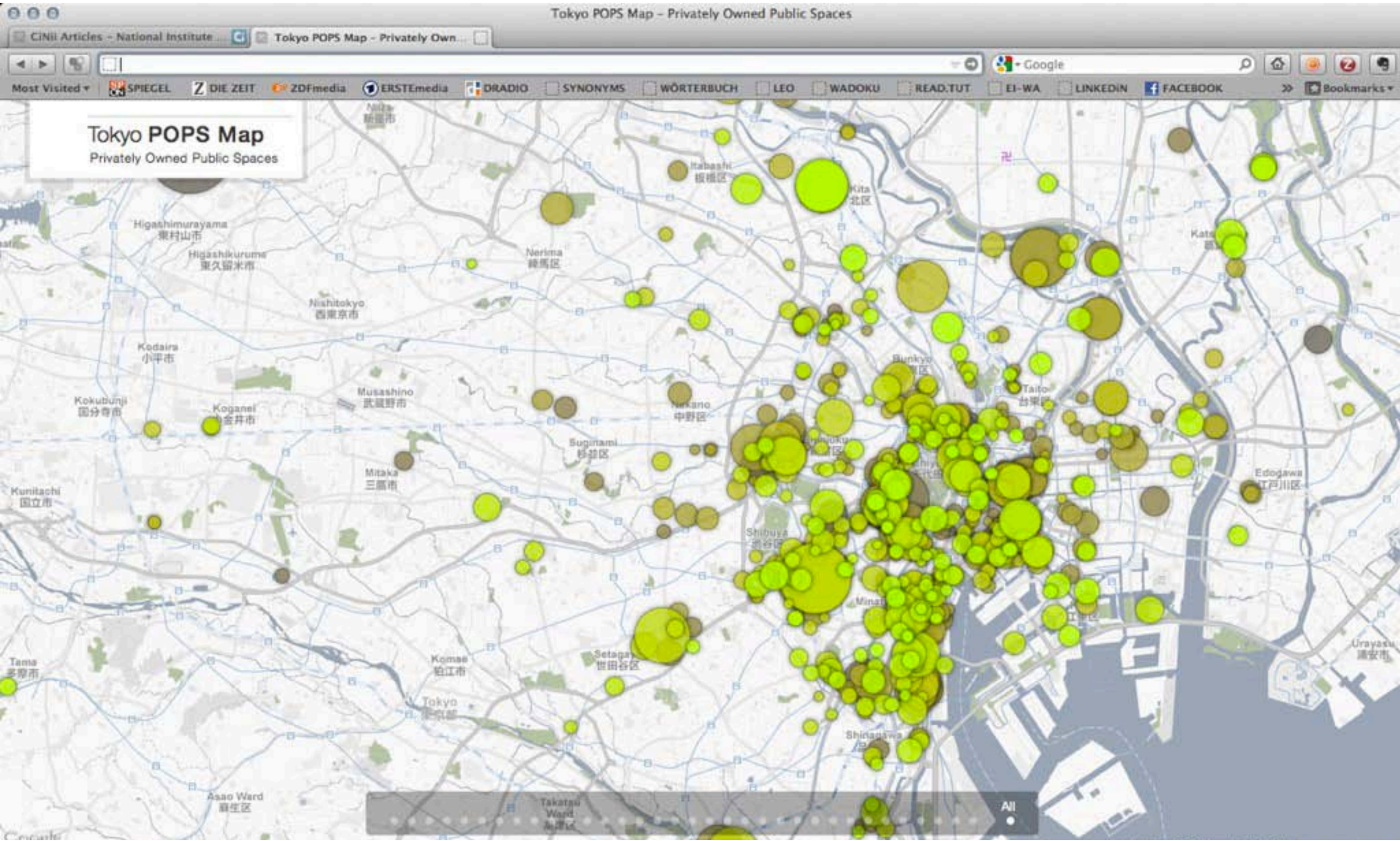
Building a Collaborative Platform, Building Awareness



- (semi) open-source collaborative environment
- easily replicable for other cities
- easily accessible for the general public (users)
- easily find POPS for open space activities
- feedback system to collect information about management condition, usability
- usable for municipal governments as management tool

07. Towards Application: The Tokyo POPS Map

Easy to do, low-cost, ubiquituous spatial analysis



07. Towards Application: The Tokyo POPS Map

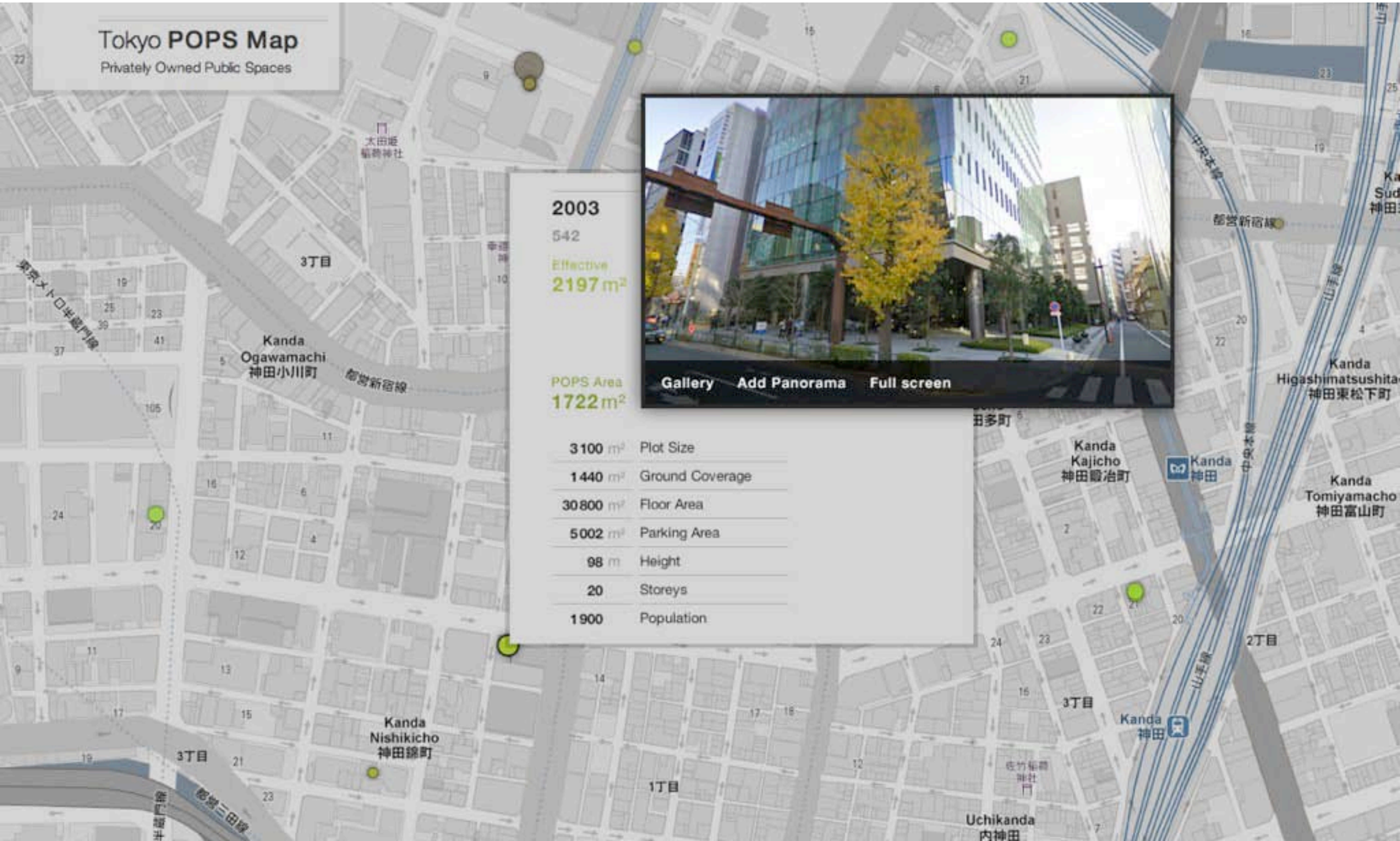
Easy to do, low-cost, ubiquituous spatial analysis

07. Towards Application: The Tokyo POPS Map

POPS information index card, spatial analysis, panorama thumbnail

07. Towards Application: The Tokyo POPS Map

POPS information index card, spatial analysis, panorama thumbnail

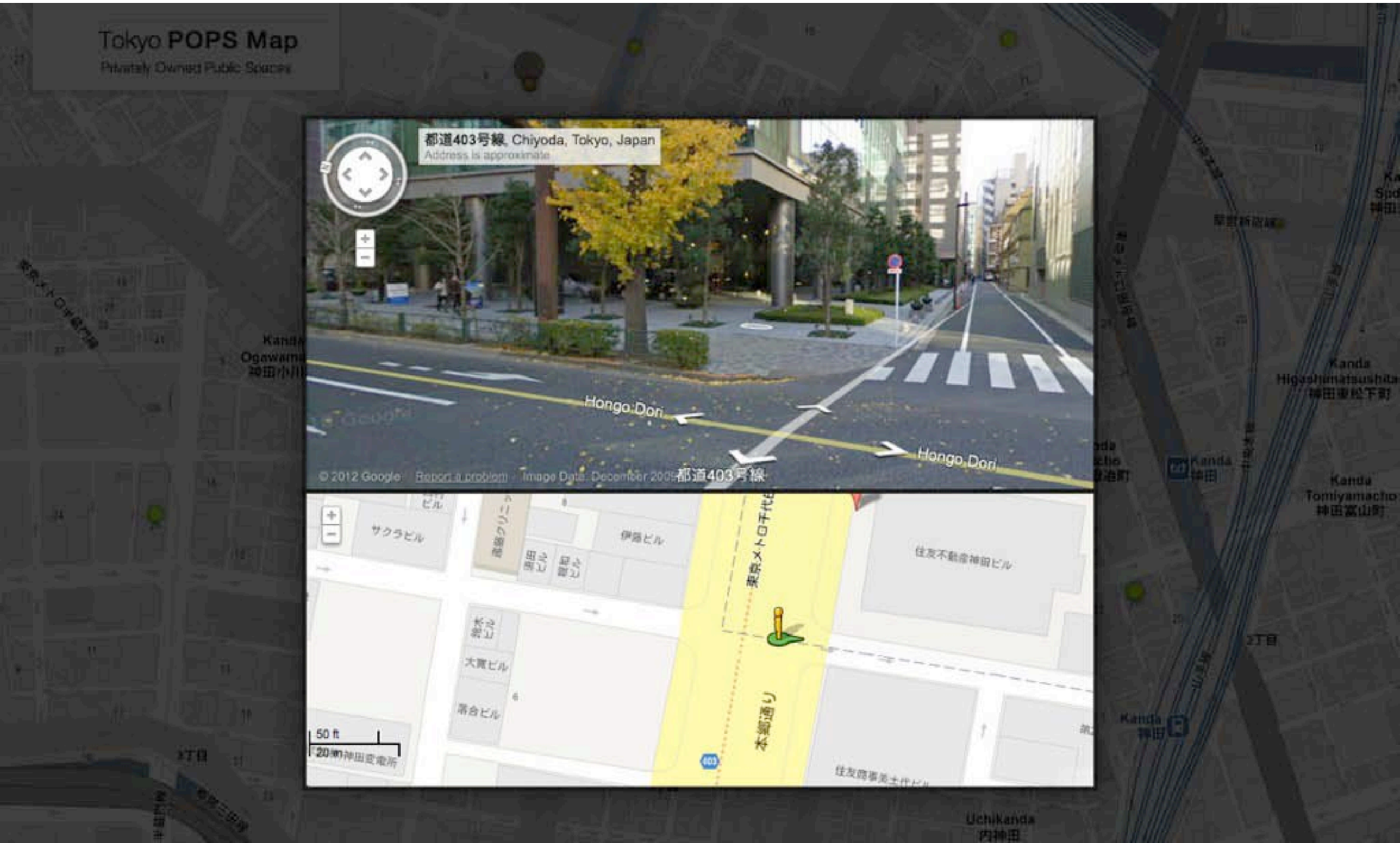


07. Towards Application: The Tokyo POPS Map

Keeping an eye on POPS

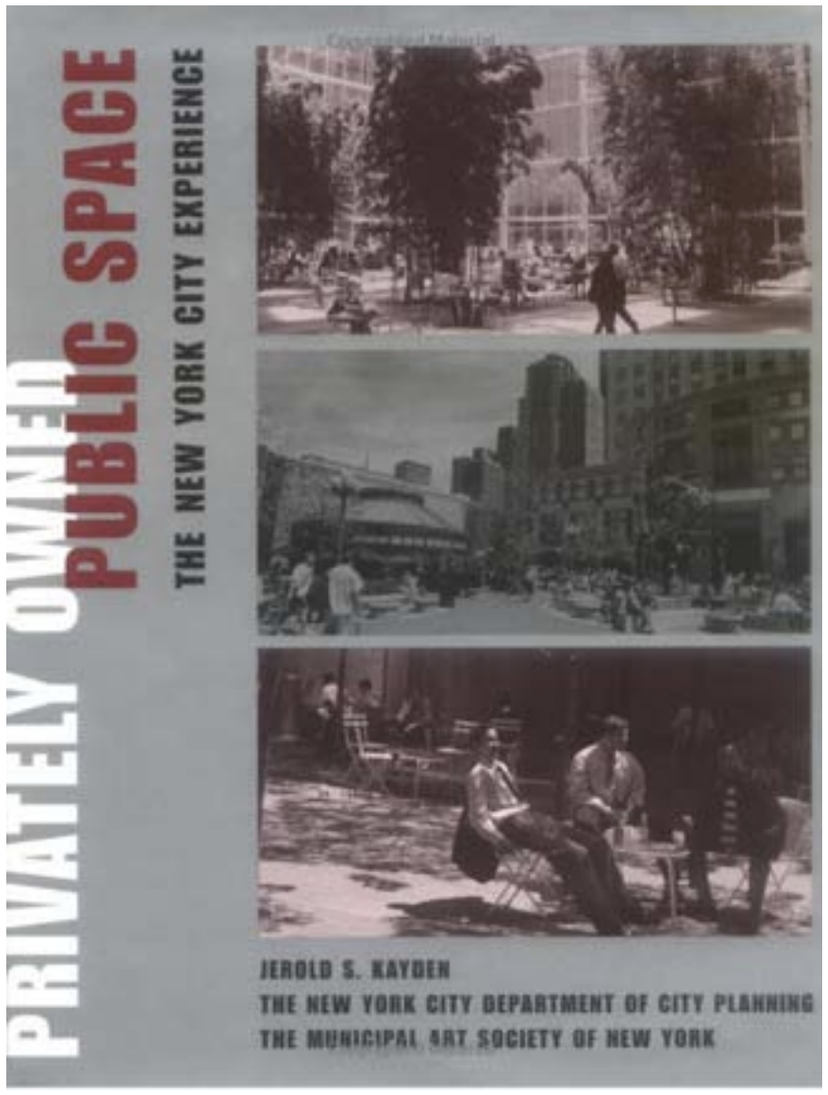
07. Towards Application: The Tokyo POPS Map

Keeping an eye on POPS



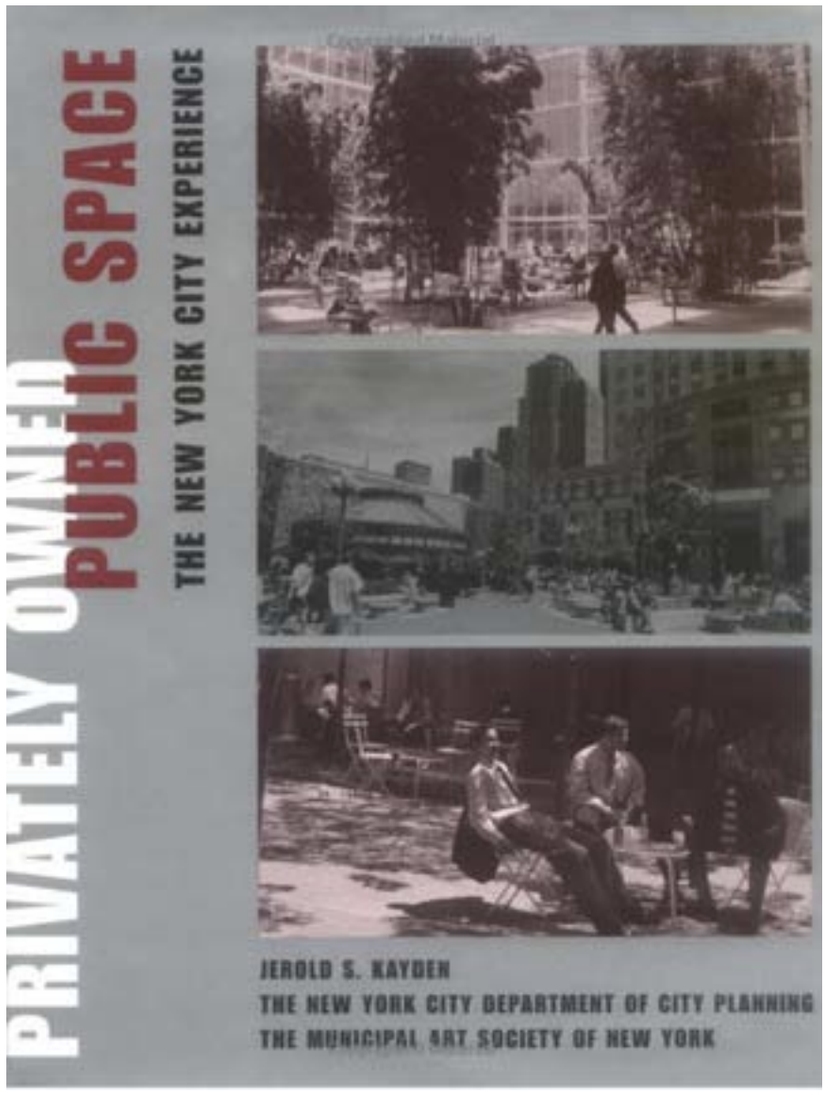
07. Towards Application: The Tokyo POPS Map

What will the Project TEAM do?



What will the Project TEAM do?

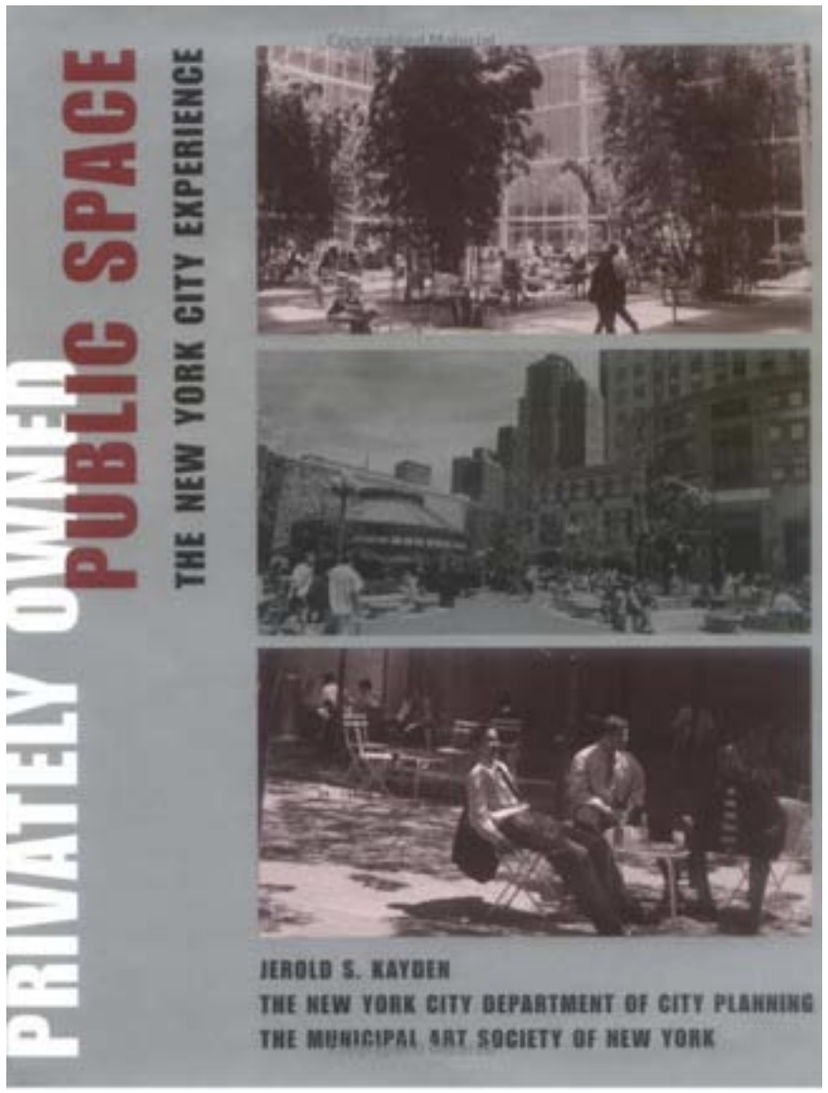
1. Literature Review: What do we know about POPS?



What will the Project TEAM do?

1. Literature Review: What do we know about POPS?

2. Team discussions about what is “good” urban space and how to measure that?

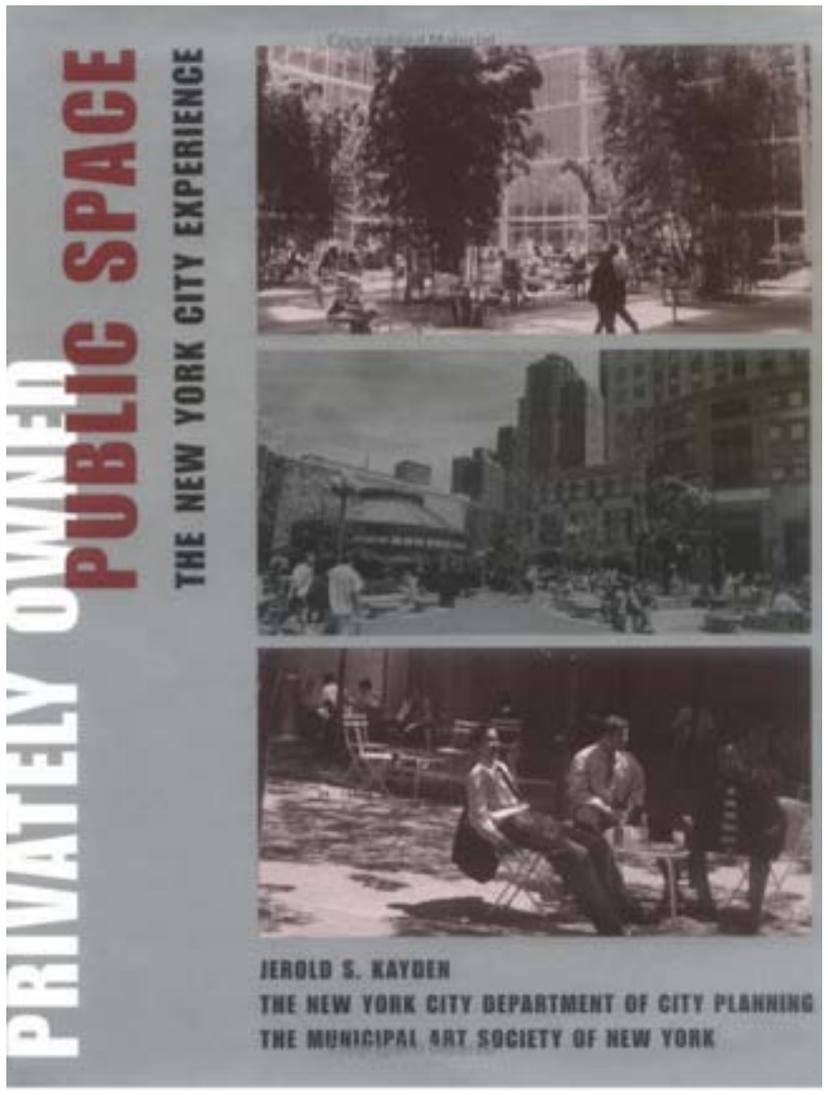


What will the Project TEAM do?

1. Literature Review: What do we know about POPS?

2. Team discussions about what is “good” urban space and how to measure that?

3. Together refining a catalogue of surveying criteria



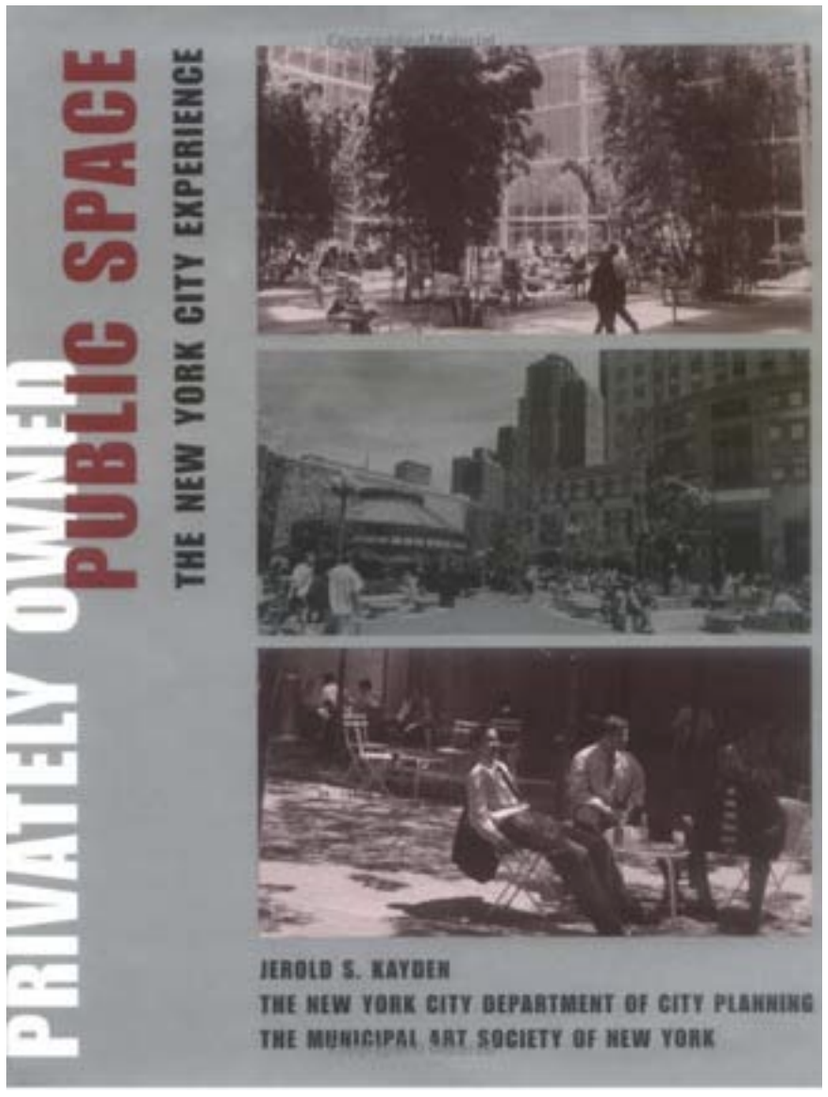
What will the Project TEAM do?

1. Literature Review: What do we know about POPS?

2. Team discussions about what is “good” urban space and how to measure that?

3. Together refining a catalogue of surveying criteria

4. Survey all privately owned public spaces in Tokyo



What will the Project TEAM do?

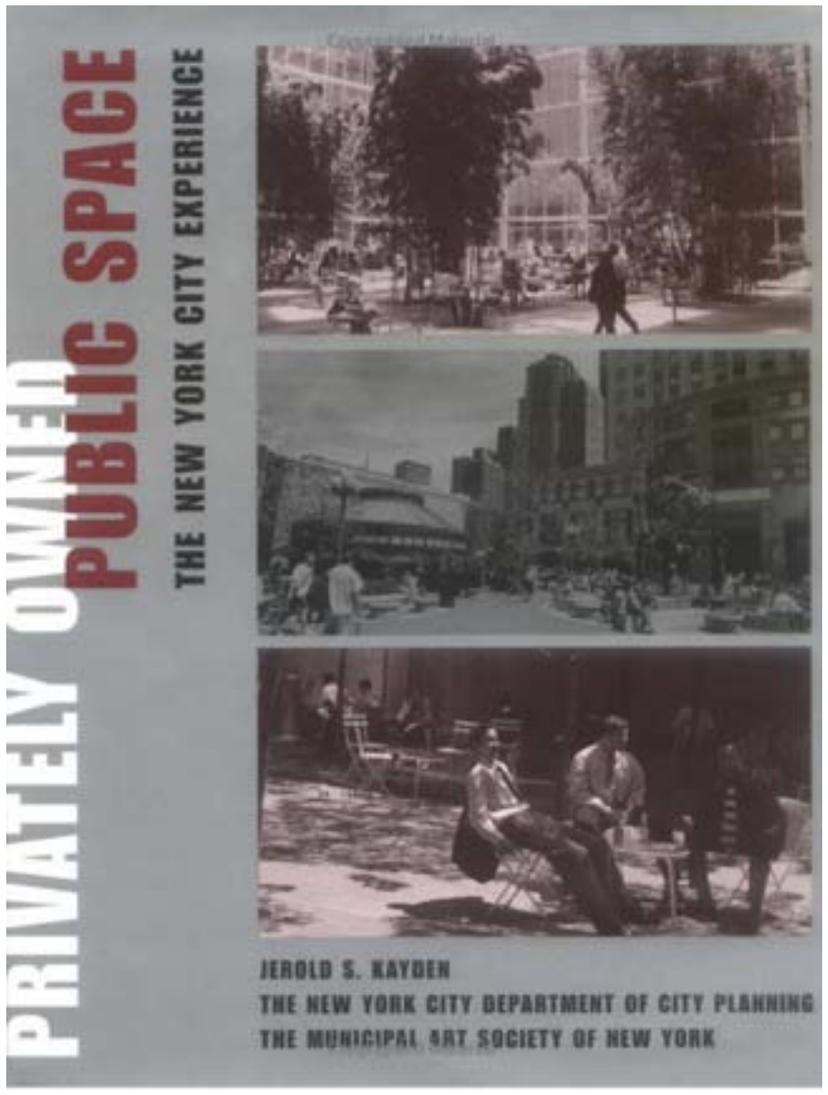
1. Literature Review: What do we know about POPS?

2. Team discussions about what is “good” urban space and how to measure that?

3. Together refining a catalogue of surveying criteria

4. Survey all privately owned public spaces in Tokyo

5. Linking survey data to designers, developers, place specificity



What will the Project TEAM do?

1. Literature Review: What do we know about POPS?

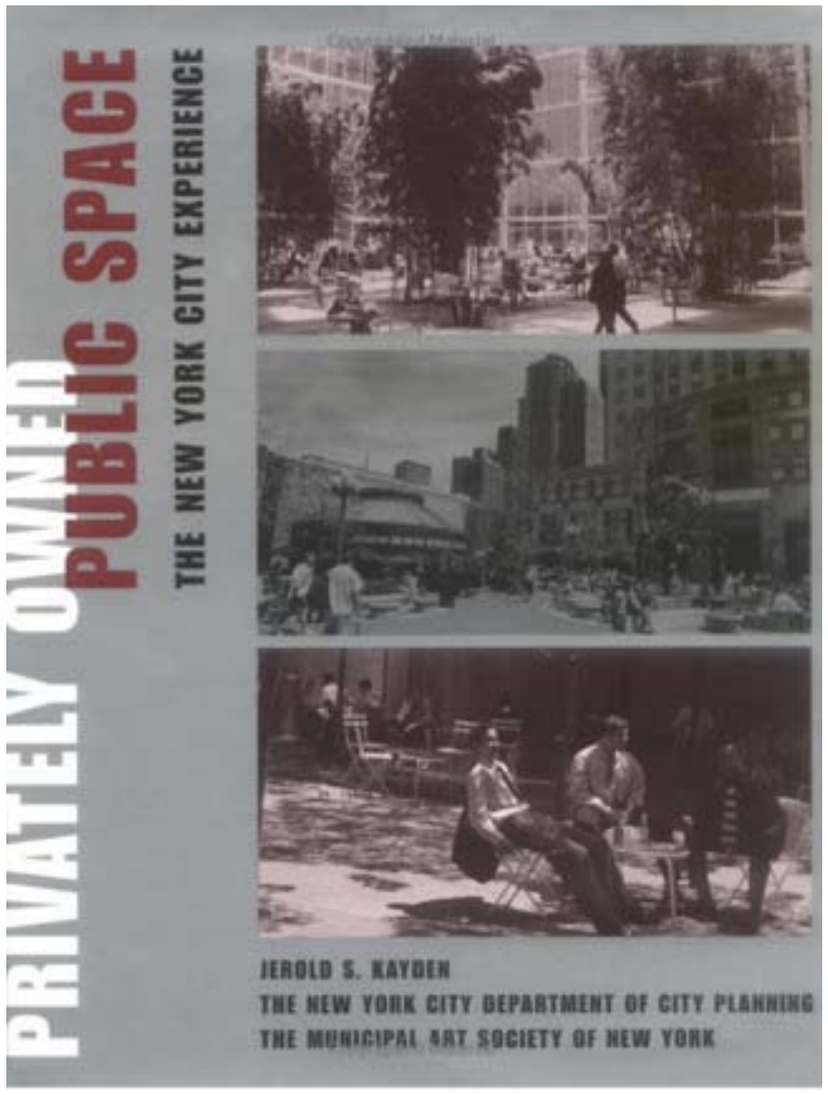
2. Team discussions about what is “good” urban space and how to measure that?

3. Together refining a catalogue of surveying criteria

4. Survey all privately owned public spaces in Tokyo

5. Linking survey data to designers, developers, place specificity

6. Establishing a (public) database with all existing POPS



What will the Project TEAM do?

1. Literature Review: What do we know about POPS?

2. Team discussions about what is “good” urban space and how to measure that?

3. Together refining a catalogue of surveying criteria

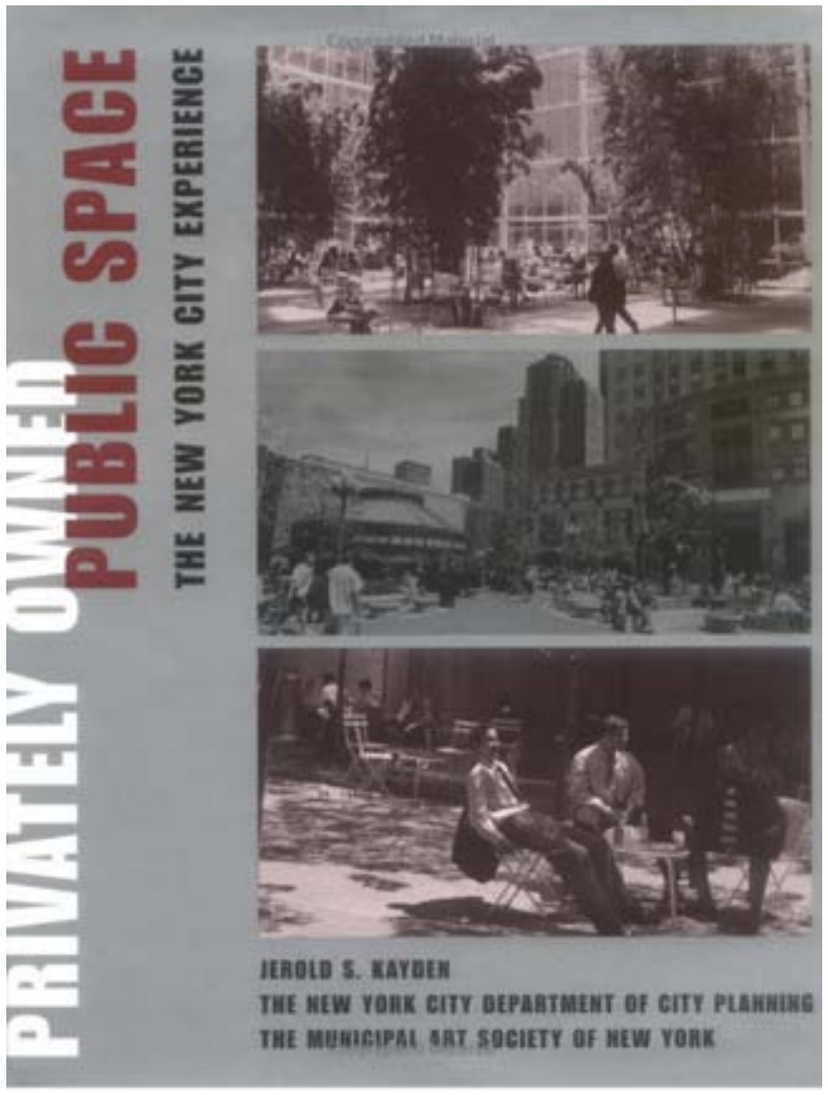
4. Survey all privately owned public spaces in Tokyo

5. Linking survey data to designers, developers, place specificity

6. Establishing a (public) database with all existing POPS

...

7. Producing a book and contribute to international discourses



What will the Project TEAM do?

1. Literature Review: What do we know about POPS?

2. Team discussions about what is “good” urban space and how to measure that?

3. Together refining a catalogue of surveying criteria

4. Survey all privately owned public spaces in Tokyo

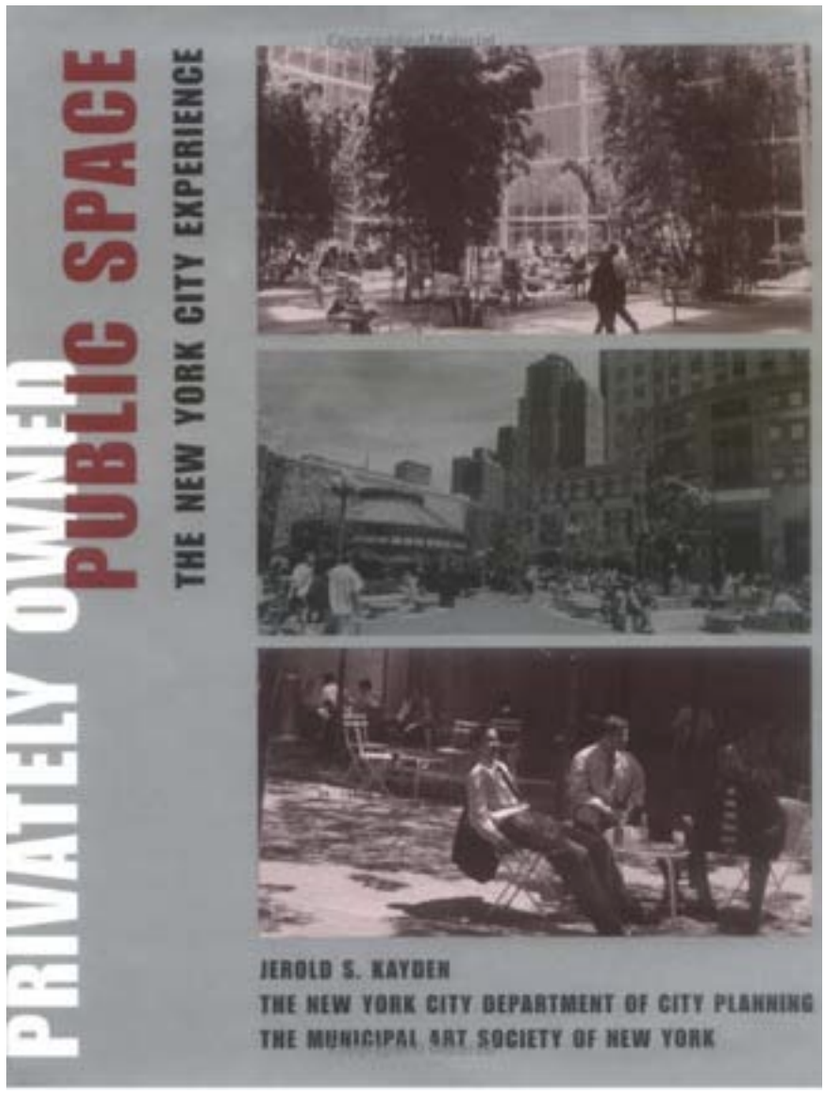
5. Linking survey data to designers, developers, place specificity

6. Establishing a (public) database with all existing POPS

...

7. Producing a book and contribute to international discourses

8. Expanding the project to other Japanese cities

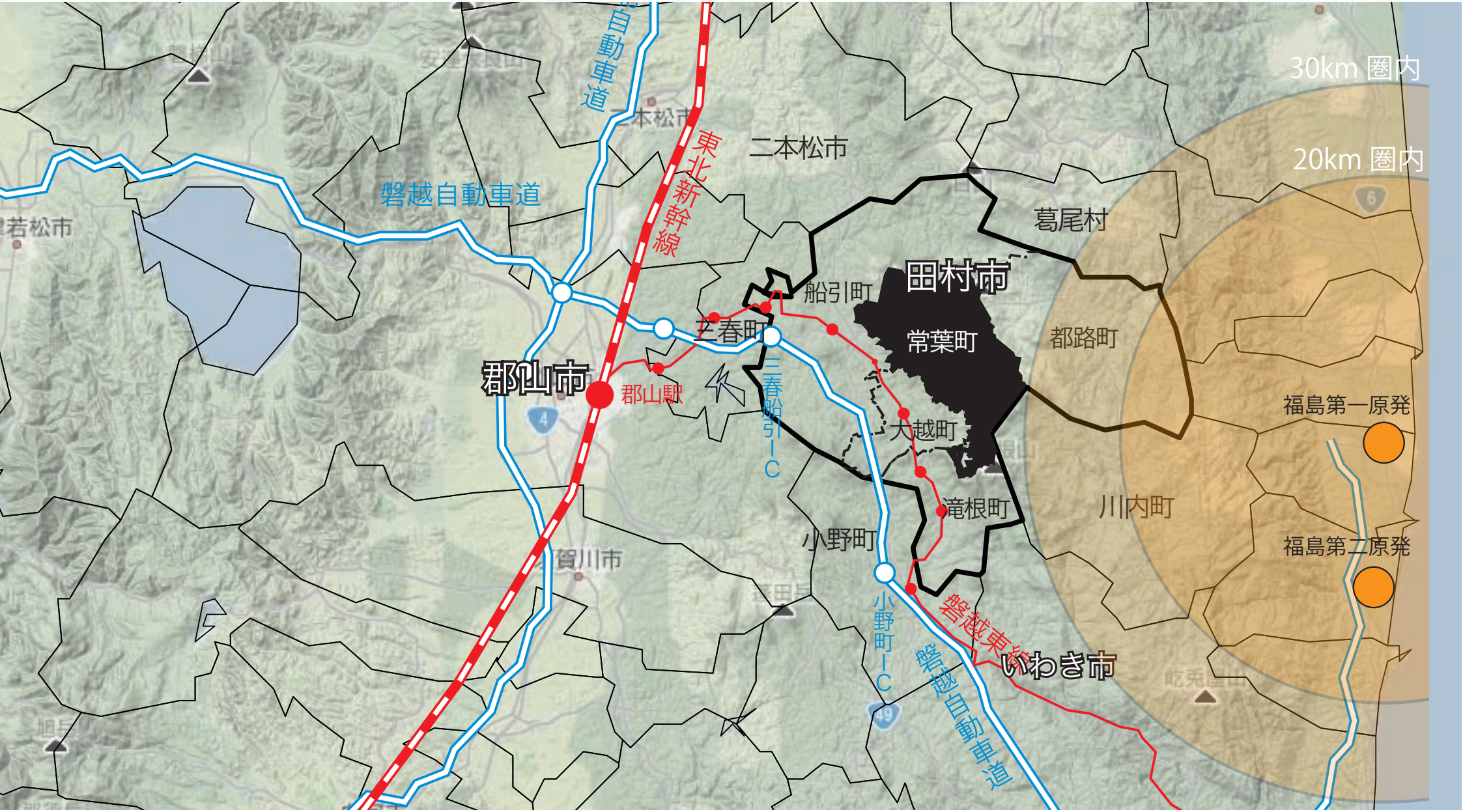


田村
ＰＪ

田村プロジェクトとは

- 人口４万人の地方小都市の活性化を目的としている
- 調査と社会実験がセットになった実践的プロジェクト
- 市長直轄型であり行政の全面的バックアップが魅力
- 学生の提案を実際に実現できる環境がある

田村市の位置



常葉地区の位置

0 10 20 50 km

これまでの取組み

旧町村単位で取り組む：

	船引	滝根	大越	都路	常葉
調査研究 「まちづくり基本方針」の検討	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年
社会実験 「まちづくり実験」の実施	H20年	H21年	H22年	(H23年以降予定)	
地元継承 地元中心でまちづくりの実践	H21年～	H22年～	H23年~		

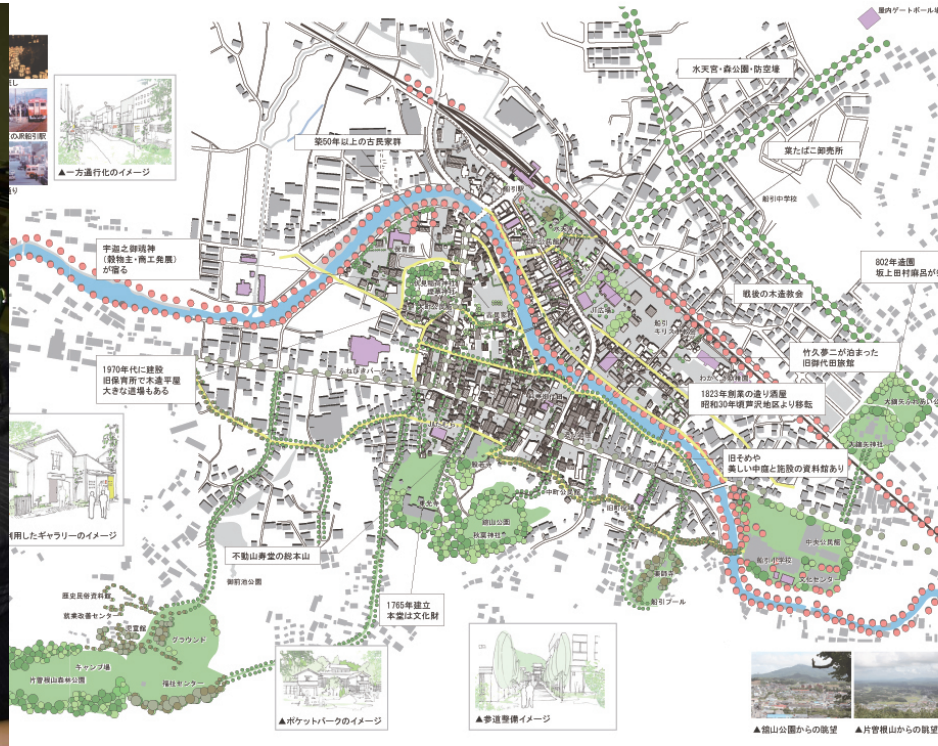
船引

ー人口23,765人．かつて葉たばこ集荷で興隆．田村市の中心ー

まちづくり基本方針（H19年）

まちづくりの目標：**船引を住み続けられる町へ**

方策１　多様な住まい方の実践
方策２　まちなかサービス・まちなかビジネス
方策３　駅周辺の環境改善
方策４　自然、歴史、景観の尊重
方策５　文化・教育・健康への展開



船引

ー基本方針に基づき実行ー

まちづくり実験（H20年）

実験１　空き店舗による市民活動展
実験２　まちなみペイント
実験３　田村百景
実験４　市民シンポジウム
実験５　タウントレイル
実験６　快適街路実験
実験７　イルミネーション
実験８　田村味自慢
実験９　アーティスト滞在

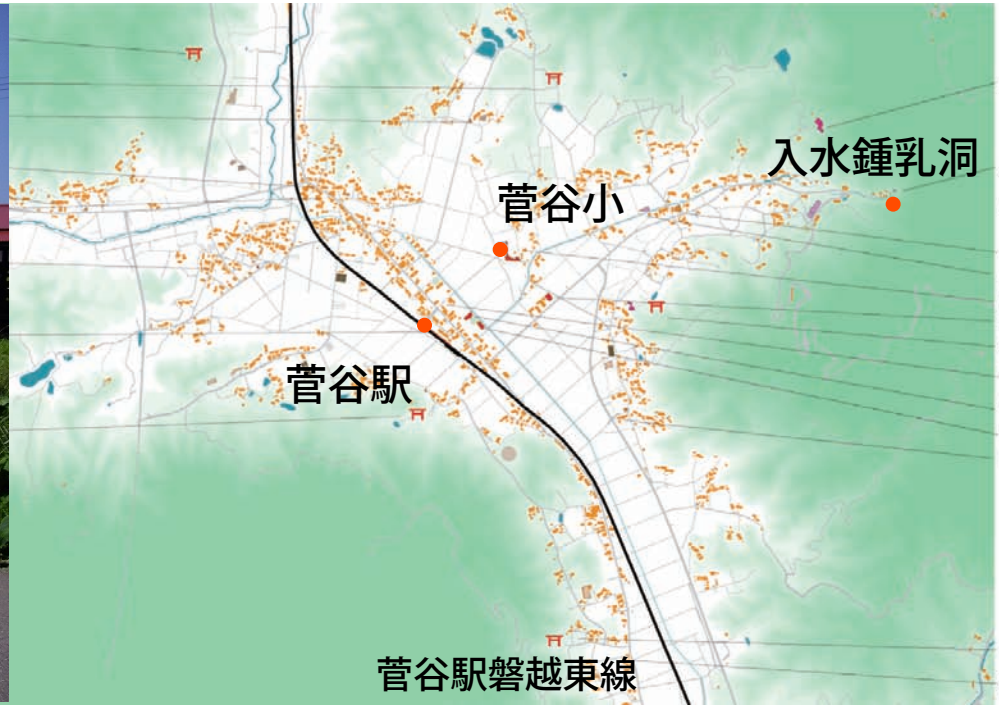
滝根

ー人口5,223人．観光資源として鍾乳洞ー

まちづくり基本方針（H20年）

まちづくりの目標：**生活空間を魅せる**

提案１　入水鍾乳洞の修景
提案２　地域の学校
提案３　駅の公共空間化
提案４　自転車散策
提案５　体験型観光
提案６　地域案内人
提案７　景観保全計画



滝根

－将来像立案から拠点整備へ－

まちづくり実験（H21年）
駅公衆トイレ整備　(H22年)

takine

・菅谷駅周辺の将来像の立案・公開
・菅谷駅公衆トイレのデザイン
・まちづくり実行委員会設立へ

大越

ー人口5,481人．かつて石灰産業で興隆ー

まちづくり基本方針（H21年）

まちづくりの目標：

大越が持つ資源の価値を共有し、
つなげるまちづくり

「農」：　田園風景の保全・活用
「石」：　石灰資源の活用と発信
「駅」：　移動交通の充実と大越駅など拠点地区のまちづくり
「娯」：　地域文化交流の中心としての大越娯楽場の再生
「人」：　大越のまちづくりに関わる人の思いと活動の連携

大越 ー基本方針から実行へー まちづくり実験（H22年）

ogoe

1　旧大越娯楽場の活用
2　民泊体験
3　あるきあるき大会

→大越まちづくり協議会へ継承

都路

ー人口3,097人、農林業・畜産が中心の山間地ー

まちづくり基本方針（H22年）

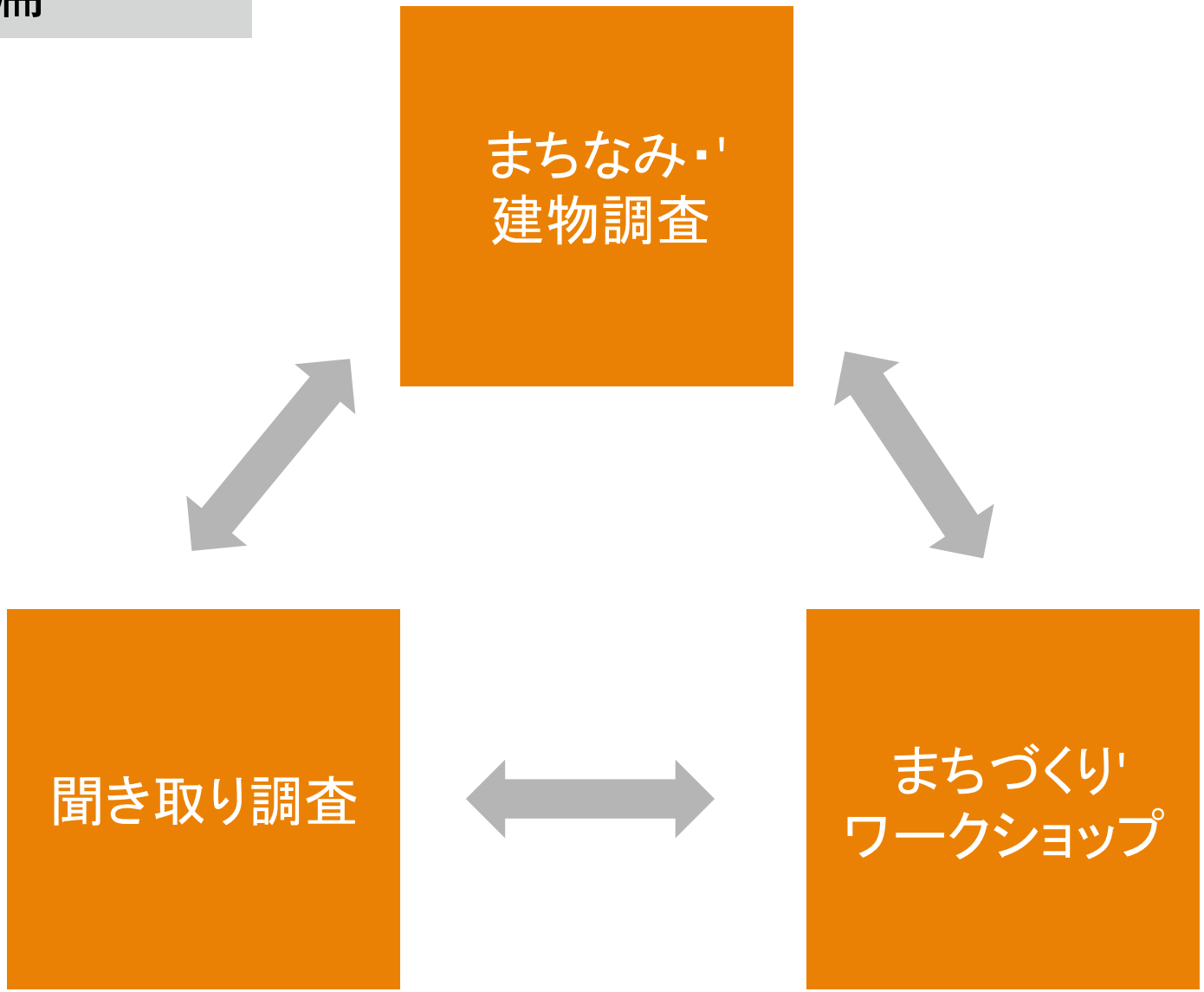
miyakoji

まちづくりの目標：

人のつながりを活かし、新たな『つながり』を展開させる都路のまちづくり

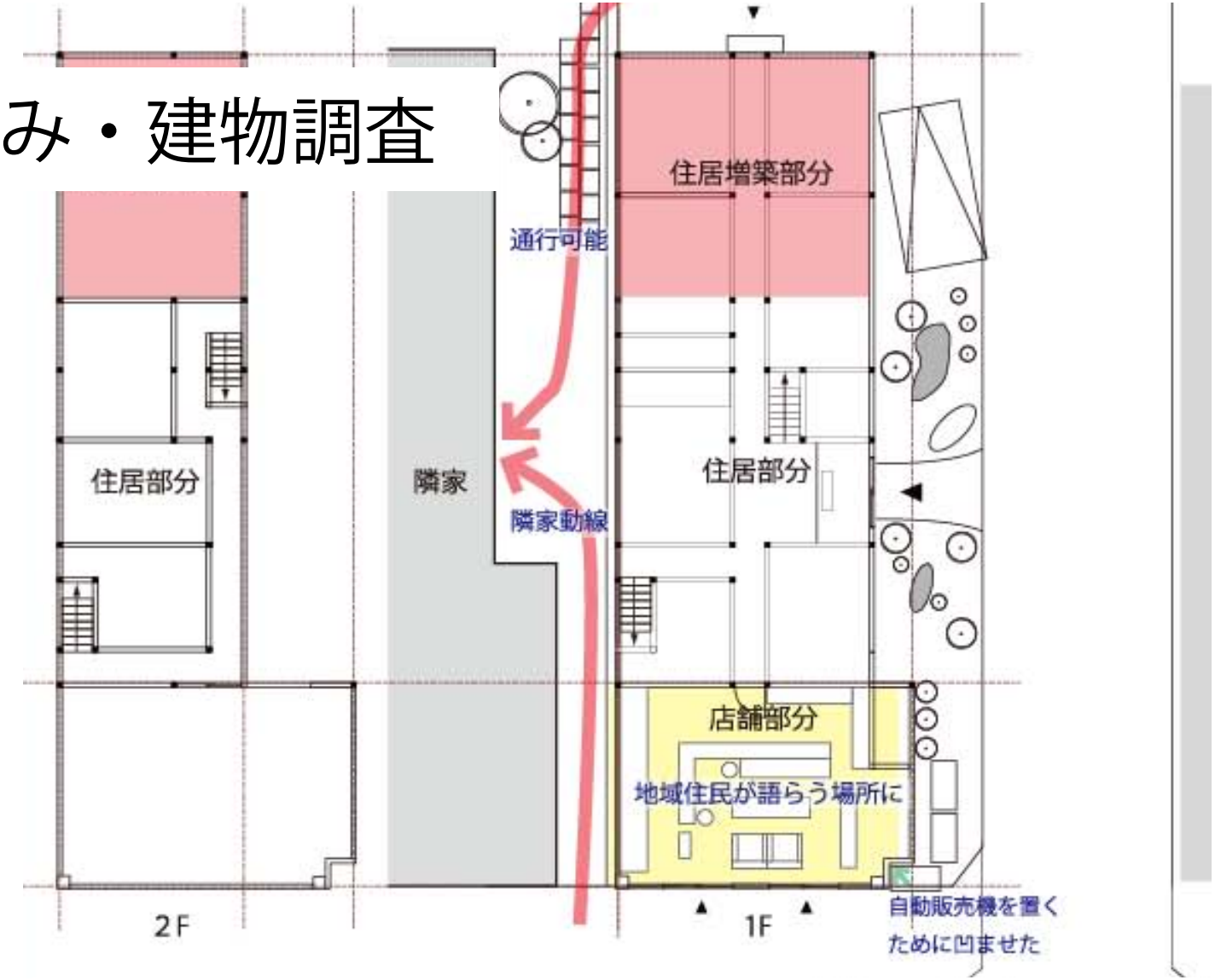
提案１　**都路コミュニティ交通**
提案２　**フルミチコミチ**
提案３　**都路まるごとツーリズム**
提案４　**ふるみちマーケット**
提案５　**都路アグリタウン**
提案６　**２８８ステーション**
提案７　**環境ガイドライン**

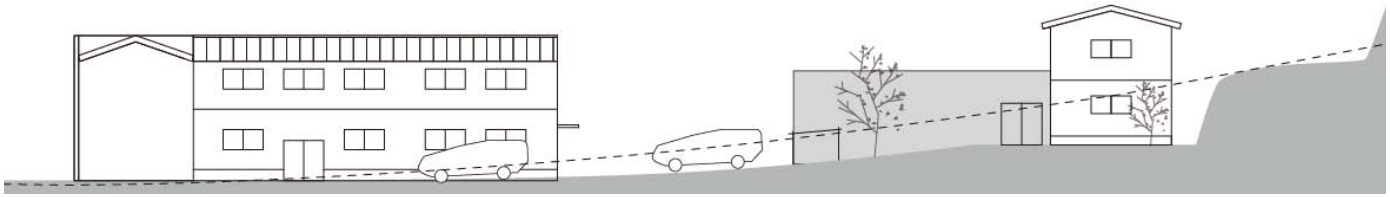
調査編



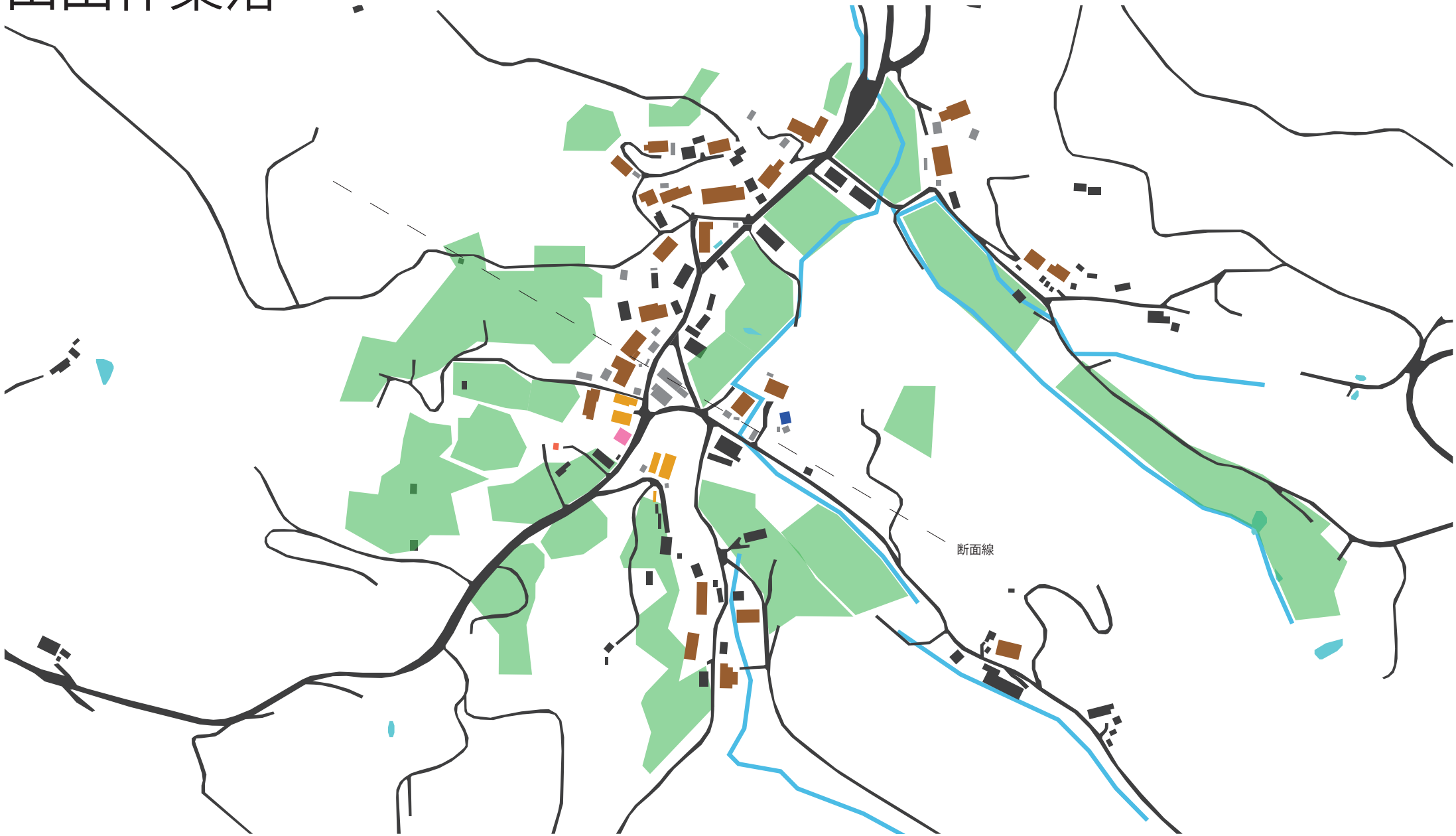
まちなみ・建物調査

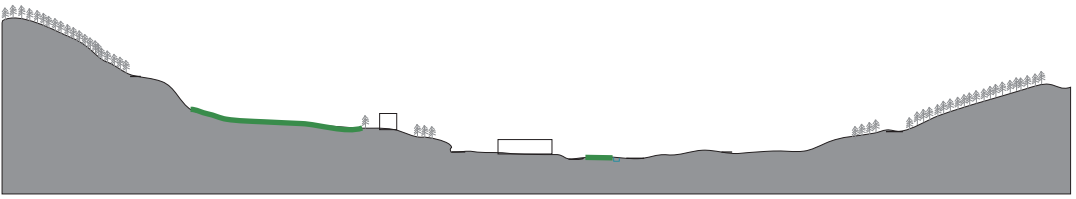
まちなみ・建物調査


住居増築部分
通行可能
住居部分
隣家
隣家動線
住居部分
店舗部分
地域住民が語らう場所に
2F
1F
自動販売機を置く
ために凹ませた



山田作集落





山田作集落

聞き取り調査

聞き取り調査

常葉に関わる
人への
インタビュー

- 常葉の過去と現在
- これからどうしていきたいか
- 良いところ、悪いところ

地域の生の声
を拾い上げる

提案に
結びつける

- 常葉の課題
- これからに向けた提案

これまでに協力してくださった方々

■田村市常葉行政局長坪井さん
■福島県たばこ耕作組合の方々
■商工会長佐藤さん
■101オートキャンプ場森井さん
■山根青年団長石井さん
■消防団常葉地区隊長渡辺さん
■田村市企画課坪井さん
■福島交通高橋さん
■商工会指導員壁谷さん
■行政区長村上さん
■丸一電器横井さん
■行政局吉田さん
■保健士坪倉さん
■常葉振興公社吉田さん

以上14名
(順不同)

まちづくりワークショップ

まちづくりWS

第１回

ときわの
強みと弱み

2011.10月

第2回

「生活環境」
「産業」
「コミュニティ」
について

2011.11月

第3回

これからに
向けたアイデア

2012.01月

住民の方による発表

はたらくときわ

- 働くところを新しく作る
- 今あることから仕事をつくる

おとずれるときわ

- 商いの場を元気にする
- 観光客と地域の人にPRする

くらすときわ

- 10年先・20年先も便利で快適に暮らす
- もっとあつまる場をつくる

THE FIRST 10 IDEAS

はたらく ときわ

働くところを新しくつくる

1 もっと自由に企業が進出しやすい場をつくる

2 企業や若手ベンチャーが使いやすい農業の場をつくる

3 研究機関や警察の特別基地を誘致する

4 地元の中高生で飲食店舗を経営する

5 地タバコを開発する

6 数年間の優遇措置を設け、被災地の会社受け入れる

7 原発作業員の前線基地として店・宿泊施設を整備する

8 地域の住民共同でカフェを経営する

9 アーティストが滞在し、作品を作れる場所を提供する

10 失業者向けの訓練学校をつくる

まちづくり方針

４月２１日（土）

中間報告会にて住民の方に発表

興味がある人はぜひ一緒に行きましょう

今年度の PJ 内容

1，常葉まちづくり基本方針の継続＋社会実験の実施

2，都路再生まちづくり支援

3，新市庁舎建設に伴う田村市中心市街地（＝船引）
　のまちづくり計画の検討

4，田村市全域のまちづくりの連携

新 M1 が主体